



總務室 4

昭和十五年十二月

中華民國維新政府法令集

興亞院華中連絡部

維新政府法令集目錄

第二編 基本法

維新政府宣言	一
維新政府政綱	三
舊法暫行採用法	四

第二編 官制

第一章 中央官制

中華民國維新政府組織大綱	五
各部官制通則	七
行政院宣傳局組織條例	八
駐外使館組織條例	〇
內政部警官學校組織規程	三
總務部兵器修理所暫行組織條例	二
教育部編歷委員會規程	三
商標局組織條例	三

320
128

內閣文庫
九〇九五六等
和書

第二章 地方官制

司法行政部暫行處務規程	二四
司法行政部暫行分科規程	二七
司法官選用委員會規則	三一
監獄官選用委員會規則	三四
最高法院暫行組織條例	三六
律師執業委員會規則	三七
律師執業委員會規則	三八
省政府組織條例	四一
道組織條例	四五
縣組織條例	四七
省政府民政廳組織條例	四九
省政府財政廳組織條例	五二
省政府教育廳組織條例	五五
省政府建設廳組織條例	五八
修正省會警察局組織條例第十六條條文	六一
特別市組織條例	六二

第三編 官 規

第一章 官等、俸給	
司法行政部暫行會計章程	八九
官吏恩給條例	九六
特別市警察局組織條例	六六
修正特別市警察局組織條例第十七條條文	六九
普通市組織條例	七〇
普通市警察局組織條例	七四
修正普通市警察局組織條例第十六條條文	七七
修正特設警察局組織條例第十五條條文	七八
上海特別市區公署組織條例	七九
上海市復興局暫行規程	八〇
上海市建設諮詢委員會組織法	八二
督辦上海市政公署廢止三關スル件	八三
南京警察廳組織條例	八四
修正南京警察廳組織條例第十七條條文	八七

職名 職別 職等 職級 職等 職級 職等 職級 職等 職級

內閣
九〇九五六號
和

司法行政部組織法.....二四
 司法行政部暫行處務規程.....二七
 司法行政部分科規程.....三一
 司法官甄用委員會規則.....三四
 監獄官甄用委員會規則.....三六
 最高法院暫行組織條例.....三七
 律師甄拔委員會規則.....三八

第二章 地方官制

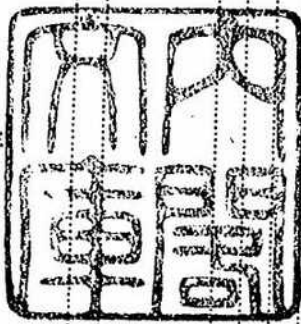
省政府組織條例.....四一
 道組織條例.....四五
 縣組織條例.....四七
 省政府民政廳組織條例.....四九
 省政府財政廳組織條例.....五二
 省政府教育廳組織條例.....五五
 省政府建設廳組織條例.....五八
 修正省會警察局組織條例第十六條條文.....六一
 特別市組織條例.....六二

特別市警察局組織條例.....六六
 修正特別市警察局組織條例第十七條條文.....六九
 普通市組織條例.....七〇
 普通市警察局組織條例.....七四
 修正普通市警察局組織條例第十六條條文.....七七
 修正特設警察局組織條例第十五條條文.....七八
 上海特別市區公署組織條例.....七九
 監督物品.....八〇

內閣文書

第三編

第一一年 昭和
 總理府府用品



八九
 九六

八二
 八三
 八四
 八七

第四編 文 書

縣知事任用條例.....九九

司法官任用暫行辦法.....〇一

法院書記官任用暫行辦法.....〇三

監獄官任用暫行辦法.....〇四

檢察官任用暫行辦法.....〇七

警士講習所章程.....〇九

職區警察機關長部嘉補暫行辦法.....一四

教育部臨時教員養成所規程.....一五

教育部臨時教員養成所細則.....一七

第三章 服 務

司法行政部日直·宿直規則.....一九

第四章 服 制

警察制服條例.....二〇

列事檢察官律師書記官服制令.....二二

列事檢察官律師書記官服制施行令.....二四

第五編 警 察、衛 生

公文程式暫行條例.....二五

政府公法暫行條例.....二六

司法公法暫行規則.....二七

各縣縣政概況報告表.....二九

第一章 警 察

修正違警罰法.....三一

治安警察暫行條例.....三二

第二章 衛 生

醫師暫行條例.....四六

藥劑師暫行條例.....五〇

助產士暫行條例.....五四

第六編 社 會 事 業

地方救濟院規則.....五七

修訂捐資興學褒獎條例.....六九

捐資舉辦救濟事業褒獎條例.....七一

第七編 財政

六

非常時期財政經濟擾亂取締條例.....	七三
金融機關取締條例.....	七四
縣鄉水利經費國款補助貸與條例.....	七五
江蘇、浙江、安徽三省之民國二十六年分及歷年滯納丁漕釐三附加稅未徵收分ノ免除ニ關スル件.....	七七

第八編 學事、寺廟

第一章 學事

關於教育宗旨之件.....	七九
教育宗旨實施方針.....	八〇
教育部督學規則.....	八一
大學法.....	八三
高等學校法.....	八六
專門學校法.....	八八
師範學校法.....	九〇
小學法.....	九二
小學暫行規程.....	九四

第二章 寺廟

留學規程.....	一〇三
學校學年學期及休業日期暫行規程.....	一〇
宗教團體經管教育事業條例.....	一一
文化團體組織大綱.....	一三
文化團體組織大綱施行細則.....	一五
寺廟登記條例.....	一八
監督寺廟條例.....	二〇

第九編 司法

懲治因賊條例.....	二二三
懲治盜匪暫行條例.....	二二三
戒烟暫行條例.....	二二五
戒烟暫行條例施行細則.....	二二八
戒烟獎勵規則.....	二三〇
鴉片緝私章程.....	二三二
修正人事登記暫行條例.....	二三三
第三審上訴臨時法廷組織條例.....	二三四
.....	二三六

七

第十編 產業、諸法

訟費費用規則	二四七
非訟事件徵收費用規則	二四〇
司法印紙規則	二四一
司法印紙發賣規則	二四三
司法狀用紙規則	二四六
鑛業法	二四七
鑛業法施行細則	二六四
鑛業條例修正條文	二七九
鑛業條例施行細則修正條文	二八一
商標法	二八二
度量衡暫行條例	二八八
交易所法	二九二
交通部航政局管理船舶暫行章程	二九九
實業部管理絲綢事業臨時辦法	三〇六
華中蠶絲股份有限公司規程	三〇九
上海恒產股份有限公司章程	三一〇

華中電氣通信株式會社ニ關スル件	三一四
中華航空股份有限公司條例	三一七
華中水電股份有限公司規程	三二〇
華中水電股份有限公司修正條例	三二三
中華電影股份有限公司條例	三二八
華興商業銀行暫行條例	三三〇
商法會社編	三三一
上海總商會試辦章程	三六三
土地徵用暫行條例	三六九

第一編 基本法

第一編 基本政策

維新政府宣言

(民國二十七年四月十一日)

近年百政廢敗、軍小廷、滿于外交、請、セズシテ、以、
奢語ヲ誇リ、民ニ教ヘズシテ、戰ヲ爲サシメ、軍備ナク
シテ、空言ヲ傳ミ、帝ニ民命ヲ以テ犧牲トシ、國家ヲ賭物ト
ナスニ止マラズ、遂ニ神州ヲ塗炭ニ陥入レ、京邑ヲ廢墟ト
北シ、萬竇ニ煙ナク、四民業ヲ失フニ至ル
國ニ當ル者、師ヲ喪フコト益々多クシテ、敗報愈々頻ナ
リ、失地益々多クシテ、採取愈々其シ、而モ未ダ一事ヲ舉ゲ
以テ、過テ省ミ、一言ヲ出シテ、以テ、已チ、罪セザルモノアル
ヲ聞カズ、焦土政策ハ、自殺ニ等シク、容共政策ハ、寇ヲ招ク
ニ同ジ、是中國有史以來、唯一ノ惡政府ニシテ、其ノ居行、心
事ハ、蓋シ、禁錮モ爲ス、テ、背セズ、聞、饋モ及バザル、トコロナ
リ、現在四川ニ一時ノ安適ヲ求メ、湖北湖南ニ潜伏スト
雖モ、只徒ラニ呼號スルヲ以テ、自ラ、憐ムノミニシテ、已ニ
統御ノ力ヲ失ヘリ、吾人等、義憤措ク、能ハズ、竟ニ起テテ
亡テ救ヒ、舊ヲ除キ、新ヲ置キ、民ト共ニ更始セントス

爰ニ三月二十八日、南京首都ニ、中華民國維新政府ヲ重
建ス、其ノ唯一ノ使命ハ、即チ、領土主權ヲ、戰前狀態ニ復現
シ、隣邦ト、權、相、折衝シテ、敦睦ニ、歸シ、勉メテ、國人ヲシテ、嚴
肅ノ苦ヲ免レシメ、同種ヲシテ、兄弟相爭フ事無カラシメ
吾國、舊有ノ、道徳ニ、基キ、東亞ノ、平和ヲ、確立シ、更ニ、歐米列
國ト、連絡ヲ、保持スルニ、アリ、維新政府ノ、成立ハ、蘇浙等ノ
省ノ、事實ニ、根據シ、其ノ、性質ハ、臨時ノ、モノニシテ、臨時
政府トハ、初メ、ヨリ、對立ノ、心無シ、將來、中央所管ノ、事項ト
不可分ノ、モノハ、臨時政府ニ、ヨリ、商酌、辦理ス、且ツ、津浦、滬
海、兩路ノ、交通、恢復セル、後ハ、臨時政府ト、合併スベシ
蓋シ、同人等ハ、常ニ、國內ニ、對峙ノ、兩政府アル、ヲ、願ハザ
ルモノナリ、秩序ヲ、恢復シ、流民ヲ、慰撫シ、農村ヲ、安定シ、商
業ヲ、復興セシムルコトハ、目下、最要ノ、急務ナリ、諸君、常ニ
群力ヲ、集合シ、遂ニ、進行シ、以テ、老父母子、弟、姊妹、ヲシテ、各
常業ニ、安シ、漸次、生計ヲ、復セシムベシ、人民ノ、タメ、兵災ヲ
減少セシムルハ、即チ、國家ノ、タメ、元氣ヲ、培養スル、所以ナ
リ、之ヲ、醫療ニ、譬フレバ、即チ、先ツ、治療ヲ、先トシ、病根ニ、除
カル、ヲ、待テ、後、徐ニ、養成ヲ、圖ルニ、等シ、敢テ、治理ヲ、空誤

シ富強ヲ奮闘シ以テ我困苦九死一生ノ民衆ヲ救カント
スルモノニアラズ荆棘地ニ邁グ烽火天ニ滿チ祖國ハ灰
燼ト化ス竊民ハ傷殘セシ後ニ於テバ功ヲ表ハスコト易
カラズ又若手最モ難キコト明カナリ惟各々智能ヲ盡シ
我使命ヲ全フシ所信ヲ貫徹スベキコトヲ天民ト共ニ誓
フモノナリ

茲ニ敢テ民衆ニ告グ

中華民國二十七年三月二十八日

維新政府政綱

(民國二十七年四月十一日維新政府公報第一號)

- 一 三權鼎立ノ憲政制度ヲ實行シ一黨專制ヲ取消ス
- 二 切ニ共產主義ヲ排撃シ赤化ノ危險ヨリ東亞ヲ免ガ
レシメ動亂ノ禍根ヲ除去ス
- 三 外交ハ平等ヲ原則トシ權力ヲ喪失セザルヲ以テ主
旨トナシ中日ノ親睦ヲ促進シ東亞ノ和平ヲ鞏固ナラ
シムルト共ニ各國トノ永遠ノ睦誼ヲ確保約ス
- 四 各省被災區ノ難民ハ速カニ復歸セシメ舊等ニ就カ
シムルト共ニ非戰區ニアリテハ保安組織ヲ設立シ土
匪ヲ掃蕩シ郷土ヲ清掃ス
- 五 失業救済資源開發工業ノ振興農産物ノ改良ハ國家
ノ指導下ニナシ廣ク外國資本ヲ吸收スルト共ニ友邦
ト經濟提携ヲ圖ル
- 六 既成ノ工商企業及金融組織ヲ扶助シ發達強化セシ
メ國富ヲ增加セシム
- 七 中國固有ノ道德文化ヲ本トシ世界ノ科學知識ヲ吸

收シ理智精神體力強健ノ國民ヲ養成セシメ從前ノ教
育及淺薄ナル學說ハ悉ク根本的ニ廓清ス

- 八 財政ハ收支適合ヲ圖リ人民ノ負擔ヲ輕減シ冗費ヲ
節省シ全國ノ福利ヲ増進セシメ從前不念ノ建設費額
ノ捐稅等凡ソ民衆ニ害アル可キモノハ悉ク之ヲ罷除
ス
- 九 人材ヲ登用シ識者ヲシテ充分ニ國家ニ盡力セシメ
言論ヲ公開シ國民ヲシテ隨時政治ヲ批評セシム
- 十 官吏ノ贪污ヲ嚴懲シシテ成績如何ヲ見テ免官シ二
重ノ機關ヲ合同セシメ吏道ヲ刷新ス

舊法暫行援用令

(民國二十七年四月一日維新政府公報第八號)

維新政府成立以來法律ヲ修訂ス本政府成立以前ニ頒
布施行サレシ各種法令ニシテ本政府政綱ニ抵觸セザル
モノヲ除ク外凡テ暫ク之ヲ適用シ行フ 此ニ令ス
立法院長 溫宗堯

第二編 官制

露光量違いにより重複撮影

露光量違いにより重複撮影

舊法暫行援用令

(民國二十七年四月二十日臨時政府公報第八號)

從前政府成立以來法律ヲ修訂ス本政府成立以前ニ頒
布施行サレシ各種法令ニシテ本政府政綱ニ抵觸セザル
モノヲ除ク外凡テ暫ク之ヲ適用シ行フ 此ニ付ス
立法院長 湯宗亮

第二編 官制

中華民國維新政府組織大綱

中華民國維新政府組織大綱

民國二十七年五月十六日

第一條 中華民國維新政府ハ左記三院ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一 行政院
- 二 立法院
- 三 司法院

第二條 行政院、立法院及司法院ニハ各院長一人及副院長一人ヲ置ク

第三條 行政院ハ中華民國維新政府ノ最高行政機關トス

第四條 行政院ハ左記各部ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一 外交部
- 二 內政部
- 三 財政部
- 四 綏靖部
- 五 教育部

六 實業部

七 交通部

部ノ設置ハ政務繁簡ノ情況ニ依リ之ヲ増減スルコトヲ得

第五條 行政院ニハ左記各總局ヲ置ク

- 一 秘書廳
- 二 銓敘局
- 三 考試局
- 四 統計局
- 五 典禮局
- 六 印務局
- 七 僑務局

第六條 維新政府ハ議政委員會ヲ設ケ常務委員三人ヲ置キ政務ヲ管掌セシメ必要アルトキハ委員會議ヲ召集ス行政、立法、司法、副院長、副院長及行政院各部部長ハ總テ之ガ委員トシ其ノ組織ハ別ニ之ヲ定ム

第七條 立法院ハ國會成立前ニ於テハ法律案、預

- 算案、大赦案、宣慰案及靖和案ヲ議決ス立法院ノ組織ハ別ニ之ヲ定ム
- 第八條 立法院ニハ立法委員四十人乃至六十人ヲ置キ會議ノ際ハ院長ヲ以テ主席トス
- 第九條 司法院ハ全國最高審判機關トシ司法行政事項ニ關シテハ司法行政部ヲ設ケ行政審判事項ニ關シテハ行政法院ヲ設ク
- 司法院組織法及各級法院組織法ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十條 本大綱ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

各部官制通則

(民國二十七年三月二十八日制定)
(維新政府公報第六號)

- 第一條 各部ニ部長一人ヲ置キ部務ヲ總攬シ所屬ノ職員ヲ監督ス
- 第二條 各部ニ次長二人ヲ置キ部長ノ命ヲ承ケ部内ノ政務常務ヲ分別處理ス
- 第三條 各部ニ參事四人ヲ置キ部ノ法令及單行規則ヲ審議起草ス
- 第四條 各部ニ司長四人乃至六人ヲ置キ部務ノ繁閑ニ應ジ部令ヲ以テ之ヲ定ム各部ニ簡任秘書二人廳任秘書二人ヲ置ク
- 第五條 各部各司ニ科長四人ヲ置キ各科ニ科員五人ヲ置ク
- 第六條 各部ニ定員ヲ設ケ官制ニ既ニ規定アルモノヲ除クノ外其ノ變更増減ハ各部長官ヨリ議政委員會ニ提出スルコトヲ要ス
- 第七條 部ト部相互間ニ於テ解決スルコト能ハザ

ル權限又ハ爭議ハ議政委員會ニ於テ之ヲ審定スルコトヲ得

- 第八條 本通則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

行政院宣傳局組織條例

民國二十七年五月九日(公示)

- 第一條 維新政府ハ政綱ノ闡揚及國內外ノ情報聯絡ノ爲宣傳局ヲ設ケ行政院ニ隸屬セシム
- 第二條 宣傳局ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 局長 一人 簡任
 - 秘書 二人 薦任
 - 科長 三人 薦任
 - 一等科員 三人 薦任 二等及三等科員各六人委任
- 第三條 宣傳局ニ左ノ各科ヲ置ク
 - 一 第一科 科長一人、科員若干人ヲ置キ左ノ事項ヲ掌理セシム
 - 甲 文書ノ收發、保存及印章ノ保管ニ關スル事項
 - 乙 職員ノ任免及成績考査ニ關スル事項
 - 丙 書籍、新聞及雜誌ノ管理ニ關スル事項
 - 二 預算、決算及會計庶務ニ關スル事項
 - 戊 其ノ他各科ノ主管ニ屬セザル事項
 - 第三科 科長一人、科員若干人ヲ置キ左ノ事項ヲ掌理セシム
 - 甲 國內一切ノ刊行物ノ指導又ハ統制ニ關スル事項
 - 乙 國外重要情報及宣傳、資料等ニ關スル事項
 - 丙 國內外記者トノ聯絡ニ關スル事項
 - 丁 其ノ他書面宣傳ニ必要ナル事項
 - 第四科 科長一人、科員若干人ヲ置キ左ノ事項ヲ掌理セシム
 - 甲 演劇及映畫ノ指導及檢査ニ關スル事項
 - 乙 ラジオ放送一切ノ施設ニ關スル事項
 - 丙 講演ニ關スル事項
 - 第五條 宣傳局局長ハ行政院院長ノ命ヲ承ケ局務ヲ綜理シ所屬職員ヲ監督ス
 - 第六條 宣傳局ニ秘書ヲ置キ機密文電及局長ノ應接事項ヲ掌理セシム

八

- 第六條 宣傳局ニ宣傳委員會ヲ附設シ關係各部局ハ委員一人ヲ派出スルコトヲ得委員會ハ局長ヲ以テ委員長トス委員會ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第七條 宣傳局ハ各種重要情報ヲ蒐集シ隨時行政院院長ニ報告スルノ外通常ノ情報ハ毎旬表簿トシテ行政院ニ報告シ調査ノ便ニ備フルモノトス
- 第八條 宣傳局ノ調査費又ハ招待費ハ豫算額内ト雖モ實支出額チ一月毎ニ表簿トシテ行政院ニ提出シ其ノ調査及裁可ヲ受クベシ
- 第九條 前條ノ經費ニシテ豫算外臨時重要支出三百元ヲ超過スル場合ニ於テハ豫算外行政院ニ申請シ其ノ調査許可ヲ得タル後之ヲ支拂フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ニ準ジ報告ヲ爲スベシ
- 第十條 宣傳局ハ事務上必要アルトキハ各專門科ヲ設クルコトヲ得其ノ組織ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十一條 宣傳局ハ事務上必要アルトキハ設計員又ハ講演員ヲ採用スルコトヲ得其ノ定員ハ局長ヨリ行政院院長ニ内申シ之ヲ定ム
- 第十二條 宣傳局ハ職員ヲ採用スルコトヲ得
- 第十三條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

九

駐外使館組織條例

民國二十七年十二月十六日

- 第一條 使館ヲ大使館、公使館及代辦使館ノ三種ニ分ツ
- 第二條 使館ニ外交官ヲ配ク定員左ノ如シ
 - 大使館
 - 大使一人
 - 參事一人
 - 祕書三人又ハ四人
 - 隨員三人又ハ三人
 - 公使館
 - 公使一人
 - 祕書一人乃至三人
 - 隨員一人又ハ二人
 - 代辦使館
 - 代辦一人
 - 祕書一人又ハ二人

一〇

- 必要アルトキハ公使館ハ參事一人ヲ増置スルコトヲ得
- 第三條 領事館ヲ總領事館、領事館及副領事館ノ三種ニ分ツ
- 第四條 領事館ニ領事官員ヲ配ク定員左ノ如シ
 - 總領事館
 - 總領事一人
 - 副領事一人又ハ二人
 - 領事館
 - 隨習領事一人又ハ二人
 - 領事一人
 - 副領事館
 - 隨習領事一人又ハ二人
 - 副領事一人
- 第五條 大使、公使及代辦ハ外交部ノ指揮ヲ承ケ

- 本國ト其ノ駐在國間ノ外交事務ヲ辦理シ所屬職員及領事ヲ監督ス
- 第六條 大使又ハ公使兼駐在國ノ使館祕書ハ外交部ニ於テ大、公使事務ノ代理取扱ヲ命ズルコトヲ得
- 前項ノ兼駐在國ノ使館祕書ハ大、公使事務代理取扱ヲ兼任シタル場合ト雖モ該兼駐在國ノ使館ノ指揮ヲ承ケベシ
- 大使、公使未ダ着任セズ、暫時在所ヲ離レ又ハ事故ニ因リ未ダ任命セラレザルトキハ臨時代辦ヲ任命スルコトヲ得
- 前項ノ臨時代辦ニハ第五條及本條第二項ノ規定ヲ適用ス
- 第七條 參事ハ大使、公使ノ指揮ヲ承ケ外交事務ヲ補助辦理シ且機要事項ヲ總括處理ス
- 第八條 祕書ハ大使、公使及代辦ノ指揮ヲ承ケ機要文書及調査報告事項ヲ掌理ス
- 第九條 隨員ハ長官ノ指揮ヲ承ケ文書及調査報告事項ヲ掌ル

- 第十條 總領事館總領事、領事館領事、副領事館副領事ハ外交部ノ指揮ヲ受ケ駐在地ノ本國居留民及本國ノ在外商業ヲ保護シ且所屬職員ヲ監督ス
- 第十一條 總領事館領事、副領事ハ總領事ノ指揮ヲ承ケ領事館副領事ハ領事ノ指揮ヲ承ケ領事ノ事務ヲ補助辦理シ且文書及調査事項ヲ掌理ス
- 第十二條 隨習領事ハ長官ノ指揮ヲ承ケ文書及調査事項ヲ分掌ス
- 第十三條 總領事館總領事、領事館領事及副領事館副領事未ダ着任セズ、暫時在所ヲ離レ又ハ事故ニ因リ未ダ任命セラレザルトキハ外交部ニ於テ適宜代理總領事、領事、又ハ副領事ヲ任命シテ各該館ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得
- 第十四條 未ダ領事館ヲ設置セザル地ニハ適宜通商事務員ヲ置クコトヲ得
- 第十五條 未ダ領事又ハ通商事務員ヲ設置セザル地ニハ適宜名譽領事又ハ名譽副領事ヲ任命スルコトヲ得

一一

第十六條 大使館及使館ニ主事一人乃至三人ヲ置キ
總領事館、領事館及副領事館ニ主事一人又ハ二人ヲ
置キ長官ノ指揮ヲ承ケ文書ノ保管、記録、譯書、庶
務及會計事項ヲ分掌セシム

第十七條 外交官及領事官ハ外交官領事官等官俸
表ニ依リ特任、簡任、薦任ニ分チ其ノ任免ハ外交部
ニ於テ法令ニ依リ之ヲ行フ

第十八條 使館又ハ領事館主事ハ委任トシ外交部ニ
於テ之ヲ任免ス

第十九條 外交官及領事官等官俸ハ別表ニ之ヲ定
ム

第二十條 外交官及領事官ニハ本俸ノ外ニ勤俸ヲ支給スルコト
ヲ得勤俸ト本俸トノ比率ハ外交部ニ於テ酌定ス

第二十一條 使館及領事館ニハ外交部ヨリ考試合格者
或ハ相當ノ學力ヲ有スル者ヲ派遣シテ學習員ト爲シ
外交官及領事官事務ヲ學習セシムルコトヲ得

第二十二條 使館及領事館ハ適宜僱員及翻譯員ヲ採用
スルコトヲ得

第二十三條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
外交官領事官等官俸表(省略)

內政部警官學校組織規程

民國二十七年十月二十四日(內政部令)

第一條 本校ハ警察教育ヲ統一シ警察人材ヲ養成
シ現任ノ警官ヲ訓練シ警察行政ノ能率ヲ増進セシム
ルヲ以テ目的トス

第二條 本校ハ內政部ニ直屬ス

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長一人
- 教育長一人
- 教務處長一人
- 事務處長一人
- 訓育主任一人
- 編譯主任一人
- 課程主任一人
- 文書主任一人
- 會計主任一人
- 庶務主任一人

編譯員四人乃至八人
事務員十三人乃至十五人
書記十人乃至二十人
警衛長一人

隊長ハ每班一人、區隊長ハ每班三人乃至四人
ヲ置ク員生三班以上ノ場合ニ於テハ總隊長一
人ヲ置クコトヲ得

教授、講師、助教等ノ員數ハ班數及員生ノ多
寡ヲ斟酌シ學校ヨリ部ニ內申シテ之ヲ決定ス

第四條 校長ハ內政部長之ヲ兼任シ事務ヲ總轄ス

第五條 教育長ハ校長ノ命ヲ承ケ校務ヲ處理ス警
長ハ內政部ニ於テ選定ノ上之ヲ派遣ス

第六條 教務處長及事務處長ハ教育長ノ命ヲ承ケ
其ノ主管事務ヲ分掌ス內政部ニ於テ選定ノ上薦任ス

第七條 教授、講師及助教ハ校長及教育長ノ命ヲ
承ケ教務處長ノ指導ノ下ニ分任學科及實施方法ヲ教
授ス

教授ハ學校ヨリ部ニ申請シ其ノ許可ヲ受ケタル後之
ヲ授ス

ヲ招聘シ兼任トス 講師ハ學校ニ於テ招聘シ兼任トス 助教ハ學校ニ於テ之ヲ任命シ共ニ部ニ報告ノ上之ヲ記録ス

第八條 訓育主任ハ教育長及教務處長ノ命ヲ受ケ各班ノ訓育、軍紀及風紀ノ責ヲ負フ 訓育主任ハ學校ヨリノ内中ニ基キ選任又ハ委任ス

第九條 總隊長、隊長又ハ副隊長ハ教育長及教務處長ノ命ヲ受ケ訓育主任ノ指導ノ下ニ軍事訓練及訓育ノ事項ヲ掌理ス 總隊長ハ學校ヨリノ内中ニ基キ選任又ハ委任シ 隊長ハ學校ヨリノ内中ニ基キ委任シ 副隊長ハ學校ヨリノ内中ニ依リ委任ス

第十條 編譯主任及編譯員ハ教育長及教務處長ノ命ヲ受ケ各團ニ於テ最近出版セラレタル警察ニ關スル名著ノ翻譯及本校各種ノ刊行物ノ編輯ヲ分任ス 編譯主任ハ學校ヨリノ内中ニ依リ選任又ハ委任シ 編譯員ハ學校ヨリノ内中ニ依リ委任ス

編譯主任ノ紹介ニ依リ教育長及教務處長ノ許可ヲ得タル者ハ學校ヨリ招聘シテ名譽編譯員ト爲スコトヲ得

得

第十一條 課程主任ハ教育長及教務處長ノ命ヲ受ケ課程ニ關スル事項ヲ掌理ス 學校ヨリノ内中ニ依リ委任ス

第十二條 文書主任、會計主任及庶務主任ハ教育長及事務處長ノ命ヲ受ケ當該主管事務ヲ分任ス 學校ヨリノ内中ニ依リ委任ス

第十三條 警衛長ハ教育長及事務處長ノ命ヲ受ケ本校ノ警衛事務ヲ掌理ス 學校ニ於テ任命シ部ニ報告ノ上記録セシム

第十四條 事務員及書記ハ各主管長官ヨリ命セラレタル事務ヲ處理ス 學校ニ於テ任命シ部ニ報告ノ上記録セシム

第十五條 本校ニハ校務會議ヲ設ケ其ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條 本校ニハ學生班及學員班ノ二班ヲ設ケ學生班ハ正科及速成科ニ分テ學員班ハ高等科及講習科ニ分ツ

第十七條

各科ニ於テ教授スル課目ハ學校ニ於テ實際ノ必要ニ應ジ當該各科ノ始業前通切ニ立案シ部ニ提出ノ上裁定ヲ經テ之ヲ施行ス

第十八條 本校ニ於ケル員生ノ銜階ハ品行端正、體質強健ニシテ惡癖ナキヲ要件トス 各科ノ考査ニ應ズル資格左ノ如シ

- 一 正科、本科 正科及本科ノ學生ハ年齡二十二歳以上三十歳以下、身長五尺二寸以上ニシテ左ノ資格ノ一ヲ具有スル者
 - 甲 公立又ハ認可ヲ受ケタル高級中學卒業者
 - 乙 各地ノ警長又ハ警士ニ繼續シテ三年以上勤務シ中學程度ノ學力アリ且主管機關ノ推薦保證アル者
- 二 速成科 速成科學生ハ左ノ各號ノ資格ニ該當スル者ノ中ニ就キ試験ノ上之ヲ採用ス
 - 甲 年齡二十三歳以上三十歳以下ノ者
 - 乙 公立又ハ認可ヲ受ケタル私立法學校卒業者
- 三 高等科 高等科學員ハ左ノ各號ノ資格ニ該當ス

第十九條

各科ノ修業期間左ノ如シ

- 一 正科一年中、必要アルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得
- 二 速成科七月乃至十月
- 三 高等科六月乃至一年
- 四 講習科三月乃至六月

- ル者ノ中ニ就キ試験ノ上之ヲ採用ス
 - 甲 年齡四十歳以下ノ者
 - 乙 警官學校、軍官學校又ハ法政學校ヲ卒業シ現在警部以上ノ警職ニ在任シ繼續シテ二年以上勤務シ成績良好ニシテ地方主管機關ノ推薦シタル者
- 四 講習科 講習科學員ハ年齡五十歳以下ニシテ左ノ各號ノ資格ニ該當スル者ノ中ヨリ試験ノ上之ヲ採用ス
 - 甲 警察學校一年以上ノ修了者
 - 乙 曾テ警官ニ二年以上在任シ確實ナル證明ヲ有スル者

第二十條 本校ハ學費ヲ徵收セズ一切ノ修業期間中
必要ナル講義、食事、宿泊、服裝及雜費ハ總テ學校
ヨリ之ヲ支給ス

第二十一條 本校員生ハ高等科ニ於テ各地ヨリ選拔保
證シ來リタル者ヲ除キ修業期間中ハ一律ニ原籍ヲ保
留シ原籍科ノ外ニ正科及速成科學生ニ在リテハ毎月
手當各金十元、講習科學員ニ在リテハ毎月手當各金
二十元ヲ支給ス

第二十二條 本校選拔員生ノ班別、定員、試驗期日及
試驗科目ハ學校ニ於テ隨時適宜ニ之ヲ定メ部ニ内申
ノ上之ヲ裁定ス

第二十三條 本校ノ考試ハ左ノ五種ニ分ツ
一 入學試驗ハ學校ニ於テ入學試驗委員會ヲ組織シ
入學前ニ之ヲ行フ
二 選拔試驗ハ學校ニ於テ選拔委員會ヲ組織シ入校
三月後之ヲ行フ凡ソ選拔試驗ノ不合格者ハ學籍
ヲ除キ部ニ報告ノ上記録ス但シ修業期間六月以
下ノ者ハ選拔試驗ヲ免ズルコトヲ得

三 學期試驗ハ學校ニ於テ組織セル試驗委員會學期
終了ノトキ之ヲ行フ
四 卒業試驗ハ學校ニ於テ組織セル卒業試驗委員會
卒業ノトキ之ヲ行フ此ノ場合ニ於テハ内政部ニ
報告シ部ヨリ人員ヲ派遣シ試驗ヲ監督セシム
前項ノ各委員會規則ハ別ニ之ヲ定ム
第二十四條 各項ノ試驗ニ於テ學生ハ六十點ヲ以テ、
學員ハ七十點ヲ以テ及第トス

第二十五條 本校ノ正科及速成科ノ學生修業期間滿了
シ及第タルトキハ學校ハ成績台帳ヲ作成ノ上部ニ
提出シ更ニ實習ノ爲各地ニ分遣シ實習期間滿了シタ
ルトキハ證書ヲ授與シ原實習機關ニ於テ之ヲ任用ス
高等科學員ハ卒業後學校ヨリ部ニ上陳シ原機關ニ送
同シテ服務セシム其ノ成績優秀ナル者ハ豫メ記名ノ
上陸用ス
講習科學員ハ卒業後學校ヨリ部ニ上陳シ各方面ニ派
遣ノ上任用ス
第二十六條 本校ノ事務取扱規則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十七條 本規程ヲ變更スル必要アルトキハ隨時上
申ノ上之ヲ修正スルコトヲ得
第二十八條 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附錄正科速成科講習科科目
甲 第一期正科ノ科目左ノ如シ

- A 訓育 其ノ細目左ノ如シ
 - 一 精神講話
 - 二 長官訓話
- B 學課 其ノ細目左ノ如シ
 - 一 警察概論
 - 二 法學大意
 - 三 比較憲法
 - 四 國際公法
 - 五 國際私法
 - 六 刑法
 - 七 私法大意
 - 八 刑事訴訟法

九 行政法

- 一〇 市政概論
- 一一 行政警察ノ理論ト實際
- 一二 司法警察ノ理論ト實際
- 一三 衛生警察ノ理論ト實際
- 一四 消防警察ノ理論ト實際
- 一五 外事警察ノ運用
- 一六 非常警察
- 一七 水上警察概論
- 一八 違警罰法
- 一九 警察法令
- 二〇 保甲制度
- 二一 警察ノ實務ト經驗
- 二二 勤務支配
- 二三 戸口調査ノ理論ト實際
- 二四 探偵學
- 二五 警察心理學
- 二六 犯罪學

- 二七 說話ノ研究(言語ノ研究)
 - 二八 社會概況
 - 二九 指紋學
 - 三〇 一般鑑識
 - 三一 法醫學
 - 三二 應用化學
 - 三三 警察ノ沿革ト事件例
 - 三四 公文研究
 - 三五 統計學概要
 - 三六 軍事學
 - 三七 外國語
- C 術科 其ノ細目左ノ如シ
- 一 制式教練
 - 二 體育
 - 三 警察應用技能
- D 課外講習 其ノ細目左ノ如シ
- 一 實習
 - 二 名士ノ講演

- 一八
- 三 參觀
 - 四 見學
- 乙 第一期速成科科目左ノ如シ
- A 副官 其ノ細目左ノ如シ
- 一 精神講話
 - 二 長官ノ講話
- B 學科 其ノ細目左ノ如シ
- 一 法學大意
 - 二 警察概論
 - 三 行政警察
 - 四 司法警察
 - 五 衛生警察
 - 六 外事警察
 - 七 非常警察
 - 八 警察法令
 - 九 違警罰法
 - 十 刑法要旨
 - 十一 保甲制度

- 一二 警察ノ實務ト經驗
 - 一三 勤務支配
 - 一四 戶口調査ノ理論ト實際
 - 一五 探偵學
 - 一六 警察心理學
 - 一七 說話ノ研究
 - 一八 社會概況
 - 一九 指紋學
 - 二〇 一般鑑識
 - 二一 法醫學
 - 二二 警察ノ沿革ト事件例
 - 二三 公文研究
 - 二四 統計學概要
 - 二五 軍事學
 - 二六 外國語
- C 術科 其ノ細目左ノ如シ
- 一 制式教練
 - 二 體育

- 丙 第一期講習科科目左ノ如シ
- A 副官 其ノ細目左ノ如シ
- 一 精神講話
 - 二 長官講話
- B 學科 其ノ細目左ノ如シ
- 一 法學大意
 - 二 警察概論
 - 三 行政警察
 - 四 司法警察
 - 五 消防警察
 - 六 非常警察(戰時警察、暴動處理、脅迫令攻撃等)
- D 三 警察應用技能
- 課外講習 其ノ細目左ノ如シ
- 一 實習
 - 二 名士招待講演
 - 三 參觀
 - 四 見學
- 一九

- 七 外事警察
- 八 警察法令
- 九 途警罰法
- 一〇 刑法要旨
- 一一 保甲制度
- 一二 警察ノ實務ト經驗
- 一三 勤務支配
- 一四 戸口調査ノ理論ト實際
- 一五 探偵學
- 一六 警察心理學
- 一七 說話ノ研究
- 一八 社會概況
- 一九 指教學
- 二〇 法醫學
- 二一 公文研究
- 二二 軍事學大意
- 二三 外國語

〇 術科 其ノ細目左ノ如シ

- 二〇
- 一 制式教練
- 二 警察應用技能
- D 課外講習 其ノ細目左ノ如シ
- 一 實習
- 二 名士招待講演
- 三 參觀
- 四 見學

綏靖部兵器修理所暫行組織條例

民國二十八年二月二十二日

- 第一條 綏靖部兵器修理所ハ綏靖部經理司ニ直屬シ部及所屬各部隊軍器ノ修理事項ヲ掌理ス
- 第二條 兵器修理所ニ中佐所長一人、大尉助理員二人乃至三人、中尉助理員一人乃至三人、少尉助理員三人乃至五人、准尉司書二人、中尉修械技士二人乃至三人、少尉修械技士二人乃至三人、准尉修械技士三人乃至五人、曹長銃工三人乃至五人、中軍曹銃工三人乃至六人、伍長銃工三人乃至六人、上等兵銃工十人乃至十六人、上等勤務兵三人乃至四人ヲ附ク
- 第三條 長ハ綏靖部長、次長及經理司長ノ命及軍械科長ノ指導ヲ承ケ上所ノ事務ヲ綜理ス
助理員ハ所長ノ命ヲ承ケ軍器ノ收發、保管及人事、文書ニ關スル事項ヲ處理ス
修械技士ハ所長ノ命ヲ承ケテ重要軍器ヲ修理シ及銃工ヲ督率、分配シ各種軍器ヲ修理ス

司書ハ長官ノ命ヲ承ケ専ラ記録、簿書複寫事務ニ従事ス

- 銃工ハ修械技士ノ命ヲ承ケ各種軍器ヲ修理ス
- 第四條 兵器修理所ニ要スル器械材料ハ所長ニ於テ修械技士ヲ監督シテ名稱、數量、見積價格表ヲ作成シ部ニ提出シテ購入ス消耗材料ハ毎月種類ヲ分テ部ニ報告スベシ
- 第五條 兵器修理所服務規則及服務取扱細則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第六條 兵器修理所編成辦費ハ別ニ之ヲ定ム
- 第七條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

教育部編歷委員會規程

民國二十八年二月六日

- 第一條 本部ハ天文臺及氣象觀測所ノ成立以前ニ於ケル一切ノ編定時事項ヲ暫時本委員會ニ於テ之ヲ辦理セシム
- 第二條 本部ハ専門家若干人ヲ招聘シテ委員會ヲ組織ス
- 第三條 本委員會會長ハ暫時部長ニ於テ之ヲ擔任ス
- 第四條 本委員會ハ齊シク名譽職トシ俸給ヲ支給セズ但シ相當ノ車馬費及旅費ヲ支給スルコトヲ得
- 第五條 本會ハ事務處理ノ爲幹事一人ヲ置クコトヲ得部員中コリテ兼任セシム
- 第六條 本會ハ事務ノ繁簡ニコリ適宜雇員及書記、小部ヲ採用スルコトヲ得
- 第七條 本會ハ毎年一度國民讀本ヲ編成印刷シテ所屬各機關ニ頒布スベシ

二二

- 第八條 本會ノ國民讀本ノ發行ニ際シテハ內政部下共同シテ之ヲ處理スベシ
- 第九條 本會ノ編成印刷シタル讀本ハ商人ニ於テ申請シテ認可ヲ經タルトキハ之ヲ複製スルコトヲ得但シ表紙ニ某機關認可等ノ文字ヲ明記スベシ
- 第十條 國民讀本ヲ複製セムトスル者ハ其ノ文字、行號及一切ノ内容ハ其ノ頒布シタル原本ニ依ルコトヲ要シ變更スルトコロアルヲ得ス但シ單ニ日序、七曜、時令、紀要、節氣、紀念日及宣傳要點ノミヲ追加印刷スルコトハ自由トス
- 第十一條 本規程ニ違ハズシテ國民讀本ヲ複製シタルモノアルトキハ複製各地方政府ヲシテ其ノ發行ヲ阻止セシムルコトヲ得
- 第十三條 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ時宜ニ應ジ之ヲ改正スルコトヲ得

商標局組織條例

民國二十七年十一月八日

- 第一條 商標局ハ實業部ニ直屬シ全國ノ商標登錄事務ヲ管理ス
- 第二條 商標局ニ左ノ各科ヲ置ク
 - 第一科 管掌事項左ノ如シ
 - 一 文書原稿ノ起草及文書ノ收發ニ關スル事項
 - 二 會計、庶務其ノ他各科ニ屬セザル事項
 - 第二科 管掌事項左ノ如シ
 - 一 商標申請手續ノ審査ニ關スル事項
 - 二 商標ノ審査及登錄ニ關スル事項
 - 第三科 管掌事項左ノ如シ
 - 一 商標ノ異議及評定ニ關スル事項
 - 二 商標公報ノ編輯等ニ關スル事項
- 第三條 商標局ニ局長一人ヲ置キ簡任トシ全局ノ事務ヲ總理セシム
- 第四條 商標局ニ科長三人ヲ置キ簡任トシ科員六

人乃至十二人ヲ置キ委任トス

- 第五條 商標局ニ審査員二人ヲ置キ簡任トシ審査事務ヲ辦理セシム
- 第六條 商標局ハ事務上ノ必要ニ因リ専門家ヲ招聘シテ名譽顧問ト爲スコトヲ得
- 第七條 商標局ハ文書ノ淨書其ノ他ノ事務ニ因リ適宜雇員ヲ採用スルコトヲ得
- 第八條 本條令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二二

司法行政部組織法

民國二十八年二月四日司法行政部令

- 第一條 司法行政部ハ全國ノ司法行政事項ヲ掌攝ス
- 第二條 司法行政部ハ各地方最高級行政長官ノ本部主管事務執行ニ付指示監督ノ責ヲ有ス
- 第三條 司法行政部ハ主管事務ニ關スル各地方最高級行政長官ノ命令又ハ處分ニシテ法令ニ違反シ又ハ權限ヲ逾越スト認メタルトキハ行政院院長ニ上呈シ議政委員會會議ヲ召集シテ其ノ議決ヲ經テ之ヲ停止又ハ取消スコトヲ得
- 第四條 司法行政部ハ左ニ列記ノ各司ヲ置ク
 - 一 總務司
 - 二 民事司
 - 三 刑事司
 - 四 監獄司
- 第五條 司法行政部ハ議政委員會會議及司法院ノ

二四

議決ヲ經テ各司及他ノ附屬機關廢止合併ヲ爲スコトヲ得

- 第六條 總務司ハ左ニ列記ノ事項ヲ掌ル
 - 一 文件ノ受渡、分配選定作文及保管ニ關スル事項
 - 二 公布部令ニ關スル事項
 - 三 官印ノ保管ニ關スル事項
 - 四 本部及所屬各機關ノ職員ノ任免選別登記功績考査及賞罰ニ關スル事項
 - 五 統計報告編製、書籍新聞ノ刊行費ニ關スル管理ニ關スル事項
 - 六 本部及所屬各機關ノ經費並ニ各項收入ノ豫算決算ノ檢査及會計ニ關スル事項
 - 七 本部ノ官有財產官有物品及公有財產ノ保管及處分ニ關スル事項
 - 八 司法機關ノ設置廢止及管轄區域ノ分割變更ニ關スル事項
 - 九 司法機關ノ職員ノ訓練及教育ニ關スル事項
 - 十 辯護士ニ關スル事項

十一 刑金贓物及沒收等ノ檢査ニ關スル事項

十二 本部ノ庶務ニ關スル事項

十三 其ノ他各司ニ屬セザル事項

第七條 民事司ハ左ニ列記ノ事項ヲ掌ル

- 一 民事訴訟裁判ノ行政ニ關スル事項
- 二 非訟事件ニ關スル事項
- 三 公證ニ關スル事項
- 四 司法機關所管ノ登記ニ關スル事項
- 五 其ノ他民事ニ關スル事項

第八條 刑事司ハ左ニ列記ノ事項ヲ掌ル

- 一 刑事訴訟裁判及檢査ノ行政ニ關スル事項
- 二 特赦減刑復權刑罰ノ執行及緩刑ニ關スル事項
- 三 國際引渡犯人ニ關スル事項
- 四 其ノ他刑事ニ關スル事項

第九條 監獄司ハ左ニ列記ノ事項ヲ掌ル

- 一 監獄ノ設置廢止及管轄ニ關スル事項
- 二 監獄官吏ノ監督ニ關スル事項
- 三 犯罪人ノ感化假釋及出獄人ノ保護ニ關スル事

項

四 犯罪人ノ鑑識ニ關スル事項

五 犯罪人ノ衛生及工作ニ關スル事項

六 其ノ他監獄ニ關スル事項

第十條 司法行政部ハ部長(特任)ヲ置キ本部ノ事務ヲ綜理シ所屬職員及各機關ヲ監督ス

第十一條 司法行政部ハ次長(簡任)二人ヲ置キ部長ヲ輔佐シ政務及常務ヲ處理ス

第十二條 司法行政部ハ參事(簡任)四人ヲ置キ法案及命令ヲ選定作成及審査ス

第十三條 司法行政部ハ秘書(簡任又ハ薦任)四人ヲ置キ機要文件部會議及長官ノ秘書事項ヲ分掌ス

第十四條 司法行政部ハ各司ニ司長(簡任)一人ヲ置キ部長ノ命令ヲ承ケ各司事務ヲ分掌ス

第十五條 司法行政部ハ各司科長(薦任)十二人乃至十六人科員(薦任又ハ簡任)四十人乃至六十人ヲ置キ長官ノ命令ヲ承ケ科事務ヲ分掌ス

第十六條 司法行政部ハ專員(簡任又ハ薦任)四人ヲ

二五

至八人ヲ置き長官ノ命ヲ承ケ各省司法行政事項ヲ視察又ハ指導シ編纂(兼任)四人乃至八人ヲ置き法律ニ關係アル圖書ヲ編纂翻譯セシムルコトヲ得

第十七條 司法行政部ハ技正(兼任)一人技士(兼任)乃至四人ヲ置き長官ノ命ヲ承ケテ技術事務ヲ處理セシムルコトヲ得

第十八條 司法行政部ハ事務員(兼任)又ハ雇員ヲ採用スルコトヲ得

第十九條 司法行政部處務規程ハ部令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

司法行政部暫行處務規程

民國二十七年十月二十六日(司法行政部令)

第一章 通則

第一條 本規程ハ司法行政部組織法第二十條ノ規定ニ依リ之ヲ制定ス

第二條 本部ノ職員ハ本部各規則ニ依リ事務ヲ分掌ス但シ部長又ハ次長ヨリ特別ニ委任ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 總務、參事及司長ハ事務ヲ主管シ所屬職員ヲ指揮監督ス

第四條 本部職員ハ其ノ處理スベキ事件ハ遲滯ナク之ヲ辦理スベシ但シ手續繁雜又ハ特別ノ事情アリ主管長官ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 本部職員ハ其ノ處理スル事項又ハ聞知セラル事項ニシテ未ダ發表セラレザルモノニ對シテハ秘密嚴守ノ義務ヲ有シ之ニ違反シタル者ハ輕重ニ從ヒ之ヲ懲戒ス

第六條 本部ノ總務處及參事處ノ各司並ニ編纂處及技術官室ニハ左ノ簿冊ヲ備附スベシ

一 出勤簿
二 請假簿
三 出張簿
四 文書受領簿 分簿
五 申請簿
六 草案送付簿
七 事件處理日記簿
八 文書編存簿
總務司ハ前項ノ各簿ヲ備附スルノ外收文總簿及文書發送總簿ヲ備フベシ各處司室ハ所掌事務ノ性質ニ因リ必要ニ應ジ帳簿ヲ增置スルコトヲ得

第二章 處務順序

第七條 法律及命令案ハ部長ヨリ參事ニ交付シ議定ノ後次長ヲ經テ部長ノ裁定ヲ請フベシ

第八條 參事法令ヲ議定スル場合ハ關係各司ノ職員ヲ其ノ協議ニ參加セシムルコトヲ得

第九條 法令案ハ部長ヨリ各司ニ交付シ起草セシメ起草ヲ了シタルモノハ次長ヲ經テ部長ニ提出シ部長ハ之ヲ參議ニ交付シ審議セシメ再ビ部長ニ提出ノ上之ヲ裁定ス

第十條 參事前條ノ法令ヲ審議スルトキハ起稿者ヲ參加セシムルコトヲ得

第十一條 機密ニ關スル事項ハ秘書ニ於テ之ヲ起草シ次長ヲ經由ノ上部長ニ提出シ部長之ヲ裁定ス必要アルトキハ參事又ハ司長ト協同シテ之ヲ起草スルコトヲ得

第十二條 各司ハ法令ノ解釋ニ關シテハ參事處ト協議シタル後次長ヲ經テ部長ノ裁定ヲ請フベシ

第十三條 各處司室ノ事務相互ニ聯關スルモノ有ルトキハ各主任職員ハ協同シテ之ヲ處理シ意見同ジカラザルトキハ次長ヲ經由ノ上部長ニ其ノ裁定ヲ請フベシ

各處司ノ事務ニ於テ之ヲ決定ス

第十四條 各處司室ニ於ケル處理事件ニシテ普通事務ニ屬スルモノハ之ヲ類別シ文書ニ從テ上司ニ進達シ又ハ起案ノ上關係者ニ送致スベシ若シ先例ナク又ハ先例已ニ變更シテ疑義ヲ存スルモノニ付テハ次長ニ申請シ次長ヨリ更ニ部長ニ其ノ裁定ヲ請ヒ再ビ起案ノ上關係者ニ送致スベシ

ニ申請シ次長ヨリ更ニ部長ニ其ノ裁定ヲ請ヒ再ビ起案ノ上關係者ニ送致スベシ

第十五條 凡ソ文書ニシテ政府公報又ハ司法公報ニ登載セラレタルモノハ起案ニ際シ原文ヲ再録セズ原文書ハ某年月日某公報記載ト註記スベシ但シ特別ノ事情アルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 回答文ニハ來信ノ年月日、番號及簡單ニ其ノ事由ヲ附記シ原文ヲ記載スルヲ要セズ但シ來文ノ甚シク簡單ナルモノ又ハ逐一解答ヲ要シ爲ニ全部記載ノ必要アルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 各職員ノ起案シタル事項ハ起案者及起案閱覽者ノ署名及月日ヲ標示シ次長ヲ經テ部長ニ提出シ其ノ裁定ヲ請ヒ數人共同シテ起案シタルモノハ起案者連帶署名ヲ爲スベシ

第十八條 凡ソ文書ヲ轉送セントスルトキハ必ズ原文書ノ年月日、番號及簡明ナル事由ヲ列記シ原文書

ヲ送附シ又ハ文書ノ性質ニ依リ抄録ノ上發送スベシ但シ原文書甚シク簡單ナルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 凡テノ文書ハ部長捺印ノ上之ヲ發送スベシ文書ニ書入又ハ訂正ヲ爲シタルトキハ校正セル點ニハ捺印シ校對員及監印員更ニ捺印ノ上之ヲ發送スベシ

第二十條 監印員ハ毎日捺印數及捺印セル文書數ヲ帳簿ニ記入スベシ原稿ニ長官ノ捺印ナキモノハ捺印記入スルコトヲ得ズ

第二十一條 文書ニシテ部ニ送達セラタルトキハ總務司第二科ニ於テ受領シ番號ヲ附シ文書受領簿ニ記入ノ上同科ニ於テ開封シ事務ノ性質ニ從ヒ各司處室ニ送付シ之ヲ處理セシム最モ主要ナル文書ハ之ヲ次長ニ呈出シ次長ヨリ部長ノ査閲ヲ經タル上更ニ各主任務者ニ交付シ之ヲ處理セシム

第二十二條 文書ハ左ノ三號ニ類別シテ之ニ捺印スベシ

要ト認メタルモノ

(一) 重要 特殊事件ニシテ協議ヲ要スルモノ

(二) 尋常 普通ノ事件

第二十三條 部長ニ於テ自身ノ姓名ヲ自署シ又ハ封筒上ニ機密者ハ現展ト記載シタル文書ハ他人ニ於テ開封スルコトヲ得ズ

第二十四條 部外ニ發送スル文書ノ申部長、次長又ハ主管長官ノ署名捺印ヲ要スルモノハ其ノ署名捺印ヲ得タル後ニ非ザレバ之ヲ外部ニ發送スルコトヲ得ズ

第二十五條 部外ニ發送スル文書ハ主管職員ニ於テ點檢ノ上粘簿ニ記入シ之ト共ニ總務司第二科ニ送付シ第二科ニ於テハ之ニ番號ヲ付シ發送簿ニ記載捺印シタル上分類シテ發送スベシ但シ機密文書ハ單ニ機密ト記入シ點檢ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十六條 公布文書ハ原稿發送ノ際公布ノ旨明記シ部長ノ裁定ヲ經タル後起案處司室ニ於テ副本ヲ作成シ總務司第二科ニ送付シ各新聞、司法公報又ハ政府公報ニ登載發表スベシ

第二十七條 往復文書ハ總務司第二科ニ於テ表ヲ作成

ノ上之ニ記入シ次長及部長ニ提出シ閱査ヲ受クベシ
第二十八條 文書ヲ發送シタルトキ、先ノ機關又ハ本
人ヲシテ送達簿ニ捺印又ハ署名セシムベシ之ヲ郵送
スル場合ハ必ズ郵便局ノ受領證明書ヲ貼付シ又ハ其
ノ日附印ヲ捺捺セシムベシ
電報ヲ發送シタルトキハ必ズ電報局ヲシテ送達簿ニ
日附印ヲ捺捺セシムベシ

第二十九條 加級保存スル文書ハ主管職員ニ於テ種類
ニ依リ之ヲ區分シ件數、附件等ヲ文書加級簿ニ記入
シ之ト共ニ總務司第二科ニ送付シ記録捺印シ文書保
存細則ニ照シ之ヲ處理スベシ文書保存細則ハ別ニ之
ヲ定ム

第三章 勤務及考査
第三十條 日曜日及例休日ヲ除キ本部各職員ハ部所
定ノ勤務時間ヲ遵守スベシ特別ノ事由ニ依リ事務ヲ
中止スルコト能ハザル者ハ時間外ト雖モ職務ヲ執行
スルコトヲ要ス
第三十一條 總務司第二科ハ勤務時間後ハ必ズ人ヲ受

付ニ派遣シ交替ニ宿直セシムベシ
第三十二條 各職員ハ出勤又ハ退勤ニ際シテハ必ズ姓
名ヲ出勤簿ニ白署シ退勤早引ヲ爲スコトヲ得ズ但シ
主管長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第三十三條 各職員病氣又ハ重大ナル事故ニ因リ出勤
シ能ハザルトキハ職暇ヲ申請スベシ處司室ノ職員ハ
當該長官ニ職暇ノ申請ヲ進達シ行政院所屬ノ職員ハ
職暇通則ニ依リ之ヲ處理スベシ

第三十四條 各處司室ニ於テ已ニ處理シタル事件ハ每
月完結又ハ未完結ヲ區別シ同時ニ擔當者ノ姓名ヲ事
件處理日記錄ニ記入スベシ
第三十五條 各處司室ハ毎月末ニ於テ事件處理日記錄
及出勤簿ヲ部長、次長ニ提出シテ其ノ査閲ヲ受クベ
シ

第四章 附則
第三十六條 部務會議ハ各部部務會議通則ノ定ムル所
ニ依リ之ヲ處理ス
第三十七條 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

司法行政部暫行分科規則

民國二十七年十月二十六日(司法行政部令)

第一條 總務司ニ左ノ四科ヲ分置ス

- 第一科 掌理事務左ノ如シ
 - 一 各法院及司法行政機關ノ設置、廢止、其ノ管轄區域ノ區分及變更ニ關スル事項
 - 二 各法院及司法行政機關職員ノ配置及其ノ變更ニ關スル事項
 - 三 審判官吏其ノ他ノ職員ノ任免、昇敘、轉任、賞罰、存記、進級、慰勞及恩給ニ關スル事項
 - 四 審判官吏其ノ他ノ職員ノ資格ノ審查、選拔及考試ニ關スル事項
 - 五 司法教育ニ關スル事項
 - 六 辯護士試驗及其ノ資格審查再試驗ニ關スル事項
 - 七 辯護士ノ登記及懲戒ニ關スル事項
 - 八 辯護士組合ノ設置、組織及其ノ會則ノ審查許可ニ關スル事項

第二科 掌理事務左ノ如シ

- 一 各司處室ノ文書ノ編纂保存ニ關スル事項
 - 二 公文書ノ收受及發送ニ際シ之ニ番號ヲ付シ又ハ摘要ヲ記入スル事項
 - 三 法令公布ニ關スル事項
 - 四 印章ノ保管並ニ電報ノ翻譯、受付及發送ニ關スル事項
 - 五 統計表ノ格式ノ立案及記入例ノ作成ニ關スル事項
 - 六 各法院、監獄又ハ看守所ヨリ送付セル統計表及書類ノ審查ニ關スル事項
 - 七 統計報告及年鑑ノ編輯作成ニ關スル事項
 - 八 各種統計書類ノ保存ニ關スル事項
- 第三科 掌理事務左ノ如シ
- 一 司法經費ノ豫算、決算及司法收入ノ整理ニ關スル事項
 - 二 本部所轄各機關ノ收支報告ノ檢査ニ關スル事項
 - 三 本部ノ經費收支並ニ豫算及決算編成ニ關スル事項

項

第四科 掌理事務左ノ如シ

- 一 本部ニ於ケル一切ノ庶務ニ關スル事項
- 二 司法公報ノ發行ニ關スル事項
- 三 印紙及訴狀印刷發行ニ關スル事項
- 四 工事ノ管理ニ關スル事項

第二條 民事司ニ左ノ二科ヲ分置ス

第一科 掌理事務左ノ如シ

- 一 民事ノ陳訴ニ關スル事項
- 二 民事訴訟ノ裁判執行ニ關スル事項
- 三 其ノ他民事ニ關スル事項

第二科 掌理事務左ノ如シ

- 一 登記其ノ他非訟事件ニ關スル事項
- 二 戸籍及公證ニ關スル事項
- 三 公斷ニ關スル事項
- 四 訴訟費用ニ關スル事項

第三條 刑事司ニ左ノ二科ヲ分置ス

第一科 掌理事務左ノ如シ

- 一 刑事訴訟ノ裁判執行ニ關スル事項
- 二 刑罰ノ執行ニ關スル事項
- 三 赦免、減刑及復権ニ關スル事項

第二科 掌理事務左ノ如シ

- 一 監獄、看守所ノ設置、廢止又ハ變更ニ關スル事項
- 二 監獄及看守所内部ノ組織、管理及人員ノ配置ニ關スル事項

刑事ニ關スル陳訴事項

- 一 刑事ニ關スル陳訴事項
- 二 官吏ノ犯罪ニ關スル事項
- 三 特殊ノ犯罪ニ關スル事項
- 四 國際間犯罪ニ關スル事項
- 五 刑事訴訟ノ裁判及檢察行政ニ關スル事項
- 六 刑事訴訟ノ再審及非常上告ニ關スル事項
- 七 其ノ他刑事ニ關スル事項

第二科 掌理事務左ノ如シ

- 一 死刑ノ執行ニ關スル事項
- 二 無期徒刑、有期徒刑、拘束及罰金ノ執行ニ關スル事項
- 三 赦免、減刑及復権ニ關スル事項

第四條 監獄司ニ左ノ二科ヲ分置ス

第一科 掌理事務左ノ如シ

- 一 監獄、看守所ノ設置、廢止又ハ變更ニ關スル事項
- 二 監獄及看守所内部ノ組織、管理及人員ノ配置ニ關スル事項

第七 其ノ他監獄ニ關スル事項
第五條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

- 三 監獄及看守所ノ職員及看守等ノ訓練及試験ニ關スル事項
 - 四 監獄ニ於ケル特別支出ノ審査及裁定ニ關スル事項
 - 五 在監囚人ノ出入、病氣、故障及死亡ニ關スル事項
 - 六 監獄内ニ於ケル各種工場ノ開始、廢止及變更ニ關スル事項
 - 七 在監者ノ就役ノ多寡、勤怠及賞罰ニ關スル事項
- 第二科 掌理事務左ノ如シ
- 一 在監者ノ教導其ノ他感化ニ關スル事項
 - 二 監獄及看守所ノ衛生及疾病治療ノ検査ニ關スル事項
 - 三 在監者ノ食糧ノ検査ニ關スル事項
 - 四 在監者ノ異同識別ニ關スル事項
 - 五 在監者ノ假出獄、減刑及保安處分並ニ出獄人ノ保護ニ關スル事項
 - 六 在監者ノ脱走ニ關スル事項

司法官甄用(選任)委員會規則

民國二十七年十一月二十八日司法行政部令

- 第一條 司法行政部ハ司法官ノ資格及成績審定ノ爲司法官甄用委員會ヲ設置ス
- 第二條 司法官甄用委員會ヲ二組ニ分チ(甲)資格審定委員會(乙)成績審定委員會トス
- 第三條 司法官甄用委員會ハ司法官ノ成績ヲ審定スル目的ノ爲必要アルトキハ左ニ掲グル者ヲ聘任シ成績審定委員會專門委員ト爲スコトヲ得
- 第四條 司法官甄用委員會ハ左ニ掲グル者ヲ聘任シ成績審定委員會專門委員ト爲スコトヲ得
- 第五條 司法官甄用委員會ハ左ニ掲グル者ヲ聘任シ成績審定委員會專門委員ト爲スコトヲ得

三四

- 前項ノ專門委員ハ最高七人ヲ逾ユルコトヲ得ズ
- 第四條 各組審定委員會開會ノ際ハ委員長ヲ以テ主席トス委員長事故アルトキハ本會委員ヲ指定シ代理セシムルコトヲ得
- 第五條 資格審定委員會ノ資格審定ハ各種關係法規ニ依リテ之ヲ處理シ且左ノ證據書類ニ付キ之ヲ審定スベシ
- 一 學校ノ卒業證書
- 二 學校ノ教授聘任書及其年限
- 三 曾テ司法官又ハ司法行政官ニ充任シタル委任狀又ハ其ノ他ノ證明文書
- 四 曾テ應ジタル司法官考試其ノ他ノ考試ノ合格證書
- 五 其ノ他ノ證據書類
- 前項ノ書類ノ外資格審定委員會ニ於テ必要ト認メタルトキハ該員ノ受理シタル判決文又ハ書類ヲ徵取シ成績審定委員會ニ送付シテ等級ヲ評定スルコトヲ得
- 第六條 成績審定委員會ノ成績審定ハ各種關係法規ニ依リテ之ヲ處理シ且左ノ證據書類ニ付キ之ヲ審定スベシ

規ニ依リ之ヲ處理シ且左ノ文書ニ付キ之ヲ審定スベシ

- 一 判決文、起訴書、不起訴處分書又ハ其ノ他ノ司法行政文書
- 二 教授シタル講義
- 三 律師ノ引受處理シタル文書
- 四 法學上ノ專門著作
- 五 其ノ他成績ニ關係アル文書
- 第七條 審定委員會前條各號ノ文書ヲ收受シタルトキハ委員長ニ於テ其ノ性質ニ依リ委員一人ヲ指定シ專門委員一人又ハ二人ト共同シテ審定セシム
- 第八條 成績審定委員會及專門委員ハ成績審定ノ際ニ脈絡關係書類ヲ取寄セ其ノ審理及偵査ノ經過ニ付詳細ニ審定スルコトヲ得
- 第九條 成績審定委員及專門委員ハ成績審定完了後責任ヲ以テ講評ヲ附記シ等級ヲ評定シテ共同署名ノ上審定委員ヨリ審定委員會ニ提出シテ查閱決定スベシ

- 第十條 各組審定委員會ノ開會期日ハ委員長ニ於テ之ヲ定ム開會ハ委員ノ過半數ノ出席アルコトヲ要シ議決ハ出席委員ノ過半數ノ同意アルコトヲ要ス
- 第十一條 各審定委員會職員ハ司法行政部部長ニ之ヲ兼任セシメ別ニ俸給ヲ給セズ但シ適宜雇員ヲ採用スルコトヲ得
- 第十二條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三五

監獄官甄用(選任)委員會規則

民國二十七年十一月二十八日司法行政部令

- 第一條 司法行政部ハ監獄官ノ資格及成績ヲ審定スル爲監獄官甄用委員會ヲ設置ス
- 第二條 監獄官甄用委員會ニ委員長一人、委員四人ヲ置キ委員長ハ次長ヲ以テ之ニ充テ委員ハ簡任秘書、參事及司長ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 開會ノ際ハ委員長ヲ以テ主席トス委員長事故アルトキハ木會委員ヲ指定シ代理セシムルコトヲ得
- 第四條 資格ノ審定ハ各種關係法規ニ依リ之ヲ處理シ且左ノ證據書類ニ付之ヲ行フベシ
 - 一 學校ノ卒業證書
 - 二 曾テ監獄官又ハ司法行政官ニ任ジタル任命狀
 - 三 曾テ應ジタル監獄練習員考試又ハ監獄官考試ノ合格證書及監獄實踐練習證書
 - 四 監獄ニ關スル著述

三六

- 五 其ノ他ノ證明文書
- 第五條 成績審定ハ該官高等法院ノ作成シタル監獄官成績報告表ニ付之ヲ行フ
- 第六條 監獄官甄用委員會ノ開會期日ハ委員長ニ於テ之ヲ定ム
- 開會ハ委員過半數ノ出席アルコトヲ要シ議決ハ出席委員過半數ノ同意アルコトヲ要ス
- 第七條 甄用委員會職員ハ司法行政部部長ヲシテ之ヲ兼任セシメ別ニ候補ヲ給セズ但シ適宜職員ヲ採用スルコトヲ得
- 第八條 各縣監獄監獄員及看守所所長又ハ所員ノ選任ハ高等法院ニ於テ縣監所職員甄用委員會ヲ組織シテ之ヲ行ヒ且司法行政部ニ呈報シテ備案ス
- 第九條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

最高法院暫行組織條例

民國二十八年五月二十五日

- 第一條 司法院成立以前ニ於テハ暫時最高法院ヲ設ケ最高審判及法令ノ解釋ヲ統一スベキ職權ヲ代行セシム
- 第二條 最高法院ハ維新政府所在地ニ之ヲ設ク
- 第三條 最高法院ニ院長一人ヲ置キ之ヲ特任トシ全院ノ行政事務ヲ統轄セシム
- 第四條 最高法院ニ民事法廷及刑事法廷ヲ置ク各法廷ニ簡任判事五人ヲ置キ内一人ヲ庭長トシ當該事務ヲ監督セシメ併セテ事務ノ分擔ヲ定メシム
- 第五條 最高法院ニ簡任書記官長一人、書記又ハ委任書記官若干人ヲ置キ公文書ノ作成、記錄、文書ノ編纂、統計、會計、庶務及官印信書ノ保管等ノ事務ヲ分掌セシム
- 第六條 最高法院ニ檢察總長一人、檢察官三人ヲ置キ之ヲ簡任トス檢察長ハ部下ノ指揮監督

省及所管檢察事務ノ配分ヲ行フ

- 第七條 最高法院檢察總長ニ委任書記長一人書記長又ハ委任書記若干人ヲ置ク
- 第八條 最高法院ハ僱員、延丁及司法行政官若干人ヲ置クコトヲ得
- 第九條 最高法院各法廷ノ審理案件ニ關シ其ノ法律上ノ解決ニ於テ本廷又ハ他廷トノ間ニ判決先例ノ相異アルトキハ院長ハ判事ノ總員ヲ召集シ判例變更ノ會議ヲ開催シ之ヲ決定ス
- 第十條 最高法院處務規程ハ院令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十一條 本條例ニ規定セザル事項ニ關シテハ法院組織法ノ規定ヲ適用ス
- 第十二條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三七

律師甄拔(辯護士選拔)委員會規則

民國二十七年十一月二十八日司法行政部令

- 第一條 本規則ニ依リ選拔ヲ受クル者ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ニ限ル
 - 一 國立又ハ最高教育行政機關ノ認可又ハ承認ヲ經タル國內外大學、獨立學院又ハ專門學校ニ在リテ法律學ヲ三年以上學習シテ卒業證書ヲ有シ且成績特ニ優秀ナル者
 - 二 前條ノ卒業證書ヲ有シ繼續シテ研究院ニ入り又ハ外國ニ留學シテ法律ヲ一年以上以上研究シタル者
 - 三 第一條ノ卒業證書ヲ有シ國立又ハ最高教育行政機關ノ認可又ハ承認ヲ經タル大學、獨立學院又ハ專門學校ニ在リテ法律主要科目ヲ一年以上以上教授シ又ハ法律主要科目ノ著作出版ヲ有スル者
 - 四 第一條ノ卒業證書ヲ有シ司法又ハ司法行政機關ニ在リテ曾テ委任以上ノ實職ニ一年以上充任シ又ハ文官高等普通考試、縣長考試若ハ承審員考試ニ應ジ合格シタル者
 - 五 曾テ國立又ハ最高教育行政機關ノ認可又ハ承認ヲ經タル大學、獨立學院又ハ專門學校ニ在リテ最高教育行政機關ノ承認ヲ經タル外國大學、學院又ハ專門學校ニ在リテ法律ヲ三年以上學習シテ考試ニ合格シテ外國ノ律師證書ヲ有スル者
 - 六 前項各條ニ該當スル者ニシテ律師志願スル者ハ各省高等法院院長、該校校長、駐外大使、若ハ留學生監督ヲ經山シ又ハ直接資格ノ證明ニ足ルニ足ル文書ニ證書費二十元、印花費二元及本人ノ最近二寸半身寫身二枚ヲ添附ノ上本部經由委員會ニ提出シ審議ヲ受クルコトヲ得
- 第二條 委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス
 - 一 委員長一人 司法行政部次長ヲ以テ之ニ任ズ
 - 二 委員四人乃至六人 司法行政部部長ニ於テ簡任證書、參事又ハ司長中ロリ之ヲ選任ス

- 三 事務員 定員無ク司法行政部部長ニ於テ總務司職員中ロリ之ヲ指定ス
- 第三條 選拔文書委員會ニ到達シタルトキハ委員長ニ於テ各委員ニ分配シ之ヲ審査スベシ
- 第四條 左ノ證據書類ニ付キ夫々審査完了シタルトキハ委員意見書ヲ作製シ委員長ニ報告スベシ
 - 一 卒業證書及成績ニ關スル證明文書
 - 二 研究院ニ入り又ハ外國ニ留學シテ法律ヲ研究シタル證明文書
 - 三 教授シタル講義及聘任書
 - 四 法學上ノ專問著作
 - 五 司法官又ハ司法行政官ニ充任シタル任命狀、委任狀等
 - 六 文官又ハ縣長、承審員考試ノ合格證書
 - 七 外國ノ律師證書
- 委員ハ前項ノ證據書類ニシテ審査後尙其ノ資格ヲ證明スルニ足ラズト認メタルトキ又ハ其ノ他疑義アリト認メタルトキハ意見書ニ處理方法ヲ附記スベシ
- 第五條 前條ノ意見書ハ文書ノ分配ヲ受ケタル日ロリ五日以内ニ委員長ニ提出スベシ委員長ハ意見ヲ收受シタル後期日ヲ定メテ委員會ヲ開會ス委員會ハ全體委員ノ過半數ノ出席アルニ非ザレハ會議ヲ開クコトヲ得ズ
- 委員會開議ノ際ハ委員長ヲ以テ主席トス委員長事故アルトキハ資格高キ委員ニ於テ主席ノ職務ヲ代行ス
- 第六條 委員會ノ被選拔者ニ對スル審議事項ハ出席委員過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス
- 第七條 委員會ノ審議完了シタルトキハ議決シタル審意見書ヲ司法行政部部長ニ送付シ其ノ査定ヲ經タル後試驗ヲ免除スベキ者ニハ會ニ於テ試驗免除合格證書ヲ授與シ試驗ヲ免除スベカラザル者ニハ部ニ於テ前ニ提出シタル證據書類及選拔費ヲ返還ス
- 第八條 前條ノ試驗免除合格證書ヲ收受シタルトキハ證書ニ記載シタル日ロリ四月以内ニ暫行適用ノ律師章程第五條ノ規定ニ依リ費用ヲ納入シ律師證書ノ下附ヲ受クベシ

前項ノ期間ヲ逾スルモ尙部ニ到リ下附ヲ受ケザルト
キハ直ニ審議シタル試験免除ノ原案ヲ取消シ且原送
達文書ヲ返還セシム
第九條 委員會ハ文書ノ淨書及繕務ノ幫助處理ノ
爲適宜人員ヲ採用スルコトヲ得
第十條 本會規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

省政府組織條例

(民國二十七年五月二十八日維新政府令)

第一條 省政府ハ維新政府ノ命ヲ承ケ省ノ區域内
ニ於テ該省ノ行政最高機關ト爲ス
第二條 省政府ハ維新政府ノ法令ニ抵觸セザル範
圍内ニ於テ省ノ行政事項ニ對シ省令ヲ發布シ且省單
行條例及規程ヲ制定スルコトヲ得但シ人民ノ自由ノ
制限及人民ノ負担ノ増加ニ關スモノハ維新政府ノ認
可ヲ經ルニ非ザレバ之ヲ施行スルコトヲ得ズ
第三條 省政府ハ省内ニ於ケル治安維持ノ爲省内
ノ警察及保衛團ヲ派遣指揮スルコトヲ得
第四條 省政府ハ所屬機關ノ命令又ハ處分ガ法令
ニ違反シ權限ヲ逾ヘ及其ノ他不正當ノ事由アリト認
ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得
第五條 省政府ニ省長一人ヲ置キ特任トス全省ノ
政務ヲ綜理シ且所屬ノ道縣市等各機關及其ノ職員ヲ
指揮監督ス

第六條 省政府ニ左ニ掲グル各廳處ヲ置ク

一 民政廳
二 財政廳
三 教育廳
四 建設廳
五 警務處
第七條 省政府ハ各廳ニ廳長一人處ニ處長一人ヲ
置キ簡任トシ省長ノ命ヲ承ケ廳處ノ事務ヲ處理ス秘
書主任一人秘書、科長若干人ヲ薦任トシ科員、事務
員若干人ヲ委任トシ長官ノ命ヲ承ケ所管事務ヲ處理
セシム
第八條 省長事故ノ爲職務ヲ執行スルコト能ハザ
ルトキハ民政廳長其ノ職務ヲ代理ス
第九條 省政府ノ發スル命令ハ總テ省長ノ名ニ於
テ之ヲ行フ
第十條 各廳處ハ其ノ職權ニ依リ直轄職員又ハ直
轄機關ノ事務ノ進行ヲ指揮監督シ省令ニ抵觸セザル
範圍内ニ於テ仍總令處令又ハ布告ヲ發布スルコトヲ

得

第十一條 省政府各廳ノ文書ニシテ毎日收發シ及處理スルモノハ機密要件ヲ除クノ外總テ抄録シ省長及各廳長ノ査閱ニ供スベシ

第十二條 左ニ掲グル事項ハ省政會議ノ議決ヲ經テ之ヲ施行スベシ
一 省行政區域ノ制定變更ニ關スル事項
二 省政府ニ所屬スル地方行政長官ノ任免ノ申請ニ關スル事項

三 省政府ノ豫算決算ニ關スル事項
四 省稅ノ増廢及變更ニ關スル事項
五 省政府附屬機關增設廢止ニ關スル事項
六 省官產ノ處分ニ關スル事項

省政會議ハ省長各廳長ヲ以テ之ヲ組織シ省長ヲ主席ト爲ス
第十三條 民政廳ノ職掌左ノ如シ
一 道縣市政府官吏ノ考査ニ關スル事項
二 道縣市政府ノ地方自治及其ノ經費ニ關スル事項

第十四條 財政廳ノ職掌左ノ如シ
一 省稅及省公債ニ關スル事項
二 省政府ノ豫算決算ノ編成ニ關スル事項
三 省庫ノ收支ニ關スル事項
四 省公產ノ管理ニ關スル事項
五 地方金融ニ關スル事項
六 公租公課ノ調整ニ關スル事項
七 其ノ他省財政ニ關スル事項

第十五條 教育廳ノ職掌左ノ如シ
一 學校教育ニ關スル事項
二 社會教育ニ關スル事項
三 學術技術ニ關スル事項
四 史蹟名勝天然紀念物ニ關スル事項
五 農林ニ關スル事項
六 農地ニ關スル事項
七 水產ニ關スル事項
八 鑛業及地質ニ關スル事項
九 商工業ニ關スル事項
十 電氣事業及瓦斯事業ニ關スル事項
十一 交通ニ關スル事項
十二 河川工事堤塘堰壩水利ニ關スル事項
十三 航行運輸ニ關スル事項
十四 海港ニ關スル事項
十五 建築及測量ニ關スル事項
十六 其ノ他建設行政ニ關スル事項

第十七條 警察廳ノ職掌左ノ如シ

四二

三 衛生行政ニ關スル事項
四 選舉ニ關スル事項
五 賑災及其ノ他ノ社會救濟ニ關スル事項
六 勞賃及小作爭議ニ關スル事項
七 禮節風俗宗教ニ關スル事項
八 地方職員ノ訓練ニ關スル事項
九 阿片禁止ニ關スル事項
十 各種ノ土地ノ測量徵用費用及其ノ他ノ土地行政ニ關スル事項

第十四條 財政廳ノ職掌左ノ如シ
一 省稅及省公債ニ關スル事項
二 省政府ノ豫算決算ノ編成ニ關スル事項
三 省庫ノ收支ニ關スル事項
四 省公產ノ管理ニ關スル事項
五 地方金融ニ關スル事項
六 公租公課ノ調整ニ關スル事項
七 其ノ他省財政ニ關スル事項

第十五條 教育廳ノ職掌左ノ如シ
一 學校教育ニ關スル事項
二 社會教育ニ關スル事項
三 學術技術ニ關スル事項
四 史蹟名勝天然紀念物ニ關スル事項
五 農林ニ關スル事項
六 農地ニ關スル事項
七 水產ニ關スル事項
八 鑛業及地質ニ關スル事項
九 商工業ニ關スル事項
十 電氣事業及瓦斯事業ニ關スル事項
十一 交通ニ關スル事項
十二 河川工事堤塘堰壩水利ニ關スル事項
十三 航行運輸ニ關スル事項
十四 海港ニ關スル事項
十五 建築及測量ニ關スル事項
十六 其ノ他建設行政ニ關スル事項

第十七條 警察廳ノ職掌左ノ如シ

第十八條 省政府ニ秘書處ヲ設ケ秘書長一人ヲ置キ簡任トシ省長ノ命ヲ承ケ機密事項ヲ處理シ故ニ處務ヲ主管ス

第十九條 秘書處ノ職掌左ノ如シ
一 文書ノ起草收發保存ニ關スル事項
二 官印ノ保管ニ關スル事項
三 會計庶務ニ關スル事項
四 統計及報告ノ編成ニ關スル事項
五 省令ニ關スル事項
六 省公報ニ關スル事項
七 人事及給與ニ關スル事項
八 金割及調査ニ關スル事項
九 情報及宣傳ニ關スル事項
十 其ノ他各廳處ノ主管ニ屬セザル事項

第二十條 省政府ニ參事二人ヲ置キ簡任トシ本省ノ

- 一 學校教育ニ關スル事項
- 二 社會教育ニ關スル事項
- 三 學術技術ニ關スル事項
- 四 史蹟名勝天然紀念物ニ關スル事項
- 五 農林ニ關スル事項
- 六 農地ニ關スル事項
- 七 水產ニ關スル事項
- 八 鑛業及地質ニ關スル事項
- 九 商工業ニ關スル事項
- 十 電氣事業及瓦斯事業ニ關スル事項
- 十一 交通ニ關スル事項
- 十二 河川工事堤塘堰壩水利ニ關スル事項
- 十三 航行運輸ニ關スル事項
- 十四 海港ニ關スル事項
- 十五 建築及測量ニ關スル事項
- 十六 其ノ他建設行政ニ關スル事項
- 第十七條 警察廳ノ職掌左ノ如シ

- 一 行政警察ニ關スル事項
- 二 司法警察ニ關スル事項
- 三 衛生警察ニ關スル事項
- 第十八條 省政府ニ秘書處ヲ設ケ秘書長一人ヲ置キ簡任トシ省長ノ命ヲ承ケ機密事項ヲ處理シ故ニ處務ヲ主管ス
- 第十九條 秘書處ノ職掌左ノ如シ
- 一 文書ノ起草收發保存ニ關スル事項
- 二 官印ノ保管ニ關スル事項
- 三 會計庶務ニ關スル事項
- 四 統計及報告ノ編成ニ關スル事項
- 五 省令ニ關スル事項
- 六 省公報ニ關スル事項
- 七 人事及給與ニ關スル事項
- 八 金割及調査ニ關スル事項
- 九 情報及宣傳ニ關スル事項
- 十 其ノ他各廳處ノ主管ニ屬セザル事項
- 第二十條 省政府ニ參事二人ヲ置キ簡任トシ本省ノ

四三

- 單行條例ヲ起草シ及各廳處ノ法案事項ヲ審査ス
- 第二十一條 省政府ニ秘書四人乃至六人ヲ置キ、其長官ノ命ヲ承ケ秘書處ノ事務ヲ分掌ス
- 第二十二條 秘書處ハ科ヲ分テ事務ヲ處理ス科長ハ秘書之ヲ兼任シ事務ノ繁閑ニ因リ科員事務員若干人ヲ置クベシ
- 第二十三條 省政府ノ各廳ハ觀察、技正、技士ヲ置クコトヲ得
- 第二十四條 省政府各廳處ハ文書ヲ淨書調整スル爲書記ヲ採用スルコトヲ得
- 第二十五條 本條例不備ノ點アレバ隨時維新政府ニ申請シ之ヲ修正スルコトヲ得
- 第二十六條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

道組織條例

(民國二十七年六月二十八日維新政府令)

- 第一條 道ノ管轄區域ハ舊道尹ノ所管區域又ハ省長ニ於テ酌量變更シ内政部ノ審定ヲ申請シ行政院ニ轉呈シ維新政府ノ認可ヲ經テ之ヲ公布シタルモノトス
- 第二條 道ニ道尹一人ヲ置キ簡任トス省長ニ隸屬シ所屬各縣各機關ノ行政事務ヲ管理ス
- 第三條 道尹ハ省長ヨリ特ニ保護シ政府ニ申請シテ之ヲ任命スルコトヲ得
- 第四條 道尹ハ法律命令ニ依リ所屬行政事務ヲ執行シ且省長ノ委任ヲ受ケテ道區内ノ各種行政事務ヲ監督ス
- 第五條 道尹ハ法律命令章程ヲ執行スル爲メハ法律命令章程ノ委任ニ依リ道單行章程ヲ發布スルコトヲ得
- 第六條 道尹ハ管轄區内各種知事ノ命令又ハ處分

- ニ對シ法令ニ違背シ公益ヲ妨害シ權限ヲ侵越セルモノト認ムルトキハ之ヲ停止又ハ取消スコトヲ得
- 第七條 道尹ハ省長ノ命令ヲ受ケ管轄區内ニ駐紮スル警備隊ヲ指揮スルコトヲ得
- 第八條 道尹ハ非常急變ノ際ニ於テ兵力ヲ必要トシ又ハ防衛ノ目的ヲ以テ兵備ヲ必要トスルトキハ文書又ハ電報ヲ以テ省長ヲ經由シ附近駐屯ノ軍隊又ハ軍艦ノ長官ニ派兵協助ヲ求ムルコトヲ得
- 第九條 道尹ハ非常急變又ハ特別ノ重要事件アルトキハ文書又ハ電報ヲ以テ省長ニ報告スルノ外併セテ行政院及内政部ニ直チニ報告スルコトヲ要ス
- 第十條 道尹公署ニ檢査事務處理ノ爲メ任秘書二人乃至四人ヲ置ク
- 第十一條 道尹公署ハ道行政事務ヲ處理スル爲メ科ヲ分テ執行スルコトヲ得薦任科長四人ヲ置キテ科務ヲ分掌セシム
- 第十二條 道尹公署ニ適宜科員若干人ヲ置キ各科ノ事務ヲ處理セシム



第十三條 道尹公署ニ事務員及書記ヲ隨時採用スルコトヲ得

第十四條 執務規則ハ道尹ニ於テ別ニ之ヲ定ム

第十五條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

縣組織條例

(民國二十七年六月二十八日維新政府令)

第一條 縣ノ區域ハ其ノ現有ノ區域ニ依ル

第二條 縣ノ府置及縣ノ區域ノ變更ハ省長ニ於テ圖面證明書ヲ作成シ内政部審定テ申請シ行政院ニ轉呈シ認可ヲ經テ維新政府之ヲ公布ス

第三條 各縣縣知事ハ區域ノ大小事務ノ繁閑及財賦ノ多少ニ依リ之ヲ三級ニ分テ省長ニ於テ編定シ内政部ニ申請シテ復實シ行政院ノ認可ヲ經テ之ヲ公布ス

第四條 縣ニ城廂、鎮、自治區ヲ設ク其ノ章程及保甲制度ハ別ニ之ヲ定ム

第五條 城廂、鎮、自治區ノ分割及變更ハ縣知事ニ於テ圖面證明書ヲ作成シ道尹ニ審查テ申請シ省長ニ轉呈認可ヲ經且省長ヨリ内政部ニ提出シテ記録ニ備フ

第六條 城廂、鎮、自治區(自治規約)ハ政府及省道縣ノ法令ニ抵触スルコトヲ得ズ

第七條

縣ニ縣知事一人ヲ置キ薦任トシ一縣ノ行政長官ト爲シ道尹ノ下ニ隸屬ス其ノ權限左ノ如シ

一 法律命令ニ依リ縣ノ行政事務ヲ執行ス

二 法律命令及省道章程ノ委任事項ヲ執行スル爲縣單行章程ヲ發布スルコトヲ得

三 縣内ノ警察、獄及補助各官ノ處分ニ對シ法令ニ違反シ公益ヲ妨害シ又ハ權限ヲ侵越セルモノト認ムルトキハ之ヲ停止又ハ取消スコトヲ得

四 特別ノ重要事件アルトキハ道尹ニ報告スルノ外文書又ハ電報ヲ以テ速ニ省長ニ報告スルコトヲ得

五 本縣駐屯ノ警備隊ハ之ヲ移動セシムルコトヲ得

六 非常事態ノ際ニ於テ兵力ヲ必要トシ又ハ防衛ノ目的ヲ以テ兵備ヲ必要トスルトキハ文書又ハ電報ヲ以テ省長又ハ道尹ニ申請シ附近駐屯ノ軍隊又ハ軍艦ノ長官ニ派兵協助ヲ求ムルコトヲ得

七 全縣ノ行政ヲ處理スル爲科長科員ヲ任用シテ科務ヲ分掌セシムルコトヲ得

- 八 縣公署ハ適宜事務員及書記ヲ採用スルコトヲ得
- 九 縣公署ハ必要アルトキハ縣知事ヨリ理由ヲ申立テ圖面ヲ附シテ査定ヲ申請シ省長ニ轉呈シ内政部ニ諮詢シテ認可ヲ受ケ縣佐ヲ置クコトヲ得
- 十 縣公署ハ科ヲ分チテ職務スベシ其ノ職務細則ハ縣知事ニ於テ別ニ之ヲ定ム
- 十一 縣 縣會議會ノ組織ハ別ニ之ヲ定ム
- 十二 縣 本條例ニ不備ノ點アルトキハ法ニ依リ之ヲ修正スルコトヲ得
- 十三 縣 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

省政府民政廳組織條例

民國二十七年十一月二十四日

- 第一條 民政廳ハ省政府組織條例第六條及第七條ノ規定ニ依リ之ヲ組織ス
- 第二條 民政廳ハ省政府ニ直屬シ省長ノ指揮、監督ヲ受ケルノ外内政部ノ監督ヲ受ケ
- 第三條 民政廳ニ廳長一人ヲ置キ前任トシ省政府組織條例第十條ノ規定ニ依リ所屬職員及所轄機關ヲ指揮、監督スルノ責ヲ有シ且主管事務ニ付省令ニ抵觸セサル範圍内ニ於テ廳令又ハ布告ヲ發布スルコトヲ得
- 第四條 民政廳廳長ハ主管事務ニ付道、縣、市行政官吏ノ命令又ハ處分ニシテ法令ニ違反シ又ハ權限ヲ逾越セルモノアリト認メタルトキハ省政會議ニ申請シ其ノ議決ヲ經テ之ヲ停止又ハ取消サシムルコトヲ得
- 第五條 民政廳廳長ハ道、縣、市行政ノ促進又ハ

地方情況考查ノ爲必要アルトキハ省長ノ認可ヲ經テ視察ニ赴クコトヲ得

- 第六條 民政廳ニ左ノ科及室ヲ設ク
 - (一)秘書室 (二)第一科 (三)第二科 (四)第三科
- 第七條 秘書室ノ管掌事項左ノ如シ
 - 一 廳長ノ附屬事項
 - 二 總會諸議事録ニ關スル事項
 - 三 主要文書ノ起草及保管ニ關スル事項
 - 四 文書ノ收受、開封及分配ニ關スル事項
 - 五 各科ノ起草シタル文書原稿ノ審查ニ關スル事項
 - 六 廳ノ日常受發及取扱文書ノ件名ヲ記シ省長及各廳長ニ送致シテ査ニ備フル事項
- 第八條 第一科ノ管掌事項左ノ如シ
 - 一 文書ノ受發、淨書、校正及保管ニ關スル事項
 - 二 官印ノ管守ニ關スル事項
 - 三 所屬職員ノ任免及考查ニ關スル事項
 - 四 工作(事業)報告及出版物ノ編輯、發行ニ關スル事項

- 五 會計ニ關スル事項
 - 六 豫算及決算ノ編成ニ關スル事項
 - 七 庶務ノ處理ニ關スル事項
 - 八 古蹟、古物及祠廟ノ保管ニ關スル事項
 - 九 其ノ他各科ニ屬セザル事項
- 第九條 第二科ノ管掌事項左ノ如シ
- 一 道、縣、市行政官吏ノ考査ニ關スル事項
 - 二 道、縣、市行政官吏ノ辭職、離職及請假ノ審査ニ關スル事項
 - 三 道、縣、市政府出納報告ノ考査ニ關スル事項
 - 四 道、縣、市行政ノ視察及監督ニ關スル事項
 - 五 行政區域爭議ニ付省政會議ニ提出シ之ガ制定ヲ請フ事項
 - 六 行政法規ノ編纂起草ニ關スル事項
 - 七 地方行政員ノ訓練ニ關スル事項
 - 八 行政訴訟及道、縣、及市ノ權限爭議ニ關スル事項
 - 九 禁烟ニ關スル事項

- 五〇
- 十 各種土地測量及其ノ他土地行政ニ關スル事項
 - 十一 風俗ノ調査、糾正及改良ニ關スル事項
 - 十二 禮制及宗教ノ考査ニ關スル事項
 - 十三 優獎ノ拂理ニ關スル事項
 - 十四 糧食ノ調節及管理ニ關スル事項
- 第十條 第三科ノ管掌事項左ノ如シ
- 一 地方自治ノ獎勵及促進ニ關スル事項
 - 二 地方自治團體ノ監督ニ關スル事項
 - 三 選舉準備ニ關スル事項
 - 四 戶籍調査及登記ニ關スル事項
 - 五 國籍變更ノ登記ニ關スル事項
 - 六 人口、生死及疾病ノ統計ニ關スル事項
 - 七 公共衛生及檢疫ニ關スル事項
 - 八 醫生ノ檢定及醫藥ノ化學試驗ニ關スル事項
 - 九 賑災及其ノ他社會救濟ニ關スル事項
 - 十 慈善事業ノ獎勵、補助及監督ニ關スル事項
 - 十一 麻醉藥品、毒劑藥品及毒劑物ノ取締ニ關スル事項

- 十二 醫院、療養院、醫師、藥劑師及藥商公會ノ監督ニ關スル事項
- 第十一條 土地測量、衛生及禁烟事項ニ關シ必要アルトキハ省政會議ノ議決ヲ經局ヲ設ケテ之ヲ辦理ス
- 第十二條 民政廳ニ秘書主任一人、秘書二人乃至四人ヲ置キ、各科ニ科長一人ヲ置キ聽任トシ廳長ノ命ヲ承ケテ科及室ノ事務ヲ分掌セシメ外ニ科員及辦事員若干人ヲ置キ委任トシ廳長、秘書及科長ノ命ヲ承ケテ科及室ノ事務ヲ助理セシム
- 第十三條 民政廳ニ視察四人乃至六人ヲ置キ聽任トシ廳長ノ命ヲ承ケテ道、縣及市ノ官吏ノ職務狀態及地方自治狀態ヲ視察セシム
- 第十四條 民政廳ニ技正及技士若干人ヲ置キ廳長ノ命ヲ承ケテ技術事務ヲ辦理セシムルコトヲ得
- 第十五條 民政廳ニ書記若干人ヲ置キ廳長ニ於テ文書ノ淨書、校正及其ノ他ノ事務ヲ分擔セシム
- 第十六條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

省政府財政廳組織條例

民國二十七年十一月二十四日

- 第一條 財政廳ハ省政府組織條例第六條及第七條ノ規定ニ依リ之ヲ組織ス
- 第二條 財政廳ハ省政府ニ直屬シ省長ノ監督ヲ受クルノ外財政部ノ監督ヲ受ク
- 第三條 財政廳ニ廳長一人ヲ置キ簡任トシ省政府組織條例第十條ノ規定ニ依リ所屬職員、所轄機關及徵收ヲ管理スル市及縣ヲ指揮監督スルノ責ヲ有シ且主管事務ニ付省令ニ抵觸セザル範圍内ニ於テ廳令又ハ布告ヲ發布スルコトヲ得
- 第四條 財政廳廳長ハ主管事務ニ付所轄機關及徵收ヲ管理スル市又ハ縣ノ命令若ハ處分ニシテ法令ニ違反シ又ハ權限ヲ逾越スト認ムルトキハ省政府會議ニ申請シ其ノ議決ヲ經テ之ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得
- 第五條 財政廳ニ左ノ科室ヲ設ク

五二

- (一) 秘書室 (二) 第一科 (三) 第二科 (四) 第三科
- 第六條 秘書室ノ管掌左ノ如シ
 - 一 廳長ノ附屬事項
 - 二 廳會議事録ニ關スル事項
 - 三 重要文書ノ起草及保管ニ關スル事項
 - 四 文書ノ收受、開封及分配ニ關スル事項
 - 五 各科ノ起草シタル文書原稿ノ審査ニ關スル事項
 - 六 廳ノ日常受發及取扱文書ノ件名ヲ記シ省長及各廳長ニ呈送シテ査ニ備フル事項
- 第七條 第一科ノ管掌左ノ如シ
 - 一 文書ノ受發、淨書、校正及保管ニ關スル事項
 - 二 官印ノ管守ニ關スル事項
 - 三 所屬職員ノ任免及考査ニ關スル事項
 - 四 工作(事業)報告及其ノ他出版物ノ編輯、發行ニ關スル事項
 - 五 會計ニ關スル事項
 - 六 豫算及決算ノ編成及審査ニ關スル事項
 - 七 庶務ノ處理ニ關スル事項

- 第八條 第二科ノ管掌事項左ノ如シ
 - 一 田賦ノ徵收、整理及土地升科ニ關スル事項
 - 二 不動産契稅徵收ノ督促及送付ニ關スル事項
 - 三 禁煙稅徵收規則ノ制定及徵收ニ關スル事項
 - 四 牲畜牙稅ノ納付督促及徵收送付ニ關スル事項
 - 五 公產ノ調査、保管、借受及處理ニ關スル事項
 - 六 官有荒地ノ賃借及拂下ニ關スル事項
 - 七 省納稅證書、證憑ノ保管、受發、積査及取消ニ關スル事項
 - 八 其ノ他特種捐稅ノ徵收ニ關スル事項
 - 九 國稅ノ代徵及輸送ニ關スル件
- 第九條 第三科ノ管掌事項左ノ如シ
 - 一 省歲入出總概算、計算ノ編成及豫算、決算ニ關スル事項
 - 二 省府ノ出納保管及出納審査ニ關スル事項
 - 三 各機關ノ每月支出概算ノ審査及各機關ノ每月支出決算ノ審査ニ關スル事項

五三

- 第四條 省庫ノ毎月ノ收入、支出計算ノ報告ニ關スル事項
- 第五條 財政表簿ノ作製報告及收入文書及證憑ノ保管ニ關スル事項
- 第六條 管理簿記ノ記入及保存ニ關スル事項
- 第七條 統計ニ關スル事項
- 第八條 省公債ノ保管及發行ニ關スル事項
- 第九條 全省金融狀況ノ調査ニ關スル事項
- 第十條 全省金融企劃及整理ニ關スル事項
- 第十一條 監督及其ノ他各種ノ經濟ニ關スル事項
- 第十二條 財政廳ニ秘書主任一人及秘書二人乃至四人及科ニ科長一人ヲ置キ廳任トシ廳長ノ命ヲ承ケテ科及室ノ事務ヲ分掌セシム外ニ科員及辦事員若干人ヲ置キ委任トシ廳長、秘書及科長ノ命ヲ承ケテ科及室ノ事務ヲ助理セシム
- 第十三條 財政廳ハ視察二人乃至四人ヲ置キ廳任トシ廳長ノ命ヲ承ケテ縣及市ノ財政事務ヲ視察セシムルコトヲ得

第十二條 財政廳ハ徵收(督促)員若干人ヲ置キテ委任トシ廳長ノ命ヲ承ケテ縣及市ニ赴キテ徵收事務ヲ辦理セシムルコトヲ得

第十三條 財政廳ニ書記若干人ヲ置キ廳長ニ於テ文書ノ淨書、校正及其ノ他ノ事務ヲ分擔セシム

第十四條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

省政府教育廳組織條例

民國二十七年十一月十四日

第一條 教育廳ハ省政府組織條例第六條及第七條ノ規定ニ依リ之ヲ組織ス

第二條 教育廳ハ省政府ニ直屬シ省長ノ指揮監督ヲ受クルノ外教育部ノ監督ヲ受ク

第三條 教育廳ニ廳長一人ヲ置キテ簡任トス廳長ハ省政府組織條例第十條ノ規定ニ依リ所屬職員及所轄校、局、場、所、館、院及地方教育ヲ兼理スル市及縣ヲ指揮、監督スルノ責ヲ有シ且主管事務ニ付省令ニ抵觸セザル範圍内ニ於テ廳令又ハ布告ヲ發布スルコトヲ得

第四條 教育廳廳長ハ主管事務ニ付所轄機關及地方教育ヲ兼理スル市及縣ノ命令又ハ處分ニシテ法令ニ違反シ又ハ權限ヲ逾越スト認メタルトキハ省政府會議ニ申請シ其ノ議決ヲ經テ之ヲ停止シ又ハ取消スルコトヲ得

第五條 教育廳ニ左ノ科及室ヲ設ク

- (一) 秘書室 (二) 第一科 (三) 第二科 (四) 第三科
- 第六條 秘書室ノ管掌事項左ノ如シ
- 一 廳長ノ附議事項
 - 二 本廳會議ノ記錄ニ關スル事項
 - 三 重要文書ノ起草及保管ニ關スル事項
 - 四 文書ノ收受、開封及分配ニ關スル事項
 - 五 各科ノ起草シタル文書原稿ノ審查ニ關スル事項
 - 六 廳ノ日常收發及取扱文書ノ件名ヲ記シ省長及各廳長ニ呈送シテ査ニ備フル事項
- 第七條 第一科ノ管掌事項左ノ如シ
- 一 文書ノ受發、淨書、校正及保管ニ關スル事項
 - 二 官印ノ管守ニ關スル事項
 - 三 所屬職員ノ任免及考査ニ關スル事項
 - 四 工作(事業)報告及出版物ノ編輯及發行ニ關スル事項
 - 五 會計ニ關スル事項
 - 六 豫算及決算ノ編成ニ關スル事項

- 七 庶務ノ處理ニ關スル事項
 - 八 直轄校、局、場、所、館及院ノ經費ノ規定、受領發給及積蓄ニ關スル事項
 - 九 教育全般ノ統計ニ關スル事項
 - 十 學校衛生ニ關スル事項
 - 十一 校、局、場、所、館及院記ノ發給及教育資金寄附者發給申請ノ審査ニ關スル事項
 - 十二 圖書館、博物館、美術院、動物園及理化研究所ノ建築及改良ニ關スル事項
 - 十三 模範學校ノ設立ニ關スル事項
 - 十四 標準儀器ノ改良分配ニ關スル事項
 - 十五 模型及教具ノ査定ニ關スル事項
 - 十六 其ノ他各科ニ關セザル事項
- 第八條** 第二科ノ管掌事項左ノ如シ
- 一 直轄校、局、場、所、館及院長及專科以上ノ學校校長ノ任免及考査ニ關スル事項
 - 二 私立ノ專科以上ノ學校ノ審査及認可ニ關スル事項

- 五六
- 三 公、私立ノ專科以上ノ學校教職員ノ資格ノ審査及登錄ニ關スル事項
 - 四 公、私立ノ專科以上ノ學校ノ編制及課程ニ關スル事項
 - 五 公、私立ノ專科以上ノ學校學生ノ入學、休學、退學及卒業ノ登錄ニ關スル事項
 - 六 公、私立ノ專科以上ノ學校學生ノ卒業試驗ノ審査及監督ニ關スル事項
 - 七 外國留學生ノ派遣、管理及補助ニ關スル事項
 - 八 教育及學術團體ノ監督ニ關スル事項
 - 九 其ノ他高等教育ニ關スル事項
- 第九條** 第三科ノ管掌事項左ノ如シ
- 一 公立中、小學校校長ノ任免及考査ニ關スル事項
 - 二 私立中、小學校及幼稚園ノ審査及認可ニ關スル事項
 - 三 公、私立中、小學校教職員ノ資格審査及登錄ニ關スル事項
 - 四 公、私立中、小學校ノ課程ノ編制及管理ニ關スル事項

- 五 公、私立中、小學校學生ノ入學、轉校、休學、退學及卒業ノ登錄ニ關スル事項
 - 六 公、私立中、小學校學生ノ卒業試驗ノ審査及監督ニ關スル事項
 - 七 中、小學校教員及私塾塾師ノ檢定ニ關スル事項
 - 八 學齡兒童ノ調査及統計ニ關スル事項
 - 九 通俗ノ教育機關ノ設置、管理及補助ニ關スル事項
 - 十 公共ノ體育遊泳場及娛樂場ノ設置、改良及管理ニ關スル事項
 - 十一 殘廢(不具者)學校及低能學校ノ設置、改良、課程ノ編制及管理ニ關スル事項
 - 十二 通俗講演、幻燈講演、小説、詞曲、圖書、映畫及戲劇ノ審査、獎勵及取締ニ關スル事項
 - 十三 其ノ他中、小學教育及社會教育ニ關スル事項
- 第十條** 教育總ニ秘書主任一人及秘書二人乃至四人ヲ置キ、各科科長一人ヲ置キテ副任トシ總長ノ命

- ヲ承ケテ科及室ノ事務ヲ分掌シ、科員及辦事員若干人ヲ置キ委任トシ總長、秘書及科長ノ命ヲ承ケ科長室ノ事務ヲ助理セシム
- 第十一條** 教育總ニ幹學四人乃至六人ヲ置キテ副任トシ總長ノ命ヲ承ケテ左ノ事項ヲ管理ス
- 一 省學務ノ調査、視察及指導ニ關スル事項
 - 二 教育方案ノ企劃及審査ニ關スル事項
 - 三 視察ノ結果ニ依リ教育ノ振興及改革ノ建議ニ關スル事項
- 第十二條** 教育總ニ技士一人ヲ置キテ副任又ハ委任トシ總長ノ命ヲ承ケ工事ノ設計事務ヲ掌理セシム
- 第十三條** 教育總ニ書記若干人ヲ置キ總長ニ於テ文書ノ淨書、校正及其ノ他ノ事務ヲ分擔セシム
- 第十四條** 本條令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

省政府建設廳組織條例

民國二十七年十一月十四日

- 第一條 建設廳ハ省政府組織條例第六條及第七條ノ規定ニ依リ之ヲ組織ス
- 第二條 建設廳ハ省政府ニ直屬シ省長ノ指揮監督ヲ受クルノ外實業部及交通部ノ監督ヲ受ク
- 第三條 建設廳ニ廳長一人ヲ置キ簡任トシ省政府組織條例第十條ノ規定ニ依リ所屬職員及所轄機關ノ地方建設ヲ兼管スル市及縣ヲ指揮監督スルノ責ヲ有シ主官事務ニ付省令ニ抵觸セザル範圍内ニ於テ廳令又ハ布告ヲ發布スルコトヲ得
- 第四條 建設廳長ハ主官事務ニ付所轄機關又ハ地方建設ヲ兼管スル市及縣ノ命令又ハ處分ニシテ法令ニ違反シ又ハ權限ヲ超越スト認ムルトキハ省政府會議ニ申請シ其ノ議決ヲ經テ之ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得
- 第五條 建設廳ニ左ノ科及室ヲ設ク

五八

- (一) 秘書室 (二) 第一科 (三) 第二科 (四) 第三科
- 第六條 秘書室ノ管掌事項左ノ如シ
 - 一 廳長ノ附議事項
 - 二 本廳會議ノ記錄ニ關スル事項
 - 三 重要文書ノ起草ノ保管ニ關スル事項
 - 四 文書ノ收受、開封及分配ニ關スル事項
 - 五 各科ノ起草シタル文書原稿ノ審査ニ關スル事項
 - 六 廳ノ日常收發及取扱文書ノ件名ヲ記シ省長及各廳長ニ呈送シテ査ニ備フル事項
- 第七條 第一科ノ管掌事項左ノ如シ
 - 一 文書ノ收發、淨書、校正ノ保管ニ關スル事項
 - 二 官印ノ保管ニ關スル事項
 - 三 所屬及所轄機關職員ノ任免ノ審査ニ關スル事項
 - 四 業務報告及其ノ他出版物ノ編輯及發行ニ關スル事項
 - 五 會計ニ關スル事項
 - 六 豫算及決算ノ編成及審査ニ關スル事項
 - 七 庶務ノ處理ニ關スル事項

第八條 其他各科ニ屬セザル事項

- 第一 因營ヲ除ク省公路ノ計畫、建設及管理ニ關スル事項
- 第二 河川工事、堤防及水利ニ關スル事項
- 第三 港灣ノ調査、設計ニ關スル事項
- 第四 バスノ經營、監督ニ關スル事項
- 第五 道、縣、市、鎮道路ノ計畫及敷設ニ關スル事項
- 第六 建設上ノ各種測量、製圖ニ關スル事項
- 第七 航運業ノ管理及促進ニ關スル事項
- 第八 交通部ノ認可ヲ經タル村市及鎮電話ノ布設及改良ニ關スル事項
- 第九 民營公用事業ノ監督ニ關スル事項
- 第十條 第三科ノ管掌事項左ノ如シ
 - 一 商工業ノ保護及獎勵ニ關スル事項
 - 二 省營商工業ノ監督及考察ニ關スル事項
 - 三 工業製造ノ考察及賽會(共進會、博覽會等)ノ陳列ニ關スル事項

第四條 工場ノ監督及検査ニ關スル事項

- 四 工場ノ監督及検査ニ關スル事項
- 五 勞賃爭議ノ調停ニ關スル事項
- 六 物價ノ調節及考察ニ關スル事項
- 七 度量衡ノ検査及推行ニ關スル事項
- 八 農業、森林、漁業及牧畜ノ保護及獎勵ニ關スル事項
- 九 工業、商業、農業、林業及漁業團體ニ關スル事項
- 第十條 建設廳ニ秘書主任一人、秘書二人乃至四人ヲ置キ各科ニ科長一人ヲ置キ廳長ノ命ヲ承ケ科及室ノ事務ヲ分掌シ科員辦事員若干人ヲ置キ委任トシ廳長、秘書及科長ノ命ヲ承ケ科及室ノ事務ヲ助理セシム
- 第十一條 建設廳ニ技正、技士、技佐各若干人ヲ置キ廳長ノ命ヲ承ケ技術事務ヲ辦理セシム
- 第十二條 建設廳ニ視察四人乃至六人ヲ置キ廳長ノ命ヲ承ケ視察事務ヲ辦理セシムルコトヲ得

五九

第十三條 建設廳ハ顧問ヲ招聘シテ建設ニ關スル專門事務ヲ辦理セシムルコトヲ得

第十四條 建設廳ニ書記若干人ヲ置キ廳長ニ於テ文書ノ淨書、校正及其ノ他ノ事務ヲ辦理セシム

第十五條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

修正省會警察局組織條例第十六條條文

民國二十七年十一月二十三日

第十六條 省會警察局ハ治安ノ維持及業務ノ需要ニ因リ警察隊(警察隊、騎巡隊、車巡隊、機器腳踏車隊、オートバイ隊……ノ類)、消防隊、偵緝隊、水巡隊ヲ編成、訓練スルコトヲ得各隊ニ隊長一人ヲ置キ局長ニ於テ前條ノ規定ニ依リ夫々任用シテ報告ス其ノ組織ハ實際ノ需要ニ依リ暫時該局ニ於テ起案シ該管事務處ニ呈請シテ査定シ内政部ニ轉報シテ審査ノ上備案シ該ニ省政府ニ報告シテ査ニ備フ

特別市組織條例

民國二十七年十一月十五日

第一章 總則

- 第一條 特別市ハ所在地ノ地名ヲ冠シ某某特別市ト稱ス
- 第二條 人民ノ聚居セル地方ニシテ左ノ各號ノ一ニ該当スルトキハ特別市ヲ設ケ内政部ニ直屬セシム
 - 一 維新政府及政府辦事處ノ所在地
 - 二 人口百萬以上ノモノ
 - 三 政治上經濟上特殊ノ事情アルモノ
- 第三條 特別市區域ノ制定又ハ變更ハ内政部ヨリ行政院ニ申請シ維新政府ニ轉請ノ上之ヲ決定ス
- 第四條 市ノ自治章程及保甲制度ハ別ニ之ヲ定ム
- 第五條 特別市政府ニシテ行政事項ニ關シ他ノ機關トノ間ニ權限ノ爭議アルトキハ内政部ニ申請シ之ヲ解決スベシ

第二章 市職務

- 第六條 市ハ政府及上級機關ノ法令ニ抵觸セザル範圍内ニ於テ左ノ事項ヲ辦理ス
 - 一 戶口調査及人事登記
 - 二 育幼養老、濟貧救災等ノ設備
 - 三 食糧ノ貯蓄及調節
 - 四 農、工、商業ノ改良及保護
 - 五 勞働行政
 - 六 造林、開墾、牧畜、漁業及狩獵ノ保護及取締
 - 七 合作社(組合)及互助事業ノ組織及指導
 - 八 風俗ノ改良
 - 九 教育其ノ他ノ文化事業
 - 十 警察
 - 十一 消防
 - 十二 公共衛生行政
 - 十三 醫院、魚菜市場、屠殺場及公共娛樂場ノ設置又ハ取締
 - 十四 財政ノ收支及豫算決算ノ編成
 - 十五 公共財產ノ管理

六二

- 十六 公共營業ノ經營及管理
- 十七 土地行政
- 十八 民營公用事業ノ監督
- 十九 公用家屋、公園、公共體育場、公共墓地等ノ建築及修理
- 二十 市内建築ノ指導及取締
- 二十一 道路、橋梁、溝渠、堤岸其ノ他公共土木工事
- 二十二 河川、港務及船舶ノ管理
- 二十三 上級機關ノ委任事項
- 二十四 其ノ他法令ノ定ムル處ニ依リ市ニ於テ辦理スベキ事項

第三章 市財政

- 第七條 左ノ各號ヲ市ノ財政收入ト定ム
 - 一 土地稅
 - 二 房捐(家屋稅)
 - 三 營業稅
 - 四 牌照稅(免許證札稅)

六三

- 五 廣告稅
- 六 公產收入
- 七 公營業收入
- 八 其ノ他法規ニ依リ徵收ヲ特許セラレタル稅捐前項第一號及第二號ノ收入ニシテ法律ニ別ニ規定アルトキハ其ノ規定ニ依ル
- 第八條 市ハ法ニ依リテ建設公債ヲ募集スルコトヲ得
- 第四章 市政府
- 第九條 市ニ市政府ヲ設ケ法令ニ依リテ本市ノ行政事務ヲ管掌シ所屬機關及自治團體ヲ監督ス
- 第十條 市ハ法令ニ抵觸セザル範圍内ニ於テ市令ヲ發布シ市單行規則ヲ制定スルコトヲ得但シ人民ノ自由ヲ制限シ又ハ人民ノ負擔ヲ增加スルモノニ關シテハ内政部ニ申請シ内政部ニ於テ法ニ依リ之ヲ査定スルコトヲ要ス
- 第十一條 特別市政府ニ市長一人ヲ置キ特任トシ所屬職員ヲ指揮監督セシム



第十二條 市長ハ非常事變ヲ處理シ又ハ防衛スル爲メ兵力ヲ必要トスルトキハ文書又ハ電報ヲ以テ近隣ニ駐屯セル軍隊又ハ軍艦ノ長官ニ對シ派兵協助ヲ請求スルコトヲ得

第十三條 市政府ニ左ノ各局ヲ設ケ

- 一 社會局 第六條第一號乃至第八號ノ事項ヲ管掌ス
- 二 警察局 第六條第十號及第十一號ノ事項ヲ管掌ス
- 三 財政局 第六條第十四號及第十五號ノ事項ヲ管掌ス
- 四 工務局 第六條第十九號乃至第二十一號ノ事項ヲ管掌ス
- 五 教育局 第六條第九號ノ事項ヲ管掌ス
- 六 土地局 第六條第十七號ノ事項ヲ管掌ス
- 七 衛生局 第六條第十二號及第十三號ノ事項ヲ管掌ス
- 八 公用局 第六條第十六號第十八號及第二十二號

ノ事項ヲ管掌ス
第十四條 維新政府所在地ノ市ハ警察局ヲ設置セズ警察局ノ管掌事項ニ關シテハ警察廳ニ於テ之ヲ管掌ス

第十五條 特別市ノ各局ニ局長一人ヲ置キ簡任又ハ委任トス

第十六條 特別市政府ニ秘書處ヲ置キ、文書、庶務及其他各局ノ管掌ニ關セサル事項ヲ管掌セシム

第十七條 特別市政府ニ參事二人ヲ置キ簡任又ハ委任トシ市單行規則又ハ命令ノ起草審査事項ヲ管掌セシム

第十八條 各局及秘書處ノ職員ノ定員ハ本條例ニ規定スルモノヲ除クノ外凡テ各市政府辦事細則ニ規定シ上級機關ニ申請シテ其ノ査定ヲ受クベシ

第十九條 特別市政府ハ事務上ノ必要ニ因リ專門技術員ヲ聘任スルコトヲ得

第二十條 特別市政府ハ適宜辦事員及書記ヲ採用ス

ルコトヲ得

第五章 附則

第二十一條 市參議會ノ組織ハ別ニ之ヲ定ム

第二十二條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特別市警察局組織條例

民國二十七年八月二十九日

- 第一條 本組織條例ハ各該警察機關暫行編制大綱第十七條ノ規定ニ依リ之ヲ定ム
- 第二條 特別市警察局ハ内政部及當該市政府ノ指揮監督ヲ受ケ各當該市區内ニ於ケル警察事務ヲ管掌ス
- 第三條 特別市警察局ハ法律及命令ヲ執行シ又ハ法律及命令ノ委任ニ依リ法令ニ抵触セザル範圍内ニ於テ單行警察章程ヲ制定スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ内政部ニ上申ノ上其ノ認可ヲ受ケ同時ニ當該市政府ニ報告シ登錄セシムベシ
- 第四條 特別市警察局ハ所屬職員ノ行フ處分又ハ命令ニシテ法令ニ違背シ、法益ヲ害シ又ハ權限ヲ侵越スト認メタルトキハ之ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得
- 第五條 特別市警察局ニ局長一名ヲ置キ内政部長

六六

ノ申請ニ依リ簡任官ヲ以テ之ニ充ツ局長ハ全局ノ事務ヲ總理シ所屬機關及職員ヲ指揮監督ス

- 第六條 特別市警察局ニ秘書主任一名、秘書一名乃至二名ヲ置キ機密及文書ノ審査ニ關スル事項ヲ處理セシム
- 第七條 特別市警察局ニ左ノ各科ヲ設ク
 - 一 總務科
 - 二 行政科
 - 三 司法科
- 第八條 總務科ノ管掌事項左ノ如シ
 - 一 法令ノ制定ニ關スル事項
 - 二 人事ニ關スル事項
 - 三 訓育ニ關スル事項
 - 四 文書及印信ニ關スル事項
 - 五 編纂及統計ニ關スル事項
 - 六 機械器具裝備ニ關スル事項
 - 七 會計及庶務ニ關スル事項
 - 八 其ノ他各科ノ主管ニ屬セザル事項

第九條 行政科ノ管掌事項左ノ如シ

- 一 治安及風俗ニ關スル事項
- 二 交通ニ關スル事項
- 三 消防ニ關スル事項
- 四 外事警察ニ關スル事項
- 五 戸口調査ニ關スル事項
- 六 保健ニ關スル事項
- 七 市政ノ協助ニ關スル事項
- 第十條 司法科ノ管掌事項左ノ如シ
 - 一 審問ニ關スル事項
 - 二 偵捕ニ關スル事項
 - 三 鑑識ニ關スル事項
 - 四 其ノ他司法警察ニ關スル事項
- 第十一條 總務、行政及司法各科ニ夫々科長一名、科員若干名ヲ置ク
- 第十二條 特別市警察局ニ區域ヲ分チテ外勤勤務ヲ管掌シ且特命事項ヲ担当スル爲勤務督察長二名乃至四名、勤務督察員若干名ヲ置ク

第十三條 業務上必要アルトキハ特別市警察局ニ技師一名、技手若干名ヲ置クコトヲ得

- 第十四條 特別市警察局ハ當該管轄區域内ニ警察署、警察分駐所及警察派出所ヲ分設シ其ノ所轄區域ヲ劃定シ職責ヲ分担セシムベシ
- 第十五條 事務上必要アルトキハ特別市警察局ハ職員ヲ使用スルコトヲ得
- 第十六條 秘書主任、秘書、科長、勤務督察長、技師及署長ハ薦任トシ局長ニ於テ有資格者中ヨリ嚴選シ内政部ニ上申ス内政部ニ於テハ審査ノ上之ヲ任用シ同時ニ當該市政府ニ報告シ之ヲ登錄セシム
- 科員、勤務督察員、技手、警員及巡官ハ委任トシ局長ニ於テ有資格者中ヨリ之ヲ任用シ内政部ニ報告ノ上其ノ審査ヲ受ケ同時ニ當該市政府ニ報告シ之ヲ登錄セシム
- 警員ハ局長ニ於テ之ヲ採用ス
- 前項ニ掲グル科員、勤務督察員、技手、警員及巡官ノ定員ハ局長ニ於テ必要ニ應ジ適宜之ヲ内定シ理由

六七

ヲ具シ内政部ニ上申シ内政部之ヲ裁定ス

第十七條 特別市警察局長ニハ治安ノ維持又ハ業務上ノ必要ニ依リ保安警察隊(保安警察隊トハ騎馬巡隊、車巡隊、自動自轉車隊ノ如キモノヲ謂フ)消防隊、刑事隊及水巡隊ヲ編成訓練スルコトヲ得各隊ニ隊長一名ヲ置キ局長ニ於テ前條ノ規定ニ準ジ審査ヲ經タル上之ヲ任用ス各隊ノ組織ハ實際ノ必要ニ依リ内政部ニ申請シ内政部之ヲ裁定シ同時ニ當該市政府ニ報告シ登錄セシム

第十八條 特別市警察局所轄署所ノ設置、廢止及合併ハ内政部ニ申請ノ上其ノ許可ヲ受ケ同時ニ當該市政府ニ報告シ登錄セシム

第十九條 特別市警察局長ハ警士教練所ヲ設置シ部ニ於テ制定セル規程ニ依リ之ヲ處理スベシ

第二十條 特別市警察局長ニ於ケル事務取扱細則ハ局ヨリノ申請ニ基キ内政部之ヲ定メ且當該市政府ニ報告シ登錄セシム

第二十一條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

修正特別市警察局組織條例第十七條條

文

民國二十七年十一月二十三日

第十七條 特別市警察局ハ治安ノ維持及業務ノ需要ニ因リ警察隊(警察隊、騎巡隊、車巡隊、機器腳踏車「オートバイ」隊……類ノ)、消防隊、偵緝隊、水巡隊ヲ編成、訓練スルコトヲ得各隊ニ隊長一人ヲ置キ局長ニ於テ前條ノ規定ニ依リ夫々認可ヲ經テ任用ス其ノ組織ハ實際ノ需要ニ依リテ起案シ内政部ニ申請シテ査定シ並該管市政府ニ報告シテ查ニ備フ

普通市組織條例

民國二十七年八月八日(公布)

第一章 總則

第一條 普通市ハ之ニ所在地地名ヲ冠シ某某市ト稱ス

第二條 凡ソ人民聚居ノ地方ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ普通市ヲ設ケ省政府ニ隸屬セシム

一 人口三十萬以上ヲ有スルモノ

二 人口二十萬以上ニシテ其ノ收入スル處ノ營業稅、牌照稅(營業許可稅、營業免許稅)、土地稅ノ每年合計ガ該地總收入ノ二分ノ一以上ヲ占ムルモノ

第三條 市區域ノ制定又ハ變更ハ省政府ニ於テ內政部ニ咨シ更ニ內政部ニ於テ行政院ニ轉呈シタル上之ヲ決定ス

第四條 市ノ自治章程及保甲制度ハ別ニ之ヲ定ム

七〇

第五條 市政府ノ行政事項ニ關スルモノニシテ其ノ他ノ機關トノ間ニ權限爭議アル場合ハ省政府ニ呈請ノ上之ヲ解決ス

第二章 市ノ職務

第六條 市ハ政府及上級機關ノ發スル法令ニ抵觸セザル範圍内ニ於テ左記事項ヲ辦理ス

一 戶口調査及人事登記ニ關スル事項

二 育幼、養老、濟貧、救災等ノ設備ニ關スル事項

三 糧食ノ儲藏及調節ニ關スル事項

四 農、工、商業ノ改良及保護ニ關スル事項

五 勞、工、行政ニ關スル事項

六 造林、墾牧、漁獵ノ保護及取締ニ關スル事項

七 合作社及互助事業ノ組織及指導ニ關スル事項

八 風俗改良ニ關スル事項

九 教育其ノ他文化ニ關スル事項

十 警察ニ關スル事項

十一 消防ニ關スル事項

十二 公共衛生ニ關スル事項

一、土地稅

二 房屋稅

三 營業稅

四 牌照稅(營業許可稅、營業免許稅)

五 廣告稅

六 公債收入

七 公營業收入

八 其ノ他法規ニ依リ特ニ徵收スル租稅及稅外收入

前項第一號及第二號ノ收入ハ法律ニ別段ノ規定アル場合ハ其ノ規定ニ依ル

第八條 市ハ法令ニ定ムル處ニ依リ建設公債ヲ募集スルコトヲ得

第四章 市政府

第九條 市ハ市政府ヲ設ケ法令ニ依リ市行政事務ヲ掌理シ所屬機關及自治各團體ニ關スル監督ヲ行フ

第十條 市ハ法令ニ抵觸セザル範圍内ニ於テ命令ノ公布、市單行規則ノ制定ヲ爲スコトヲ得但シ人民ノ自由ノ制限及負擔ノ增加ヲ來ス場合ニ於テハ省政府

七一

十三 醫院、食糧市場、屠殺場及公共娛樂場所ノ設置又ハ取締ニ關スル事項

十四 財政收支及豫算決算ノ編成ニ關スル事項

十五 公債ノ管理ニ關スル事項

十六 公共營業ノ經營ニ關スル事項

十七 土地行政ニ關スル事項

十八 民營公用事業ノ監督ニ關スル事項

十九 公用建築物、公園、公共體育場、公共墓地等ノ建築修理ニ關スル事項

二十 市内建築ノ指導、取締ニ關スル事項

二十一 道路、橋梁、溝渠、堤岸其ノ他公共土木工程ニ關スル事項

二十二 河道、港務及船舶管理ニ關スル事項

二十三 上級機關ヨリ委任セラレタル事項

二十四 其ノ他法令ノ定ムル處ニ依リ市ニ於テ辦理スベキ事項

第三章 市財政

第七條 左記各號ノ收入ハ市ノ財政收入トス

府ニ呈示シタル上法ニ依リ之ヲ核定スベシ

第十一條 市政府ニハ市長一人ヲ置キ勅任又ハ奏任トシ所屬職員ヲ指揮監督ス

第十二條 市長ハ非常事變ノ處理又ハ防衛ヲ爲シ兵力ヲ用フル必要アルトキハ文書又ハ電報ヲ以テ鄰近駐屯ノ軍隊又ハ軍艦長官ニ派兵協助方ヲ請願スルコトヲ得

第十三條 市政府ニハ左記各局ヲ設ク

- 一 社會局 第六條第一號乃至第六號ニ掲グル事項ヲ處理ス
- 二 警察局 第六條第十號乃至第十三號ニ掲グル事項ヲ處理ス
- 三 財政局 第六條第十四號乃至第十七號ニ掲グル事項ヲ處理ス
- 四 工務局 第六條第十八號乃至第二十二號ニ掲グル事項ヲ處理ス

第十四條 市政府ニ於テ必要アルトキハ上級機關ノ許可ヲ經テ左記各局ヲ附設スルコトヲ得

一 教育局 社會局ノ經理スル第六條第九號ノ事項ヲ分擔管理スルノ要アル場合ニ之ヲ設置ス

二 衛生局 警察局ノ經理スル第六條第十二號及第十三號ノ衛生ニ關スル事項ヲ分擔管理スルノ要アル場合ニ之ヲ設置ス

第十五條 省政府所在地ノ市警察事項ハ省會警察局之ヲ掌理ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ市警察局ヲ設ケ省會警察之ヲ掌理スルコトヲ得

第十六條 普通市ノ設置スル各局ニシテ範圍稍少ノ必要アルトキハ警察局ヲ除クノ外改メテ科ト爲スコトヲ得

第十七條 普通市ニ於ケル各局又ハ各科ニハ局長又ハ科長一人ヲ置キ奏任又ハ列任トス

第十八條 市政府ニハ秘書處ヲ設ケ文書、庶務及他ノ局又ハ科ニ屬セザル事項ヲ掌理ス

第十九條 市政府ニハ參事二人ヲ置キ奏任又ハ列任トシ市單行規則又ハ命令ノ制定、改正等ノ事項ヲ掌理セシム

第二十條 各局又ハ各科及秘書處ノ職員ノ定員ハ本條例ニ規定スルモノヲ除クノ外當該市政府辦事細則ノ規定ニ依リ上級機關ニ提出ノ上之ヲ定ム

第二十一條 市政府ハ事務上必要アルトキハ專門技術員ヲ聘用スルコトヲ得

第二十二條 市政府ハ辦事員及書記ヲ置クコトヲ得

第五章 附則

第二十三條 市委員會ノ組織ハ別ニ之ヲ定ム

第二十四條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

普通市警察局組織條例

民國二十七年八月二十九日

- 第一條 本組織條例ハ各級警察機關實行編制大綱第十七條ノ規定ニ依リ之ヲ定ム
- 第二條 普通市警察局ハ當該各省警務處ニ直屬シ當該市政府ノ指揮監督ヲ受ケ當該市區域内ニ於ケル警察事務ヲ管掌ス
- 第三條 普通市警察局ハ法律及命令ヲ執行シ又ハ法律及命令ノ委任ニ依リ法令ニ抵触セザル範圍内ニ於テ單行警察章程ヲ制定スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ所管警務處ニ上申シ其ノ許可ヲ得且内政部及省政府ニ報告登錄シ同時ニ當該市政府ニ報告スベシ
- 第四條 普通市警察局ハ所屬職員ノ行フ處分又ハ命令ニシテ法令ニ違背シ法益ヲ害シ又ハ權限ヲ侵越スト認メタルトキハ之ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

七四

- 第五條 普通市警察局ニ局長一名ヲ置キ應任トシ所管警務處ニ於テ有資格者中ヨリ遴選シ之ヲ内政部ニ上申シ審查ノ上任用ス局長ハ余局ノ事務ヲ處理シ所屬機關及職員ヲ指揮監督ス
- 第六條 普通市警察局ニ秘書一名ヲ置キ機密及文書ノ審查ニ關スル事項ヲ掌理セシム
- 第七條 普通市警察局ニ左ノ各科ヲ設ク
 - 一 總務科
 - 二 行政科
 - 三 司法科
- 第八條 總務科ノ管掌事項左ノ如シ
 - 一 法令ノ制定ニ關スル事項
 - 二 人事ニ關スル事項
 - 三 訓育ニ關スル事項
 - 四 文書及官印ニ關スル事項
 - 五 編纂及統計ニ關スル事項
 - 六 會計及庶務ニ關スル事項
 - 七 其ノ他各科ノ主管ニ屬セザル事項

第九條 行政科ノ管掌事項左ノ如シ

- 一 治安及風俗ニ關スル事項
- 二 交通ニ關スル事項
- 三 消防ニ關スル事項
- 四 外事警察ニ關スル事項
- 五 戶口調査ニ關スル事項
- 六 保健ニ關スル事項
- 七 市政ノ協助ニ關スル事項
- 第十條 司法科ノ管掌事項左ノ如シ
 - 一 審問ニ關スル事項
 - 二 偵捕ニ關スル事項
 - 三 鑑識ニ關スル事項
 - 四 其ノ他司法警察ニ關スル事項
- 第十一條 總務、行政及司法各科ニ夫々科長一名、科員若干名ヲ置ク
- 第十二條 普通市警察局ニ外勤勤務ヲ督察セシムル爲勤務督察長一名、勤務督察員若干名ヲ置ク
- 第十三條 普通市警察局ハ當該管區内ニ警察署、警

第十四條 署長一名、署員及巡官若干名ヲ置ク

- 第十五條 秘書、科長及勤務督察長ハ應任トシ局長ニ於テ有資格者ヲ遴選シ所管警務處ヲ經由ノ上内政部ニ上申シ其ノ審查ヲ經タル上之ヲ任用シ同時ニ當該市政府ニ其ノ旨報告スルモノトス
- 署長ハ應任待遇トシ局長ニ於テ有資格者中ヨリ之ヲ遴選シ所管警務處ニ内申シ審查ノ上之ヲ任用シ更ニ内政部ニ報告シ審查ノ上之ヲ登錄ス科員、勤務督察員、署員及巡官ハ委任トシ局長ニ於テ有資格者中ヨリ遴選シ之ヲ任用シ所管警務處ニ報告シ審查ノ上之ヲ登錄シ同時ニ當該市政府ニ報告スルモノトス局長ハ局長ニ於テ之ヲ任用ス
- 前項ニ掲グル科員、勤務督察員、署員及巡官ノ定員ハ實際ノ必要ニ應ジ局ニ於テ適當内定シ理由ヲ具シ

七五

第二十條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

當該警務處ニ申請ノ上之ヲ裁定ス

第十六條 普通市警察局ハ治安ノ維持及業務上ノ必要ニ依リ保安警察隊(保安警察隊トハ騎馬巡隊、車巡隊、自動自轉車隊ノ如キモノヲ謂フ)消防隊、刑事隊及水巡隊ヲ編成訓練スルコトヲ得各隊ニ隊長一名ヲ置キ局長ニ於テ前條ノ規定ニ準ジ任用ノ上之ヲ報告ス各隊ノ組織ハ實際ノ必要ニ依リ該局ヨリ所管警務處ニ申請ノ上之ヲ裁定シ且内政部ニ報告シ審査ノ上之ヲ登錄シ同時ニ當該市政府ニ報告スルモノトス

第十七條 普通市警察局所轄場所ノ設置、廢止及併合ハ所管警務處ニ申請シ審査ノ上之ヲ定ム

第十八條 普通市警察局ハ警士教練所ヲ設置シ部ニ於テ制定セル規程ニ依リ之ヲ處理スベシ

第十九條 普通市警察局ニ於ケル事務取扱細則ハ局ニ於テ立案シ所管警務處ヲ經由シテ内政部ニ上申シ審査ノ上之ヲ定メ同時ニ當該市政府ニ報告スルモノトス

修正普通市警察局組織條例第十六條條文

民國二十七年十一月二十三日

第十六條 普通市警察局ハ治安ノ維持及業務ノ需要ニ因リ警察隊(警察隊、騎巡隊、車巡隊、機器腳踏車「オートバイ」隊……ノ類)、消防隊、偵緝隊、水巡隊ヲ編成、訓練スルコトヲ得各隊ニ隊長一人ヲ置キ局長ニ於テ前條ノ規定ニ依リ夫々任用シテ報告ス其ノ組織ハ實際ノ需要ニ依リ暫時該局ニ於テ起案シ該管警務處ニ呈請シテ査定シ内政部ニ轉報シテ審査シ該管市政府ニ報告シテ査ニ備フ

修正特設警察局組織條例第十五條條文

民國二十七年十一月二十三號

第十五條 特設警察局ハ治安ノ維持及業務ノ需要ニ依リ警察隊(警察隊、騎巡隊、車巡隊、機器腳踏車「オートバイ」隊……ノ類)、消防隊、偵緝隊、水巡隊ヲ編成、訓練スルコトヲ得。各隊ニ隊長一人ヲ置キ局長ニ於テ前條ノ規定ニ依リ夫々任用シテ呈報ス其ノ組織ハ實際ノ需要ニ依リテ提案シ主管警察處ニ呈請シテ査定シ内政部ニ轉報シテ審査ノ上備案シ該主管道尹公署ニ報告シテ査ニ備フ

上海特別市區公署組織條例

民國二十七年十一月十七日

第一條 上海特別市ハ之ヲ區ニ分チ夫々區公署ヲ設立シ管轄區域内ノ行政事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
第二條 區ニハ區公署ヲ設ケ前任又ハ委任ノ區公署長一人ヲ置キ市長ノ指揮監督ヲ承ケ區ノ行政事務ヲ總理セシム
第三條 區公署長ハ市長ニ於テ有資格者中ヨリ之ヲ選任ス
第四條 區公署ハ區ノ行政事務ヲ處理スル爲科長二人乃至三人及科員六人乃至八人ヲ置キテ科務ヲ分管セシメ且適宜辦事員及書記ヲ採用スルコトヲ得分區所ニ所長一人科員及辦事員若干人ヲ置ク
第五條 區公署長ノ權限左ノ如シ
一 法律命令ニ依リ區行政事務ヲ執行ス
一 本區駐屯ノ管備隊ヲ移動セシムルコトヲ得

一 非常事變ニ遭ヒ又ハ防衛ノ目的ノ爲ニ兵力ヲ必要トスルトキハ市長ニ申請シテ附近ニ駐屯セル軍隊又ハ軍艦ノ長官ニ派兵協助ヲ請求スルコトヲ得

第六條 區地方自治章程及保甲制度ハ別ニ之ヲ定

第七條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

上海市復興局暫行規程

民國二十七年十月七日

第一條 上海復興局ハ維新政府内政部ニ直屬シ
上海市復興事務ヲ掌理ス

第二條 上海市復興局長ハ維新政府内政部長之
ヲ兼任シ其ノ下ニ左ノ職員ヲ置ク

秘書

二名 薦任

參事

一名 薦任

技師

一名 薦任

科長

三名 薦任

科員

九名 薦任及委任

技手

三名 委任

事務員

六名 委任

書記

八名 委任

第三條 上海市復興局長ハ内政部長ノ命ヲ承
ケ局務ヲ總理シ所屬職員ヲ指揮監督ス
上海市復興局所屬ノ薦任以上ノ職員ノ任免及賞罰ハ

八〇

内政部ニ申告ス委任以下ハ局長之ヲ專行ス

第四條 秘書ハ機密文件及局長ノ命令事項ヲ掌ル
第五條 參事ハ本局ノ法案命令ニ關シ立案、議
定、審査及裁定ヲ掌ル

第六條 技師ハ局長ノ命ヲ承ケ技手ヲ指揮シ技術
事務ヲ處理ス

第七條 科長ハ局長ノ命ヲ承ケ科事務ヲ處理ス

第八條 科員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ事務ヲ處理
ス

第九條 技士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ技術事務ヲ
處理ス

第十條 上海市復興局ハ別ニ顧問ヲ置クコトヲ得
上海市復興局顧問ハ局長ノ諮詢ニ應ジ又ハ局長ニ建
議スルモノトス

第十一條 上海市復興局ハ左ノ三科ヲ置ク

第一科

第二科

第三科

第十二條 第一科ハ左ノ事務ヲ掌ルモノトス

一 機密ニ關スル事項

二 印信保管ニ關スル事項

三 文書ニ關スル事項

四 人事ニ關スル事項

五 豫算及決算ニ關スル事項

六 其他各科ノ所管ニ屬セザル事項

第十三條 第二科ハ左ノ事項ヲ掌ルモノトス

一 上海建設ノ計畫及調査ニ關スル事項

二 土地買収ニ關スル事項

三 土地測量ニ關スル事項

四 土地工作物ノ權利調査ニ關スル事項

五 港灣、道路、橋梁、運河及其他ノ施設ノ設計
ニ關スル事項

六 復興及建設ニ關スル事項

第十四條 第三科ハ左ノ事項ヲ掌ルモノトス

上海市建設及復興事業ノ監督ニ關スル事項

第十五條 本規程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

八一

上海市建設諮詢委員會組織法

民國二十八年一月十四日

- 第一條 上海市建設諮詢委員會ハ行政院長ノ諮詢ニ應ジ上海市ノ建設計畫及關係法令ニ關スル事項ヲ建議スル爲之ヲ組織ス
 - 第二條 上海市建設諮詢委員會ハ委員十名ヲ以テ之ヲ組織ス
 - 第三條 委員ハ左記各機關中ヨリ行政院長ニ於テ之ヲ選任又ハ委託ス
 - 一 行政院 二名
 - 二 復興局 三名
 - 三 上海特別市 二名
 - 四 上海復産公司 三名
 - 以上ノ四機關ノ外必要アルトキハ行政院長ニ於テ臨時委員ヲ選任又ハ委託シテ會議ニ參與セシ並ニ議決數ニ加入セシムルコトヲ得委員事故アルトキハ代表ヲ派シテ其ノ職務ヲ代理シ會議ニ出席セシメ並ニ議決數ニ加入セシムルコトヲ得
 - 第四條 委員會ニ委員長一名ヲ置キ行政院長ニ於テ各委員中ヨリ之ヲ選任ス
 - 委員長事故アルトキハ行政院長ニ於テ委員一名ヲ指命シテ其ノ職務ヲ代理セシム
 - 第五條 委員會ハ委員長ニ於テ之ヲ召集ス
 - 委員長ハ開會ノ三日前ニ召集及會議ノ事項ヲ各委員ニ通知ス但シ緊急ノ際ハ此ノ限りニ在ラズ
 - 第六條 出席委員半數以上ヲ超過セザルトキハ開會スルコトヲ得ズ
 - 第七條 會議ハ委員長ヲ主席トス
 - 委員會ノ決議ハ多數決ヲ以テ之ヲ決ス贊否同數ナルトキハ委員長之ヲ決定ス
 - 第八條 委員會ニ幹事二名ヲ置ク
 - 幹事ハ上海市復興局職員中ヨリ行政院長之ヲ選任ス
 - 幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ常務ヲ處理ス
- 附 則
- 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

督辦上海市政公署廢止ニ關ルス件

民國二十七年十月十四日

上海特別市政府現在既ニ成立セルニ依リ前ニ設置シタル督辦上海市政府公署ハ之ヲ廢止ス此ニ令ス

南京警察廳組織條例

民國二十七年八月二十九日

- 第一條 本組織條例ハ各級警察機關暫行編制大綱第十七條ノ規定ニ依リ之ヲ定ム
- 第二條 南京警察廳ハ內政部ニ直屬シ其ノ指揮監督ヲ受ケ南京警察事務ヲ掌理ス其ノ管轄區域ハ南京市ノ區域トス
- 第三條 南京警察廳ハ法律及命令ヲ執行シ或ハ法律及命令ノ委任ニ依リ法令ニ抵触セザル範圍内ニ於テ單行警察章程ヲ制定スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ內政部ニ上申シ其ノ認可ヲ受クベシ
- 第四條 南京警察廳ハ所屬職員ノ行フ處分又ハ命令ニシテ法令ニ違背シ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ侵越スト認メタルトキハ之ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得
- 第五條 南京警察廳ニ總長一名ヲ置キ內政部ノ申請ニ依リ簡任官ヲ以テ之ニ充ツ總長ハ全體事務ヲ綜理シ所屬機關及職員ヲ指揮監督ス

八四

- 第六條 南京警察廳ニ秘書主任一名、秘書一名乃至三名ヲ置キ機密及文書ノ審査ニ關スル事項ヲ掌理セシム
- 第七條 南京警察廳ニ左ノ各科ヲ設ク
 - 一 總務科
 - 二 行政科
 - 三 司法科
- 第八條 總務科ノ管掌事項左ノ如シ
 - 一 法令ノ制定ニ關スル事項
 - 二 人事ニ關スル事項
 - 三 訓育ニ關スル事項
 - 四 文書及官印ニ關スル事項
 - 五 編纂及統計ニ關スル事項
 - 六 機械器具裝備ニ關スル事項
 - 七 會計及庶務ニ關スル事項
 - 八 其ノ他各科ノ主管ニ屬セザル事項
- 第九條 行政科ノ管掌事項左ノ如シ
 - 一 治安及風俗ニ關スル事項

- 二 交通ニ關スル事項
- 三 消防ニ關スル事項
- 四 外事警察ニ關スル事項
- 五 戶數及人口調査ニ關スル事項
- 六 保健ニ關スル事項
- 七 市政ノ協助ニ關スル事項

- 第十條 司法科ノ管掌事項左ノ如シ
 - 一 審問ニ關スル事項
 - 二 偵捕ニ關スル事項
 - 三 鑑識ニ關スル事項
 - 四 其ノ他司法警察ニ關スル事項
- 第十一條 總務、司法及行政各科ニ夫々科長一名、科員若干名ヲ置ク
- 第十二條 南京警察廳ニ區域ヲ分チテ外勤勤務ヲ監察シ且特命事項ヲ擔任スル爲メ勤務督察長二名乃至四名、勤務督察員若干名ヲ置ク
- 第十三條 業務上必要アルトキハ南京警察廳ニ技師一名、技手若干名ヲ置クコトヲ得

第十四條 南京警察廳ハ管轄管轄區域内ニ警察署、警察分駐所及警察派出所ヲ分設シ其ノ所轄區域ヲ劃定シ職責ヲ分担セシムベシ

- 第十五條 事務上必要アルトキハ南京警察廳ニ事務員、書記各若干名ヲ置クコトヲ得
- 第十六條 秘書主任、秘書、科長、勤務督察長、技師及署長ハ薦任トシ廳長ヨリ內政部ニ上申シ審査ノ上之ヲ任用ス科員、勤務督察員、技手、署員及巡官ハ委任トシ廳長ニ於テ有資格者中ヨリ嚴選シテ之ヲ任用シ內政部ニ報告ス內政部ニ於テハ審査ノ上之ヲ登錄スルモノトス事務員及書記ハ廳長ニ於テ之ヲ任用ス
- 第十七條 前項ニ掲グル科員、督察員、技手、署員及巡官ノ定員ハ廳長ニ於テ必要ニ應ジ適宜之ヲ内定シ理由ヲ具シ內政部ニ上申ノ上內政部之ヲ裁定ス
- 第十八條 南京警察廳ハ治安ノ維持又ハ業務上ノ必要ニ依リ保安警察隊(保安警察隊トハ騎馬巡隊、車

八五

巡隊、自動自轉車隊ノ如キモノヲ謂フ。消防隊、刑
事隊及水巡隊ヲ編成訓練スルコトヲ得各隊ニ隊長一
名ヲ置き隊長ニ於テ前條ノ規定ニ準ジ審査ヲ經タル
上之ヲ任用ス各隊ノ組織ハ實際ノ必要ニ依リ内政部
ニ申請シ内政部之ヲ裁定ス

第十八條 南京警察廳所轄署所ノ設置、廢止及合併
ハ總ロリノ申請ニ依リ内政部之ヲ裁定ス

第十九條 南京警察廳ハ警士教練所ヲ設置シ部ニ於
テ制定セル規程ニ依リ之ヲ處理スベシ

第二十條 南京警察廳ニ於ケル事務取扱規則ハ總ニ
於テ之ヲ定メ内政部ニ報告ノ上其ノ審査及登錄ヲ受
クベシ

第二十一條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

修正南京警察廳組織條例第十七條條文

民國二十七年十一月二十三日

第十七條 南京警察廳ハ治安ノ維持及業務ノ需要ニ
因リ警察隊(警察騎巡隊、車巡隊、機器腳踏車「オ
トバイ」隊……ノ類)消防隊偵捕隊、水巡隊ヲ編
成、訓練スルコトヲ得各隊ニ隊長一人ヲ置き隊長ニ
於テ前條ノ規定ニ依リ夫々認可ヲ經テ任用ス其ノ組
織ハ實際ノ需要ニ依リテ立案シ内政部ニ呈請シテ之
ヲ査定ス

第三編
官
規

第二章 簿記

司法行政部暫行會計章程

民國二十七年十一月七日(公示)

第一章 總則

- 第一條 本章程適用ノ範圍ハ本部部内ノ會計事項トス
- 第二條 本部會計年度ハ一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル
- 第三條 簿記様式ハ洋式及複式ヲ採用ス
- 第四條 本部各處司ノ收支事務ハ之ヲ類別ノ上記帖スベシ
- 第五條 本部ノ記帳ハ國幣ヲ以テ單位トシ其ノ他各種ノ貨幣ハ凡テ時價ニ照シ換算スベシ
- 第六章 帳簿、證券ノ種類及系統
- 第六條 本部ニ於ケル各種ノ帳簿、證券及文書ハ當分ノ中左ノ如ク定ム
- 一 收入證券
- 二 支拂證券

- 三 收入ニ枚續切取帳
- 四 受取ニ枚續切取帳
- 五 俸給收入證ニ枚續切取帳
- 六 先拂項目ニ枚續切取帳
- 七 經常出納元帳
- 八 特別出納元帳
- 九 臨時出納元帳
- 一〇 證據書類送込保存簿
- 一一 經常出納仕譯帳
- 一二 特別出納仕譯帳
- 一三 臨時出納仕譯帳
- 一四 辯護士證書收入登記簿
- 一五 司法公報收入登記簿
- 一六 各機關委任出納記録簿(口座ニ分ツ)
- 一七 司法收入登記簿(口座ニ分ツ)
- 一八 每旬經常出納報告書
- 一九 每旬特別出納報告書
- 二十 每旬臨時出納報告書

- 二一 毎旬經常收支計算書
- 二二 毎旬特別收支計算書
- 二三 毎月臨時收支計算書
- 二四 全年經常收支決算報告書
- 二五 全年特別收支決算報告書
- 二六 雜收簿
- 二七 雜費簿(庶務處ニ存置ス)
- 二八 郵便費簿(受付ニ存置ス)
- 二九 俸給簿(口座ニ分ツ)
- 三〇 雜費報告表
- 三一 雜費報告表
- 三二 日記帳
- 三三 元帳

- 四 仕譯帳
- 第九條 證明書(即ち傳票)ハ左ノ三種ニ分ツ
 - 一 收入傳票
 - 二 支拂傳票
 - 三 振替傳票
- 第十條 原簿ハ左ノ三種ニ分ツ
 - 一 經常收支原簿
 - 二 特別收支原簿
 - 三 臨時收支原簿
- 第十一條 仕譯帳ハ左ノ三種ニ分ツ
 - 一 經常收支仕譯帳
 - 二 特別收支仕譯帳
 - 三 臨時收支仕譯帳
- 第十二條 係官ハ旬一回決算ヲ爲シ左ノ各款ノ報告書ヲ作成スベシ
 - 一 毎旬經常收支報告書
 - 二 毎旬特別收支報告書
 - 三 毎旬臨時收支報告書

- 第十三條 係官ハ毎月末一回決算ヲ爲シ左ノ各款ノ報告書ヲ作成スベシ
 - 一 毎月經常收支計算書
 - 二 毎月特別收支計算書
 - 三 毎月臨時收支計算書
 - 四 證據書類送保存簿
- 第十四條 係官ハ毎年末一回決算ヲ爲シ左ノ各款ノ報告書ヲ作成スベシ
 - 一 全年收支決算報告書
 - 二 全年特別收支決算報告書
- 第十五條 凡ソ各處司ロリ總務司第三科ニ對シテ交付シ又ハ受領スル金錢ニ關シテハ受領又ハ拂込證據書ヲ作成シ主管責任者ノ署名ヲ經タル後開帳書又ハ證據書類ヲ添ヘ總務司第三科ニ送付シ更ニ該科科長、出納員及記帳員ノ署名又ハ捺印ヲ得タル後受領又ハ支拂ヲ爲スコト得
- 第十六條 經常收支元帳ト特別收支元帳又ハ臨時收

- 支元帳トノ間ニ相互ニ金額ヲ融通シタルトキハ振替傳票ヲ作成スベシ例ヘバ特別收支簿ロリ經常收支簿ニ繰入ルルトキハ同時ニ特別收支簿出傳票及經常收支收入傳票ヲ作成添附スベシ
- 第十七條 雜費簿ニハ國幣一百元乃至五百元迄ノ支出ヲ豫定シ用後殘額僅少ト爲リタルトキハ使用済ノ數額ヲ一應決算シ同時ニ所用ノ各項目ヲ本部規定ノ會計科目ニ照應シ科目別ニ表ヲ作製シ之ヲ會計ニ提出スベシ
- 第十八條 郵便費用簿ニハ國幣五十元ノ支出ヲ豫定シ該金額ニテ切手ヲ購入シ殘額僅少ト爲リタルトキハ傳票ヲ作成シ會計ニ提出ノ上増額ヲ請求スベシ
- 第四章 會計科目
 - 第十九條 會計科目ハ左ノ六種ニ分ツ
 - 一 收入科目
 - 二 支出科目
 - 三 特別收入科目
 - 四 特別支出科目

五 臨時收入科目

六 臨時支出科目

第二十條 財政部より支給スル本部經費ハ收入科目トス

第二十一條 本部一切ノ公務費ハ支出科目トス

第二十二條 訴訟狀、印紙、其ノ他一切ノ司法收入、辯護士登記料及司法公報ノ收入ハ均シク特別收入科目トス

第二十三條 凡ソ本部ノ事務費用ノ範圍内ニ屬セザル支出ハ特別支出科目トス

第二十四條 凡ソ未確定ノ收入ハ臨時收入科目トス

第二十五條 凡ソ未確定ノ支出ハ臨時支出科目トス

凡ソ臨時ノ款項ハ確定後即時分類シ經常收支又ハ特別收支科目ニ記入スベシ

第五章 會計ノ職務

第二十六條 部内會計事務ハ出納及記帳ノ兩部ニ分テ相互掌管スルコトヲ得ズ

第二十七條 帳簿ノ記入決算等ノ事務ハ記帳員之ニ任

第二十八條 傳票ト帖簿及現金トノ對照等ノ事務ハ出納員之ニ任ズ

第二十九條 總務司第三科ノ出納員他處司室ヨリノ支拂傳票ヲ受領シタルトキハ必ズ其ノ傳票又ハ證據書類ガ已ニ長官ノ署名捺印ヲ經タルモノナリヤ否ヤヲ審査シ誤リナキトキハ直ニ傳票ニ署名又ハ捺印シ傳票及證據書類ヲ添附ノ上再ビ科長ニ提出シ其ノ審査、捺印ヲ得タル後支出シ更ニ傳票ヲ記帳員ニ送付シ項目ニ依リ類別シテ記帳セシムベシ

第三十條 記帳員ハ傳票内ノ金額及摘要ヲ日記帳ニ記入シタル後元帳ニ轉記シ毎日一回繕切リ出納員ハ之ヲ監査シ計算ニ誤リナキヲ認メタルトキハ帳簿ヲ繕切リタル箇所ニ捺印スベシ

第三十一條 帳簿ニ記入済ノ傳票及附屬ノ證據書類ハ出納員ニ於テ適當ニ保存スベシ但シ重要ノ文件アルトキハ必ズ科長又ハ總務司長ニ提出シ科長又ハ總務司長ニ於テ之ヲ保管スベシ此ノ場合ニ於テハ原

本上ニ明白ニ科長又ハ總務司長簽收ノ旨記入スベシ

第三十二條 記帳員ハ帳簿上ノ金額及摘要ヲ次ヲ逐テ仕譯帳ニ記入シタル後出納員ニ交付對照セシメ誤リナキトキハ帳簿ニ頁數ヲ逐ヒ記入捺印シ仕譯帳ノ頁數ヲ傳票ニ記入スベシ

第三十三條 凡ソ本部ノ收入ハ總三科長ニ於テ本部ノ名義印章ヲ用ヒ確實ナル銀行ニ預金スベシ

第三十四條 毎日ノ殘額及當日ノ收入ハ一千元以下ヲ三科ニ保留シ支拂ノ用ニ備ヘ、殘額ハ清算ノ上翌日銀行ニ預金スベシ但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十五條 銀行預金通帳(又ハ送銀簿)小切手帳ハ總務司長ニ於テ之ヲ保管シ印章ハ次長ニ於テ之ヲ保管ス

第三十六條 凡ソ收入ハ本部ノ經費トシテ部長署名シタルモノ以外ハ必ズ總三科長ノ署名ヲ經ルコトヲ要ス但シ辯護士ノ登記料公報料等ハ總一科及公報處ニ於テ收金シ受領證ヲ交付スルコトヲ得仍之等ノ收入

ハ必ズ毎日退廳前ニ總三科ニ取纏メ提出スベシ

第三十七條 凡ソ支出額ニシテ幾百元以下ノ場合ハ科長ニ於テ審査ノ上提出スルコトヲ得五百元以下ノ場合ハ總務司長署名シ五百元以上ノ場合ハ次長署名シ一千元以上ノ公用ノ場合ハ部長署名シ部長不在ノトキハ次長之ニ代リテ署名シ後ニ部長ノ追認署名ヲ請フコトヲ得特別支出及臨時支出モ亦右ニ準ジ之ヲ處理スベシ

第三十八條 凡ソ前條各項目ノ傳票、帳簿、現金出納簿上ニハ某部用又ハ某人用ト明記シ單ニ貨物ノ名稱又ハ事項ノミヲ記入スルコトヲ得ズ

第三十九條 凡ソ本部ノ購入物件又ハ各項ノ費用ハ總務司長ニ於テ監査ノ責ヲ負ヒ隨時情況ヲ次長ニ報告スベシ

第六章 豫算及決算

第四十條 毎年豫算及毎月ノ概算ハ主管科ニ於テ長官ノ指示ニ遵ヒ立案シ部長ノ査閱ヲ經テ政府ニ提出スベシ

第四十一條 總三科ハ毎日必ズ記帳員ヲシテ元帳各口座ヲ假リニ掃切ラシメ其ノ殘額ヲ記入ノ上出納員ニ交付シ再査セシメ科長ニ於テ現金ヲ點驗シ誤ナキトキハ殘額欄内ニ其ノ旨記入スベシ月末ノ決算ハ必ズ赤及黒色インキヲ以テ記入スベシ

第四十二條 毎月末決算以後ニ於テハ必ズ出納員ハ元帳各口座ノ殘額ヲ收支計算書ニ抄書シ試算手續ヲ施行スベシ

第四十三條 決算ハ毎月決算ト全年決算トニ分テ毎月決算ハ只收支ノ各口座ノ殘額總額ヲ本日座ノ次月ノ勘定内ニ移入セシメ全年ノ決算ハ收入ノ各口座ヲ總收入口座内ニ振替ヘ支出各口座ヲ總支出口座内ニ振替ヘタル後ニ於テ表ヲ作成スベシ

第四十四條 第十二條乃至第十四條ノ收支各種報告書ハ主管科ニ於テ期間ニ從テ編輯作成シ科長之ヲ監査シタル後各長官ニ呈出査閱ヲ受クベシ

第四十五條 毎月ノ經常收支計算書、毎月ノ特別收支報告書、毎月ノ臨時收支報告書、毎月ノ決算報告書

及全年ノ決算報告書ハ第三科ニ於テ各四部ヲ作成シ科長署名シタル後總務司長、次長及部長ニ送付シ其ノ査閱ヲ受ケ殘餘ノ一部ハ科長之ヲ保存スベシ

第四十六條 明細雜費計算書ニハ豫算科目ニ從ヒ對照記入シ重大ナル不合點有ルトキハ必ズ説明ヲ加フベシ

第七章 附則

第四十七條 雜費簿内ニ於テ支出セル各金額ハ粘簿内ニ次ヲ逐ヒテ番號ヲ附シ科目別ノ印ヲ捺捺シ以テ總括シテ分類スル場合ノ用ニ便スベシ原請求明細書又ハ取扱入ノ提出セル證據書類ハ雜費簿ニ記入セル番號ニ依リ之ヲ定ムベシ

第四十八條 郵便料簿内ノ一切ノ郵便費ノ支出ハ必ズ簿内ノ順序ニ從ヒ番號ヲ附シ排列スベシ至急便又ハ書留便ノ受領書ハ必ズ粘簿内ノ番號順ニ之ヲ排列スベシ

第四十九條 凡ソ未拂込ノ印紙、賦狀等一切ノ司法收入ハ均シク司法收入簿内ニ區別シテ明記スベシ

第五十條 本章程未ダ盡サザルノ事項アルトキハ總三科長ニ於テ立案シ總務司長ヲ經テ次長ニ呈出シ更ニ部長ノ裁可ヲ得テ之ヲ改正スベシ

第五十一條 本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

官吏恩給條例

民國二十八年三月四日

第一條 凡中華民國維新政府ニ服務スル一般文
官及司法官ニ對スル恩給ニ關シテハ官吏特種恩給暫
行條例其ノ他ノ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ
外本條例ニ依リ之ヲ辦理ス

第二條 恩給ハ之ヲ左ノ四種ニ分ツ

- 一 終身恩給
- 二 一時賜金
- 三 遺族扶助料
- 四 遺族一時賜金

第三條 官吏ニシテ左ノ事情ノ一ニ該當スル者ニ
對シテハ期ヲ分チテ退職時ノ俸給ノ五分ノ一ニ相當
スル終身恩給ヲ支給ス
一 公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ依テ身體衰
弱シ廢殘者ト爲リ又ハ心神喪失シテ職務ニ耐
ザルニ到リタル者

九六

二 在職十年以上ニシテ身體衰弱シ又ハ廢殘者ト爲
リ職務ニ耐ヘザルニ到リタル者

三 在職十年以上勤務成績優良ニシテ且六十歳ヲ越
エ退職ヲ願出タル者

第四條 終身恩給ハ當該官吏退職ノ月ノ翌月ヨリ
起算シ死亡ノ月迄之ヲ支給ス

第五條 左ノ事情ノ一ニ該當スル者ハ其ノ恩給ノ
受領權ヲ喪失ス

一 終身公權ヲ剝奪セラレタル者

二 中華民國ノ國籍ヲ喪失シタル者

三 本條例第三條第一號及第二號ノ規定ニ依リ終身
恩給ヲ受ケ爾後再ビ官吏ニ任官シタル者

第六條 左ノ事情ノ一ニ該當スル者ハ其ノ終身恩
給ヲ停止ス
一 公權ヲ剝奪セラレ未ダ復權セザル者
二 本條例第三條第三號ノ規定ニ依リ終身恩給ヲ受
ケ爾後再ビ官吏ニ任官シタル者

第七條 官吏ニシテ公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病

ニ罹リ身體ノ廢殘未ダ心神喪失ノ程度ニ達セザル者
ハ其ノ退職前二ヶ月間ノ俸給額ノ限度内ニ於テ一時
賜金ヲ給與ス

第八條 官吏ニシテ前條ノ賜金ヲ受ケタル後其ノ
傷病又ハ疾病ノ程度加重シ本條例第三條第一號ノ終
身恩給ヲ受ケルニ至リタル者ハ已ニ給與シタル賜金
ニ相當スル金額ヲ其ノ恩給額ノ内ヨリ控除ス

第九條 官吏ニシテ左ノ事情ノ一ニ該當スル者ニ
對シテハ其ノ最終ノ在職時ニ於ケル俸給ノ十分ノ一
ヲ基準トシテ遺族扶助料ヲ給與スルコトヲ得

一 公務ノ爲死亡シタル者

二 在職十年以上ニシテ死亡シタル者

三 本條例第三條ノ規定ニ依リ終身恩給ヲ受ケ五年
未滿ニシテ死亡シタル者

第十條 死亡者遺族ノ扶助料受領ノ順位ハ左ニ掲
グル所ニ依ル

一 死亡者ニ配偶者有ルトキハ其ノ配偶者但シ死亡
者ノ夫(配偶者夫ナル場合)ハ廢殘者ニシテ自ラ

生活スルコト能ハザル場合ニ限ル

二 前號ノ遺族ナキトキハ其ノ未成年ノ子女但シ成
年ナルモ廢殘者ニシテ自ラ生活スルコト能ハザ
ル者ハ受領スルコトヲ得

三 前各號ノ遺族ナキトキハ其ノ未成年ノ孫
前各號ノ遺族ナキトキハ其ノ父母又ハ其ノ夫ノ
父母

四 前各號ノ遺族ナキトキハ其ノ祖父母又ハ其ノ夫
ノ祖父母

五 前各號ノ遺族ナキトキハ其ノ父同フスル未成
年ノ弟妹

六 前各號ノ遺族ナキトキハ其ノ父同フスル未成
年ノ弟妹

七 第一號ニ掲グル遺族死亡シ又ハ再嫁セルトキハ
其ノ恩給ハ第二號ニ掲グル遺族ニ於テ繼承受領
スルコトヲ得繼承受領者未成年ニシテ死亡シタ
ルトキハ第三號ニ掲グル遺族之ヲ受領スルコト
ヲ得

八 第一號ニ掲グル遺族死亡シ又ハ再嫁シタル場合
ニ於テ第二號ニ掲グル遺族ナキトキハ當該恩給

九七

ハ前各條ノ順序ニ從ヒ繼承受領スルコトヲ得但
 シ第二號以下ニ掲グル遺族ノ繼承ハ當該繼承者
 ヲ以テ限度トス

第十一條 遺族ニ支給スル扶助料ハ當該官吏死亡ノ
 月ノ翌月ヨリ之ヲ支給シ左ノ各號ニ掲グル事由ノ發
 生シタル月ヲ以テ之ヲ止ム

- 一 其ノ最モ幼少ナル子女成年ニ達シタルトキ
- 二 其ノ妻死亡シ又ハ再嫁シタルトキ
- 三 其ノ孫又ハ弟妹ノ中モ幼少ナル者成年ニ達シ
 タルトキ
- 四 其ノ父母若ハ祖父母又ハ夫ノ父母若ハ祖父母ノ
 死亡シタルトキ
- 五 廢殘ノ夫又ハ廢殘ノ成年子女自活ノ能力ヲ生ジ
 又ハ死亡シタルトキ

第十二條 本條例ニ依リ扶助料ヲ受ケベキ遺族數人
 有ルトキハ其ノ人數ニ依リ平等ニ之ヲ支給ス其ノ内
 ノ一人又ハ數人其ノ受領權ノ權限ヲ顯出テタルトキ
 ハ當該恩給ハ其ノ他ノ受領權者ニ分割給與スルコト

ヲ得

第十三條 官吏ニシテ公務ノ爲死亡シタルトキハ本
 條例第九條ノ規定ニ依リ恩給ヲ給與セララル場合ヲ
 除キ當該官吏ノ最終在職時ノ俸給ニケ月分ノ限度内
 ニ於テ其ノ遺族ニ一時賜金ヲ給與スルコトヲ得

第十四條 官吏在職三年以上十年未満ニシテ死亡シ
 タルトキハ其ノ最終在職時ノ二ヶ月分ノ俸給ヲ基準
 トシテ其ノ遺族ニ一時賜金ヲ給與スルコトヲ得

第十五條 本條例ニ掲グル官吏ノ在職年數ハ就職ノ
 月ヨリ起算シ退職ノ月迄トス退職後再任シタルトキ
 ハ前在職月數ヲ加算スルコトヲ得但シ刑罰處分又ハ
 懲戒處分ニ依リ免官セラレ後再任官シタル者ハ此
 ノ限ニ在ラズ

第十六條 恩給受給權ハ之ヲ差押へ讓渡シ擔保ニ供
 シ又ハ之ヨリ租稅ヲ徵收シ若ハ一切ノ借款ヲ扣除ス
 ルコトヲ得ズ

第十七條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

縣知事任用條例

民國二十七年十一月九日

第一條 縣知事ノ任用ハ省民政廳長ヨリ省政會議
 ニ提出シテ議決シ省長ヨリ内政部ニ申請シ行政院經
 由維新政府ニ轉呈シテ之ヲ任命ス
 省長ニ於テ所定ノ手續ヲ經ズシテ任命シタル縣知事
 ハ三月以内ニ前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第二條 年齡三十歳以上ニシテ左ノ資格ノ一ヲ具
 フル者ハ之ヲ縣知事ニ任用スルコトヲ得

- 一 内政部縣政訓練所縣知事組ヲ卒業シタル者
- 二 國內、外大學、獨立學院及專門學校ノ法律、政
 治、經濟及社會ノ各科ヲ研究シテ卒業證書又ハ
 其ノ他ノ證明書ヲ所有シ二年以上上選任官タリシ
 者ニシテ内政部ニ縣知事登錄ヲ申請シ合格シタ
 ル者(政府公報第四十二號ニテ本號申訂正)
- 三 三年以上選任官タリシ者ニシテ現任簡任官二人
 以上ノ證明ヲ得内政部ニ縣知事登錄ヲ申請シ合

格シタル者

第四條 縣知事ニ現任シ内政部ノ審查ニ合格シテ推舉セ
 ラレタル者

第三條 一年以上簡任官タリシ者ニシテ現任簡任
 以上ノ官吏二人ノ證明ヲ得内政部ニ縣知事登錄ヲ申
 請シ合格シタル者ハ縣政訓練所ニ入所セズシテ縣知
 事ニ任用スルコトヲ得

第四條 院及部ノ現任簡任官更ニシテ本院及部長
 官ニ於テ保證シ内政部ノ縣知事登錄ヲ經タル者ハ縣
 知事ニ任用スルコトヲ得

第五條 縣政訓練所縣佐治組ヲ卒業シ縣公署ニ三
 年以上服務シ内政部ノ審查ヲ經テ成績優良ト認メラ
 レタル者ハ縣知事ニ任用スルコトヲ得

第六條 左ノ事由ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ縣知事
 ニ任用スルコトヲ得ズ

- 一 公權ヲ濫用セラレタル者
- 二 六月以上ノ徒刑ノ宣告ヲ受ケタル者
- 三 公金ヲ費消シタル者

- 四 敢賄ニ因リ處罰セラレタル者
- 五 阿片又ハ其ノ他ノ代用品ヲ服用スル者
- 第七條 縣知事ノ任用順序ヲ分ケテ試用、及實任トス
- 第八條 縣知事ノ試用期間ハ一年トス
- 第九條 縣知事ノ心得期間ハ一年トシ試用期間満了後省長ニ於テ成績ヲ列舉シ意見ヲ附シテ内政部ニ申請シ其ノ審査ニ合格スルニ非ザレバ心得ト爲スコトヲ得ズ
- 第十條 實任縣知事ハ任期ヲ三年トシ心得期間満了後省長ニ於テ成績ヲ列舉シ意見ヲ附シテ内政部ニ申請シ其ノ審査ニ合格スルニ非ザレバ實任ト爲スコトヲ得ズ
- 第十一條 縣知事ニシテ三年ノ任期満了シ成績優良ナルトキハ之ヲ重任セシムルコトヲ得
- 第十二條 縣知事ハ違法又ハ職務上ノ過失等ニ因リ懲戒又ハ刑事裁判ニ附セラレ法ニ依リテ停職又ハ免職ヲ受クベキ事由アルニ非ザレバ停職又ハ免職セラ

- ル、コトナシ
- 第十三條 縣知事ニ滿五年任シ且成績特ニ優秀ナル者ハ簡任職ニ升用シ又ハ簡任職ヲ以テ待遇スルコトヲ得
- 第十四條 縣知事ニシテ法ニ依リ停職又ハ免職ノ處分ヲ受ケ又ハ病死シタル者アルトキハ省政府ハ暫ク資格者ヲ派シテ代理又ハ心得トナスコトヲ得但シ内政部ニ申請シテ其ノ審査ヲ受クルコトヲ要ス
- 第十五條 縣知事ヲ代理セシメタルトキハ其ノ代理期間ハ三月ヲ逾ユルコトヲ得ズ
- 第十六條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

司法官任用暫行辦法

中華民國二十七年十二月二十三日(司法行政部令)

- 第一條 司法官ノ任用ハ暫行適用ノ法院組織法ノ規定ニ依ルノ外本辦法ノ定ムル處ニ依ル
- 第二條 左ノ資格ノ一ニ該當スル者ハ暫時法院及其ノ分院ノ列事又ハ檢察官ノ代理トシテ派遣スルコトヲ得
 - 一 司法官第一次試驗ニ合格シ未ダ第二次試驗ヲ受ケザル者
 - 二 國立又ハ最高教育行政機關ノ認定又ハ認可ヲ受ケタル國內、國外ノ大學、獨立學院、專門學校ニ於テ法律學科ヲ三年以上修學シ卒業證書ヲ取得シ曾テ司法機關列事又ハ承審員(編者註、縣長ヲ輔佐シ事件ヲ審理スル官吏)ニ二年以上歷任シ成績顯著ニシテ審査ニ合格シタル者
 - 三 前號ノ證書ヲ有シ曾テ高等以下ノ法院書記官ニ任セラレ記録事務ヲ掌理スルコト五年以上且成績

續顯著ニシテ審査ニ合格シタル者

- 四 第二號ノ證書ヲ有シ曾テ委任司法行政官ニ任セラレ民事事件ヲ五年以上處理シ成績顯著ニシテ審査ニ合格シタル者
- 五 第二號ノ證書ヲ有シ現在政府所管ノ各省臨時司法機關ニ於テ司法官トシテ六月以上勤務シ成績顯著ニシテ審査ニ合格シタル者
- 第三條 前條ノ暫時代理ノ期間ハ一年トス期間満了シタルトキハ所管長官ハ確實ナル考課表及業務成績表ヲ具シタル書面ヲ當該高等法院院長又ハ首席檢察官ニ提出シ高等法院院長又ハ首席檢察官ハ之ヲ再調査ノ上司法部ニ進達シ部ハ選衡委員會ニ交付シ審査セシム
- 前項ノ審査ヲ經成績優良ト認メタル者ハ試補ニ任用シ成績不良ナル者ハ之ヲ罷免ス
- 第四條 列事又ハ檢察官代理ヲ派遣セントスルトキハ其ノ資格又ハ成績ヲ選衡委員會ニ提出シ其ノ審査決議ヲ經ルコトヲ要ス

第五條 本辦法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

111

法院書記官任用暫行辦法

民國二十七年十二月二十三日司法行政部令

- 第一條 法院書記官ノ任用行院組織法ノ規定ニ依ルノ外本辦法ノ規定ニ依ル
- 第二條 左記資格ノ一ヲ有スル者ハ暫時法院書記官ヲ代理セシムルコトヲ得
 - 一 普通考試ニ合格シタル者
 - 二 縣司法處書記官ニ任シ成績優良ニシテ審査ニ合格シタル者
 - 三 委任以上ノ文官ニ任シ審査ニ合格シタル者
 - 四 專門以上ノ學校ヲ卒業シテ證書ヲ有シ審査ニ合格シタル者
 - 五 專門以上ノ豫科高級中學校舊制中學校ヲ卒業シテ證書ヲ有シ司法又ハ行政機關ニ服務シ審査ニ合格シタル者
 - 六 法院雇員ノ職ニ在リ民事、刑事、文書、會計、統計、監獄事務ヲ繼續三年以上職務シ成績優良ニ

シテ審査ニ合格シタル者

- 第三條 前條ノ代理期間ハ一年トシ滿期成績優良ナル者ハ改メテ試署又ハ補實ト爲ス
- 第四條 本辦法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

110

監獄官任用暫行辦法

民國二十七年十二月二十三日司法行政部令

- 第一條 監獄官ノ任用ハ監獄官任用條例ノ制定前ニ於テハ本辦法ニ依リ之ヲ行フ
- 第二條 甲種監獄典獄長ハ左記資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選任ス
 - 一 高等考試、監獄官考試ニ合格シ且ニ訓練期間満了シ又ハ規定ニ依リ訓練ヲ免除セラレタル者
 - 二 甲種監獄典獄長ニ任シ成績優良ニシテ審査ニ合格シタル者
 - 三 乙種監獄典獄長、甲種監獄ノ分監長、主科看守長及地方法院以上ノ看守所所長ニ八年以上任シ成績顯著ニシテ審査ニ合格シタル者
 - 四 司法官及薦任司法行政官ニ任シテ審査ニ合格シ且ニ監獄事務ヲ三年以上執務シ成績顯著ナル者
 - 五 國立又ハ最高教育行政機關ノ設立又ハ認可ヲ經タル國內外、大學、獨立學院、專門學校ニ於テ政

- 治、法律、社會、監獄等ノ學科ヲ三年以上履修卒業シテ證書ヲ有シ、且ニ委任司法行政官ニ任シ監獄事務ヲ五年以上執務シ成績優良ニシテ審査ニ合格シタル者
- 六 第五號ノ卒業證書ヲ有シ新監獄ニ於テ訓練期間満了シ監獄學科目ニツキテ專門書ヲ著シ司法行政部ノ審査ヲ經テ監獄官ノ指導又ハ參考ノ用ニ供スルニ足ルト認メタル者
- 第三條 乙種監獄典獄長、甲、乙兩種監獄分監長、主科看守長、看守所所長、所官、管獄員ハ左記資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選任ス。但シ第六號ノ資格ヲ有スル者ノ初任ノ場合ハ甲、乙兩種監獄ノ看守所所長、所官、管獄員或ハ乙種監獄ノ分監長及主科看守長ニ限ル
 - 一 普通考試、監獄官考試ニ合格シテ訓練期間満了シ又ハ規定ニ依リ訓練ヲ免除セラレタル者
 - 二 監獄練習員考試又ハ監獄官考試ニ合格シ新監獄ニ於ケル訓練期間満了シテ證書ヲ有シ曾テ監獄、

- 看レ所事務ヲ執務シタル者
- 三 委任典獄長、分監長、主科看守長、看守所、看守所所長、所官、管獄員ニ任シ成績顯著ニシテ審査ニ合格シタル者
- 四 委任司法行政官ニ任シテ監獄事務ヲ三年以上執務シ成績顯著ニシテ審査ニ合格シタル者
- 五 幹監學校監獄專修科又ハ最高司法行政機關ノ認可ヲ經タル監獄學校卒業シテ證書ヲ有シ監、所職員ニ任シ成績優良ニシテ審査ニ合格シタル者
- 六 候補看守長ニ二年以上任シ成績優良ナル者
- 第四條 教師及教師ハ師範學校、高級中學校又ハ舊制中學校卒業シ又ハ同等ノ學力ヲ有シ且文章、講演ニ秀テタル者ノ中ヨリ選任ス
- 第五條 醫士、藥劑士、技士ハ專門技術學校ヲ卒業シ又ハ同等ノ學力ヲ有シ且經驗ニ富メル者ノ中ヨリ選任ス
- 第六條 職業學校ヲ卒業シテ證書ヲ有シ且二年以上監獄事務ニ從事シ成績優良ニシテ審査ニ合格シ

- タル者ハ甲、乙兩種監獄ノ第三科主科看守長又ハ看守ニ任ズルコトヲ得
- 第七條 專門學ニ於テ法律、社會、監獄等ノ科ヲ一年中以上履修シ又ハ中學校以上ヲ卒業シテ證書ヲ有シ主任看守ニ三年以上任シ成績優良ナル者ハ司法行政部ニ申請シ其ノ認可ヲ經テ候補看守長ニ任ズルコトヲ得
- 第八條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ第二條乃至第七條各號ノ資格具ヲ有スルモ監獄官ニ任用スルコトヲ得ズ
 - 一 公權ヲ褫奪セラレテ未ダ復權セザルモノ
 - 二 公金ヲ毀損シテ未ダ完済セザル者
 - 三 收賄ニ關リ處罰セラレタル者
 - 四 鴉片又ハ其ノ代用品ヲ吸食シタル者
 - 五 精神病者
 - 六 不具又ハ身體康弱ニシ服務ニザル堪者
 - 七 破産ノ宣告ヲ受ケ未ダ復權セザル者
 - 八 共產黨ニ加入シタル者

第九條 初任又ハ陞任薦任典獄長及委任ノ監所職員ハ派署ヲ以テ始メトシ滿一年ヲ經過シ成績優良ナルニ非ザレバ委任監所職員ニ在リテハ實授得薦任監獄典獄長ニ在リテハ派署スルコトヲ得ズニスルニハ更滿一年ヲ經過實授スルコトヲ非得ス

第十條 監獄官ノ任用ハ司法行政部部長其ノ資格及成績ヲ甄用委員會ニ提出シ其ノ審査決議ヲ經之ヲ決定スヘシ

第十一條 各高等法院院長ハ第二條、第三條ノ各號ノ資格ヲ有スル者ヲ其ノ資格、成績及任ニ堪フベキ職務ヲ列記シ證明文書ヲ添ヘニ司法行政部部長ニ申請シ甄用委員會審議決議ヲ後之ヲ存記スルコトヲ得

第十二條、本辦法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

警察官任用暫行辦法

民國二十七年五月十二日(內政部部令)

一 警察官ハ法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外左ノ各款ノ規定ニ依リ之ヲ任用ス

二 簡任警察官ハ左ノ各號ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ內政部ノ内申ヲ俟テ之ヲ任命ス
 (一)曾テ簡任警察官ニ任セラレ成績顯著ナル者
 (二)曾テ三年以上簡任警察官ニ任セラレ成績顯著ナル者

三 薦任警察官ハ左ノ各號ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ所轄機關ニ於テ內政部ニ内申ノ上之ヲ任用ス
 (一)外國又ハ國內ニ於ケル正式ノ警官學校又ハ法政學校ヲ卒業シ警察行政事務ニ三年以上従事シタル者又ハ薦任警察官トシテ登記セラレタル者

四 委任警察官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ所轄機關ヲ任用シ內政部ニ報告ノ上査定ヲ請フベシ
 (一)外國及國內ニ於ケル正式ノ警官學校ヲ卒業シタル者
 (二)警察行政官試驗ニ及第シタル者
 (三)外國及國內ニ於ケル正式ノ法政學校ヲ卒業シ警察ニ關スル學識及經驗アル者
 (四)曾テ警察官ニ任セラレ服務繼續一年以上ニシテ成績顯著ナル者
 (五)曾テ委任文官又ハ軍官ニ任セラレ成績顯著ニシテ警察事務ノ經驗アル者

- 五 警務機關内ノ各警察隊長ニハ前二條ニ準據シタル有資格者ヲ任用スルノ外正式ノ軍官學校ヲ卒業シ警務ニ習熟シタル者ヲ登用ノ上任用スルコトヲ得
- 六 各警察機關ノ技術人員及普通事務人員(例ハ警官及會計、庶務係等ノ如キ)ハ專門技術者ヲ任用シ又ハ當該事務ヲ辦理スルニ付經驗アル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ他ノ警察事務ニ轉任セシムルコトヲ得ズ
- 七 警察官ヲ任用セントスルトキハ豫メ證明書類ヲ提出セシメ審査ニ合格シタル後之ヲ採用スルコトヲ得任用後其ノ資格經歷ニ虚偽アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ罷免シ部ヨリ警政各機關ニ通令ノ上將來ノ採用ヲ止ム
- 八 本辦法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

警士教習所章程

民國二十七年七月十八日

- 第一條 南京及各省警士ハ本章程ノ規定ニ依リ之ヲ訓練ス
- 第二條 南京警察廳、各省警務處及警局ハ各警士教練所ヲ設立シ各縣ハ必要ニ應ジ警務處ヲ設立スベシ
- 第三條 前項警士教練所ノ設立ハ内政部ニ申請シテ登錄ヲ受クベシ
- 第四條 教練所ハ警長ヲ養成スル爲メ警長班ヲ附設スルコトヲ得其ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第五條 教練所ニハ左ノ職員ヲ設ク
 - 一 所長一名ハ全所ノ事務ヲ管理シ合格者申ヨリ主管機關之ヲ選ビ内政部ニ申請シテ認可ヲ受クベシ但シ其ノ他ノ者ハ所長改メテ之ヲ兼任待遇トシ主管機關ニ於テ合格者申ヨリ之ヲ委用シ内政部ニ報告シテ登錄ヲ受クベシ

二 教務主任一名ハ所長ノ命ヲ承ケ所ノ教務ヲ管理シ主管機關ニ於テ合格員中ヨリ之ヲ委用シ内政部ニ申請シテ登錄ヲ受クベシ

三 教官及教員ハ各班三名乃至五名トシ學科ノ教授及實施方法ヲ分擔シ警察學識ニ富ミ且多年警職ニ在ル者ヨリ所長之ヲ選ビテ主管機關ニ申請シ之ヲ委任ス教官ハ所長之ヲ聘任シ主管機關ニ報告シテ登錄ヲ受クベシ

四 前項ノ教員ハ所在地ノ警察學識及經驗ヲ有スル現職警官ヲ以テ兼任セシムルコトヲ得但シ其ノ授課時間ハ每週六時間ヲ超ユルコトヲ得ズ

五 總隊長ハ一名、隊長ハ各班一名トシ所長ノ命ヲ承ケテ術科訓練及規律等ノ事ヲ掌リ主管機關ニ於テ合格者申ヨリ之ヲ委用シ内政部ニ申請シ登錄ヲ受クベシ但シ一班ノミヲ設クルトキハ總隊長ヲ設ケズ分隊長ハ各班三名乃至四名トシ所長ニ於テ合格者申ヨリ之ヲ選ビ主管機關ニ申請シ之ヲ委任ス

五 事務主任一名ハ所長ノ命ヲ承ケテ主管事務ヲ處
理シ所長ニ於テ之ヲ選ビ主管機關ニ申請シテ之
ヲ委任ス但シ班數ニ以下ナルモノハ之ヲ設置セ
ザルコトヲ得

六 事務員ハ三名乃至九名、書記ハ四名乃至十二名
トシ所長ノ命ヲ承ケテ事務ヲ處理シ所長ニ於テ
之ヲ奏用ス其ノ數ハ班數ヲ標準トシ主管機關ニ
申請シテ之ヲ決定ス

第五條 學警ニ採用セラルル者ハ確實ナル保證ア
リ且左ノ各款ニ該當スルコトヲ要ス
一 年齡二十歳以上三十歳以下
二 高級小學卒業又ハ高級小學卒業同等ノ學力ヲ
有スル者
三 體質強健ニシテ身長五尺二寸以上胸圍身長ノ約
二分ノ一ニ等シキ者
四 儀容端正言語明晰ナル者
五 視聽力銳敏ナル者
六 精神態度快活ナル者

第六條 左ノ各款ノ一ニ該當スル者ハ採用スルコ
トヲ得ズ
一 徒刑ノ宣告ヲ受ケ執行確定セル者
二 破産處分ヲ受ケ未ダ債務ヲ完済セザル者
三 持病又ハ特殊ノ嗜好ヲ有スル者
四 性質狂暴又ハ怯懦ナル者

第七條 學警ノ採用ハ先ヅ體格検査ヲ經ルベシ
第五條第三號乃至第六號ノ一ニ該當セス又ハ第六條
第三號及第四號ノ一ニ該當スル者ハ筆記試験及口頭
試験ニ應ズルコトヲ得ズ

第八條 學警採用ノ筆記試験科目左ノ如シ
一 國文
二 常識試験
三 智力試験
四 算術

第九條 口頭試験ハ筆記試験ノ主要科目及應試者
ノ學術經歷ニ付詳細ニ試験ナシ其ノ點數ハ全點數
ノ六分ノ一トシ之ト筆記試験點數トヲ合計シテ平均

六十點ニ滿ツル者ヲ以テ合格トス
第十條 未ダ入所訓練ヲ經ザル警士ハ選抜シテ入
所シ正式訓練ヲ受クベシ其ノ入所ヲ背セザル者ハ免
職セシムルコトヲ得

第十一條 教練所學警ノ衣食及書籍等ノ費用ハ所ニ
於テ之ヲ給與シ別ニ毎月四元乃至八元ノ手當金ヲ支
給ス故無クシテ中途退學スル者ハ實費ニ照シテ賠償
セシムベシ其ノ選抜入所シタル者ハ引續キ俸給ヲ受
クルコトヲ得但シ食費ハ之ヲ差引クベシ

第十二條 教練所ノ科目左ノ如シ
(甲) 訓育其ノ細目左ノ如シ
一 精神講話
二 長官訓話

(乙) 學科其ノ細目左ノ如シ
一 警察要旨
二 行政警察(保安警察、衛生警察、戶籍警察、
外來警察、消防警察等)
三 司法警察

(丙) 術科其ノ細目左ノ如シ
一 軍事教練
(一) 各個教練
(二) 分隊教練
(三) 小隊教練
(四) 中隊教練
(五) 陣中勤務大要
(六) 市街戰術

四 警察實務
五 非常警察(臨時警察、暴動處理、警衛連繫等)
六 警察法令(警察機關ノ組織系統及重要法令等)
七 送解別法
八 刑法大意
九 偵探學大意
十 社會概況
十一 警察地理
十二 軍事學大意
十三 外國語

一一一

(七) 武器ノ使用

二 應用技能

- (一) 捕擄術
- (二) 擲角
- (三) 劈刺
- (四) 簡易ナル救火術
- (五) 救急治療
- (六) 防空演習
- (七) 戰時警察勤務演習
- (八) 舟、車及馬車ノ運轉又ハ馬術

三 體育

- (一) 器械運動
- (二) 障礙運動
- (三) 圍術
- (四) 球技
- (五) 陸上競技

(丁) 課外講習其ノ科目左ノ如シ

一 實習

二 知名人士ノ講演

三 參觀

四 勤務講習

右ノ科目ハ地方ノ特殊事情ニ由リ増減又ハ變更ノ必要アルトキハ主管機關ニ申請シ其ノ認定ヲ受ケ、或ニ内政部ノ登錄ヲ受クルコトヲ要ス。科目ニシテ地方性ヲ有スルモノハ其ノ地ノ教材ヲ採用スルヲ以テ原則トス。

第十三條 教練ニ必要ナル課本ハ習ク各所之ヲ編纂シテ主管機關ニ提出スベシ主管機關ハ之ヲ内政部ニ轉報シ認可ヲ受クベシ

第十四條 教練所ノ學費ハ三月ヲ以ツテ卒業トス。必要ト認ムルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得ルモ合計六月ヲ超ユルコトヲ得ズ各所ハ三班ヨリ成リ各班ハ百名トス原則トシテ毎月一回入學試験ヲナスベシ

第十五條 卒業試験ハ計分法ヲ用ヒ各科分數平均滿六十分以上ノ者ヲ以テ及第トシ正當ニ補充ス其ノ成績九十分以上ノ者ハ警長ニ採用スルコトヲ得落第者

ハ所ニ留メ第二期補官ニ編入ス更ニ落第セル者ハ之ヲ除名スベシ

第十六條 學費ハ卒業前交替シテ所在地ノ警察機關ニ派駐シ一週間ノ實習勤務ヲナサシムベシ

第十七條 學費ノ卒業毎ニ所ハ人名簿ヲ作成シ主管機關ニ提出ス主管機關ハ内政部ニ轉報シテ登錄ヲ受クベシ

第十八條 教練所ノ經費ハ主管機關ニ於テ期ニ分チテ豫算ニ租入レ之ヲ支出ス毎月ノ支出ハ所長ニ於テ明細書ヲ作成シ主管機關ニ提出シテ審査ヲ受クベシ

第十九條 教練所事務及管理事項ノ細則ハ所長之ヲ立案シ主管機關ニ報告シ之ガ裁定ヲ受クベシ

第二十條 本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ内政部ハ必要ニ應ジ之ガ修正ヲナスコトヲ得

戰區警察機關長警察補暫行辦法

民國二十七年七月十八日內政部令

- 第一條 戰區內ノ新規ニ復活セル警察機關ノ長警察職務ニ任ズル者ハ本辦法ニ依リテ之ヲ募集補充スベシ
- 第二條 警士ハ左ノ各級ニ該當スル者ノ中ヨリ試驗ニ依リテ選アベシ
 - 甲 年齡二十歲以上三十五歲以下
 - 乙 高級小學卒業又ハ之ニ相當スル程度ノ者
 - 丙 身長五尺二寸以上ノ者
 - 丁 儀容端正且語明瞭ナル者
 - 戊 視聽力銳敏ナル者
 - 己 精神態度快活ナル者
- 第三條 左ノ各級ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ採用スルコトヲ得ズ
 - 甲 品行不良又ハ徒刑ノ執行ヲ受ケタル者
 - 乙 破産處分ヲ受ケ未ダ債務ヲ完済セザル者

一一四

- 丙 持柄又ハ特殊ノ嗜好アル者
- 丁 性質狂暴又ハ佻儻ナル者
- 第四條 警長ハ左ノ規定ノ一ニ該當スル者ヲ以テ之ニ任用スベシ但シ新規復活ノ警察機關ニ於テハ警察職務ニ任ズタルコトアリ且前第二條ノ規定ニ合スル者ハ年齡四十五歲以下ノ者ニ就キ試驗ヲ經テ之ヲ選任スルコトヲ得
 - 甲 警士ノ成績優良ナル者ハ級ヲ進ヒテ昇進ス
 - 乙 警長ノ正式訓練ヲ受ケタル者
- 第五條 今次事變ノ影響ニ依リ離職セル長警ニシテ年齡四十歲以下ノ者ハ原服務地ノ警察機關ノ登記ヲ本トシ選拔シテ採用ス但シ證明有リ且第三條各級ノ一ニ該當セザル者ナルコトヲ要ス
- 第六條 前條登記ノ長警ニシテ選拔試驗ニ合格シタル者ハ優先シテ之ヲ採用スベシ
- 第七條 本辦法ニ依リ採用セラレタル長警ニシテ未ダ勤務セザル者ハ其ノ地ニ於テ保證人ヲ立テ届出シルコトヲ要ス
- 第八條 本暫行辦法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

教育部臨時教員養成所規程

民國二十八年一月二日

- 第一條 本所ハ臨時ノ需要ニ適應スル爲高級及初級小學教員ノ養成ヲ以テ目的トス
- 第二條 本所ノ修業期間ハ本科ハ六月特科ノ短期訓練班ハ三月トス
- 第三條 本科ノ入學資格ハ中學卒業又ハ同等程度以上ノ學力ヲ有スル者タルコトヲ要シテ以短期訓練班ハ師範學校卒業生又ハ小學教員ニ任ズタル者タルコトヲ要ス
- 第四條 本所ニ所長一人ヲ置き教育部長ノ命ヲ承ケ所ノ事務ヲ管理
- 第五條 本所ニ左記職員ヲ置き教育管理事務ヲ分掌セシム
 - 教務主任一人、教務員一人、訓育主任一人、訓育主任二人、事務主任一人、事務員一人、會計員一人、書記四人、助理員四人、

以上ノ職員ハ所ニ於テ招聘シテ專任スル外教育部職員ヲ兼任セシムルコトヲ得

- 第六條 本所ハ各科專門家若干人ヲ招聘シテ夫々各科教授ニ任命ス
- 第七條 本所學生ハ試驗錄集ノ外省市機關ヨリ之ヲ推薦スルコトヲ得
- 第八條 本所學生ニ對シテハ所ヨリ食事、宿舎、制服ヲ給與スルノ外毎月本科十元、特科十五元推賞ヲ支給ス
- 第九條 本所ノ試験ヲ月次試驗學期試驗卒業試驗ノ三種ニ分ツ
 - 月考 毎月末ニ之ヲ行フ
 - 期考 三月毎ニ之ヲ行フ但シ特科並ニ本科第二期ニ在リテハ卒業試験ト合併シテ之ヲ行フ
- 第十條 本所ノ學生數ハ百六十名以內トシ男女各一組各四十人トス
- 第十一條 本所ノ課程ヲ甲、乙、丙ノ三種ニ分ツ
 - 甲 必修科目每週ノ時間數

一一五

國學三時間、體育三時間、教育學(併セテ教育宗旨ヲ宣明ス)三時間、各科教授法六時間、教育行政二時間、教育心理一時間、學校衛生一時間、日文三時間

乙 選修科目及每週ノ時間數
音樂二時間、美術二時間、勞作二時間、家政二時間

丙 討論科目及每週ノ時間數
歷史地理二時間、數學二時間、物理二時間、化學二時間、生物二時間

第十二條 學生ハ必修科目ノ外其ノ他ノ科目一科乃至二科ヲ選修スルコトヲ得

第十三條 每週ノ各組ノ授業時間數ハ三十二時間以内トス

第十四條 本所學生ニシテ各科ノ課程ヲ修了シ試験ニ合格シタルトキハ卒業證書ヲ授與ス

第十五條 本所學生ニシテ其ノ操行成績不良ナル者ハ卒業スルコトヲ得ス

第十六條 本所卒業生ハ教育部ニ教員合格證書ノ授與ヲ請求シ茲ニ各校ニ通令ヲ以テ優先シテ任用セシムルコトヲ得

第十七條 本規程ハ必要ニ應ジ所長ヨリ教育部ニ申請シテ之ヲ改正スルコトヲ得

第十八條 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

教育部臨時教員養成所細則

民國二十八年一月二日

第一條 本所ノ學生募集事務ニ關シテハ招生委員會ヲ組織シテ之ヲ辦理スベシ

第二條 本所學生ハ試驗募集ノ外江蘇、浙江、安徽ノ三省政府及南京、上海、杭州ノ三市政府ヨリ推薦シテ之ニ充ツルコトヲ得

第三條 本所ノ試驗募集事務ハ南京ニ於テハ部ニ於テ辦理スノ外各省、市政府及駐滬辦事處ニ委託シテ之ヲ辦理セシムルコトヲ得

第四條 各省、市ノ試驗選拔規則ハ各省、市政府ニ於テ適宜之ヲ定ム

第五條 受験志願者及保送推薦セラレルベキ中學卒業生及曾テ小學教員ニ任シタル者ハ思想純正、品行端正、身體強健ニシテ反檢官行ノ絶無ナル者ヲ以テ合格トス

第六條 受験生ハ本部駐滬辦事處ニ通行證ノ下附

申請スルコトヲ得採用者ハ保送書ヲ給シ保送上京シ部ニ到リタルトキハ到着ノ旨ヲ報告スルモノトス

第七條 學生ノ上京旅費ハ推薦機關ヨリ之ヲ支給ス

第八條 推薦及採用ノ各生ニ對シテハ各自携帶スル墨鏡、毛筆及寢具、衣服、靴下等ヲ除キ他ハ所ヨリ之ヲ支給ス

第九條 學生ノ携帶荷物ハ簡潔ナルコトヲ要シ禁令ニ違背シ又ハ不必要ナル物件ヲ持參スルコトヲ得ス

第十條 本所學生ハ同所ニ居住スルモノトシ男女宿舍ハ獨立シテ之ヲ設置ス

第十一條 本所職員ハ專任ヲ除キ部ニ於テ兼任スル者ニ對シテハ俸給ヲ支給セズ、但シ相當ノ手當ヲ支給ス

第十二條 本所ノ考試試驗ハ百點ヲ以テ滿點トシ、六十點以上ヲ及第トス但シ學期試驗及卒業試驗ニ在リテハ其ノ成績ノ計算方法下記ノ如シ

ノ學者ヲ招聘シテ課外講演ヲ爲スコトヲ得
第十八條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス、但シ必要
ニ應ジ所ヨリ部ニ申請シテ之ヲ改正スルコトヲ得

月次試験ノ成績ハ百分ノ六十ヲ占ム
學期試験成績ハ百分ノ四十ヲ占ム
第十三條 本所學生ニシテ學期試験ノ成績優秀ナル
トキハ下記ノ獎學金ヲ支給ス
本科第一位獎金三十元、第二位獎金二十元、第三位
獎金十元
特科第一位獎金五十元、第二位獎金三十元、第三位
獎金十元

第十四條 本所職員ノ俸給定額左ノ如シ
所長月俸四百元、交際費一百元
教務、訓育及事務主任各月俸二百元
教務、訓育、事務、會計員各月俸一百元
助理員、書記及小使ハ資格、成績ニ依リ支給ス

第十五條 本所各職員ハ兼任者ヲ除クノ外ハ均シク
全日所ニ於テ執務スルコトヲ要ス
第十六條 教員ノ俸給ハ毎時間四元乃至七元トシテ
計算シ毎月時間數ニ按シテ之ヲ支給ス

第十七條 本所ハ時間ニ按ジテ授業スルヲ除キ中外

司法行政部日直・宿直規則

民國二十七年十一月三日(司法行政部令)

第一條 本部ハ事務時間外ニ發生セル臨時事件處
理ノ爲メ日直及休日ニ於テモ職員ヲシテ當直セシメ
又毎日執務時間後モ職員ヲシテ當直セシム

第二條 日直ノ人員ハ二人トシ總務司長ニ於テ列
任職員中ヨリ交替ニ之ニ當ラシメ日直表ヲ作成シ次
長ニ提出シテ查閱ニ供スベシ宿直員ノ人數ハ八人ト
シ總務司長ニ於テ列任及職員中ヨリ之ヲ指定シ四組
ト爲シ交代ニ當直セシム

第三條 日直ノ時間ハ平時ノ法定事務時間ヲ以テ
標準トシ宿直時間ハ毎日事務終了ノトキヨリ翌日ノ
執務時間ニ至ル迄トス日直及休日ノ宿直時間モ亦
平日ト同シ

第四條 日直及宿直者ハ日直及宿直時間内ニ在リ
テハ本部ノ對内及對外ノ一切ノ事項ニ關シ適當且權
重ニ處理スベシ非常ノ事故有リタルトキハ緊急處分

ヲ爲スト共ニ處理ノ情況ヲ長官ニ報告スベシ

第五條 日直及宿直者ハ日直及宿直勤怠簿ヲ備ヘ
凡テノ收發文書及處理事項ヲ詳細ニ記載シ翌朝總務
司長ニ呈送シテ次長ノ查閱ヲ受クベシ

第六條 日直及宿直者ノ收發シタル電報ハ直ニ譯
譯シ電報寫紙ヲ用ヒテ四枚抄寫シ一枚ヲ原電ニ夾
入シ殘余ノ三枚ハ部ニ分送シ次長ノ查閱ニ供シ同時
ニ主管司長ニ其ノ旨通知スベシ秘密電報ハ祕書處ニ
於テ翻譯ノ上呈出スベシ

第七條 日直及宿直員ノ急要文書ノ收發ハ祕書事
項ヲ除キテハ原封ノ儘部次長ニ送呈スルモノノ外ハ
開封閱讀シタル後急要スト認メタルトキハ直ニ主
管司科長官ニ報告ノ上處理スベシ若シ指示又ハ專門
家ノ參加ヲ必要トスル場合ニ於テハ部次長ニ呈送シ
査定處理ヲ乞フト同時ニ所管司科長ニ報告スベシ

第八條 日直及宿直員ハ左ノ事項ニ對シ特ニ注意
スベシ
一 門、窓ノ閉鎖



警察制服條例

民國二十七年九月五日內政部令

- 第一條 警察官吏ノ制服ハ本條例ノ規定ニ依ル
- 第二條 制服地ハ綿織品又ハ毛織品トス
- 第三條 上衣ハ左ノ各款ニ依リ之ヲ作製ス
 - 一 樣式 學生服型長ズボン(圖參照)
 - 二 ボタン 徑七分ニシテ色ハ制服ト同シク革質圓形トス
- 第四條 帽子ハ左ノ各款ニ依リ之ヲ作製ス
 - 一 警官 上部硬質軍帽式前高後低ニシテ前部ノ高サハ帽脛端ヨリ上部迄三寸二分後部ノ高サハ帽脛ヨリ一寸八分色ハ衣ト同シク中央ニ圓形大徽章ヲ嵌ム(直徑一寸九分橫徑一寸六分)黒地ノ中央ニ國章ヲ置キ(凸形球狀實徑五分五角形)四周ヲ大ナル帽脛ヲ以テ圍ミ金絲ヲ以テ刻繡ス帽脛ニハ幅三分ノ金條ヲ勒任官ニハ三條委任官ニハ一條各々二分ヲ隔テ列任官ニハ一條ヲ卷ク

一一〇

- (圖參照)帽子ノ頸紐ハ革質黒色トス
- 長袴 帽式及帽子ノ紐ハ警官ニ同シ但シ徽章ハ銅質ヲ用フ(直徑一寸七分橫徑一寸五分)帽式ハ標識ヲ加ヘズ(圖參照)
- 警察隊長袴ハ鐵兜ヲ用フルコトヲ得消防隊長袴ハ銅帽ヲ以テ代用スルコトヲ得
- 第五條 ズボンハ西洋式シングル(圖參照)長袴ハ夏季中ズボンヲ用フルコトヲ得
- 第六條 外套ハ黒色裡面ハ藍色ニシテ長サ膝ヲ過ク(圖參照)
- 第七條 靴ハ革又ハ布製黒編上靴ニシテ上部ハ紐ヲ以テ之ヲ結ブ(圖參照)但シ消防隊長袴ハ長靴ヲ穿クコトヲ得
- 第八條 襟章ハ襟ノ兩端左右ニ之ヲ着ケ左右同長二寸五分幅一寸二分外端ハ兩角ヲ戔リ左ノ各款ニ區別シテ之ヲ作製スベシ
 - 一 警官 襟章ハ白圓子ノ硬ク裏打チタルモノヲ用ヒ左邊ニ所在地又ハ特別警察機關ノ簡名(例

ハ南京ハ南京ノ二字上海市ハ滬市ノ二字江蘇水師隊ハ蘇水師ノ三字ヲ綴ルガ如シ)字ハ銅質黃色ヲ用ヒ其ノ直接管轄地ノ警官(例ハ署長)ハ更ニ左邊地名ノ後ニ所在地ノ簡名(例ハ南京下關警察署長ハ南京ノ二字ノ後ニ下關ノ二字ヲ加フルガ如シ)ヲ附加ス右ニハ銅質五角四分徑ノ星ヲ附ク勒任官ハ紅星、委任官ハ金星、列任官ハ藍星トス其ノ區別左表ノ如シ(圖參照)

長袴 長袴ノ襟章ノ質ハ白色ノ折重ホ、襯トシテ削リタル儘ノ木ヲ挿入シ其ノ左邊ニ所在地簡名(例ハ南京警察署長ハ南京ノ四字、上海市警察署長ハ滬市浦東ノ四字、南京警察署長ハ滬市浦東ノ四字、各縣警察署長ハ縣名ヲ綴ルガ如シ)ヲ綴リ右邊ハアラビヤ數字ヲ綴ル學科ハ左ニ地名及學科ノ各字ヲ綴リ右ニアラビヤ數字ヲ綴ル請願長袴ハ左ニ地名及請願ノ各字ヲ綴リ右ニアラビヤ數字ヲ綴ル其

一一一

- 第九條 文字ハ均シク銅質黃色トス(圖參照)
- 第十條 抽屜ハ扁條式ノ糸ヲ以テ兩袖袖口ヨリ四寸ノ所ニ卷キ左ノ各款ノ區別ニ依リ之ヲ作製ス
 - 一 警官 抽ニ幅三分ノ金條ヲ勒任官ニハ三條委任官ニハ二條各々二分ヲ隔テ列任官ニハ一條ヲ卷ク(圖參照)
 - 長袴 抽ニ三分ノ絲條一本冬ハ黃色ヲ用ヒ夏ハ黒色ヲ用フ(圖參照)紳士ハ抽章ナシ
- 第十一條 武裝帶ハ革質黒色ニシテ下部ハ腰間ヲ束シ幅一寸八分長サ二尺八寸乃至三尺八寸首端ハ銅質ノ金具ヲ用ヒ尾端附近ハ各列七個宛二列ノ孔ヲ鑿ツ銅金具ヨリ三分ノ一距ル所ニ佩刀帶二條ヲ着ク長サ六寸乃至一尺六寸ニシテ一定セズ其ノ上下ニ銅質ニツケル鍍金ノ環鈎ヲ附ス上端ノ鈎ハ腰ノ帶ヲ連ホ下端ノ鈎ハ佩刀ヲ繫グ上部ハ右肩ニ斜ニ帶テ長短二帶ニ分チ長帶ハ一尺八寸乃至三尺六寸短帶ハ六寸乃至八寸ニシテ一定セズ兩帶ハ銅鈎ヲ以テ胸前ニ繋ギテ之ヲ帶ビ兩端ニ銅質環鈎ヲ附シテ腰帶ノ前後ニ連ル

(圖參照)

第十一條 警士ノ用フル腰帶ハ革質黒色ニシテ幅一
寸六分長サ二尺八寸乃至三尺八寸其ノ先端ノ鈎ハ銅
質ヲ用ヒ尾端ニハ七個乃至九個ノ孔ヲ鑿ツ

第十二條 脚絆ハ左ノ規定ニ依ル

一 警官 脚絆ハ革製黒色ニシテ警察官官長ノミ之
ヲ用フ

二 長警 脚絆ハ衣製深草緑色ニシテ其ノ短ズボン
ヲ着セルモノハ深草緑色ノ卷脚絆ヲ用フルモノ
トス

第十三條 制服ノ色ハ夏季ハ黄色又ハ白色ニシテ春
秋冬ハ黄ヲ用フ着換ヘノ時期ハ各地最高警察官之ヲ
定ム

第十四條 氣候ノ酷熱又ハ嚴寒ノ地方ニ在リテハ其
ノ帽式ハ各該地方最高長官ニ於テ本條例ヲ參照シ
別ニ之ヲ定ム但シ内政部ノ許可ヲ得テ登錄スルコト
ヲ要ス

第十五條 本條例ハ公布後二月内ニ之ヲ施行ス

判事檢察官律師書記官服制令

民國二十七年十一月二十一日司法行政部令

第一條 判事、檢察官及律師ノ制服式ヲ第一圖及
第二圖ノ如クシ色ハ黒ヲ用ヒ襟、袖及立襟ハ緑ヲ取
ル

第二條 制服ノ綠取ハ色ヲ以テ之ヲ區分ス

一 判事 織金

二 檢察官 紫絨

三 律師 黒絨

第三條 書記官ノ制服式ヲ第一圖及第二圖ノ如ク
ス但シ綠ヲ取ラズ

第四條 判事、檢察官、律師及書記官ノ制帽式ヲ
第三及第四圖ノ如クシ帽沿(鉢卷)ハ絨ヲ用ヒ色ハ黒
ヲ用フ側面及上端ノ縁ハ制服ノ綠取ノ色ノ如クス

第五條 制服、制帽ノ各材料ハ國產絹織品及毛織
品ヲ用フ

第六條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附圖省略)

露光量違いにより重複撮影

判事檢察官律師書記官服制施行令

民國二十七年十一月二十二日(司法行政部令)

- 第一條 判事、檢察官、律師及書記官ハ服制令施行後ニ於テハ臨席ノ際制服ヲ着用ス
- 第二條 判事、檢察官、律師及書記官ハ臨席着席後制帽ヲ脱ギテ机上ニ置クコトヲ得
- 第三條 裁判長又ハ判事ハ判決宣告ノ際起立者帽スルコトヲ要ス
- 第四條 判事、檢察官、律師及書記官ハ法庭外ニ於テ職務ヲ執行スルトキハ不服ヲ着用ス
- 第五條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四編 文書

露光量違いにより重複撮影

判事檢察官律師書記官制服施行令

民國二十七年十一月二十二日(司法行政部令)

- 第一條 判事、檢察官、律師及書記官ハ制服令施行後ニ於テハ、聽庭ノ際制服ヲ着用ス
- 第二條 判事、檢察官、律師及書記官ハ聽庭著席後制帽ヲ脱キテ机上ニ置クコトヲ得
- 第三條 裁判長又ハ判事ハ判決宣告ノ際起立著帽スルコトヲ要ス
- 第四條 判事、檢察官、律師及書記官ハ法庭外ニ於テ職務ヲ執行スルトキハ平服ヲ着用ス
- 第五條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四編 文書

第四編 公文

公文程式暫行條例

民國二十七年四月十八日(公布)

- 第一條 本條例ニ規定スル公文ノ類別左ノ如シ
一 令 法令ノ公布官吏ノ任免及指揮ヲ爲ス場合
之ヲ用フ
- 二 訓令 上級機關ニ於テ所屬下級機關ニ對シ諭飭
(諭旨)又ハ差遣ヲ爲ス場合之ヲ用フ
- 三 指令 上級機關ニ於テ所屬機關ノ出願ニ對シ指
示ヲ爲ス場合之ヲ用フ
- 四 委任令 官吏ヲ任命スル場合之ヲ用フ
- 五 呈 下級機關ニ於テ上級機關ニ對シ又ハ人民
ニ於テ官署ニ對シ陳請スル場合之ヲ用フ
- 六 公函 同級機關又ハ機關關係ナキ機關ノ公文往
復ノ場合之ヲ用フ
- 七 批 各機關ニ於テ人民ノ陳請事項ニ對シ可否
ヲ分別スル場合之ヲ用フ

第二條 公文ハ年月日ヲ明示シ且責任者之ニ署名

- 第三條 本程式施行後ハ從前各機關ニ於テ使用セ
ル公文用紙樣式・標點及符號ハ之ヲ廢止ス
- 第四條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



政府公法暫行條例

民國二十七年五月二日(公示)

第一條 政府ニ於テ公布スベキ法律、命令及公布ヲ要スベキ文件(法案)ノ發表ハ政府公報ニ依リ之ヲ刊行ス

第二條 政府公報編輯ノ種類左ノ如シ

一 命令

二 法規(凡ソ法律、條例、章程及各項單項法規等ハ均シク之ニ屬ス)

三 公牘(凡ソ訓令、指令、呈批公函公電、布告ハ均シク之ニ屬ス)

四 附錄雜件

第三條 政府公報ニハ廣告關テ附設スルコトヲ得共ノ收費辦法ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 各機關ニ於テ法規、章程、電文等ノ項ヲ引用スル場合ハ政府公報ヲ以テ公布セルモノニ依據スベシ

一一六

第五條 政府公報ハ當分ノ間每週一回之ヲ發行ス

第六條 政府公報ノ編輯、刊印、發行等ノ事務ハ總テ行政院印鑄局之ヲ辦理ス

第七條 各機關ニ於テ公布ヲ行フ文件ハ一括シテ之ヲ印鑄局ニ送付シ政府公報ニ登刊ス其ノ原件ニ過誤アルトキハ原機關其ノ責ニ任ズ

第八條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

司法公報暫行規則

民國二十七年十二月二十三日司法行政部令

第一條 司法公報ハ司法行政部秘書處之ヲ編輯印刷シ當分ノ間司法行政部總務司第四科之ヲ發行ス

第二條 司法公報ハ月報トス但シ必要アルトキハ臨時増刊ヲ出スコトヲ得

第三條 司法公報ニハ左ニ列記ノ事項ヲ登載ス

甲 命令

一 推新政府命令(司法行政及法律ニ關係アルモノ)

二 司法行政部命令

三 其ノ他ノ機關ノ命令(司法行政及法律ニ關係アルモノ)

乙 法規

一 推新政府ノ公布シタルモノ

二 司法行政部ノ公布シタルモノ

三 司法行政部所屬各機關ノ單行法規ニシテ部ニ

上呈シ決定施行セラレタルモノ

丙 公文

一 推新政府公文(司法行政及法律ニ關係アルモノ)

二 司法行政部公文

三 其ノ他ノ機關ノ公文(司法行政及法律ニ關係アルモノ)

丁 法律ノ解釋

戊 訴訟裁判

己 事件

一 各種統計報告表及圖式

二 司法行政ニ關スル計劃案及法律案

三 司法行政及法律ニ關スル重要著作翻譯文件

庚 附錄

一 世界的大事件ノ記錄

二 司法行政ニ關スル宣傳文件

第四條 公報ニ登載スベキ事項ハ發表済ノモノニシテ秘密ニ亘ラザルコトヲ要ス

一一七

- 第五條 公報ニ登載スベキ文件ハ各處ノ司科其ノ原稿ニ(登公報)ト捺印シ其旨記載シ之ヲ校正人ニ引渡スベシ校正人ハ直ニ之ヲ校正秘書處ニ送付シ秘書處規定ニ照ラシ之ヲ登載スベシ此ノ場合ニ於テ直接原稿ヲ送付スルコトヲ得ズ
- 前項ノ登載文件ノ外別ニ登載スベキ文件アリ秘書處ノ指示ヲ經テ謄寫ノ上送付ヲ請フ者アルトキハ各處ノ司科ハ前項ニ從ヒ處理スベシ
- 第六條 前條後段ノ文件ニハ夫々種類收受年月日及番號ヲ明記スベシ本件ニ附シテ登載スル文件亦同シ
- 第七條 送付ノ文件ハ毎月十日迄秘書處ニ之ヲ送付スベシ
- 第八條 法規長文ニ亙ルトキハ別ニ特別號ヲ出シ又ハ分割シテ之ヲ連續登載ス
- 第九條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

各縣縣政概況報告表

民國二十七年九月二日內政部令

- 一 表式計三枚ハ專ラ各縣ノ縣政處理概況報告ノ爲ニ之ヲ用フ
- 二 表紙ノ長短寸法ハ集錄ニ便セシムル爲總テ今次發表ノ樣式ニ依リ之ヲ作成スベシ
- 三 各縣ハ表式ニ依リ五部ヲ作製ノ上一部ヲ所轄道尹公署ニ呈送シ其ノ他ノ四部ハ民政廳ニ呈送スベシ
- 四 民政廳ハ送呈セラレタル表ヲ以テ合本四部ヲ作り申一本ハ廳ニ於テ之ヲ保管シ他ノ三本ハ之ヲ省政府ニ送付スベシ省政府ハ申一本ヲ保管シ他ノ二本ハ內政部ヲシテ之ヲ保管セシムベシ
- 五 各縣ノ報告表ハ左ノ各款ニ依リ之ヲ作成送付スベシ
 - (一)各縣公署ハ組織成立ト共ニ縣公署組織概況報告表ヲ作成送付スベシ
 - (二)各縣公署ハ各縣行政經費概算ノ裁定ヲ經タル後

縣行政經費概況報告表ヲ作成送付スベシ

- (三)各縣公署ハ現在ノ施政概況ニ付縣政概況報告表ヲ作成送付スベシ
- (四)各縣公署ハ毎月縣行政主要實施月報表五部ヲ作成シ主要實施政務ニ付豫定計畫及實施情況ヲ記載スベシ該表ハ次月十日迄ニ申一部ヲ所轄道尹公署ニ申四部ヲ民政廳ニ送付スベシ民政廳ハ之ヲ集錄呈送スベシ

第五編 警察、衛生

修正懲罰法

修正懲罰法

民國二十七年八月二十日

第一章 總則

- 第一條 本法ハ本法施行後ニ流警アル場合ニ之テ適用ス
- 第二條 本法及其ノ他法令又ハ法令ノ認ムル警察章程ノ正條ニ依ルニ非ザレバ如何ナル種類ノ行爲ト雖モ之ヲ處罰スルコトヲ得ズ
- 第三條 十四才未滿ノ流警者ハ之ヲ罰セズ但シ其ノ父兄又ハ養育人ニ告知シ責任ヲ以テ之ヲ監視セシム
- 第四條 前項ノ流警者ニシテ其ノ父兄又ハ養育人ヲ調査スルモ知ルニ由ナキトキハ其ノ年齢ニ依リ感化教育ヲ施シ又ハ養育院ニ送り教育スルコトヲ得
- 第五條 心神喪失ニ依ル流警者ハ之ヲ罰セズ但シ其ノ父兄又ハ監護人ニ告知シ責任ヲ以テ之ヲ監視セシム

前項ノ流警者ニシテ其ノ父兄又ハ監護人ヲ調査スルモ知ルニ由ナキトキハ事情ヲ酌量シ適當ナル病院又ハ場所ニ送付シ監護ヲ爲スコトヲ得

- 第五條 自己又ハ他人ノ緊急危難ヲ救護スル爲己ムコトヲ得ザル行爲ニ出テ流警ヲ爲シタル者ハ之ヲ罰セズ但シ其ノ行爲當テ過ケルトキハ本刑ノ四分ノ一又ハ二分ノ一ヲ減ジテ處罰スルコトヲ得
- 第六條 凡ソ人力又ハ自然力ノ迫害ヲ受ケ拒抗スル力ナク流警ヲ爲シタル者ハ之ヲ罰セズ
- 第七條 流警ノ未遂ハ之ヲ罰セズ
- 第八條 流警ニ因リ處罰ヲ受ケタル後六月以内ニ同一管轄地方ニ在リテ再犯ノ罪ヲ犯シタル者ハ本刑ノ四分ノ一ヲ加重シ之ヲ處罰ス三犯以上ノ罪ヲ犯シタル者ハ本刑ノ二分ノ一ヲ加重シ之ヲ處罰ス
- 第三條第一項及第四條第一項ノ流警者ガ其ノ父兄又ハ監護人ニ告知シタル後六月以内ニ同一管轄地方ニ在リテ再犯ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ父兄又ハ監護人又ハ監護人ヲ處罰スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル處罰ハ罰金ヲ以テ限度トス

第九條 違警行為ガ本法ニ掲グル行為ノ二以上ニ涉ルトキハ之ヲ各別ニ處罰ス

第十條 二人以上共同シテ違警行為ヲ爲シタル者ハ總正犯トシ各別ニ其ノ刑ヲ科シ正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トシ本刑ノ四分ノ一ヲ減ジテ處罰スルコトヲ得

第十一條 他人ヲ教唆シテ違警行為ヲ爲サシメタル者ハ教唆犯トシ正犯ニ準ジ教唆犯ヲ教唆シタルモノハ教唆犯ニ準ジテ論ス

第十二條 從犯ヲ教唆又ハ幫助シタル者ハ從犯ニ準ジテ論ス

第十三條 違警ノ刑ハ主刑及從刑トス
主刑ノ種類左ノ如シ
一 拘留 十五日以下一日以上
二 罰金 十五元以下拾錢以上
三 訓誡
從刑ノ種類左ノ如シ

一 沒收

二 營業停止

三 強制休業

第十四條 拘留ハ列定後警察機關ニ於テ之ヲ拘留ス

第十五條 違警事件ハ即時之ヲ判定スベシ但シ確實ニ調査繼續ノ必要アルトキハ保釋又ハ其ノ家族ニ責付スベシ

第十六條 罰金ハ列定後五日以内ニ之ヲ完納スベシ若シ納期ヲ逾ヘ完納ヲ肯ゼズ又ハ完納ノ力ナキ者ハ一元ヲ拘留一日ニ換算シテ之ヲ科シ其ノ一元ニ滿タザル場合ハ一日ニ計算ス

第十七條 沒收スベキ物件左ノ如シ
一 違警ニ供シタル物
二 違警ニ因リ取得シタル物

沒收スベキ物件ハ違警者以外ニ權利者ナキ物ニ限ル

第十八條 營業ノ停止ハ其ノ期間ヲ十日以内トス

第十九條 強制休業ハ同一違警行為ノ累犯者ニ之ヲ適用ス

第二十條 違警行為ニ因リ物品ヲ損壞又ハ滅失シタル者ハ法ニ依ル處罰ヲ行フノ外事情ヲ斟酌シテ賠償セシムルコトヲ得

第二十一條 違警行為ノ發覺前警察機關ニ自首シタル者ハ本刑ノ四分ノ一若ハ二分ノ一ヲ減ジテ處罰シ又ハ訓誡ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得但シ本法ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ被害者ニ對シテ首服シ警察機關ヲ經テ審訊セラルル者亦同ジ

第二十二條 違警者ノ素行、心情其ノ他ノ狀況ヲ審査シ本刑ノ四分ノ一又ハ二分ノ一ヲ酌量加重又ハ輕減シテ處罰スルコトヲ得

第二十三條 第九條ノ規定ニ依リ處罰スル者ノ拘留期間ハ三十日ヲ逾ヘ罰金ハ三十元ヲ逾ユルコトヲ得ズ

第二十四條 罰金ノ加減ニ因リ拘留一日ニ滿タズ罰金十錢ニ滿タザル場合ハ之ヲ免除スルコトヲ得

第二十五條 本法ニ於テ稱スル以下又ハ以上ハ俱ニ本數ヲ包含シテ計算ス

第二十六條 拘留ノ處罰ヲ受ケ拘留期間半ヲ過キ確實ニ悔悟ノ情アル者ハ之ヲ釋放スルコトヲ得

第二十七條 違警ノ現行犯ハ警察員ハ召喚狀ヲ所持セザル場合ト雖モ直ニ拘留スルコトヲ得但シ違警者重要事務ヲ有シ確實ニ其ノ住所氏名列明シ又逃亡ノ虞ナキ者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十八條 違警ノ嫌疑ニ因リ警察ノ拘引審問ヲ受クベキ者ハ召喚狀到着ノ日ヨリ三日以内ニ出頭スベシ若シ期日ヲ逾ヘ出頭セザルトキハ直ニ判定ヲ行ヒ法ニ依リ處罰スルコトヲ得

第二十九條 違警事件ノ起訴、告訴又ハ告發ノ期間ハ違警行為完了シタル日ヨリ六月トス
本法ニ依リ處罰ヲ受クル者判定ノ日ヨリ滿六月ヲ經

ルモ未ダ過期ヲ執行セラレザルトキハ之ヲ免除ス
第三十條 期間ハ二十四時内ヲ以テ一日トシ三十日
ヲ以テ一月トス

第三十一條 期間ノ初日ハ時刻ヲ計算セズ一日ヲ以テ
論ジ最終日ハ全一日ヲ開スルコトヲ要ス
第三十二條 拘留者ノ釋放ハ期間満了ノ日ノ翌日ノ午
前ニ之ヲ行フ

第二章 安寧ヲ妨害スル違背罰

第三十三條 左ノ各款ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタル
者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十五元以下ノ罰金ニ處ス
一 官廳ノ許可ナクシテ花火ノ製造又ハ販賣ヲ爲シ
タル者
二 人口稠密ノ場所ニ於テ花火ヲ打上ゲ又ハ火器ヲ
弄シタル者
三 火藥及爆發物ヲ發見シタルモ之ヲ警察機關ニ報
告セザル者
四 無防火家屋内ニ燃焼シ易キ物ヲ貯藏シタル者
五 官廳ノ許可ナクシテ凶器ヲ攜帶シタル者

一三四

六 詭言ヲ流布シタル者
七 人家ノ附近又ハ山林田野ニ於テ遊ニ焚火ヲ爲シ
タル者
八 水火又ハ一切ノ災變ニ際シ官廳ヨリ其ノ防護救
助ノ命令ヲ受ケルモ抗シテ服從セザル者
九 狂人、狂犬又ハ一切ノ危險ナル限額ヲ放任シテ
路上ヲ疾走セシメ又ハ人家、邸宅其ノ他ノ建築
物内ニ入ラシメタル者

第三章 秩序ヲ妨害スル違背罰

第三十四條 左ノ各款ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタル
者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十五元以下ノ罰金ニ處ス
一 法令規則ニ違反シテ商工業ヲ營ミタル者
二 法令規則ニ違反シテ劇場又ハ各種ノ遊覽場ヲ開
設シタル者
三 旅館ニシテ確實ニ投宿人刑罰法上重大犯罪行爲ア
ルヲ知ルモ之ヲ警察機關ニ密報セザル者
第三十五條 左ノ各款ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタル
者ハ十日以下ノ拘留又ハ十元以下ノ罰金ニ處ス

一 婚姻、出生、死亡又ハ移轉シタル場合ニ於テ法
令規則ニ依リ警察機關ニ之ヲ報告セザル者
二 建物ノ建築ヲ爲ス場合ニ於テ法令規則ニ依リ當
該所轄機關ニ許可ノ出願ヲ爲サズ擅ニ工事ヲ興
シ又ハ官廳所定ノ圖面ニ違反シタル者
三 旅館、會館其ノ他ノ宿泊ニ供スル場所ニテ投
宿人ノ氏名、年命、原籍、住所、職業及往復地
方ノ記載ヲ爲サザル者
四 多集會合シ警察機關顧問スルモ事實ヲ陳述セズ
又ハ其ノ解散ヲ命ズルモ解散セザル者
五 變死者又ハ來歴不明ノ屍體ヲ發見スルモ官廳ニ
報告シ驗死ヲ經ズシテ私ニ埋葬又ハ他處ニ移轉
シタル者
旅館其ノ他人ノ寄宿ニ供スル場所ニシテ六月以
内ニ同一管轄地方ニ於テ前項第三款ノ規定ニ違
反スルコト三回以上ニ涉ル者ハ強制廢業セシム
ルコトヲ得

第三十六條 左ノ各款ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタル

一三五

者ハ五日以下ノ拘留又ハ五元以下ノ罰金ニ處ス
一 私有地界外ニ家屋、塙、小屋等ノ類ヲ建築シタ
ル者
二 家屋又ハ一切ノ建築物ノ狀態將ニ傾倒セントシ
官廳ニ於テ修理又ハ破壞ヲ督促スルモ遲延シテ
履行セザル者
三 路傍ノ植木、路燈又ハ公設物ヲ毀損シタル者
四 學校、博物館、圖書館及一切ノ展覽會場其ノ他
人ノ居住ニ供スル場所ニ於テ衆ヲ聚メ喧嘩シ禁
止セラルルモ之ニ從ハザル者
五 道路又ハ公共ノ場所ニ於テ濫リニ警笛ヲ吹キタ
ル者
六 道路又ハ公共ノ場所ニ於テ高聲放歌シテ禁止セ
ラルルモ之ニ從ハザル者
七 道路又ハ公共ノ場所ニ於テ泥酔シ喧嘩シ又ハ
ハ酔臥シタル者
八 道路又ハ公共ノ場所ニ於テ口論紛争ヲ禁止セラ
ルルモ之ニ從ハザル者

九 人ノ居住セザル家屋内ニ潛伏シタル者
十 出入禁止ノ場所ニ潛入シタル者
十一 深夜故ナク喧嘩ニ涉ル行爲ヲ爲シ又ハ高聲ニ
機器ヲ奏シ歌ヲ唱ヒタル者
十二 口實ヲ設ケテ隣々商店其ノ他營業ノ場所ヲ擾
亂シタル者
十三 官廳ニ於テ價格ヲ定メタル物ヲ値上シテ販賣
シタル者
十四 凡ソ人夫、傭工、車馬等ニシテ課メ賃額ヲ
定メラレタル後ニ於テ増給ヲ強要シ又ハ豫メ定
メザルモ後ニ至リ價額ニ依ル最高額以上ヲ要求
シ若ハ中途ニテ難辭ヲ付ケタルモノ
前項第十三號及第十四號ノ規定ニ違反シタルトキハ
其ノ値上ニ依リ得タル金錢ハ之ヲ沒收ス
六月以内ニ同一管轄地方ニ於テ第一項第十三號及第
十四號ノ規定ニ違反スルコト二回以上ニ涉ル者ハ停
業ヲ命ズルコトヲ得三回ニ涉ル者ハ情状ヲ斟酌ノ上
休業ヲ強制スルコトヲ得

第三十七條 茶屋、酒場其ノ他遊覽ノ場所ノ主人又ハ
支配人ニシテ警察機關所定ノ時間外ニ客ノ逗留ヲ許
ス者ハ十元以下ノ罰金ニ處ス
六月以内ニ同一管轄地域内ニ於テ前項ノ違反ヲ爲ス
コト二回以上ニ涉ル者ハ停業ヲ命ズルコトヲ得三回
以上ニ涉ル者ハ事情ヲ酌量ノ上休業ヲ強制スルコト
ヲ得
第三十八條 警察機關所定ノ時間外ニ茶屋、酒場其ノ
他ノ遊戯場ニ逗留シ警察官吏又ハ店舖ノ主人若ハ支
配人ノ退去勸告ヲ聽カザル者ハ五元以下ノ罰金ニ處
ス
第四章 公務ヲ妨害スル違警罰
第三十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタル
者ハ五日以下ノ拘留又ハ五元以下ノ罰金ニ處ス
一 私有地域内ノ通行ニ供スル場所ニ井戸又ハ穴等
有ル場合ニ於テ之ニ覆蓋又ハ防圍ヲ設ケザル者
二 公衆會合ノ場所又ハ海曲セル小道ニ於テ車馬ヲ
馳走セシメ又ハ路上ニ於テ競争ヲ爲シ阻止セラ
ルルモ之ヲ聽カザル者
三 各種ノ車輛規定ニ依リ設置シタル信號器ニ違ハ
ズ又ハ規定ニ依リ設置シタル人ノ揚示ニ違反シ
タル者
四 官廳ノ許可ヲ經ズシテ踏旁河岸等ニ店舖ヲ開設
シタル者
五 道路橋梁ノ表札類ヲ毀損シ又ハ一切ノ通行禁止
若ハ道路指針ノ標識類ヲ毀損シタル者
六 渡船橋梁等ニシテ一定ノ通行費ノ定メ有ルモ定
額以上ニ徵集ヲ行ヒ又ハ故意ニ通行ヲ阻止シタ
ル者
前項第六號ノ餘分ニ徵集シタル金錢ハ之ヲ沒收ス

第五章 誹謗及誇耀減價ノ違警罰
第四十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタル
者ハ十日以下ノ拘留又ハ十元以下ノ罰金ニ處ス
一 他人ノ違警ヲ誹謗シ又ハ誹謗ヲ爲シタル者
二 違警者ヲ誹謗スル爲故意ニ其ノ誇耀ヲ減價シ又
ハ偽証ヲ爲シタル者
三 違警者ヲ隱匿シ又ハ之ヲシテ逃走セシメタル者
前項第一號及第二號ノ規定ニ違反シタル者ニシテ本
件ノ判定前ニ自首シタル者ハ其ノ刑ヲ免除ス第二號
及第三號ノ規定ニ違反シタル者犯人ノ親屬ナル場合
ニ付亦同シ
第六章 交通ヲ妨害スル違警罰
第四十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタル
者ハ五日以下ノ拘留又ハ五元以下ノ罰金ニ處ス
一 郵便物又ハ電報ノ運送ヲ妨礙スルモ情状ノ輕微
ナル者
二 郵便專用物ヲ破損スルモ情状ノ輕微ナル者
三 電報電話ノ交通ヲ妨礙スルモ情状ノ輕微ナル者

第四十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタル
者ハ五日以下ノ拘留又ハ五元以下ノ罰金ニ處ス
一 私有地域内ノ通行ニ供スル場所ニ井戸又ハ穴等
有ル場合ニ於テ之ニ覆蓋又ハ防圍ヲ設ケザル者
二 公衆會合ノ場所又ハ海曲セル小道ニ於テ車馬ヲ
馳走セシメ又ハ路上ニ於テ競争ヲ爲シ阻止セラ
ルルモ之ヲ聽カザル者
三 各種ノ車輛規定ニ依リ設置シタル信號器ニ違ハ
ズ又ハ規定ニ依リ設置シタル人ノ揚示ニ違反シ
タル者
四 官廳ノ許可ヲ經ズシテ踏旁河岸等ニ店舖ヲ開設
シタル者
五 道路橋梁ノ表札類ヲ毀損シ又ハ一切ノ通行禁止
若ハ道路指針ノ標識類ヲ毀損シタル者
六 渡船橋梁等ニシテ一定ノ通行費ノ定メ有ルモ定
額以上ニ徵集ヲ行ヒ又ハ故意ニ通行ヲ阻止シタ
ル者
前項第六號ノ餘分ニ徵集シタル金錢ハ之ヲ沒收ス

第四十三條 左ノ各款ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル者ハ五元以上ノ罰金ニ處ス

- 一 渡船橋梁等ニシテ通行費ヲ支拂フベキ處ニ於テ定額ヲ支拂ハズ強ヒテ通行シタル者
- 二 路旁ニ商品、玩具又ハ食物等ノ類ヲ羅列シ阻止セラルルモ之ヲ隠カザル者
- 三 濫ニ糞ヲ糞キ橋梁堤防ヲ損壞セシメタル者
- 四 濫ニ路上ニ車馬ヲ置キ又ハ木石、薪炭其ノ他ノ物品ヲ堆積シ行人ヲ妨礙シタル者
- 五 河流ニ於テ恣ニ舟筏ヲ並べ又ハ木石雜物ヲ抛擲シタル者
- 六 道路ニ於テ馬ニ溜飲セシメ又ハ牽繫ヲ疎ニシテ行人ヲ妨礙シタル者
- 七 車馬ヲ並行セシメ人ノ妨礙ヲ爲シタル者
- 八 水路ヲ並航シテ通船ヲ妨礙シタル者
- 九 冰雪、塵芥、瓦礫、穢物等ノ類ヲ道路ニ投棄シタル者
- 十 道路ニ於テ遊戯シ禁止セラルルモ隠カザル者

- 十一 官廳ノ督促ヲ受クルモ道路ヲ掃除セザル者
- 十二 舟車ノ夜行ニ燈火ヲ點セズ又ハ裝備セル燈火ノ使用他人ノ行禮視線ヲ妨礙シタル者
- 十三 路燈ヲ消滅シタル者
- 十四 通行禁止ノ標示アル箇處ヲ擅ニ通行シタル者
- 十五 車ノ速力路局ノ規定シタル規則ニ違反シタル者
- 十六 交通總署ノ指揮ニ從ハズシテ車ヲ運轉シタル者
- 十七 踏軌ニ從ハズシテ車輛ヲ運轉シ又ハ規定ノ路線外ニ停車シ置キタル者

第七章 風俗ヲ妨害スル違背罰

第四十四條 左ノ各款ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ八十五元以下ノ罰金ニ處ス

- 一 遊蕩無賴ニシテ行跡ノ不良ナル者
- 二 猥褻物ヲ人ノ身體ニ加ヘタル者
- 三 勸進僧侶又ハ流民乞食ニシテ金錢物品ヲ強奪シタル者

タル者

- 四 賣淫又ハ其ノ媒介者ハ其ノ止留ヲ認容シタル者
- 五 賣淫婦ヲ召シテ止留セシメタル者
- 六 淫歌ヲ唱ヒ淫戯ヲ演ジタル者
- 七 道路又ハ公共ノ場所ニ於テ賭博類似ノ行為ヲ爲シタル者
- 八 奇異ノ服裝ヲ爲シ風俗ニ害アル者

第四十五條 左ノ各款ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ八十元以下ノ罰金ニ處ス

- 一 病及一切ノ公共雜物ヲ汚損スルモ情狀輕キ者
- 二 他人ノ墓碑ヲ汚損シタル者
- 三 衆人ノ面前ニテ人ヲ罵リ嘲弄シタル者
- 四 道路ニ於テ叫罵シ禁止ヲ聽カザル者
- 五 道路又ハ公共ノ場所ニ於テ赤身裸體ト爲リ又ハ放蕩ノ姿勢ヲ爲シタル者
- 六 道路又ハ公共ノ場所ニ於テ猥褻ノ言辭舉動ヲ爲シタル者

第八章 衛生ヲ妨害スル違背罰

第四十六條 左ノ各款ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ八十五元以下ノ罰金ニ處ス

- 一 官廳ノ許可ナクシテ毒質含有ノ藥劑ヲ販賣スルモ情狀ノ輕微ナル者
- 二 人口稠密ノ場所ニ於テ人糞ヲ乾燥セシメ肥料ヲ製造スル工場ヲ開設シタル者
- 三 人口稠密ノ場所ニ於テ一切ノ臭氣ヲ發スル物品ヲ晒シ又ハ糞ヲ禁止セラルルモ之ヲ隠カザル者
- 四 春藥墮胎藥ヲ販賣シ又ハ之等ノ廣告ヲ散布シタル者
- 五 符呪邪術ヲ以テ疾病ヲ治療スル者
- 六 六月以内ニ同一管轄地方ニ於テ前項第一號ノ規定ニ違反スルコト二回以上ニ渉ル者ハ之ヲ停業セシメ三回以上ニ渉ル者ハ休業ヲ強制スルコトヲ得

第四十七條 左ノ各款ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル者

- 者六十日以下ノ拘留又ハ十元以下ノ罰金ニ處ス
- 一 腐敗セル食物ヲ販賣シタル者
 - 二 蓋ヲ爲スベキ飲食物ニ蓋ヲ爲サズ陳列販賣シタル者
 - 三 衛生上有害ナル物質ヲ飲食物内ニ混入販賣シ不正ノ利益ヲ得タル者
 - 四 眞正ノ藥品ニ非ザル物ヲ販賣シタル者
 - 五 深夜人ノ危急ニ達フモ拒絶シテ藥ヲ賣ラザリシ者

- 一四〇
- ズ又ハ濫ニ停留シタル者
- 三 商業繁榮市街地ニ於テ濫ニ糞船ヲ停泊セシメタル者
 - 四 積物又ハ糞獸ノ骨骸ヲ人衆又ハ舟車ニ投スシタル者
 - 五 道路又ハ公共ノ場所ニ於テ大小便ヲ爲シタル者
 - 六 河岸路傍ニ濫ニ便所小便所ヲ設ケ又ハ積物ヲ堆積シタル者
 - 七 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シタル者
- 第九章 他人ノ身體財產ヲ妨害スル違警罰
- 第五十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十五元以下ノ罰金ニ處ス
- 一 人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ人ノ身體ヲ汚穢スルモ未ダ傷害ヲ與フルニ至ラザル者
 - 二 不正ノ目的ヲ以テ催眠術ヲ施シタル者
- 第五十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ十元以下ノ罰金ニ處ス
- 一 他人ノ所有ニ係ル牛馬及一切ノ動物ヲ解放シタル者

- ル者
- 二 蒸氣、電氣若ハ瓦斯ヲ逸漏セシメ又ハ遮斷スルモ未ダ公共ノ危險ヲ生ズルニ至ラザル者
 - 三 他人ノ緊留スル舟筏ヲ解放シ未ダ漂失スルニ至ラザル者
 - 四 貸借又ハ賃貸ヲ強制シタル者
- 第五十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタル者ハ五日以下ノ拘留又ハ五元以下ノ罰金ニ處ス
- 一 故ヲク人ニ面會ヲ強要シ又ハ他人ノ身邊ニ迫阻シ阻止スルモ聽カザル者
 - 二 故ヲク邸宅ノ表札、店舖ノ看板又ハ一切ノ合理ノ廣告ヲ毀損シタル者
 - 三 濫ニ人家ノ扉若ハ建築物ニ紙類ヲ貼リ又ハ塗繪ヲ書キタル者
 - 四 他人ノ地所内ニ於テ私ニ土塊石塊ヲ掘リタルモ情狀輕微ナル者
 - 五 他人ノ樹木、草花、野菜又ハ果物ヲ折リ取りタル者

- 六 他人ノ田圃ニ踏入り又ハ牛馬ヲ牽キ入レタル者
- 附 則
- 第五十三條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 一四一

治安警察暫行條例

民國二十七年十一月五日

- 第一條 行政官署ハ公共ノ安寧秩序ヲ維持シ及人
民ノ自由幸福ヲ保護スルタメ本條例ニ依リ治安警察
權ヲ行使スルコトヲ得
- 第二條 政治結社ノ責任者(支社ハ支社ノ責任者)
ハ社組織ノ日ヨリ五日以内ニ左ノ事項ヲ所在地警察
官署ニ届出ツルコトヲ要ス其ノ届出ノ事項ニ變更ア
リタルトキ亦同シ
- 一 名稱
- 二 章程
- 三 事務所
- 第三條 公共事務ニ關スル結社ニシテ政治ニ關係
ナキモノト雖最高主管官署ニ於テ届出ノ必要アリト
認メタルトキハ前條ノ規定ニ依リ届出テシムルコト
ヲ得
- 第四條 左ノ事由ノ一ニ該當スル者ハ政治結社ニ

一四二

- 加入スルコトヲ得ズ
- 一 公權ヲ褫奪セラレ未ダ復讐セザル者
- 二 未成年者
- 三 現役陸海空軍軍人
- 四 法官及警察官吏
- 五 僧侶道士及其ノ他諸宗教師
- 六 學生
- 七 外國人
- 八 無国籍者
- 第五條 最高主管官署ハ結社ニ對シ左ノ事由ノ一
アリト認メタルトキハ之ヲ解散セシムルコトヲ得
- 一 安寧秩序ノ擾亂ヲ陰謀シ實踐ヲ得タルトキ
- 二 其ノ他結社ヲ以テ名トシ善良ノ風俗ヲ害スル行
爲アリタルトキ
- 三 秘密結社ニシテ其ノ確證ヲ得タルトキ
- 第六條 政談集會ニシテ十人ヲ超過スルトキハ發
起人ニ於テ集會ノ二十四時間前ニ左ノ事項ヲ會場所
在地ノ警察官署ニ届出ツベシ

- 一 會場
- 二 年月日時
- 届出ノ日時ニ開會セザルトキハ其ノ届出ハ無効トス
- 第七條 警察官吏ハ集會ニ付左ノ事由ノ一アリト
認メタルトキハ其ノ講演ヲ中止シ又ハ其ノ解散ヲ命
ズルコトヲ得
- 一 集會ニ於ケル講演又ハ討論ニシテ公判ヲ經ザル
犯罪事件又ハ傍聽ヲ禁止シタル訴訟事件ニ涉リ
タルトキ
- 二 集會ニ於ケル講演又ハ討論ニシテ犯罪人ヲ煽動
シ又ハ曲庇シ又ハ犯罪人及刑事被告人ヲ賞賛シ
又ハ救護シ又ハ刑事被告人ヲ陷害シタルトキ
- 第八條 屋外集會、又ハ多衆若ハ群衆ノ運動遊戯
ノ發起人ハ集會ノ二十四時間前ニ左ノ事項ヲ集會地
所在地ノ警察官署ニ届出ツベシ但シ婚喪慶祭、宣講
所、學生ノ體操運動及其ノ他慣例ノ許スモノハ此ノ
限ニ在ラズ
- 一 場所

一四三

- 三 經過スベキ路線
- 第九條 警察官吏ハ屋外集會及多衆若ハ群衆ノ運
動遊戯ニシテ秩序ヲ紊亂シ又ハ公安ニ影響アリト
認メタルトキハ之ヲ制限シ又ハ禁止シ又ハ解散セシ
ムルコトヲ得
- 第十條 警察官吏結社ノ責任者、集會及屋外集會
又ハ多衆ノ運動遊戯ノ發起人ニ付尋問タルトキハ事
實ヲ以テ答フルコトヲ要ス
- 第十一條 政談集會、屋外集會又ハ多衆若ハ群衆ノ
運動遊戯ニ關シ警察官署ハ警察官吏ヲ會場ニ派遣シ
監視スルコトヲ得
- 第十二條 屋外集會又ハ多衆若ハ群衆ノ運動遊戯ノ
際警察官吏ハ武器ヲ携帯ヲ禁止スルコトヲ得
- 第十三條 集會及屋外集會又ハ多衆若ハ群衆ノ運動
遊戯ノ場合ニ於テ放テラニ喧擾シ又ハ狂暴ニ暴ル者ア
ルトキハ警察官吏ハ之ヲ制止シ其命ニ從ハザルトキ
ハ現場ヨリ退去セシムルコトヲ得

第十四條 法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニシテ
議事準備ノタメ相團結スル場合ハ第二條ノ規定ヲ適
用セズ

第十五條 法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準
備ノ目的ヲ以テ選舉權及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ
會同セシムル場合投票日前五日間ハ第六條ノ規定
ヲ適用セズ

第十六條 街頭其ノ他公衆ノ自由ニ往來スル場所ニ
於テ文書、圖畫ノ揭示額布又ハ朗讀若ハ放吟等言語
ニ依ル形容其ノ他一切ノ作爲ニ依リ安寧秩序ヲ紊シ
又ハ風化ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ警察官吏之
ヲ禁止シ又ハ其ノ印寫物品ヲ差押アルコトヲ得

第十七條 警察官吏ハ勞働者ノ聚集ニシテ、同盟罷
業、工賃增加ノ強要又ハ勞働時間短縮ノ煽動ノ虞ア
リト認ムルトキハ之ヲ禁止スルコトヲ得

第十八條 第二條ニ違反シタル者ハ三十元以下ノ罰
金ニ處シ不實ノ届出ヲナシタル者ハ四十元以下ノ罰
金ニ處ス

第十九條 第三條ニ違反シタル者ハ十五元以下ノ罰
金ニ處シ不實ノ届出ヲナシタル者ハ二十元以下ノ罰
金ニ處ス

第二十條 第四條ニ違反シテ政治結社ニ加入シタル
者ハ二十元以下ノ罰金ニ處ス入社ノ紹介ヲナシタル
者亦同シ

第二十一條 第五條各款ノ規定ニ違反シテ第五條各款
ノ結社ヲ組織シ又ハ之ニ加入シタル者ハ一年以下ノ
徒刑ニ處ス

第二十二條 第六條ニ違反シタル者ハ二十元以下ノ罰
金ニ處シ不實ノ届出ヲナシタル者ハ三十元以下ノ罰
金ニ處ス

第二十三條 第七條ノ中止又ハ解散ノ命ニ從ハザル者
ハ五月以下ノ徒刑又ハ五十元以下ノ罰金ニ
處ス

第二十四條 第八條ニ違反シタル者ハ十元以下ノ罰金
ニ處シ不實ノ届出ヲナシタル者ハ十五元以下ノ罰金
ニ處ス

第二十五條 第九條ノ制限、禁止又ハ解散ノ命ニ從ハ
ザル者ハ二十日以下ノ拘留ニ處シ二十元以下ノ罰金
ヲ併科ス

第二十六條 第十條ノ尋問ニ答ヘズ又ハ不實ノ答ヲナ
シ又ハ第十一條ノ監視ヲ拒絶シタル者ハ三十元以下
ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第十二條ニ違反シタル者ハ二十日以下ノ
拘留ニ處シ二十元以下ノ罰金ヲ併科ス

第二十八條 第十三條ノ退出ノ命ニ從ハザル者ハ十日
以下ノ拘留又ハ十元以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第十六條ノ禁止又ハ差押ノ命ニ從ハザル
者ハ二十日以下ノ拘留ニ處シ二十元以下ノ罰金ヲ併
科ス

第三十條 第十七條ノ禁止ノ命ニ從ハザル者ハ五月
以下ノ徒刑又ハ五十元以上五十元以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 本條例ニ依リ拘留及十五元以下ノ罰金ヲ
科スル事件ハ主管警察官署ニ於テ之ヲ專行ス

第三十二條 本條例ニ關スル公訴ノ時效ハ六月トス

第三十三條 本條例ノ施行期間ハ六月トス

第三十四條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

醫師暫行條例

民國二十七年十二月十五日

第一章 總綱

- 第一條 醫師法ノ公布セラレザル以前ニ在リテハ醫師ノ營業許可又ハ取締ハ本條例ニ依リテ之ヲ行フ
- 第二條 醫師ノ資格ヲ有スル者ハ内政部ニ於テ審査ノ上醫師證書ヲ下付ス其ノ認可ヲ經タルモ未ダ證書ノ下付ヲ受ケザル者ハ醫師ノ業務ヲ行フコトヲ得ズ

内政部ハ醫師ノ資格ヲ審査スル爲審査委員會ヲ組織スルコトヲ得其ノ章程ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 資格

- 第三條 年齡二十五歲以上ニシテ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ハ醫師證書ヲ下付テ申請スルコトヲ得
 - 一 國立又ハ政府認可ノ公立、私立醫學專門學校以上卒業シ卒業證書ヲ有スル者
 - 二 外國ノ官立又ハ政府ノ認可ヲ經タル私立醫學專門學校以上卒業シ卒業證書ヲ有スル者

一四六

- 門學校以上卒業シ卒業證書ヲ有スル者
- 三 外國政府ノ醫師證書ヲ有スル者
- 四 外國人ニシテ本國政府ノ醫師證書ヲ有シ外交部ノ證明アル者

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ資格ヲ有スルトキト建醫師證書ノ下付ヲ受ケルコトヲ得

- 一 三年以上ノ徒刑ニ處セラレタル者
- 二 禁治產者
- 三 心神喪失者

證書下付シタル後ニ右ノ事由發生シタルトキハ證書ヲ取消スベシ但シ第二號及第三號ノ事由消滅シタルトキハ再下付ヲ妨ゲザルモノトス

第三章 證書受領手續

第五條 醫師證書ヲ下付テ受ケムトスル者ハ證書費五元(印花稅法公布後ハ其ノ規定ニ依リ印花稅ヲ納付ス)及手札型半身寫真二葉ニ履歷書一通ヲ添附シ卒業證書及資格證明書類ト共ニ所在地ノ主管官署

經由内政部ニ申請シテ之ヲ受ケベシ

前項ノ手續ハ衛生局ノ設アル地方ニアリテハ衛生局ニ於テ主管機關ニ提出シ衛生局ノ設ナキ地方ニアリテハ警察機關ニ於テ主管機關ニ提出シ衛生局及警察機關ノ設ケナキ地方ニ在リテハ其ノ他ノ行政官署ニ於テ主管機關ニ提出シ各主管機關ハ毎月一括シテ之ヲ内政部ニ報告ス

外國籍ノ醫師ニシテ醫師證書ヲ下付テ受ケムトスルトキハ卒業證書及資格證明書類ヲ檢テ最寄該國領事ニ送付シテ審査ヲ受ケ證明書ヲ發給ヲ受ケタル後本條ノ手續ヲ履ムベシ

第六條 破損遺失其ノ他ノ事ニ因リ證書ノ再下付ヲ受ケムトスルトキハ確實ナル證明書類ヲ提出スルノ外證書費二元(印花稅法公布後ハ其ノ規定ニ依リ印花稅ヲ納付ス)ヲ納付スベシ

第七條 本條例施行前ニ於テ部コリ發行セル免狀ヲ有シ且第三條所定ノ資格ヲ有スルトキハ其ノ換證費二元(印花稅法公布後ハ其ノ規定ニ依リ印花稅ヲ

納付ス)ヲ納付シテ新證書ノ下付ヲ受ケルコトヲ得

其ノ取ニ地方官署ニ登録シテ免狀ヲ受ケルモ未ダ部ノ免狀ヲ有セザル者ハ仍本條例第五條ノ規定ニ依リテ部コリ發行スル證書ヲ受ケルコトヲ得

第八條 本條例施行後醫師ヲ開業スルモ部ノ發行スル證書ヲ有セザルトキハ主管官署ニ於テ期限ヲ定メ證書下付ノ申請ヲ爲サシムベシ

前項ノ開業醫師ニシテ命令ニ從ヒ部發行證書ノ下付ノ申請ヲ爲シタルモ未ダ其ノ下付ヲ受ケザル以前ニ於テハ該管官署ハ臨時證書ヲ發給シ其ノ營業ノ繼續ヲ許可スルコトヲ得

第四章 業務

第九條 醫師開業セムトスルトキハ部コリ下付テ受ケタル證書ヲ主管官署ニ提出シテ檢査ヲ受ケ登録ヲ請求スルコトヲ要ス

一四七

第十條 醫師ノ開業、廢業、復業又ハ移轉死亡等ノ事項ハ十日以内ニ本人又ハ其ノ關係人ニ於テ主管官署ニ報告スベシ



第十一條 醫師ハ自ら診察スルニ非ザレバ治療ヲ施

シ又ハ處方箋ヲ給與シ又ハ診断書ヲ交付スルコトヲ
得ズ其ノ自ラ屍體ヲ檢視スルニ非ザレバ死亡診断書
又ハ死産證明書ヲ交付スルコトヲ得ズ

死亡診断書及死産證明書ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第十二條 醫師業務ヲ行ハムトスルトキハ治療簿ヲ
備附ケ病人ノ姓名、住所、年齢、性別、職業、病
名、病歴(既往症)及其ノ治療法ヲ記載スベシ

前項ノ治療簿ハ五年間之ヲ保存スベシ

第十三條 醫師ノ處方箋ニハ左ノ事項ヲ明記スベシ

一 自己ノ姓名、住所、證書、登録番號及署名又ハ
捺印

二 病人ノ姓名、年齢、業名、業種、用法及年月日

第十四條 醫師ノ診察セル病人ニ對シ藥劑ヲ交付ス
ルトキハ容器又ハ包装上ニ用法、病人ノ姓名、自己
ノ姓名及診察所ヲ逐一明瞭ニ記入スベシ

第十五條 醫師ガ傳染病者ヲ診断シ又ハ其ノ死體ヲ
檢視シタルトキハ消毒方法ヲ指示シ主管官署ニ報告

スベシ

第十六條 醫師ガ屍體又ハ死産兒ヲ検査シ犯罪ノ疑

疑アリト認めタルトキハ二十四時間以内ニ主管官署
ニ報告スベシ

第十七條 醫師ハ正當ナル理由アル場合ヲ除クノ外
診断書、検査書又ハ死産證書ノ交付ヲ拒絕スルコト
ヲ得ズ

第十八條 醫師ハ其ノ業務ニ關シ虚偽又ハ誇張セル

廣告ヲ登載若ハ頒布スルコトヲ得ズ

第十九條 醫師ハ治療ニ關スル場合ノ外阿片、モル
ヒネ等ノ毒質藥品ヲ濫用スルコトヲ得ズ

第二十條 醫師ハ裁判、公安又ハ疾病豫防等ノ必要

ニ依リ主管法院、警察機關又ハ行政官署ノ委託ヲ受
ケタルトキハ之ヲ協助スルノ義務ヲ負フモノトス

第五章 懲 戒

第二十一條 醫師其ノ業務ニ關シ不正ノ行為アリ又ハ

精神ニ異常アルトキハ主管官署ニ於テ地方醫師公會
ヲシテ審議セシメタル後暫時營業ヲ停止セシムベシ

第二十二條 本條例施行後未ダ部發行ノ證書ヲ有セズ

又ハ之ヲ取消サレ又ハ營業ヲ停止セラレタル者ハ業
務ヲ行フコトヲ得ズ之ニ違反スル者ハ五十元以上三

百元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

第二十三條 醫師取消處分ヲ受ケタルトキハ三日以内

ニ證書ヲ主管官署ニ返納スベシ其ノ單ニ營業停止ノ
處分ヲ受ケタルトキハ證書ヲ主管官署ニ送付シ同署

ニ於テ營業停止理由及期限ヲ該證書裏面ニ記載シタ
ル後之ヲ本人ニ返付シテ所持セシムベシ

第二十四條 醫師本條例ノ規定ニ違反シタルトキハ各

本條ニ規定セル制裁ノ外主管行政官署ニ於テ五十元
以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得其ノ業務ニ因リテ別法

ニ觸レタルトキハ法院ニ送致スベシ

第二十五條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

藥劑師暫行條例

民國二十七年十二月十五日

第一章 總綱

第一條 藥劑師法ノ公布セラレザル以前ニ在リテハ藥劑師ノ許可及取締ニ關シテハ本條例ノ規定ニ依リ之ヲ行フ

第二條 藥劑師ノ資格ヲ有スル者ハ内政部ニ於テ審査ノ上藥劑師證書ヲ下付ス未ダ證書ノ下付ヲ受ケザル者ハ業務ヲ行フコトヲ得ズ

藥劑師ハ醫師ノ處方箋ニ依リ調劑ヲ爲スノ外藥品ヲ製造、販賣又ハ管理スルコトヲ得

第二章 資格

第三條 年齡二十五歲以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ藥劑師證書ヲ下付テ申請スルコトヲ得

一 國立又ハ政府認可ノ公立、私立專門學校以上ノ藥學科ヲ卒業シ卒業證書ヲ有スル者

二 外國ノ國立又ハ政府認可ノ私立專門學校以上ノ

一五〇

藥學科ヲ卒業シ卒業證書ヲ有スル者

三 外國ニ於テ藥劑師證書ヲ得タル者

四 外國人ニシテ本國政府ノ藥劑師證書ヲ有シ且外
交部ノ證明ヲ得タル者

五 藥劑師考試ニ合格シ證書ヲ有スル者

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ資格
ヲ有スルトキト雖仍舊藥劑師證書ノ下付ヲ受ケルコト
ヲ得ズ

一 三年以上ノ徒刑ニ處セラレタル者

二 禁治產者

三 心神喪失者

證書ヲ下付シタル後ニ右ノ事由發生シタルトキハ隨
時證書ヲ取消スベシ但シ第二號及第三號ノ事由消滅
シタルトキハ再下付ヲ妨ゲザルモノトス

第三章 證書受領手續

第五條 藥劑師證書ヲ下付テ受ケムトスル者ハ證
書費五元（印花稅法公布後ハ其ノ規定ニ依リ印花費
ヲ納付ス）及手札型中身寫眞二葉ニ照原書一通ヲ添

（卒業證書及資格證明書類ト共ニ所在地ノ主管官署
經由内政部ニ申請シ之ヲ受ケベシ）

前項ノ手續ハ衛生局ノ設アル地方ニ在リテハ衛生局
ヨリ主管機關ニ提出シ衛生局ノ設ナキ地方ニ在リテ
ハ警察機關ヨリ主管機關ニ提出シ衛生局及警察機關
ノ設ナキ地方ニ在リテハ其ノ他ノ行政官署ヨリ主管
機關ニ提出シ主管機關ハ毎月一括シテ之内政部ニ
報告ス

第六條 破損遺失其ノ他ノ事由ニ因リ證書ノ再下
付ヲ受ケムトスルトキハ確實ナル證明書類ヲ提出ス
ルノ外證書費二元（印花稅法公布後ハ其ノ規定ニ依
リ印花費ヲ納付ス）ヲ納付スベシ

第七條 本條例施行前ニ部ノ免狀（執照）ヲ有シ且
第三條所定ノ資格ヲ有スルトキハ換證書二元（印花
稅法公布後ハ其ノ規定ニ依リ印花費ヲ納付ス）ヲ納
付シテ新證書ノ下付ヲ受ケルコトヲ得其ノ單ニ地方
官署ニ登錄シテ免狀ヲ受ケ未ダ部ノ免狀ヲ有セザル
者ハ仍舊本條例第五條ノ規定ニ依リテ部ヨリ發行スル

證書ヲ受ケルコトヲ要ス

第八條 本條例施行後藥劑師ヲ開業スルモ部ノ發
行スル證書ヲ有セザルトキハ主管官署ニ於テ期限ヲ
定メ證書下付ノ申請ヲ爲サシムベシ

前項ノ開業藥劑師ニシテ命令ニ從ヒ部ノ證書下付ヲ
申請シタルモ未ダ其ノ下付ヲ受ケザル以前ニ於テハ
主管官署ハ臨時證書ヲ發給シ其ノ業務ノ繼續ヲ許可
スルコトヲ得

第四章 業務

第九條 藥劑師開業セムトスルトキハ部發行ノ證
書ヲ主管官署ニ提出シテ検査ヲ受ケ登錄ヲ請求スル
コトヲ要ス

第十條 藥劑師ハ一人ニシテ二箇處以上ノ藥房ノ
業務ヲ行フコトヲ得ズ支店ヲ開設セムトスルトキハ
別ニ藥劑師ヲ招聘シテ之ヲ擔任セシムルコトヲ要ス

第十一條 藥劑師ハ晝夜之間ハズ故ナクシテ處方箋
ノ調劑ヲ拒絕スルコトヲ得ズ

第十二條 藥劑師處方箋ヲ接受シタルトキハ處方箋

一五一



ノ日附、患者ノ姓名、年齢、薬名、薬量、用法及醫師ノ署名又ハ捺印等ノ各項ニ注意スベシ疑ハシキ點アルトキハ其ノ醫師ニ質シタル後ニ非ザレバ調劑スルコトヲ得ズ

第十三條 調劑ハ処方箋ニ依ルコトヲ要ス藥品備ハラズ又ハ缺乏シタルトキハ速ニ醫師ニ通知シテ其ノ變更ヲ請ヒ任意ニ省略シ又ハ他ノ藥品ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得ズ

第十四條 藥劑師ハ毒藥又ハ劇藥ヲ配伍スル處方箋ニ對シテハ醫師ノ通知アル場合ニ限り一回限り調劑スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ處方箋ハ藥劑師ニ於テ捺印シ調劑年月日ヲ記入シタル上三年間保存スルコトヲ要ス

第十五條 藥房ハ調劑簿ヲ備附ケ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 處方箋ニ所載セル各項
- 二 調劑年月日
- 三 調劑者ノ姓名
- 四 第十二條及第十三條ノ規定ニ依リ醫師ニ質シ又ハ變更ヲ請求シタル顛末

第十六條 藥劑師ハ藥劑ノ容器上ニ左ノ事項ヲ明記スルコトヲ要ス

- 一 處方箋上ニ記載セル患者ノ姓名及藥ノ用法
- 二 藥房ノ所在地、名稱又ハ調劑者ノ姓名
- 三 調劑年月日

第十七條 藥劑師ノ開業、廢業、復業、移轉及死亡等ノ事項ハ十日以内ニ本人又ハ其ノ關係人ヨリ主管官署ニ報告スベシ

第十八條 藥劑師業務ニ關シ不正ナル行爲アリタルトキハ主管官署ニ於テ適宜期間ヲ定メ其ノ營業ヲ停止セシムルコトヲ得但シ一年ヲ逾ユルコトヲ得ズ其ノ業務ニ因リテ刑法ニ抵觸シタルトキハ法院ニ送致シ且犯罪成立シタルトキハ直ニ藥劑師證書ヲ取消スモノトス

第十九條 藥劑師證書ノ取消處分ヲ受ケタルトキハ三日以内ニ證書ヲ主管官署ニ返納スベシ營業停止處分ヲ受ケタルトキハ證書ヲ主管官署ニ送付シ同署ニ於テ營業停止理由及期間ヲ證書ノ裏面ニ記載シタル後本人ニ返付シテ所持セシムベシ

第二十條 部發行ノ證書ヲ受ケズ又ハ證書取消又ハ停業ノ處分ヲ受ケタルモ尙藥劑師ノ業務ヲ行ヒタル者ハ主管行政官署ニ於テ五十元以上三百元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

第二十一條 藥劑師ニシテ第四章ノ規定ニ違反シタル者ハ主管行政官署ニ於テ五十元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得第十九條ノ規定ニ違反シタル者亦同シ

附則

第二十二條 第三條各號ノ資格ヲ具ヘザルモ醫院又ハ藥房ニ於テ三年以上調劑業務ヲ行ヒ内政部又ハ其ノ他委託機關ノ考査ニ合格シタル者ハ審査ノ上藥劑生免狀ヲ受クルコトヲ得仍本條例施行前ニ部ノ發行セラル藥劑生免狀ヲ有スル者ニハ第七條ノ規定ヲ準用ス

藥劑生免狀ノ審査及下付ハ本條例施行ノ日ヨリ起算シ五年ヲ以テ限度トス

第二十三條 藥劑生ハ藥劑師ノ指定スル處方箋ヲ配合スルノ外自ラ毒藥品又ハ劇藥品ヲ製造シ又ハ處方箋以外ノ毒藥又ハ劇藥ヲ販賣スルコトヲ得ズ本條例ノ藥劑師ニ關スル規定ハ別ニ規定アル場合ヲ除クノ外藥劑生ニ之ヲ準用ス

第二十四條 醫師ハ自ラ藥劑ヲ調合シ以テ診療ノ用トナシ別ニ藥劑師證書ノ下付ヲ申請スルコトヲ要セズ但シ調劑業務及懲戒ニ關シテハ本條例ヲ適用ス

第二十五條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

助産士暫行條例

民國二十七年十二月十五日

- 第一條 助産士ヲラントスル者ハ内政部ノ認可ヲ經テ助産士證書ヲ受クルコトヲ要ス認可及證書ノ下付ヲ受ケザル者ハ助産ノ業務ヲ行フコトヲ得ズ本條例施行前ニ開業セル者ハ六月以内ニ本條例ノ規定ニ依リ助産士證書ノ下付ヲ申請スベシ
- 第二條 年齡二十歲以上ノ中華民國女子ニシテ左ノ資格ノ一ニ該當スル者ハ助産士證書ノ下付ヲ申請スルコトヲ得
 - 一 部ノ認可セル本國助産學校、產科學校又ハ產科講習所ノ二年以上ヲ卒業シ證書ヲ有スル者
 - 二 外國助産學校ニ於テ二年以上ヲ卒業シ證書ヲ有スル者
 - 三 本條例公布前部ノ發行シタル證書ヲ有スル者
 - 四 助産士考試ニ合格シ證書ヲ有スル者
- 第三條 左ノ事由ノ一ニ該當スル者ハ助産士證書ヲ下付スルコトヲ得ズ
 - 一 墮胎罪ヲ犯シタル者
 - 二 三年以内ノ徒刑ニ處セラレタル者
 - 三 禁治産者
 - 四 心神喪失者

一五四

- 書ヲ下付スルコトヲ得ズ
 - 一 墮胎罪ヲ犯シタル者
 - 二 三年以内ノ徒刑ニ處セラレタル者
 - 三 禁治産者
 - 四 心神喪失者
- 證書下付後ニ右ノ事由ノ發生シタルトキハ證書ヲ取消スベシ但シ第二號乃至第四號ノ事由消滅シタルトキハ證書ノ再下付ヲ妨ケズ
- 第四條 助産士證書ノ下付ヲ申請セムトスル者ハ證書費四元(印花稅法公布後ハ其ノ規定ニ依リ印花稅ヲ納付ス)トヘ(部ノ證書ヲ有スル者ハ證書費ヲ一元ニ減ズルコトヲ得)手札型半身寫眞二葉ニ履歷書二通ヲ添附卒業證書及其ノ他ノ資格證明書類ト共ニ所在地主管地方官署ニ提出シ民政廳又ハ特別市政府經由内政部ニ申請シテ審査ヲ受ケルベシ
 - 第五條 遺失又ハ毀損其ノ他ノ事由ニ因リ證書ノ再下付ヲ受ケントスルトキハ確實ナル證明書類ヲ提出スルノ外證書費二元ヲ納付スベシ

第六條 助産士開業セムトスルトキハ部發行ノ證書ニ手札型半身寫眞二葉ヲ添ヘテ主管地方官署ニ登錄ヲ申請スルコトヲ要ス登錄認可ヲ經ザル以前ニ於テハ營業ヲ開始スルコトヲ得ズ

廢業、復業、移轉又ハ死亡等ノ事情アルトキハ十日以内ニ本人又ハ其ノ關係人ニ於テ主管地方官署ニ報告スベシ

第七條 助産士ハ妊娠、產婦、褥婦、胎兒又ハ生兒ニ異狀アリト認メタルトキハ其ノ家族ニ告ゲテ醫師ヲ招キ診察セシムルコトヲ要シ自ラ處理スルコトヲ得ズ、但シ緊急ノ處置ハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 助産士ハ妊娠、產婦、褥婦、胎兒又ハ生兒ニ對シ外科又ハ產科ノ手術ヲ施行スルコトヲ得ズ、但シ消毒、瀉腸ノ施行及臍帶剪除ノ類ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 助産士ハ出產簿ヲ備付テ產婦ノ姓名、年齡、住所、出產回數、生兒性別、助産ノ經過及處置方法等ヲ詳細ニ記錄シ且五年間保存スルコトヲ要ス

第十條 助産士ハ毎月十日以前ニ前月分ノ助産人數ヲ表ニ記入シ主管地方官署ニ報告シ地方官署ハ毎月之ヲ一括シテ民政廳又ハ特別市政府經由内政部ニ轉報スベシ

第十一條 助産士業務ニ關シ不正ナル行為又ハ重大ナル過失アリタルトキハ刑法ノ規定ニ依リ刑罰處分ヲ受クルノ外地方官署ニ於テ證書ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトヲ得

第十二條 助産士ニシテ本條例第三條第二項及第十條ニ依リ證書取消處分ヲ受ケタルトキハ三日以内ニ證書ヲ主管地方官署ニ返納スベシ營業停止ノ處分ヲ受ケタルトキハ證書ヲ主管官署ニ送致シ同署ニ於テ停止理由及期間ヲ該證書裏面ニ明記シタル上本人ニ返付シテ所持セシメ滿期ヲ待チテ其ノ復業ヲ許可スベシ

第十三條 部發行ノ證書ヲ有セズ又ハ證書取消者ハ營業停止ノ處分ヲ受クルモ尙助産ノ業務ヲ行ヒタルトキハ主管地方官署ニ於テ百元以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一五五

- 第十條 助産士ハ毎月十日以前ニ前月分ノ助産人數ヲ表ニ記入シ主管地方官署ニ報告シ地方官署ハ毎月之ヲ一括シテ民政廳又ハ特別市政府經由内政部ニ轉報スベシ
- 第十一條 助産士業務ニ關シ不正ナル行為又ハ重大ナル過失アリタルトキハ刑法ノ規定ニ依リ刑罰處分ヲ受クルノ外地方官署ニ於テ證書ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトヲ得
- 第十二條 助産士ニシテ本條例第三條第二項及第十條ニ依リ證書取消處分ヲ受ケタルトキハ三日以内ニ證書ヲ主管地方官署ニ返納スベシ營業停止ノ處分ヲ受ケタルトキハ證書ヲ主管官署ニ送致シ同署ニ於テ停止理由及期間ヲ該證書裏面ニ明記シタル上本人ニ返付シテ所持セシメ滿期ヲ待チテ其ノ復業ヲ許可スベシ
- 第十三條 部發行ノ證書ヲ有セズ又ハ證書取消者ハ營業停止ノ處分ヲ受クルモ尙助産ノ業務ヲ行ヒタルトキハ主管地方官署ニ於テ百元以下ノ罰金ニ處ス
- 第十四條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



第六編 社會事業

第六編 社會事業

地方救濟院規則

民國二十七年八月十六日內政部令

第一章 總則

第一條 各省區、特別市、道尹、縣市及自治會ハ戰後流涕者ヲ救濟シ自救能力ナキ老幼男女不具廢人ヲ救養シ志志薄弱ニシテ墮落セル失業遊民ヲ收容シ併セテ貧民ノ健康ノ保護及貧民ノ生計ノ扶助ノ爲ニ各省區、特別市、道尹、縣市及自治會所在地ニ於テ本規則ニ依リ救濟院ヲ設立ス各區鎮等人口比較的多數ナル處ニモ亦情狀附酌ノ上之ヲ設立スルコトヲ得

第二條 救濟院ハ左ノ各所ヲ分設スルモノトス

- 一 養老所
- 二 孤兒所
- 三 託兒所
- 四 救養所
- 五 習藝所
- 六 避難民收容所

七 育嬰所

八 不具者收容所

九 施療所

十 金融所

十一 救恤所

十二 救災所

各縣市及區鎮救濟院ヲ設立スルトキハ前項ニ列舉セル各所ハ緩急ノ順序ニ從ヒ之ヲ設ケ又ハ其ノ地方ノ經濟狀態ヲ附酌シ合併シテ設置スルコトヲ得

第三條 救濟院ニ院長一名ヲ置キ院務ヲ總理セシメ副院長一名ヲ置キ院長ヲ補佐セシム院長及副院長ハ各省區ニ於テハ民政廳、各特別市ニ於テハ市政府、各縣市及區鎮ニ於テハ縣市政府ニ依リ當地ニ於ケル公正ナル人士者宿ノ申ヨリ之ヲ選任スルモノトス

第四條 救濟院各所ニハ主任一名、事務員若干名ヲ置キ所、事務ヲ管理セシム主任及事務員ハ院長又ハ副院長ニ於テ之ヲ選任シ主管機關ニ申告ノ上之ヲ

登録ス

第五條 救濟院ハ各所ノ情勢ニ應ジ教員、醫師、看護婦及調査員ヲ選任シ保母及使丁若干名ヲ雇用ス

第六條 救濟院ノ敷地ハ公共財産省市立、廟、親、塚、堂、廟宇、寺院其他ノ場所ヲ利用スルコトヲ得

第七條 救濟院基金ハ地方收入又ハ沒收セル逆産中ロリ之ヲ支出若ハ補助シ又ハ方法ヲ設ケテ之ヲ募集スルコトヲ得地方ニ存スル官立又ハ公立慈善機關ニシテ本規則第二條ノ各所ト同種ノモノハ存積スルコトヲ得但シ其ノ場合ハ名稱ヲ改メ救濟院ニ直屬セシムベシ

第八條 救濟院各所ノ基金ハ基金管理委員會ヲシテ之ヲ管理セシムベシ
基金管理委員會ハ地方方法團ヨリ公薦セラレタル委員若干名ヲ以テ之ヲ組織ス救濟院長及副院長ハ委員トス

第九條 救濟院基金ハ流用スルコトヲ得ズ

一五八

第十條 救濟院基金管理委員會ニシテ其ノ基金ヲ以テ不動産ヲ購入スル場合ハ主務機關ノ許可アルコトヲ要ス購入後之ヲ讓渡スル場合亦同ジ

第十一條 救濟院ノ經費ハ基金利息、寄附金、指定補助金、臨時收入等ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 私人又ハ私人團體ノ資金ヲ集メテ辦理スル地方慈善事業ハ之ヲ存積セシム但シ主務機關ニ於テ之ヲ整理監督スベシ

第十三條 年齢六十才以上ノ男女ニシテ自活能力及扶助養者無キ者ハ養老所ニ收養スルコトヲ得

第十四條 養老所ニ收養ノ老弱男女ハ身心ニ有益ナル課程ヲ教ヘ併セテ體質ニ依リ左ノ各種ノ作業ニ服セシム但シ老衰又ハ疾病ノ爲之ニ堪ヘ難キ者ハ之ヲ免除スルコトヲ得

一 室内作業
二 紡織及編物

三 簡單ナル書畫

乙 室外作業

一 家畜ノ飼養

二 植物ノ栽培

三 衣服ノ裁縫及洗濯

丙 簡單ナル造地工藝

丁 其ノ他體力ニ堪ヘ得ル作業

第十五條 養老所ハ收容者ノ心理ニ注意シ娛樂又ハ講演ヲ行ヒ其ノ生活ヲ調整スベシ

第十六條 養老所ハ左ノ設備ヲ備フベシ

- 一 教室
- 二 工作室
- 三 遊藝場
- 四 男子寢室 女子寢室
- 五 食堂
- 六 男子浴室 女子浴室
- 七 男子便所 女子便所
- 八 其ノ他適當ノ部屋

前項室及場所ハ情勢ニ應ジテ順次之ヲ設ケ清潔ヲ保持シ衛生ニ適合セシムベシ

第十七條 飲食及起居ハ規定ノ時間ヲ守リ衣服及寝具ハ隨時洗濯又ハ日光ニ當ツベシ

第十八條 疾病ニ罹リタル者ハ隨時治療所ニ送り其ノ患ヲ治療スベシ傳染病患者ハ之ヲ隔離スベシ

第十九條 死亡者ハ該所主任ヨリ院長又ハ副院長ヲ經テ公安局又ハ司法官廳ニ報告シ派遣員驗屍ノ後棺ヲ備ヘテ入棺スベシ親族者有ルトキハ廿四時間内ニ引取ラシムベシ期限ヲ逾ユルモ引取ラザルトキハ救濟院ニ於テ埋葬スベシ

死亡者ノ遺留セル私有物品ハ其ノ親族者ニ交付スベシ親族者ナキトキハ之ヲ公共財産ニ收納ス

救濟院ノ埋葬セル死亡者ハ其ノ姓名年齢及原籍ヲ石標ニ刻ミ墓前ニ立ツベシ

第三章 孤兒所

第二十條 年齢六才以上十五才以下ノ貧苦ニシテ親ル者ナキ男女ハ孤兒所ニ收容スルコトヲ得所内ノ設

一五九

備ハ第十六條ノ規定ヲ準用シ情狀ヲ酌量ノ上之ヲ處
理スベシ

第二十一條 前條ノ規定ニ依リテ入所セル幼年男女ハ
人ニ遺棄セラレ司法官署又ハ公安局ヨリ送ラレ養育
サルル者以外ハ均シク其ノ親族又ハ近隣者ノ事實保
證ニヨリ入所スルコトヲ得

第二十二條 孤兒所孤兒ハ年齢ニ依リ附近ノ適當ナル
學校ニ於テ費用ヲ免除ノ上修業セシムルカ又ハ其ノ
才能性質ニ從ヒ適當ノ工藝ヲ授クベシ

第二十三條 孤兒所ハ收養セル幼年男女ニシテ成年ニ
達シ出所セントスルトキハ適當ナル職業ヲ紹介スベ
シ

第二十四條 孤兒所ハ收養セル幼年男女ニシテ之ヲ養
子又ハ養女トセントスルコトヲ願フ者アルトキハ引受狀ト
共ニ確實ナル保證人二人ヲ立テシムベシ調査ノ結果
ニ因リ之ヲ許可スルコトヲ得
引受後虐待又ハ轉賣スルガ如キコトアラバ本人ヲ引
戻シタル上更ニ院ヨリ該引取人及保證人ヲ併セテ司

法官廳ニ送リ處刑スベシ

第二十五條 孤兒所ニ收養セル男女成年ニ達シ得セ
ル技能ニ依リ自ラ衣食ヲ圖リ又ハ結婚シタキ者ハ所
長ニ申出ツベシ所長ハ配偶者ヲ選擇シ又ハ入婿ニ適
當ナル者ヲ擇ビ先ツ紹介シタル後二三回面談セシメ
雙方共異議ナキ時ハ願書ヲ作り確實ナル保證人二名
ヲ立テ主婚親族ヲシテ同意狀及婚約證書ニ記入セ
シメ本所ニ於テ調査ノ上確實ト認ムルトキハ之ヲ許
可ス人民ヨリ嫁ニ娶リ入婿セシメントテ本所ニ申
請スル者アルトキハ正當ナル職業及二名ノ確實ナル
保證人アルコトヲ確カシ許可スベシ入婿又ハ嫁トナ
シタル後重婚又ハ替主又ハ轉賣シテ奴隸又ハ娼妓ト
ナシタルトキハ之ヲ引戻スノ外引取人及保證人ヲ同
時ニ司法官廳ニ送致シ處刑ニ處スベシ

前條及本條ニ依リ引取養育セル者及婚姻セル男女ハ
救濟院ニ於テ隨時之ヲ訪問シ監視スルコトヲ得

第二十六條 第十七條乃至第十九條ノ規定ハ之ヲ孤兒
所ニ適用スルコトヲ得

第四章 教養所

第二十七條 貧民ノ子女數多クシテ教養ヲ受ケ得ザル
場合ハ教養所ニ入所セシムルコトヲ得所内ノ設備ハ
第十六條ノ規定ヲ準用ス

第二十八條 前條ノ規定ニ依リ幼年男女ハ其ノ直系尊
屬ニ於テ來所申請シ併セテ親隣ノ正式證明書アルコ
トヲ要ス

第二十九條 教養所ニ收容セル幼年男女ハ年齢ニ依リ
級ヲ編成シ之ニ相當ノ課程及各種工藝ヲ教フベシ

第三十條 教養所ニ收容在留セル幼年男女ハ卒業
時ニ其ノ直系尊屬ヲシテ之ヲ引取ラシメ又ハ適當ノ
職業ヲ紹介シ又ハ上級學校ヘノ進學ヲ十分ニ扶助シ
又ハ所ニ留メテ任用スベシ但シ本人不同意ノ場合ハ
其ノ意志ニ從フベシ

第五節 習藝所
第三十一條 墮落青年ニシテ家産ヲ蕩盡シ一定ノ職ヲ
ク遊民トナリ又ハ思想惡化シ悔悛ノ情ナキモノハ之
ヲ習藝所ニ收容スルコトヲ得所内ノ設備ハ第十六條

ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 前條ノ規定ニ依リ入所スル青年ハ家族ノ
申請ニ依リ入所スルノ外司法官署又ハ警察局ヨリ之
ヲ送致スルコトヲ得

第三十三條 習藝所ハ收容青年ニ對シ其ノ才能性質ニ
基キ適當ナル工藝ヲ授クルコトヲ得已ニ技能ヲ備フ
ル者ハ更ニ之ヲ習熟セシメル方法ヲ設ケテ善導感化
スルノ外併セテ其ノ工賃ヲ定メ代ツテ貯蓄ヲ爲シ悔
悟出所ノ際元利合計シテ之ヲ交付シ以テ生計ヲ謀ラ
シメ又ハ適當ノ職業ヲ紹介スベシ

第三十四條 習藝所收容青年ノ出所後取締ノ必要アル
トキハ所在地行政官署ニ移送シ保安處分ニ付スベシ

第六章 不具者收容所
第三十五條 不具者廢人ニシテ扶養者無キ者ハ老幼男
女ヲ問ハズ不具者收容所ニ收容スルコトヲ得所内ノ
設備ハ第十六條ノ規定ヲ準用ス

第三十六條 不具者收容所ハ入所者ヲ肢體不具、盲及
啞ノ三種ニ分チ夫々左記課程中ニ於テ區別シ之ヲ選

授スベシ

- 一 千字課
- 二 各種手工
- 三 簡易算術及珠算
- 四 社會常識
- 五 音樂及歌曲
- 六 點字綴文
- 七 各種工藝

第三十七條 不具者ニシテ教育ヲ受ケタル後確實ニ自

活能力アル者ハ之ニ職業ヲ紹介シ出所セシムベシ

第三十八條 第十七條乃至第十九條ノ規定ハ不具者ニ

之ヲ適用ス

第三十九條 不具者ニシテ保護スベキ特設機關ナキ

場合ハ入所ヲ申請スルコトヲ得但シ飲食起居ハ務メ

テ之ヲ區別シ管理ニ易カラシムベシ

第七章 育嬰所

第四十條 貧苦及遺棄セラレタル男女嬰幼兒ハ之ヲ

育嬰所ニ收養スルコトヲ得所内ノ設備ハ第十六條ノ

一六二

規定ヲ準用スルノ外病室、哭室、食料分配室、裁縫室、

暖房室、衣服洗濯干物室、器具消毒室、衣服分配室、

醫藥室及日夜看護部總監檢査總部ヲ設クベシ

第四十一條 育嬰所雇用ノ嬰幼兒乳母ハ各々嬰兒一

名乃至二名ヲ受持タシム但シ院長又ハ副院長ノ許可

ヲ得テ代乳品ヲ用フルコトヲ得

第四十二條 嬰幼兒ニハ國語手工ヲ授課スルヲ以テ主

トシ別ニ多クノ有益玩具ヲ備付クベシ

第四十三條 滿六才以上ノ幼兒ニシテ父母ナキモノハ

孤兒所ニ收養ス但シ第四十四條ノ準用ヲ妨グズ其ノ

父母貧困ナル者ハ之ヲ收養所ニ送入スベシ

第八章 託兒所

第四十四條 勞働男子及婦女ハ家庭ノ世話ヲ省キ生産

能力ヲ増進セシムルタメ共ノ嬰幼兒及十才以下ノ幼

稚子女ヲ託兒所ニ寄託スルコトヲ得

第四十五條 第四十七條託兒所ハ定期託兒組ト臨時託

兒組トニ分ツ

第四十六條 臨時託兒組ハ日間寄託ト夜間寄託ト兩種

第五十二條 施療所醫士ハ醫術ニ長シ官署ノ許可證ヲ

有スル者ノ中ヨリ之ヲ聘任ス

第五十三條 施療所ニハ中醫師、西醫師、受付及待介

處ヲ設ク

甲 中醫師 國醫師

乙 西醫師

一 内科室

二 外科室

三 手術室

四 藥劑室

第五十四條 施療所ハ救濟院收容者又ハ赤貧無力者

ヲ除クノ外受付料ヲ徴收スルコトヲ得其ノ金額ハ主

管機關地方ノ狀勢ヲ參酌シテ別ニ之ヲ定ム

第五十五條 診療時間ハ毎日午前八時ヨリ十二時マデ

午後一時ヨリ五時マデトス但シ急患ノ場合ハ隨時診

療スルコトヲ要ス

第五十六條 西洋藥ハ施療所之ヲ備ヘテ使用シ費用ヲ

徴收セズ漢方藥ハ赤貧者ヲ除クノ外病人自ラ之ヲ購

一六三

ニ分テ當事者ヲシテ之ヲ選擇セシム但シ最輕微ノ費

用ハ之ヲ徴收スルコトヲ得

第四十七條 定期託兒所組ノ徴收スル費用ハ其地方ノ

情勢ニヨリ別ニ規定シ救濟院長許可ヲ得テ之ヲ行フ

第四十八條 託兒所ハ所ノ規定ニ依リ寄託サレタル男

女嬰幼兒ノ月數及幼稚子女ノ年齢ニヨリ組ヲ編成シ保

母及乳母ノ責任ニ於テ之ヲ保護セシムベシ

第四十九條 託兒所ハ搖籃、搖床、搖車、輦車、木

馬、革ボール等ノ玩具ヲ備付ケ特ニ浴室、哺乳室ヲ

設クベシ其ノ他ニ付キテハ第十六條及第四十條ヲ準

用ス

第五十條 託兒所寄託ノ嬰幼兒及幼稚男女ニシテ小兒

腦膜炎、痢瀉及流行病等急病ニ罹ルトキハ直ニ施療

所又ハ其ノ他ノ醫院ニ送り治療スルノ外速ニ其ノ家

族ニ通知スベシ

第九章 施療所

第五十一條 施療所ハ貧民ニ施療スルノ外衛生防疫ノ

行政ヲ補助ス

第五十七條 施療所醫士ハ病人ヨリ贈物ヲ受取ルコトヲ許サズ

第五十八條 施療所ハ衛生防疫ニ關スル行政ヲ補助シ主管機關ノ指揮ヲ受クベシ

第五十九條 毎年種痘時期ニハ施療所ノ責任ニ於テ種痘ヲナシテ告スルコトヲ要ス

第十章 金融所

第六十條 金融所ハ貧民ヲ救済シ營業資本ヲ貸與スルタメ之ヲ設ク

第六十一條 營業資本ナキ者金融所ヲ利用セントスルトキハ左ノ各款ノ規定ニ該當スルコトヲ要ス

一 年齢十五才以上ニシテ不良嗜好者タラザル者

二 正當營業ヲ營ミ又ハ禁マントシテ資本ナキ者

三 確實ナル商家ノ保證又ハ相當ノ保證人アル者

第六十二條 貧民ニ對スル營業資本ノ貸與モ亦前條ニ依ル

第六十三條 一人ニ對スル貸與資本額ハ十元以上三百

元以下トシ原則トシテ利息ヲ取ラズ

前項ノ貸與資本ハ適宜償還方法ヲ規定ス

第六十四條 當事者ノ要求アルトキハ資本ノ貸與ニ代

へ仕入商品耕牛又ハ農具等ヲ貸與スルコトヲ得

第六十五條 貸與セル資本ニシテ期限ヲ超ユルモ尚返還セザルトキハ保證人之ヲ代償スベシ

第六十六條 資本返還期ニ至リ返還不能ナル事情ノ已ムテ得ザルコト證明サルトキハ主任ヨリ院長ニ申請シ適宜處理スルコトヲ得

第六十七條 偽テ營業資本ヲ借リ營業ヲ爲サザル者ハ貸與資本又ハ商品ヲ返還セシムルノ外警察局ニ送致シ相當ノ處分ヲ爲スベシ

第六十八條 兵火、水旱其ノ他已ムテ得ザル災害ヲ蒙リ流離シテ住所ヲ失ヒ生活スル能ハザル難民ハ申請シテ難民所ニ入所スルコトヲ得

第六十九條 難民其ノ入所時ニ於テ事情ヲ調査シ禁制品攜帶ノ有無ヲ検査シ直ニ本人及家族ノ姓名、原

籍、年齢及攜帶セル荷物數ヲ區別シテ登記シ入所後ハ第七十條ノ規定ヲ準用ス

第七十條 難民ニシテ疾病ニ罹リ又ハ死亡セルトキハ第十八條及第十九條ノ規定ヲ準用ス

第七十一條 難民中ノ老幼男女ニシテ第二條各款ノ規定ノ一ニ該當スル者ハ轉送シテ收容、養育、管理教養ス但シ希望セザル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第七十二條 難民ニシテ第六十八條ニ記載セル事情消滅シタルトキハ之ニ旅費ヲ支給シテ原籍ニ復歸セシメ又ハ地方政府ニ申請シ送還開拓ニ送付シヌハ營業資本ヲ貸與スベシ

第七十三條 難民ニシテ他處ヨリ避難シ來レルトキハ其ノ人員ヲ明ニシ暫ク公共ノ場所若ハ空地ニ小屋掛セシメ又ハ之ヲ別チテ他ノ區域ノ難民收容所ニ收容セシムベシ此ノ場合ニ於テ第六十九條、第七十條、第七十一條及第七十二條ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第十二章 救災所

第七十四條 救災所ハ人民又ハ地方ニシテ水災、旱魃其ノ他不可避ノ災害ヲ蒙リタル場合迅速且適切ナル救助ヲ實施スベキモノトス

第七十五條 前條ノ規定ニ依リ救災所ハ消防、水害防

害、救生、漁田等ノ組ヲ設置スベシ

第七十六條 消防組ハ消防工人ヲ雇ヒ又ハ土地ノ接丁ヲ招募シテ訓練ヲ加へ火政及救護工作ヲ教フ但シ出勤毎ニ薄給ヲ給シ手押ポンプ蒸氣ポンプ及破壊器具等ヲ備フベシ

第七十七條 救生組ハ水性熟知ノ工人ヲ雇用シ訓練ヲ施シ救生技術ヲ教育シ救命艇救命浮子ヲ備フベシ

第七十八條 漁田組ハ技術人材ヲ招聘シ溝渠ヲ開鑿シ

漁既テ設計シ併セテ吸上ポンプ及此種ノ導水應器器具ヲ備フベシ

第七十九條 水害防禦組ハ木柱、砂岩、セメント等ヲ備へ土地民丁ヲ訓練シ堤防決潰時ニ於テハ直ニ之ヲ防禦スベシ

第八十條 水旱災害ニ當リテハ救災所直ニ之ヲ救済

スル外官米拂下及貧民失業救済事業ノ起工ヲ計畫施行スベシ

第十三章 救恤所

第八十一條 救恤所ハ金錢米穀及衣食ノ給與、棺材ノ施給及埋葬等ヲ爲ス

第八十二條 救恤所ハ不可避ノ災害及饑寒ニ遭過シ窮乏ニシテシテ救濟ヲナシ人数ニヨリテ米糧及衣服ヲ供給シ又ハ被災地ニ於テ直ニ米粥供給所ヲ設置シ饑饉ニ備フベシ

第八十三條 救恤所ハ冬寒甚甚ニ於テ調査ノ上赤貧者ニ對シ其ノ人数ノ多寡ニヨリ錢米及綿衣ヲ給與シテ救濟セシメ又ハ人口稠密ノ處ニ粥供給所ヲ設置シ貧民ノ饑饉ニ備フベシ

第八十四條 將ニ分曉セントスル貧窮ニシテ來所ノ上產糧給與ヲ求ムルトキハ之ニ五元以上十元以下ノ金錢ヲ給與シ滋養食品購買ノ資ト爲サシムベシ

第八十五條 赤貧ノ男女死亡シ埋葬者ナキ場合其ノ家族來所ノ上事情ヲ訴ヘタルトキハ棺ヲ給與シ代ツテ

公墓ニ安葬スベシ

第八十六條 公路死亡者ニシテ埋葬者ナキ屍ハ土地司法官署又ハ警察局長ニ申告シ驗屍ノ上代ツテ埋葬スベシ

第八十七條 救恤所ハ豫メ若干ノ單衣服及棺ヲ備ヘ救恤ニ應ズベシ

第十四章 附則

第八十八條 救濟院各所ノ收支項目及事務ノ實況ハ院長又ハ副院長ニ於テ毎月之ヲ公告シ別ニ豫算書收支對照表及日録事實記載表ヲ作成シ主管機關ニ提出シテ其ノ審査及許可ヲ受クベシ

第八十九條 救濟院各所ノ事務取扱細則ハ當該主管機關之ヲ制定ス

第九十條 救濟院基金管理委員會ノ組織及事務取扱ハ當該主管機關之ヲ制定シ内政部ニ報告スベシ

第九十一條 金錢又ハ不動産ヲ以テ救濟院ニ對シ義捐援助ヲ爲ス者ハ個人名義タルト私人團體名義タルトテ同ハズ主管機關ニ於テ之ヲ獎勵ス其ノ義捐額ト獎

勵ノ關係左ノ如シ

一 義捐額百元以上ノ者ニハ普通市縣署ヨリ署名入ノ横額ヲ贈呈ス

二 義捐額三百元以上ノ者ニハ道尹公署ヨリ署名入ノ横額ヲ贈呈ス

三 義捐額五百元以上ノ者ニハ各省民政廳ヨリ署名入ノ横額ヲ贈呈ス

四 義捐額千元以上ノ者ニハ省政府又ハ特別市ヨリ署名入ノ横額ヲ贈呈ス

五 義捐額三千元以上ノ者ニハ内政部ヨリ署名入リノ横額ヲ贈呈ス

六 義捐額五千元以上ノ者ニハ維新政府ヨリ署名入リノ横額ヲ贈呈ス

第九十二條 維新政府ヨリ贈呈スル獎勵ハ地方最高長官事實ヲ列記シテ内政部ニ報告シ調査ノ上省政府及民政廳ヨリ署名ヲ入レテ贈呈セラル獎勵ハ年末ニ於テ取纏メ内政部ニ報告シ登錄セラルベシ

第九十三條 已ニ獎勵ヲ受ケタル者ニシテ捐資ヲ續

行スルトキハ前後金額ヲ合計シタル上褒獎セラルベシ

第九十四條 募集ニ依ル捐資金額ガ第九十一條各款ノ金額ノ五倍以上ニ上ル者ニ於テハ本號ニ照シ署名入ノ額ヲ贈呈ス

第九十五條 動産又ハ不動産ヲ以テ捐助スル者ハ銀元ニ換算シテ計算ス

第九十六條 救濟事業ニ携ハルコト三年以上ニシテ功績アル者ハ地方最高長官ノ申請ヲ待チ内政部ニ於テ臨時之ヲ褒獎ス

第九十七條 華僑ニシテ私財又ハ團體ノ資ヲ以テ救濟院ヲ捐助シ以テ本國人民ヲ救濟セントスル者ハ各駐在地公使又ハ領事ノ申請ヲ待チ内政部ニ於テ臨時之ヲ褒獎ス

第九十八條 本規則ニ主管機關ト稱スルモノハ其ノ區別左ノ如シ

一 省政府所在地ハ民政廳ヲ以テ主管機關トス

二 特別市ハ特別市政府ヲ以テ主管機關トス

三 縣普通市區、鎮、鄉自治會ハ縣市公署ヲ以テ主
管機關トス

第九十九條 縣及普通市等ノ救濟院ノ組織、施設、報
告書等ノ事項ハ縣市公署ヲ經テ道尹公署ニ報告シ更
ニ民政部ニ轉送シテ裁定ヲ仰グベシ本規則ニ依リ内
政部ノ許可又ハ登錄ヲ受クルトキハ道尹公署ヨリ民
政廳ヲ經由シテ省政府ニ送付スベシ

第一百條 院務ニ携ハル者職ヲ懈怠シ又ハ公費ヲ私
シ又ハ職務ヲ濫用シテ自己又ハ第三者ノ利益ヲ計ル
トキハ人民ノ告發ニ依ルト主管理機關ノ發見ニ依ルト
テ問ハズ譴責減俸若ハ免職ノ處分ニ付シ又ハ司法機
關ニ送致シテ處罰スルコトヲ得

第一百〇一條 本規則ニ不備ナル點ハ内政部之ヲ修正
ス

第一百〇二條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

修訂捐資與學獎條例

民國二十八年二月八日

第一條 私有財產ヲ以テ學校、圖書館、博物館、
美術館、其ノ他ノ教育事業ヲ創立又ハ寄附シ若ハ獎
學金トナスコトヲ指定シタルトキハ本條例ニ依リ獎
學授與ヲ申請スルコトヲ得

第二條 金錢ヲ寄附シタルトキハ個人名義又ハ私
人團體名義ヲ用フルヲ問ハズ一律ニ其ノ寄附金額ニ
應ジ第三條ノ規定ニ依リテ各等ノ獎狀ヲ授與ス

第三條 獎狀五等ニ分テ其ノ給與ノ標準次ノ如
シ
一 寄附金一萬元以上ノトキハ一等獎狀ヲ授與ス
二 寄附金五千元以上一萬元未満ノトキハ二等獎狀
ヲ授與ス
三 寄附金三千元以上五千元未満ノトキハ三等獎狀
ヲ授與ス
四 寄附金一千元以上三千元未満ノトキハ四等獎狀

ヲ授與ス

五 寄附金五百元以上一千元未満ノトキハ五等獎狀

ヲ授與ス

第四條 凡ソ寄附金五百元未満ノモノニ付テハ其
ノ獎狀條例ハ各地方最高教育行政機關ニ於テ單行規
程ヲ定メテ處理シ教育部ニ報告スルコトヲ記録ス

第五條 四等以下ノ獎狀ヲ授與スベキトハ省教育
廳又ハ特別市教育局ニ於テ事實表簿及寄附金實證ヲ
作成添附シ省政府又ハ特別市市政府ニ申請シテ查明
ノ上授與シ年末ニ一括シテ教育部ニ報告スルモノト
ス

第六條 三等以上ノ獎狀ヲ授與スベキトキハ省教
育廳又ハ特別市教育局ニ於テ事實簿及寄附金實證ヲ
作成添附シ教育部ニ申請シテ查明ノ上授與ス

第七條 寄附金三萬元以上ノトキハ一等獎狀ヲ給
與スルノ外教育部ニ於テ年末ニ事實ヲ一括シ維新政
府ニ申請シテ公ニ之ヲ嘉獎ス十萬元以上ニ及ブトキ
ハ一等獎狀ヲ授與スルノ外教育部ニ於テ維新政府ニ

申請シテ公ニ之ヲ募集ス

第八條 國立大學附屬教育機關ニ金錢ヲ寄附シタルトキハ其ノ募集申請事項ハ大對ヨリ教育部ニ申請シテ審査ノ上處理ス

第九條 既ニ獎狀ヲ授與セラレタル者引續キ金錢ヲ寄附シタルトハ前後ノ金額ヲ合計シ等ニ按シ又ハ等ヲ越エテ獎狀ヲ授與ス

第十條 凡ソ寄附金ヲ募集シタル者ニ對シテハ本條例第三條ニ列記シタル各數ニ依リ其ノ十倍ヲ以テ計算シ夫々獎狀ヲ授與ス

第十一條 動産又ハ不動産ヲ以テ寄附シタルトキハ現金ニ換算シテ計算スルコトヲ得

第十二條 華僑ニシテ國外ニ於テ私財ヲ以テ學校及其ノ他ノ教育機關ヲ創立又ハ寄附シ以テ本國ノ子弟ヲ養成シタルトキハ駐外領事館ニ於テ事實表簿及寄附金實證ヲ作成添附シ教育部ニ申請シテ查明ノ上給與ス

第十三條 本條例ニ依リ獎狀ヲ授與シタルトキハ其

ノ寄附金ヲ收受スベキ教育機關ハ公立又認可ヲ經タル私立ノモニ限ル

第十四條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
獎狀圖樣及捐資與專事實表格式(省略)

捐資舉辦救濟事業獎條例

民國二十八年三月二十九日

第一條 義捐金ヲ以テ救濟事業ヲ爲ス者ハ本條例ノ規定ニ依リ之ヲ優獎ス

前項ノ救濟事業トハ救災、濟貧、養老、養孤兒及其ノ他ノ救助事業ヲ謂フ

第二條 私人名義タルト私人團體名義タルトハ均シクハズ義捐金ヲ以テ救濟事業ヲ爲ス者ハ均シク本條例ヲ適用ス

第三條 表彰ハ之ヲ左ノ三種ニ分チテ之ヲ爲ス
一 維新政府ニ於テ區額ニ題書シテ之ヲ給與スル場合
二 內政部ニ於テ區額ニ題書シテ之ヲ給與シ又ハ金
褒章ヲ給與スル場合
三 省政府又ハ特別市政府ニ於テ區額ニ題書シテ之
ヲ給與シ又ハ銀褒章ヲ給與スル場合

第四條 區額、褒章及獎狀ハ左ノ等級ニ分チテ之

ヲ給與ス

一 義捐金一萬元以上ノ者ニハ維新政府ニ於テ區額ニ題書シテ之ヲ給與シ內政部ニ於テ特等金褒章ヲ給與ス

二 義捐金五千元以上ノ者ニハ維新政府ニ於テ區額ニ題書シテ之ヲ給與シ內政部ニ於テ一等金褒章ヲ給與ス

三 義捐金一千元以上ノ者ニハ內政部ニ於テ題書セ
ル區額及二等金褒章ヲ給與ス

四 義捐金五百元以上ノ者ニハ內政部ニ於テ三等金
褒章ヲ給與ス

五 義捐金四百元以上ノ者ニハ省政府又ハ特別市政
府ニ於テ一等銀褒章ヲ給與ス

六 義捐金三百元以上ノ者ニハ省政府又ハ特別市政
府ニ於テ二等銀褒章ヲ給與ス

七 義捐金二百元以上ノ者ニハ省政府又ハ特別市政
府ニ於テ三等銀褒章ヲ給與ス

八 義捐金一百元以上ノ者ニハ省政府又ハ特別市政

府ニ於テ四等銀後章ヲ給與ス

第五條 題書セル匾額、褒章及獎章ハ左ノ手續ニ依リ之ヲ給與ス

一 維新政府ノ題書シテ給與スル匾額ハ内政部ヨリ行政院ニ申請シ更ニ維新政府ニ轉請シテ之ヲ給與ス

二 内政部ノ題書シテ給與スル匾額又ハ金褒章ハ省政府又ハ特別市政府ヨリ内政部ニ申請シテ之ヲ給與ス

三 省政府又ハ特別市政府ノ給與スル銀獎章ハ民政廳又ハ社會局ヨリ省政府又ハ特別市政府ニ申請シ之ヲ給與ス

第六條 自カラ救済事業ヲ爲シ其ノ成績顯著ナル者ニハ其ノ出資金額ノ第四條第三款ノ定額ニ滿タザル場合ト雖内政部ハ省政府又ハ特別市政府ノ申請ヲ待テ匾額ニ題書シテ之ヲ給與スルコトヲ得

第七條 私人又ハ私人團體ニシテ義捐金ヲ以テ救済事業ニ贊助スル者ハ第四條及第五條ノ規定ニ照ラ

シ之ヲ褒獎スルコトヲ得

第八條 私人又ハ私人團體ニシテ獨力ヲ以テ資金ヲ出シ救済事業ヲ爲ス者ハ省政府又ハ特別市政府ニ於テ人ヲ派シ成績確實ト認メタルトキハ其ノ救済範圍ノ廣狹ニ應ジ本條例ノ規定ニ依リ之ガ褒獎ヲ申請シ又ハ直ニ褒獎スルコトヲ得

第九條 申請ニ依リ省政府又ハ特別市政府ニ於テ褒獎ヲ給與スルトキハ受獎者ノ姓名、原籍、住所又ハ團體名及所在地ニ其ノ事蹟ヲ速記シ内政部ニ報告スベシ

第十條 褒章及獎章ノ形式ハ内政部ニ於テ之ヲ定ム

第十一條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七編 財政

府ニ於テ四等銀貨章ヲ給與ス

第五條 類書ニモル懸賞、褒章及製章ハ左ノ手續ニ依リテ之ヲ給與ス

一 諸省政府ノ題書シテ給與スル懸賞ハ内政部ヨリ行政院ニ申請シ更ニ諸省政府ニ轉請シテ之ヲ給與ス

二 内政部ノ題書シテ給與スル懸賞又ハ金貨章ハ省政府又ハ特別市政府ヨリ内政部ニ申請シテ之ヲ給與ス

三 省政府又ハ特別市政府ノ給與スル銀製章ハ民政廳又ハ社會局ヨリ省政府又ハ特別市政府ニ申請シテ之ヲ給與ス

第六條 自カラ救済事業ヲ爲シ其ノ成績顯著ナル者ニハ其ノ出資金額ノ第四條第三號ノ定額ニ請テ平ル場合ト雖内政部ハ省政府又ハ特別市政府ノ申請ヲ待テ同額ニ題書シテ之ヲ給與スルコトヲ得

第七條 私人又ハ私人團體ニシテ義捐金ヲ以テ救済事業ニ贊助スル者ハ第四條及第五條ノ規定ニ照ラ

シテ之ヲ褒奨スルコトヲ得

第八條 私人又ハ私人團體ニシテ獨力ヲ以テ資金ヲ出シ救済事業ヲ爲ス者ハ省政府又ハ特別市政府ニ於テ人ヲ派シ成績確實ト認めタルトキハ其ノ救済範圍ノ擴張ニ應ジ本條例ノ規定ニ依リテ之ヲ褒奨ヲ申請シ又ハ直ニ褒奨スルコトヲ得

第九條 申請ニ依リ省政府又ハ特別市政府ニ於テ褒奨ヲ給與スルトキハ受奨者ノ姓名、原籍、住所又ハ團體名及所在地ニ其ノ事實ヲ速記シ内政部ニ報告スルコトヲ得

第十條 褒章及製章ノ形式ハ内政部ニ於テ之ヲ定ム

第十一條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七編 財政

第 一 條

非常時期財政經濟擾亂取締條例

民國二十七年十二月十日

第一條 財政部ハ非常時期ニ於テ國內財政經濟ノ機構ヲ保護シ人民ノ意外ナル損失ヲ防止スルノ目的ヲ以テ特ニ本條例ヲ制定シテ之ヲ取締ル

第二條 左記各號ノ規定ヲ犯シタル者ハ五年以下ノ徒刑ニ處シ又ハ五千元以下ノ罰金ヲ科シ其ノ犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ沒收ス

一 財政部ノ許可ヲ得ズシテ私ニ金、銀、銅及銀貨、ニツケル貨、銅貨ヲ輸出シタル者

二 投機ノ目的ヲ以テ通貨及外國爲替ヲ買賣シタル者

三 財政及經濟ノ破壞ニ關スル謠言ヲ作製又ハ散布シタル者

四 財政經濟擾亂ノ目的ヲ以テ故意ニ政府ノ法令ニ違反シタル者

第三條 本條例ノ施行及廢止期日ハ財政部ニ於テ

命令ヲ以テ之ヲ定ム

金融機關取締條例

民國二十七年十二月十日

- 第一條 本條例ニ稱スル金融機關トハ其ノ名稱ノ如何ヲ問ハズ預金、貸付、割引又ハ爲替業務ヲ經營スル者ハ均シク之ニ屬ス但シ補助貨幣ノ兌換ヲ以テ業ト爲ス者ハ此ノ限リニ在ラズ
- 第二條 財政部ノ認可ヲ經ルニ非ザレハ金融機關ノ業務ヲ經營スルコトヲ得ズ
- 第三條 金融機關ヲ設立セムト欲スル者ハ財政部ニ對シ左記事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出シ財政部ノ認可ヲ經營業許可證ヲ受領スルコトヲ要ス
 - 一 名稱
 - 二 組織
 - 三 資本總額
 - 四 總行(本店)及分、支行(分、支店)
 - 五 營業範圍
 - 六 營業年限

一七四

- 七 決算期
- 八 創立人ノ姓名、原籍、住所
- 九 董事、監察人及經理ノ姓名、原籍、住所
前項ノ申請事項ノ變更アリタルトキハ財政部ノ認可ヲ受クベシ
- 第十條 財政部ハ金融機關ニ對シ統制上必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム
- 第十一條 金融機關ハ其ノ資產、負債ノ狀況及取引概要ヲ六月毎ニ財政部ニ報告スベシ
財政部ハ必要ト認メタルトキハ隨時報告ヲ提出セシメ及其ノ帳簿及財產ヲ検査スルコトヲ得
- 第十二條 本條例ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ徒刑又ハ三千元以下ノ罰金ニ處スコノ場合ニ於テ財政部ハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ認可ヲ取消スコトヲ得
- 第十三條 本條例ハ銀行法施行後之ヲ廢止ス
- 第十四條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

縣鄉水利經費國款補助貸與條例

民國二十八年二月六日

- 第一條 縣費ヲ以テ經營スベキ左記水利事項ニシテ經費不足ニシテ施行シ得ザルトキハ本條例ニ依リ國庫ヨリ之ヲ補助又ハ貸與スルコトヲ得
 - 一 堤防ヲ建造修理シ沈堆箇所ヲ疏導シ以テ水患ヲ防止スル事項
 - 二 水道ヲ開拓シ以テ灌溉又ハ排水ニ利スル事項
- 第二條 補助金ハ第一條第一號ノ事項ヲ實施スル場合ニ限リ之ヲ支給シ三等ニ分ツ
 - 一 施行事業ニシテ其ノ利害關係カ二縣以上ニ涉リ且工事費五萬元ヲ超過ストキハ一等トシ工事費全額ノ十分ノ三ヲ請求スルコトヲ得
 - 二 施行事業ニシテ一縣内ニ上ルト雖其ノ利害關係カ二縣以上ニ影響シ且工事費一萬元以上ヲ超過スルトハ二等トシ工事費全額ノ十分ノ二ヲ請求スルコトヲ得

一七五

- 三 施行事業ニシテ地方ノ利害ニ關係スルコト甚大ニシテ且工事費五千元以上ヲ超過スルトキハ三等トシ工事費全額ノ十分ノ一ヲ請求スルコトヲ得
- 第三條 貸與金ハ第一條第二號ノ事項ヲ實施スル場合ニ限リ之ヲ融資シ三等ニ分ツ
 - 一 施行事業ニシテ受益面積五十方里以上ニ涉リ且工事費一萬元ヲ超過スルトキハ一等トシ貸與金ヲ請求セルコトヲ得但シ其ノ金額ハ工事費全額ノ中ヲ超過セザルコトヲ要ス
 - 二 施行事業ニシテ其受益面積三十方里以上ニ涉リ且工事費五千元ヲ超過スルトキハ二等トシ貸與金ヲ請求セルコトヲ得但シ其ノ金額ハ工事費全額ノ十分ノ三超過セザルコトヲ要ス
 - 三 施行事業ニシテ受益面積十五方里以上ニ涉リ且工事費一千元ヲ超過スルトキハ三等トシ貸與金ヲ請求セルコトヲ得但シ其ノ金額ハ工事費全額ノ十分ノ二ヲ超過セザルコトヲ要ス
- 第四條 前條貸與金ノ弁済ニ充ツベ適當ナル經費

第九條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

ナキハ政府ハ赤済費金ナキトハ受益者ヨリ送年ヲ貢
撥金ヲ徵收シテ赤済ニ充ツベシヲ分チテ抽捐(稅捐
ノ徵收)シテ返但シ省政府ヲ經財政部ニ轉請スル
コトヲ要ス
前項ノ負擔金ハ毎年正稅ノ百分ノ二十ヲ超過スルコ
トヲ得ズ

第五條 貸與金ノ利息ハ年利五分ヲ超過スルコト
ヲ得ズ

第六條 本條例ニ依ル補助又ハ貸與ノ申請ハ省政
府ニ申請シ職員ヲ派シテ查明シ内政部ノ審査ヲ經ル
ニ非ザレハ認可スルコトヲ得ズ内政部ハ同時ニ財政
部ニ咨請スルコトヲ要ス
前項ノ補助金又ハ貸與金ハ内政部ニ於テ未タ豫算ニ
編入セザル以前ニ於テハ併行政院ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 各省政府ハ本條例ニ抵觸セザル範圍内ニ
於テ別ニ省經費ヲ以テ補助金ハ貸與金ノ辦法ヲ定ム
ルコトヲ得但シ内政部ニ咨請スベシ

第八條 全國水利法本條例ト異リタル規定アルト

江蘇、浙江、安徽三省ノ民國二十六年
分及歷年滯納丁漕並ニ附加稅未徵收
分ノ免除ニ關スル件

民國二十七年七月二十二日

江蘇、浙江、安徽ノ三省ハ去秋戰事發生シテヨリ災ヲ
被ルコト極メテ甚クシク流民道ニ溢レ滿目瘡痍タリ
加之土匪敗殘共ノ各處ニ現レ農村ヲ蹂躪シ經濟崩潰ス
誠ニ憂慮ニ堪ヘズ政府ハ善後策ヲ考察シ民困ヲ軫念シ
テ唯人民ノ負擔ノ輕減、元氣ノ早急恢復ヲ庶幾シ財政
部ヲシテ各省長ニ通告シテ速ニ未ダ徵收セザル二十六
年分及歷年滯納シタル丁漕並ニ附加稅ヲ一律ニ免除セ
シメ以テ川黎體恤ノ至意ヲ示サシム
此ニ令ス

第八編 學事、寺廟

大綱 學事 志願

關於教育宗旨之件

(民國二十七年五月三十日維新政府令)

維新政府ノ教育ハ中國固有ノ道德文化ヲ恢宏シ庶ク
世界ノ科學知識ヲ吸收シ以テ理智精粹體力強健ナル國
民ヲ養成スルヲ宗旨トス

行政院長 梁鴻志
教育部長 陳 羣

教育宗旨實施方針

(民國二十七年八月十一日)

- 一 教育宗旨實施ニ際シテハ左ノ方針ヲ遵守スベシ
 - 一 大學教育ハ純粹科學ニ重點ヲ置キ高邁ナル對策ヲ研究ス高等專門教育ハ實用科學ニ重點ヲ置キ專門ノ知識技能ヲ養成シ併セテ切實困難(適切ナル教育ヲナシ)以テ國家社會服務ノ健全ナル人格ヲ作ル
 - 二 普通教育ハ歷代聖賢ノ言行ヲ根據トシ以テ國民道徳ノ基礎ヲ立テ併セテ國民ノ生活技能ヲ培養シ以テ其ノ生産能力ヲ増進スルヲ主要目的トス
 - 三 師範教育ハ國民教育ノ本トス 必ズ適切ナル科學教育ト嚴格ナル身心ノ訓練トヲ以テ一般國民ノ道徳及學術上ノ健全ナル師範タルベキモノヲ養成スルヲ主要ノ任務トシ依テ可能ノ範圍内ニ於テ獨立ノ施設ヲナス
 - 四 社會教育ハ學校教育ノ補助トス 國民ニ實際情況ヲ認識セシメ善隣ニ親ムノ道ヲ深ク知ラシメ併セテ

一八〇

- 近代都市及農村生活ノ常識家庭經濟改善ノ技能等國民トシテノ資格更ニ公共事業及森林公園等ノ愛護ノ習慣養老喪葬隊防互助ノ美德ヲ具備セシム
- 五 男女教育ハ機會均等トス 女子教育ハ特ニ健全ナル徳性陶冶ニ力ヲ注ギ良妻賢母ノ特質ヲ保持シ併セテ良好ナル家庭生活及社會生活ノ建設ヲ圖ル
- 六 各級學校及社會教育ハ同時ニ國民體育ノ増進ニ力ヲ注グ 其ノ目的ハ民族體力増進ニアリ且ツ強健ナル精神ノ鍛鍊ヲナシ以テ規律ニ服従スルノ習慣ヲ養成スルヲ主要任務トス
- 七 中國ハ農ヲ以テ立國ス 農ヲ弘ムルニハ農業教育機關ト産業界ト當ニ緊密ニ連絡シ以テ積極的施設ヲ圖ル要アリ凡ソ農業生産方法ノ改善農民技能ノ増進農村組織ト農民生活ノ改善及農業科學知識ノ普及農民生産消費合作ノ促進等ニ全力ヲ以テソノ推行ヲ圖ル

教育部督學規則

民國二十七年七月二十五日

- 第一條 教育部ハ教育部組織法ノ規定ニ依リ督學ヲ派シ全國教育事情ヲ觀察及指導ス但シ必要アル場合ハ部員ヲ派遣シ協同シテ處理スルコトヲ得
- 第二條 督學ノ觀察及指導スベキ事項左ノ如シ
 - 一 教育法令ノ推行ニ關スル事項
 - 二 學校教育ニ關スル事項
 - 三 社會教育ニ關スル事項
 - 四 地方教育行政ニ關スル事項
 - 五 其ノ他教育ト關係アル事項
 - 六 部令ニ依ル特命觀察又ハ指導ニ關スル事項
- 第三條 地方教育ノ觀察ハ定期及臨時ノ兩種ニ分ツ定期觀察ハ毎年二回トシ期間ハ二月乃至五月トス臨時觀察ハ部令ニ依リ之ヲ定ム
- 第四條 督學觀察ノ區域及其ノ任務ノ分配ハ別ニ之ヲ定ム

第五條

- 督學ハ第二條第一號乃至第五號ノ事項ニ付テハ出發ノ以前ニ於テ標準ヲ擬訂シ之ヲ作成シ說明ヲ加ヘテ各主管司成立會ノ上部長ノ裁定ヲ經テ之ヲ行フ
- 第六條 督學ハ各地方ニ赴キ學校又ハ其ノ他ノ教育機關ヲ觀察スルニ當リ豫告スベカラズ
- 第七條 督學地方ニ至ラバ其地ニ於ケル行政長官省市縣督學、官公立學校校長及其ノ他教育關係者ト地方教育ノ現在及過去ノ狀況及將來ノ企劃ニ付協議討論ヲナスベシ
- 第八條 地方各校ニ重大紛糾事件發生セル場合ハ本部ハ督學ヲ派遣觀察ノ上機ヲ視テ紛糾ヲ調停シ又ハ之ヲ處分スベシ但シ必要アル場合ハ本部ノ指示ヲ請ヒ地方官協議ノ上之ヲ處理スベシ
- 第九條 督學觀察ノ時ニ於テ各校ノ課本、課程及一切ノ行動ニシテ教育法令ニ違反スルモノアリト認ムルトキハ隨時之ヲ糾企スベシ但シ其ノ事情重大ナルモノハ前條後段ノ規定ニ依リ之ヲ處理スベシ

一八一

- 第十條 督學ハ觀察ニ當リ學生ノ數及試驗ノ成績ヲ調査スルコトヲ得
- 第十一條 督學ハ職務上必要ト認ムル場合ハ暫ク學校ノ授業時間ヲ變更スルコトヲ得
- 第十二條 督學ハ學校及其ノ他ノ教育機關ヲ觀察シ其ノ振蕩ヲ閱覽スルコトヲ得
- 第十三條 督學ハ觀察スベキ教育機關又ハ公共處所ニ宿泊スルコトヲ得但シ響應ヲ求ムルコトヲ得ズ
- 第十四條 督學ハ第二條ノ觀察及指導ノ事項ニ關シ隨時請要ヲ部長及次長ニ報告シ任務完了ノ後概要ヲ口頭ヲ以テ陳述スルノ外報告書ヲ作成シテ改革意見ヲ附シテ之ヲ部長及次長ニ提出シ審査ヲ受ケ關係各司處ニ交付シテ實施セシムベシ
- 第十五條 特殊ナル事情アル場合ハ部長ハ臨時專門觀察員ヲ聘任スルコトヲ得臨時專門觀察員ニ關シテハ第六條乃至第十四條ノ規定ヲ適用ス
- 第十六條 督學事務ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十七條 本規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大學法

民國二十七年十一月十六日

- 第一條 大學ハ中華民國維新政府ノ教育宗旨及其ノ實施方針ヲ遵照シ高深ナル學術ノ研究、專門人才ヲ養成ヲ以テ目的ト爲ス
- 第二條 國立大學ハ教育部ニ於テ全國各地ノ事情ヲ審察シテ之ヲ設立ス
- 第三條 省政府ニ於テ設立シタルモノハ省立大學ト爲シ市政府ニ於テ設立シタルモノハ市立大學ト爲シ私人又ハ私法人ニ於テ設立シタルモノハ私立大學ト爲ス
- 前項ノ大學ノ設立、變更、廢止又ハ休校ハ教育部ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス
- 第四條 大學ハ文、理、法、教育、農工、商及醫ノ各學院ニ分ツコトヲ得
- 第五條 三學院以上ヲ具備スルモノハ大學ト稱スルコトヲ得然ラザルモノハ某某學院ト稱ス

- 第六條 大學各學院及獨立學院ハ研究科及專修科ヲ附設スルコトヲ得
- 第七條 大學各學院又ハ獨立學院ノ各科ハ若干學系ニ分ツコトヲ得
- 第八條 各學院ヲ卒業シタル者ハ研究科ニ入ルコトヲ得
- 第九條 大學ハ各研究科間ノ連絡協調ヲ圖ル爲研究院ヲ設クルコトヲ得
- 第十條 大學ハ特別ノ必要アリ教育部ノ認可ヲ受ケタルトキハ三年制ノ豫科ヲ設立スルコトヲ得
- 第十一條 大學豫科ノ設備及編制ハ高等學校ノ各規定ヲ準用ス
- 第十二條 大學豫科ノ新入生ノ人數ハ該大學ノ毎年收容スベキ人數ヲ超過セザルコトヲ要ス
- 第十三條 大學及大學豫科ノ學則ニシテ法令ノ範圍内ノモノハ該學校ニ於テ之ヲ定ム 但シ教育部ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 第十四條 大學ニ校長一人ヲ置キ校務ヲ綜理セシム

國立大學校長ハ維新政府ニ於テ之ヲ任命シ省、市立大學校長ハ省、市政府ニ於テ維新政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ任命ス

第十五條 獨立學院ニ院長一人ヲ置キ院務ヲ總理セシム

國立ノモノハ教育部ニ於テ之ヲ聘任シ省立又ハ市立ノモノハ省又ハ市政府ニ於テ教育部ノ認可ヲ受ケ之ヲ聘任ス

第十六條 大學各學院ニ院長一人ヲ置キテ院務ヲ總理セシメ校長ニ於テ之ヲ聘任ス

第十七條 大學各院系ニ主任一人ヲ置キテ科系教務ヲ處理セシメ院長ニ於テ校長ト協議ノ上之ヲ聘任ス

第十八條 第十五條乃至第十七條ニ依リ設ケル校長、院長及主任ハ其ノ他ノ官職ヲ兼任スルコトヲ得ズ

第十九條 大學各學院ノ教員ヲ教授、副教授、講師

ニ資格シタルトキハ大學ニ於テ卒業證書ヲ授與シ某科學士ト稱スルコトヲ得

第二十九條 本法第三條第二項、第十二條、第十三條、第十七條乃至第二十條及第二十四條乃至第二十八條ハ獨立學院ニ之ヲ準用ス

第三十條 私立大學又ハ私立獨立學院理事會ノ組織及權限ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム

第三十一條 大學又ハ獨立學院ノ規程ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム

第三十二條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

七 校長ノ附屬事項

第二十三條 校務會議ハ各項委員會ヲ設ケルコトヲ得

第二十四條 大學各學院ニ院務會議ヲ設ケ院長、科系主任及事務主任ヲ以テ之ヲ組織シ院長ヲ主席ト爲シ本院ノ學術及設備事項ヲ計畫シ本院ノ一切ノ事務ヲ審議ス

各院系ニ科系教務會議ヲ設ケルコトヲ得科系主任、本科系教授、副教授及講師ヲ以テ之ヲ組織シ科系主任ヲ以テ主席ト爲シ科系ノ學術及設備事項ヲ計畫ス

第二十五條 大學職員及事務員ハ校長ニ於テ之ヲ任用ス

第二十六條 大學及學院ノ入學資格ハ大學豫科及省、市、縣立若ハ認可ヲ經タル私立高等學校又ハ之ト同等ノ學校ヲ卒業シ入學試験ニ合格シタル者ナルコトヲ要ス

第二十七條 大學ノ修業年限ハ醫學院ニ限リ四年トシ其ノ他ハ三年トス

第二十八條 大學學生ニシテ修業期間滿了シ成績考査

及助教ノ四種ニ分テ院長ニ於テ校長ト協議ノ上之ヲ聘任ス

第二十條 大學ハ兼任教員ヲ聘任スルコトヲ得但シ其ノ總數ハ全體教員ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ズ

第二十一條 大學ニ校務會議ヲ設ケ全體ノ教授及副教授ノ選出シタル代表若干人、校長、各學院院長及各科系主任ヲ以テ之ヲ組織シ校長ヲ以テ主席ト爲ス

前項ノ會議ニ校長ハ專斷家ヲ招聘シ列席セシムルコトヲ得但シ其ノ人數ハ全體人數ノ五分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ズ

第二十二條 校務會議ハ左ノ各項ヲ審議ス

一 大學豫科

二 大學學院ノ設立及廢止

三 大學科程

四 大學内部ノ各規則

五 學生ノ試験ニ關スル事項

六 學生ノ訓育ニ關スル事項

高等學校法

民國二十七年十一月十六日

- 第一條 高等學校ハ中華民國維新政府ノ教育宗旨及其ノ實施方針ヲ遵照シテ高等普通教育ノ完成ヲ以テ目的トシテ國民道德ノ充實ニ注意スベシ
- 第二條 高等學校ハ教育部ニ於テ國內各地ノ事情ヲ審察シ之ヲ設立ス
- 第三條 高等學校ニシテ省政府又ハ市政府ニ於テ設立シタルモノハ省立又ハ私立高等學校トシ私人又ハ私人ニ於テ設立シタルモノハ私立高等學校トス前項ノ高等學校ノ設立、變更、廢止又ハ休校ハ教育部ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス
- 第四條 高等學校ハ之ヲ文、理兩科ニ分ツコトヲ得
- 第五條 高等學校ノ修業年限ハ二年トス
- 第六條 高等學校ハ特別ノ必要アルトキハ豫科ヲ設立スルコトヲ得

一八六

- 第七條 高等學校ノ豫科規程ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム
- 第八條 高等學校ノ入學資格ハ其ノ豫科又ハ中學校ヲ卒業シ又ハ之ト同等ノ學力ヲ有シ且試驗ニ合格シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 第九條 高等學校ニ校長一人ヲ置キ校務ヲ綜理セシム
- 第十條 高等學校校長ハ教育部ニ於テ之ヲ聘任シ省立又ハ市立高等學校校長ハ省、市政府ニ於テ教育部ノ認可ヲ受ケ之ヲ任ズ
- 第十一條 高等學校ニ校務會議ヲ設ケ其ノ規則ハ學校ニ於テ之ヲ制定シ教育部ノ認可ヲ受ケベシ
- 第十二條 高等學校教員ハ校長ニ於テ之ヲ聘任シ職員及事務員ハ校長ニ於テ之ヲ任ズ
- 第十三條 高等學校教員ヲ兼任及兼任ノ兩種ニ分ツ但シ兼任教員ノ總數ハ全體教員ノ三分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ズ
- 第十四條 高等學校ニ常駐シ以テ學生ノ質疑及講教ニ任

ズベシ

- 第十三條 高等學校學生ニシテ修業期間滿了シ試験ニ合格シタルトキハ學校ニ於テ卒業證書ヲ授與ス
- 第十四條 高等學校ノ規定ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム
- 第十五條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一八七

專門學校法

民國二十七年十一月十六日

- 第一條 專門學校ハ中華民國維新政府ノ教育宗旨及其ノ實施方針ヲ遵照シ高等學術及技術ヲ教授シ專門人材ヲ養成スルヲ以テ宗旨トス
- 第二條 國立專門學校ハ教育部ニ於テ國內各地ノ事情ヲ審察シ之ヲ設立ス
- 第三條 專門學校ニシテ省政府又ハ市政府ニ於テ設立シタルモノハ省立又ハ市立專門學校トシ私人又ハ私法人ニ於テ設立シタルモノハ私立專門學校トス前項ノ專門學校ノ設立、變更、廢止又ハ休校ハ教育部ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス
- 第四條 專門學校ニ校長一人ヲ置キ校務ヲ綜理セシム
- 國立專門學校校長ハ教育部ニ於テ之ヲ聘任シ省立又ハ市立專門學校校長ハ省又ハ市政府ニ於テ教育部ノ認可ヲ受ケ之ヲ聘任ス

一八八

- 第五條 專門學校ニ校務會議ヲ設ク其ノ規則ハ學校ニ於テ之ヲ制定シ教育部ノ認可ヲ受クベシ
- 第六條 專門學校教員ヲ專任及兼任ノ兩種ニ分チ校長之ヲ聘任ス
- 但シ兼任教員ノ總數ハ全體教員ノ三分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ズ
- 第七條 專門學校職員及事務員ハ校長之ヲ任用ス
- 第八條 專門學校入學資格ハ省、市、縣立又ハ認可ヲ經タル私立中學ヲ卒業シ又ハ之ト同等ノ學力ヲ有シ且入學試驗ニ合格シタル者ナルコトヲ要ス
- 第九條 專門學校ノ修業年限ハ醫科ニ限り五年トシ他ハ四年トス
- 第十條 專門學校ハ必要アルトキハ豫科、專修科及研究科ヲ設ケ且ニ中學校ヲ附設スルコトヲ得但シ教育部ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス
- 第十一條 專門學校學生ニシテ修業期間滿了シ試驗ニ合格シタルトキハ校長ニ於テ卒業證書ヲ授與ス

- 第十二條 私立專門學校理事會ノ組織及職權ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム
- 第十三條 專門學校ノ規程ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム
- 第十四條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一八九

師範學校法

民國二十七年十一月十六日

- 第一條 師範學校ハ中華民國維新政府教育總旨及實施方針ヲ遵照シ嚴格ナル身心訓練ヲ以テ健全ナル小學教員タルノ資格ヲ養成スベシ
- 第二條 師範學校ニ特別師範科ヲ附設スルコトヲ得
- 第三條 師範學校ノ修業年限ハ五年トシ特別師範科ノ修業年限ハ二年トス
- 第四條 師範學校ハ省又ハ中央機關直屬ノ市ニ於テ之ヲ設立ス
- 第五條 師範學校ニシテ省又ハ市ニ於テ設立シタルモノハ省立又ハ市立師範學校ト爲ス
- 第六條 師範學校ノ設立、變更、廢止又ハ休校ハ省又ハ市教育行政機關ニ於テ認可シタル後教育部ニ報告スベシ
- 第七條 師範學校及其ノ特別師範科ノ教授科目、

一九〇

- 課程ノ標準及實習規定ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム
- 第八條 師範學校及其ノ特別師範科ノ教科用圖書ハ教育部ノ編輯又ハ審定シタルモノヲ採用スベシ
- 第九條 師範學校ニ附屬小學校及幼稚園ヲ設置スベシ
- 第十條 師範學校ニ校長一人ヲ置キ校務ヲ總理セシメ省立師範學校ニ在リテハ教育部ニ於テ有資格者ヲ推舉シ省政府ノ認可ヲ經テ之ヲ任用シ、中央機關直屬ノ市ノ市立師範學校ニ在リテハ市教育行政機關ニ於テ有資格者ヲ推舉シ市政府ニ申請シテ其ノ認可ヲ經テ之ヲ任用シ擔任スベキ本校ノ教課ノ外ハ他職ヲ兼任スルコトヲ得ズ
- 前項師範學校校長ノ任用ハ省又ハ市教育行政機關ニ於テ每期之ヲ一括シ教育部ニ報告スベシ
- 第十一條 師範學校教員ハ校長ニ於テ之ヲ聘任シ專任ト爲スベシ 但シ特別ノ事由アルトキハ兼任教員ヲ招聘スルコトヲ得ルモ其ノ人數ハ教員總數ノ四分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ師範學校職員ハ校長ニ於テ

之ヲ任用シ主管教育行政機關ニ報告スベシ

- 第十二條 師範學校校長、教員ノ任用規程ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム
- 第十三條 師範學校入學資格ハ公立又ハ認可ヲ經タル私立高級小學校ヲ卒業シタル者特別師範科入學資格ハ公立又ハ認可ヲ經タル私立中學校ヲ卒業シタル者ニシテ入學試驗ニ合格スルコトヲ要ス
- 第十四條 師範學校及其ノ特別師範科ノ學生ニシテ修業期間滿了シ實習ヲ終了シテ成績協同試驗ニ合格シタルトキハ學校、省教育廳又ハ市教育局ニ於テ卒業證書ヲ授與ス
- 第十五條 師範學校及其ノ特別師範科ハ修學費ヲ徵收セズ
- 第十六條 師範學校規程及師範學校卒業生服務規程ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム
- 第十七條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一九一

小學法

民國二十七年十二月二十一日

- 第一條 小學ハ中華民國維新政府教育宗旨及其實施方針ニ遵照シテ兒童ノ身心ヲ發展セシメ國民道徳ノ基礎及生活上必要ナル基本智識及技能ヲ培養スヘシ
- 第二條 小學ノ修業年限ヲ六年トシ前四年ヲ初級小學後二年ヲ高級小學トス初級小學ハ地方情況ニ依リテ單獨ニ設立スルコトヲ得
- 第三條 小學ハ市、縣又ハ所屬地方ニ於テ之ヲ設立ス其ノ特殊ノ事情アルトキハ省又ハ中央機關直屬ノ市ニ於テ之ヲ設立スルコトヲ得
私人又ハ團體亦小學ヲ設立スルコトヲ得其ノ規程ハ教育部ニ於テ別ニ之ヲ定ム
- 第四條 小學ニシテ市又ハ縣ニ於テ設立シタル小學ハ市立又ハ縣立小學ト爲シ所屬地方ニ於テ設立シタルモノハ當該地公立小學ト爲シニ地方以上ニ於テ

一九二

- 聯合設立シタルモノハ當該地方聯合公立小學ト爲シ私人又ハ團體ニ於テ設立シタルモノハ私立小學ト爲ス
- 第五條 師範學校又ハ中學校附屬ノ小學ハ某師範學校附屬小學又ハ中學校附屬小學ト爲ス
- 第六條 小學ノ設立、變更及休校ハ省行政區域内ニ在ルモノハ省立小學ヲ除キ管轄市、縣教育行政機關ノ認可ヲ經テ教育廳ニ告スベシ中央機關直屬ノ市區域内ニ在ルモノハ本市教育行政機關ノ認可ヲ受クベシ
- 第七條 小學ノ學級ハ單式編制ヲ採用ス但シ特殊ノ事情アルトキハ複式編制ヲ用ウルコトヲ得初級小學ニ在リテハ二部制又ハ變式編制ヲ併用スルコトヲ得
- 第八條 小學ノ教授科目及課程標準ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム高級小學ハ地方情況ニ依リテ簡易ナル職業科目ヲ置クヘシ
- 第九條 小學教科書ハ教育部ノ編輯又ハ審定シタルモノヲ採用スベシ

ルモノヲ採用スベシ

前項ノ編輯又ハ審定ニ際シテハ地方ノ郷土的教材ニ重キヲ置クベシ

第十條 小學ハ幼稚園ヲ附設スルコトヲ得

第十一條 小學ニ校長ヲ置キテ校務ヲ綜理セシム省立又ハ中央機關直屬ノ市立小學校長ハ教育廳又ハ市教育行政機關ニ於テ有資格者中ヨリ銓衡任用ス市、縣立又ハ所屬地方公立小學校長ハ市、縣教育行政機關ニ於テ有資格者ヨリ之ヲ銓衡シ市、縣政府ニ申請シテ之ヲ任用シ併セテ教育廳ニ報告スルモトス報備案ス

第十二條 小學教員ハ校長ニ於テ有資格者ヲヨリ任用ス有資格者任用撤ニ滿タザルトキハ相當ノ資格ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得均シク主管教育行政機關ニ報告スルモノトスシ

小學教員ノ檢定、任用、保障ノ各規程ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム

第十三條 小學校長、教員ノ專任ト爲シ校長ハ本校

ノ教課ヲ擔任スヘシ

第十四條 小學ハ單獨又ハ聯合シテ校醫又ハ看護人ヲ置クコトヲ得其ノ六學級以上ヲ有スルモノハ適宜事務員ヲ置クコトヲ得

第十五條 初級又ハ高級小學學生ニシテ修業期間滿了シ成績合格點ニ滿ツトキハ學校ヨリ卒業證書ヲ授與ス

第十六條 小學ハ授業料ヲ徵收セズ但シ地方情況ニ依リ主管教育行政機關ニ申請シ其ノ認可ヲ經テ適宜之ヲ徵收ス

學生ニシテ授業料ヲ納入スルノ資方ナキトキハ小學校長ハ事情ヲ斟酌シテ其ノ授業料ノ一部又ハ全部ヲ免除スルコトヲ得

第十七條 小學規定ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム

第十八條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一九三

小學暫行規程

民國二十七年十二月二十六日教育部令

第一章 總 綱

- 第一條 本規程ハ暫行小學法第十七條ノ規定ニ據リ之ヲ定ム
- 第二條 小學ハ國民義務教育ヲ施行スルノ場所ニシテ暫行小學法第一條ヲ以テ其ノ實施方針トス
- 第三條 小學兒童ノ在學年齡ハ滿六才以上滿十二才以下ニシテ修業年限ハ六年トス
- 第四條 義務教育ヲ施行スルノ見地ヨリ各地ニ簡易小學及短期小學ヲ設クルコトヲ得、簡易小學及短期小學ニ付テハ教育部別ニ之ヲ定ム
- 第五條 小學ノ學年、學期及休暇期間ハ教育部所定ノ學校學年學期及休暇日期規程ニ依ル
- 第六條 市及縣ハ小學ノ設立ヲ普及シ其ノ管理ニ便スル爲若干ノ學區ニ分ツベシ

一九四

學區毎ニ教育委員若干人ヲ置キ小學教育ノ普及及發展ヲ計劃ス其ノ規程ハ別ニ之ヲ定ム

- 第七條 師範學校及師資ヲ訓練スル高等又ハ高等專門以上ノ學校ニ附設スル小學ハ師範學校生徒ノ實習ニ供スルノ外單設ノ小學ト同シ
- 第八條 省、ハ市又ハ師資ヲ訓練スル高等又ハ高等專門以上ノ學校ニシテ試驗的教育ノ爲設クル小學ハ某實驗小學ト稱ス
- 第九條 省立小學ハ所在地名ヲ以テ校名トシ市縣以下公立小學ハ區域比較的小ナル地ノ名ヲ以テ校名ト爲スベシ一地ニ公、市立等ノ區別アルモ校名相同ジキ小學アルトキハ數字ノ順序ヲ以テ之ヲ區別スベシ私立小學ハ專有ノ名稱ヲ採用シ地名ヲ以テ校名ト爲スコトヲ得ズ
- 第十條 小學ハ各級ノ教育行政機關之ヲ管轄ス其ノ範圍左ノ如シ
 - 一 省立小學、省立實驗小學及省立師範學校又ハ中學ノ附屬小學ハ省教育廳之ヲ管轄ス

二 市立小學、市立實驗小學、市立師範學校又ハ中學ノ附屬小學及市内ノ私立小學ハ市教育行政機關之ヲ管轄ス

三 縣及所屬各地ノ公立小學ハ縣教育行政機關之ヲ管轄ス

教育行政機關以外ノ機關ノ特設スル小學ハ所在地主管教育行政機關之ヲ指導監督ス

第十一條 小學ハ每學期開始後一月内ニ全組織概況、學級編制、教職員名簿及兒童名簿ヲ主管教育行政機關ニ呈報スベシ

第十二條 省立小學及國立高等學校又ハ高等專門以上ノ學校ノ附屬小學又ハ實驗小學ハ每學期開始後一月以内ニ當學期兒童名簿及前學期卒業兒童名簿ヲ所在地ノ市縣教育行政機關ニ呈報スベシ

第十三條 實驗小學ハ每年實驗ノ計劃及結果ヲ主管教育行政機關ニ呈報シ教育部ニ轉呈スベシ

第十四條 私立小學ノ設置ハ暫行小學法及本規程ヲ除クノ外私立學校暫行規程ニ依ル

第三章 經 費

第十五條 小學開始ニ要スル校舍建築費及設備費ノ配分ハ六對四又ハ七對三ノ比ト爲スベシ

第十六條 小經常費ノ支出ノ配分ハ左ノ百分比ヲ以テ原則ト爲スベシ
 教職員俸金ハ百分ノ七十圖書、儀器、運動器具、教具等ノ設備費及衛生費ハ百分ノ十五實驗、文具、水物、電氣、遊樂等ノ消耗費ハ百分ノ九旅行保險等特別費ハ約百分ノ三、豫備費ハ百分ノ三

前項豫備費ハ教育行政機關ノ許可ヲ經ルニ非ザレバ使用スルコトヲ得ズ

第十七條 小學經費ノ標準ハ省市教育行政機關之ヲ決定シ教育部ニ申請シテ其ノ記錄ヲ經タル上之ヲ施行ス

第十八條 小學經費ノ支出ハ節約ヲ旨トス其ノ公開及審査ノ方法ハ省市教育行政機關之ヲ決定シ教育部ニ申請シテ其ノ許可ヲ得タル上之ヲ施行ス

第四章 編 制
 一九五

第十九條 小學々級ハ兒童入學ノ時其ノ年齡及智力ニ依リテ編制スベシ

第二十條 小學々級ノ編制ハ暫行小學校法第七條ノ規程ニ依ル共ノ人數ハ各學級各組四十人ヲ以テ標準トス

第二十一條 初級小學ノ二部編成ハ學校ノ情況ニ依リ半日制又ハ時間制ニ分ツコトヲ得

第五章 課程

第二十二條 小學教育科目及週教學時間ハ左ノ表ニ依ル

(表略) 二十七年政府公報合訂本五一六頁參照)

說明

- 一 修身ハ特ニ之ヲ重シズ但シ授業ハ週二節トス
- 二 常識科ハ社會自然及衛生ヲ包括ス
- 三 高級社會科ハ歴史及地理ノ二科ニ分ツコトヲ得時間ノ配分ハ歴史四十分地理六十分トス
- 四 初級四年級ロリ算術科ニ珠算ヲ加フ
- 五 授業時間ハ地方ノ情況ニ依リ週一節ヲ分ツコトヲ得

六 授業時間ハ三十分又ハ六十分ヲ以テ一節トス其ノ三十分ナルトキハ實授二十五分其ノ六十分ナルトキハ實授四十五分トス

七 初級小學ハ原則トシテ外國語科(英語又ハ日語)ヲ設ケズ但シ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 小學課程ハ教育部ノ定ムル課程標準ニ依ルベシ

第二十四條 各地方ノ郷土教材ハ學校又ハ主管教育行政機關之ヲ編輯シ上級教育行政機關ノ認可ヲ受クベシ

第二十五條 小學教材要目ノ全國共通部分ニ屬スルモノハ教育部課程標準ノ規程ニ依リ別ニ之ヲ定ム地方特殊部分ニ屬スルモノハ省市主管教育行政機關之ヲ決定シ教育部ノ認可ヲ經タル上之ヲ施行ス

第二十六條 實驗小學ハ教育ニ便スルノ必要ト各科目ノ教材組織ハ聯合ノ各個單位トシ科目ヲ分タズ綜合シ

テ之ヲ教フ但シ別ニ要目ヲ作成シ主管教育行政機關ノ認可ヲ受クベシ

第六章 訓育

第二十七條 小學ノ訓育ハ兒童ノ品性ヲ陶冶シ公民知識ヲ授クルヲ以テ旨トス教員ハ兒童ノ課内外各種ノ活動ヲ利用シ其ノ家庭及土地公共機關ト聯絡シテ積極的指導ヲ與フベシ

第二十八條 小學ハ兒童ノ團體生活ヲ訓練スル爲極々ノ集團的活動ヲ爲ス此ノ目的ノ爲ニ兒童ヲ指導シテ簡單ナル自治團體ヲ組織セシムルコトヲ得

第二十九條 小學ハ個別教育ニ便スル見地ヨリ訓育ノ制度ヲ施行スルコトヲ得教員ハ直接兒童訓育ノ責任ヲ負フ

第三十條 小學ハ教訓ノ效果ヲ増進スル爲兒童ノ家長ト聯絡シ訓育等ノ實際問題ニ關シ協議スベシ

第三十一條 小學兒童ハ體罰ニ處スルコトヲ得ズ

第七章 設備

第三十二條 小學校ハ兒童ノ進學ニ便ニシテ環境良キ

地點ヲ擇ブベシ

第三十三條 小學校舎ノ建築ハ質樸堅固ニシテ教育及衛生ニ適セシムベシ

第三十四條 小學ハ適當ナル面積ヲ有スル運動場作業場又ハ農場及校園ヲ有スベシ

第三十五條 小學兒童ノ用フル机及椅子ハ兒童ノ身長ニ適合セシムベシ

第三十六條 小學ハ學校衛生施設方案ヲ參照シ衛生及運動ノ設備ノ充實ヲ圖ルベシ

第三十七條 小學ハ圖書儀器教具等ノ設備ノ充實ヲ圖ルベシ

第三十八條 小學ハ教學訓育等各種ノ重要書籍及圖表ヲ備フベシ

第三十九條 小學ノ設備ノ標準ハ教育部ニ於テ別ニ之ヲ定ム

第八章 成績考查

第四十條 小學兒童ノ學業成績考查ハ平時考查ヲ除キ別ニ臨時試驗學期試驗及卒業試驗ヲ舉行ス

第四十一條 臨時試驗ハ教員毎月月末之ヲ舉行シ每學期少クトモ三回以上之ヲ舉行スベシ

第四十二條 學期試驗ハ教學期末ニ之ヲ舉行ス

第四十三條 卒業試驗ハ小學校長各科ノ教員ト聯絡ノ上修業期滿了ノ時之ヲ行フ

第四十四條 小學兒童ノ學業成績計算方法、體育考查方法及兒童ノ昇級留級ノ辦法ハ省市教育行政機關之ヲ決定シ教育部ノ認可ヲ經テ登錄ス

第四十五條 小學兒童ノ操行及成績ハ其ノ品性及平時ノ言行ヲ以テ標準ト爲スベシ

第九章 入學及卒業

第四十六條 小學兒童入學年齡ハ滿六オトス 但シ特別ノ事情アル者ハ滿九才迄延期スルコトヲ得

第四十七條 小學ノ各學級ニ缺員アラバ毎學期開始後一月内ニ補缺員入生ヲ收容スルコトヲ得

第四十八條 小學兒童ハ身體又ハ家庭ノ事情ニ因リ休學ヲ請求スルコトヲ得

第四十九條 小學兒童ハ身體又ハ家庭ノ事情ニ因リ學校ノ調査ヲ經テ轉學又ハ退學スルコトヲ得

第五十條 小學兒童ノ修業期間滿了シ試驗ニ及第七ルトキハ暫行小學法第十五條ノ規定ニ依リ學校卒業證書ヲ授與ス

第十章 授業料及其ノ他ノ費用

第五十一條 小學ハ授業料ヲ徵收セズ 但シ必要ト認ムルトキハ暫行小學法第十六條ノ規定ニ依リ主管教育行政機關ノ審査ヲ經テ之ヲ徵收スルコトヲ得此場合ニ於テモ貧寒兒童ニ對シテハ之ヲ免ズベシ

第五十二條 小學ハ授業料ヲ納ムルト否トヲ以テ學級編成ノ標準ト爲スコトヲ得ズ

第五十三條 小學必需ノ學用品等ハ學校ニ於テ之ヲ支給シ又ハ學校若ハ地方教育行政機關ニ於テ消費組合ヲ組織シ極メテ低廉ノ價格ヲ以テ之ヲ兒童ニ發賣スルコトヲ得

第五十四條 其ノ他小學ハ兒童ニ對シ費用ヲ徵收スルコトヲ得ズ

第十一章 教職員

第六十一條 小學教員ハ校長ニ於テ暫行小學法第三十二條ノ規定ニ依リ學年開始一月前ニ聘任ス其ノ期間ハ初聘ノ者ニ在リテハ一學年ヲ以テ原則トス以後續クテ聘任スル時ハ二學年トス聘任セシ後ハ主管教育行政機關ニ報告シ記録ニ止ム不合格ナル者アラバ主管教育行政機關ハ更聘セシムルコトヲ得

第六十二條 小學ハ地方ノ特殊事情ニ因リ審査又ハ檢定ニ合格セル教員ヲ聘任スルコト能ハザル時ハ小學校教員資格規定及小學教員檢定規程ノ規定スル資格中其ノ一ニ該當スル者ヲ以テ代用教員ト爲スコトヲ得但シ主管教育行政機關ノ許可ヲ仰グベシ

第六十三條 審査又ハ檢定ニ合格セル小學教員ハ主管教育行政機關ニ於テ每學年開始前二月ニ其ノ姓名學歷及經歷ヲ一度公告スベシ但シ人數過多ナル時ハ期ヲ分ケテ公告スルコトヲ得

第六十四條 小學ハ校長一人ヲ置ク學級ニハ級主任教員一人ヲ置ク 仍別ニ專科教員ヲ置クコトヲ得ルモ學級ノ平均教員數ハ三人ヲ越ユルコトヲ得ズ

第六十五條 小學ハ單獨又ハ聯合シテ校醫又ハ看護人ヲ置クベシ其ノ六學級以上ヲ有スルモノハ事務員ヲ置クコトヲ得 但シ主管教育行政機關ノ許可ヲ仰グベシ

第六十六條 小學教職員ハ學校又ハ學校所在ノ區域内ニ居住スベシ

第六十七條 小學校長ハ全校事務ヲ總理シ教學ヲ擔任スル外教職員ヲ指導シ校務及教訓事項ヲ分掌ス

第六十八條 小學教員ハ審査又ハ檢定ニ合格シ教育部ノ發行セル證書ヲ有スル者ヲ以テ之ニ任ズベシ

第六十九條 小學教員資格ノ審査及小學教員檢定ノ規定ハ別ニ之ヲ定ム

第七十條 審査又ハ檢定ニ合格セル教員ノ服務年限ハ二年以上ニシテ成績優秀ナル者ハ小學校長トナスコトヲ得

小學ノ聘任スル教員ハ特殊事情ニ因リ主管教育行政機關ノ許可スル者ヲ除キ登記公告セル者ニ限ル

第六十五條 小學教員ニシテ退職ヲ願フ者アラバ校長ノ同意及自己ノ後任ヲ得ルニ非ザレバ離校スルコトヲ得ズ

第六十六條 小學教職員ノ俸給ハ月給ヲ以テ給セララルトキハ年十二月トシテ計算ス

小學教職員ノ俸給規則養老金及遺族扶助料辦法ハ教育部之ヲ制定ス

第六十七條 小學教職員在校時間ハ毎日八時間トス

第六十八條 小學女教職員兼職セルトキハ六週間ノ休息ヲ與フベシ其ノ代理人ノ俸金ハ學校ヨリ主管教育行政機關ニ申請シ別ニ之ヲ支給ス

第六十九條 小學教職員ハ校長又ハ主管教育行政機關ノ更迭ニヨリ其ノ進退ヲ左右サレズ

小學校教職員ハ左ノ事由ノ一ニ該當セザル限り解職スルコトヲ得ズ

一 刑法ニ違反シ證據確カナル者

二 品行又ハ嗜好ノ不良ナル者

三 曠職者

四 成績不良ナル者

五 身體不具又ハ疾病ニ因リ其ノ任ニ堪ヘザル者

第七十條 小學教員前條各款ニ該當セズシテ解職セラレタルトキハ理由ヲ具シ主管教育行政機關ニ查明糾正方ヲ申請スルコトヲ得

第七十一條 校長小學教員ヲ解職セルトキハ理由ヲ陳述シテ主管教育行政機關ニ報告シ記録シテ審査ニ備フベシ

第七十二條 小學教員ノ訓育成績顯著ナルモノアラバ加俸其ノ他ノ獎勵ヲ與フ其ノ進級及獎勵辦法ハ省市教育行政機關之ヲ決定シ教育部ノ認可ヲ經テ之ヲ施行ス

第七十三條 幼稚園主任及教員ノ任用待遇及保障ニ付テハ本章ノ規定ヲ適用ス

第十二章 輔導研究

第七十四條 小學教員ハ奉職校及地方ノ教育ニ關スル

組織ニ參加シ兒童ノ生活ニ現ハレタル事實及ビ教育方法ヲ研究スベシ

第七十五條 小學ノ教員五人以上ヲ有スルモノハ教員研究會ヲ組織シ校務ノ改善、教學及訓育等ノ事項ヲ研究スベシ

教育研究會ハ全教員ヲ以テ會員トシ毎月少クトモ一回之ヲ開會シ校長ヲ以テ主席トス

第七十六條 一學區内ノ小學ハ聯合シテ區小學教育研究會ヲ組織シ區小學教育ノ改良方法ヲ研究スベシ區小學教育研究會ハ區内小學ノ全教員及區教育委員ヲ以テ會員トシ二月毎ニ少クトモ一回以上之ヲ開會シ主管教育行政機關ノ指定スル區小學校長又ハ教育委員ヲ以テ主席トス

第七十七條 中央機關ニ直隸スル市又ハ市縣内ニ在ル小學ハ聯合シテ市又ハ縣小學教育研究會ヲ組織シ地方小學教育ノ改良方法ヲ研究スベシ該教育研究會ハ主管教育行政機關ノ指定スル學區小學代表等ヲ以テ會員トシ半年毎ニ少クトモ一回以上之ヲ開會シ市縣

教育行政長官又ハ督學ヲ以テ主席トス

第七十八條 五市縣乃至七市縣内ノ小學ハ省分區小學教育研究會ヲ組織シ省分區ノ小學教育ノ改良方法ヲ研究スベシ該教育研究會ハ省教育廳ノ指定スル各市縣小學代表ヲ以テ會員トシ毎年少クトモ一回以上之ヲ開會シ省立師範學校校長又ハ附屬小學校校長又ハ省立小學校校長又ハ省督學ヲ以テ主席トス

第七十九條 各省ハ全省小學教育會ヲ組織シ省小學教育ノ改良方法ヲ研究スベシ該教育研究會ハ教育廳ノ指定スル省分區小學代表及省教育廳廳長主管科長督學ヲ以テ會員トシ二年毎ニ少クトモ一回以上之ヲ開會シ省教育廳廳長又ハ其ノ代表ヲ以テ主席トス

第八十條 教育部ハ全國各省市代表及初等教育主管人員ヲ召集シ全國小學教育研究會ヲ開キ全國初等教育ノ改良方法ヲ研究スルコトヲ得其ノ規定及召集ノ時日ハ別ニ之ヲ定ム

第八十一條 省ハ省教育廳指定ノ省分區内ノ省立小學又ハ師範學校附屬小學ヲ以テ省分區ノ模範小學ト爲

スコトヲ得市縣教育行政機關ハ其ノ學區内ノ一小學ヲ指定シ模範小學ト爲スコトヲ得
 前項模範小學ハ其ノ研究ノ結果ヲ報告シテ省分區又ハ學區内ノ小學ノ參考ニ供スベシ
 第八十二條 幼稚園主任教員及小學教育ニ關係アル教育家ハ小學教育ノ研究ニ參加スルコトヲ得
 第八十三條 各種小學教育研究會ハ各級教育行政機關ニ於テ指導ノ責ヲ負フベシ
 第八十四條 省立以下ノ小學教育研究會ノ組織規定ハ省教育行政機關之ヲ制定シ教育部ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス

第十三章 附則

第八十五條 本規程ハ必要ニ應ジ教育部之ヲ修正スルコトヲ得
 第八十六條 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

留學規程

民國二十七年十二月二十六日

第一章 總則

第一條 國外ニ留學セムトスル者ハ本規程ニ依リテ辦理ス
 第二條 省市教育行政機關(以下省市ト稱ス)又ハ公共機關ヨリ經費ノ給與ヲ受ケ試驗選拔又ハ銓衡ノ依リ國外ニ派遣セラレ專門學術ヲ研究スル者ヲ公費生ト稱ス
 自ラ留學費用ヲ辦ジ又ハ私法人ヨリ費用ノ給與ヲ受ケテ國外ニ派遣セラレ專門學術ヲ研究スル者ヲ自費生ト稱ス
 第三條 省市ハ學費ノ項目中ニ留學獎勵金ヲ置キ自費留學生ノ成績優良ナル者ヲ激勵スヘシ
 獎勵金名額及辦法ハ各省市ニ於テ規定シ部ニ申請シ其レ認可ヲ經テ施行ス

第四條 公、自費生ニシテ團體ヲ損辱又ハ學業ヲ懈怠シ其ノ他不法ノ行爲アリタルトキハ所在國ノ留學管理機關ヨリ部ニ申請シテ其ノ留學資格ヲ取消シ強制歸國セシムルコトヲ得、公費生ナルトキハ其ノ以前ニ支給シタル一切ノ費用ヲ返納セシムベシ

第二章 公費生

第五條 省市ノ專門學術研究者ノ國外選拔派遣ハ際シテハ理、農、工醫等ノ科ニ重キヲ置キ、研究科目ノ種類、公費生ノ定員、留學國別、年限及經費狀況ハ省市ニ於テ地方ノ需要請及其ノ研究科目ノ性質ニ依リ毎回留學生募集前ニ詳細ニ規定シテ部ニ請シテ其ノ認可ヲ經テ施行スルコトヲ要ス、但シ其ノ留學期間ハ實習及觀察期間ヲ含ミ二年以上六年ヲ越ユルコトヲ得ズ
 第六條 省ノ市公費生ハ省市ノ試驗選拔ヲ經タル後本部ニ於ケル生計之ヲ決定ス
 但シ首都(南京)ヨリ遠隔ノ地其ノ他特殊ノ事情アリ

ル省市ニ在リテハ主管教育行政機關ヨリ部ニ申請シ
認可ヲ經テ初試施行地ニ部ヨリ職員ヲ派遣シ又ハ機
關ヲ指定シテ生試ヲ舉行スルコトヲ得

第七條 各省市ノ考選公費生辦法(公費生試験選
拔辦法)ハ市教育行政機關ニ於テ本規程ニ依リ制定
シ部ニ申請シ認可ヲ經テ施行ス。覆試辦法ハ本部ニ於
テ別ニ之ヲ定ム

第八條 凡ソ左記資格ノ一ヲ有スル者ハ試験申込
ヲ爲ス得

一 國內外ノ公立又ハ認可ヲ經タル私立ノ專門以上
ノ學校ヲ卒業シ二年以上履習學科ト關係アル技術
ニ從シタル者

二 國內外ノ公立又ハ認可ヲ經タル私立ノ專門以上
ノ學校卒業シ二年以上履習學科繼續研究シテ相當
ノ專門著作共ノ他ノ成績アル者

三 國內、公立又ハ認可ヲ經タル私立大學又ハ獨立
學院ヲ卒業シタル者

第九條 申込ノ際ハ卒業證書及最近ノ四寸(キヤ

ビキ一型)寫眞二葉(一葉ハ各省市ニ存置シ一葉ハ
部ニ送付ス)ヲ提出スルノ外其ノ前條第一號ノ資格
ヲ有スル者ハ履歷書及服務證明書各二通(一通ハ各
省市ニ存置シ一通ハ部ニ送付ス)ヲ提出スルコトヲ
要ス。前條第二號ノ資格ヲ有スル者ハ專門著作共ノ他
ノ成績ヲ提出スルコトヲ要シ。前條第三號ノ資格ヲ有ス
ル者ハ學校ノ成績證明書ヲ提出スルコトヲ要ス

服務證明書又ハ學校成績證明書ハ服務箇所ノ主管者
又ハ學校長ニ於テ署名捺印スルコトヲ要ス

第十條 前條要件ヲ具備シ各省市ノ審査ニ合格シタ
ル後ニ非ザレハ考試ヲ受ケルコトヲ得ズ

第十一條 考試事項左ノ如シ

一 初 試

甲 體格検査

體格不合格者ハ乙、丙二項ノ考試ヲ受ケルコト
ヲ得ズ

乙 普通科目

1. 國 文

2. 本國ノ國史、地理
3. 留學國ノ國語(作文、翻譯、會話)

丙 専門科目
専門科目ハ履習シタル各學科ニ依リテ之ヲ定ム
但シ最少三種以上ノ科目ヲ試験スルコトヲ要ス

二 覆 試
甲 留學國ノ國語(作文、翻譯、會話)

乙 専門科目
専門科目ハ初試ノ専門科目中ヨリ二種以上ヲ選
ビテ試験ス

第十二條 初試ノ成績計算ハ普通科目中ノ國文及本
國國史、地理ハ總點數ノ百分ノ二十五、留學國ノ國
語ハ總點數ノ百分ノ二十五、専門科目ハ總點數ノ百
分ノ五十ヲ占ムルモノトス

覆試ノ成績ハ三種科目ノ平均ヲ以テ計算ス

第十三條 省市考試ニ合格シタルトキハ初試合格證
明書ヲ授與シ部ニ送ス、覆試ニ合格シタルトキハ覆
試合格證明書ヲ授與ス

各省市ノ初試ハ各學科ニ就キ派遣スベキ定員ノ二倍
ヲ選出シ部ニ於テ覆試ノ上所ノ採否ヲ決定スルコト
ヲ得

第十四條 覆試ニ合格採決セラレタル公費生ハ三月
以内ニ出國スルコトヲ要シ正當ナル理由ナクシテ期
間ヲ經過シタルトキハ其ノ資格ヲ取消スルコトヲ得

第十五條 出國及歸國旅費ハ各省市ニ於テ留學國迄ノ
路程共ノ他ノ事情ニ依リテ之ヲ定ム

旅費及學費ノ給與手續ハ各省市ニ於テ規定ス但シ出國
ノ際ニ豫メ三月分ノ學費留學費ヲ支給スルコトヲ要
シ留學國ノ國幣ヲ以テ標準トス

第十六條 省市ハ公費生ノ出國ノ際シ留學國ノ留學
管理機關ニ準備金一千元ヲ支給シテ保管セシメテ
災害救済、疾病治療等ノ意外ノ用ニ供セシムベシ其
ノ詳細辦法ハ各省市ニ於テ之ヲ規定ス

第十七條 公費生ハ留學期間内ニ於テハ特別ノ事由ニ
ヨリ省市經由本部ニ申請シ其ノ許可ヲ得ルニ非ザレ
ハ研究科目及留學國ヲ變更スルコトヲ得ズ違反者ハ

其ノ留學資格ヲ取消シ強制歸國セシメ其ノ以前ニ支給シタル費用ヲ返納セシム

第十八條 公費生ハ留學期間内ニ於テハ每學期開始前ニ前學期ノ經過及研究成績ヲ主任教授ノ證明書ト共ニ留學管理機關ニ提出シテ證明ヲ受ケ該部及各省市ニ提出スルコトヲ要ス

第十九條 公費生ニシテ二年學期開始後一月ヲ經過スルモ未ダ前條ニ規定シタル報告ヲ爲サザルトキハ第一回ニ於テハ記過シ第二回ニ至ルトキハ第十七條ノ辦法ヲ準用シテ之ヲ辦理ス

第二十條 公費生ニシテ疾病ニ因リ學業ヲ繼續スルコト能ハザルトキハ留學管理機關ヨリ省市ニ報告シテ歸國セシムルコトヲ得コト場合ニ於テハ省市ヨリ部ニ報告スルモノトス

第二十一條 公費生ニシテ家庭ニ重大事故アリタルトキハ留學管理機關經由各省、市ニ對シ請假シテ歸國スルコトヲ得但シ許可ヲ經タル後ニ出發スルコトヲ要シ且請假期間ハ一年ヲ越ユルコトヲ得ズ請假期間

内ハ學費及往復旅費ヲ支給セズ

第二十二條 公費生ハ卒業後卒業證明書ヲ留學管理機關ニ送付シテ驗印證明ヲ受クルコトヲ要ス

第二十三條 公費生ハ歸國後二月以内ニ省市、市ニ歸著報告ヲ爲スコトヲ要シ省市ニ於テ其ノ服務ヲ要スルトキハ其ノ留學期間相當期間以内ニ於テ省市ニ服務セシメ違反者ハ其ノ以前ニ受領シタル一切ノ費用ヲ返納セシムルコトヲ得其ノ詳細辦法ハ省市ニ於テ之ヲ定ム

第二十四條 公費生ハ歸國後二月以内ニ卒業證明書ヲ省市經由部ニ送付スルコトヲ要ス其ノ辦法ハ別ニ之ヲ定ム

第三章 自費生

第二十五條 國外ニ留學スル自費生ハ左記料格ノ一ヲ有シ且本部ノ試験ニ合格スルコトヲ要ス

一 公立又ハ認可ヲ經タル私立ノ「五年制」中學以上ノ學校ヲ卒業シタル者

二 公立又ハ認可ヲ經タル私立ノ高級職業學校ヲ卒業シタル者

第二十六條 自費生ハ每學期第十八條ノ規定ニ依リ留學管理機關ニ申請シテ審査ヲ受ケ並ニ部ニ報告スルコトヲ要シ、報告セザルコト一學期ニ及ブトキハ留學管理機關ハ報告ヲ與ヘ、二學期ニ及ブトキハ留學料格ヲ取消シ強制歸國セシムルコトヲ得

第二十七條 自費生ノ留學經費ハ附表保證書說明欄内ニ記載シタル概數以上ノ準備アルコトヲ要ス

第二十八條 自費生ニシテ特別ノ成績アル者ハ留學學校及留學管理機關ニ申請シテ證明ヲ受ケ其ノ特別ノ成績證明書、學歷及最近ノ四寸(キヤビ子一型)半身寫眞二葉ト共ニ省市ノ審査ヲ經テ及本部ノ認可ヲ受ケタルトキハ省市ノ獎勵金ヲ享受スルコトヲ得

第二十九條 自費生ハ獎勵金ノ支給ヲ受ケタル日ヨリ第十七、十八、十九ノ各條ノ制限ヲ受クベシ

第三十條 自費生卒業後卒業證書ヲ留學管理機關ニ提出シ驗印證明ヲ受クルコトヲ要ス

第三十一條 自費生ハ歸國後二月以内ニ卒業證書ヲ部ニ提出シテ審査ヲ受クベシ其ノ辦法ハ別ニ之ヲ定ム

第四章 留學證書

第三十二條 公、自費生出國ノ際ハ本規程ノ規定ニ依リ留學證書ノ下附ヲ受クルコトヲ要ス

第三十三條 公費生ニシテ留學證書ノ下附ヲ受ケムトスルトキハ最近ノ四寸(キヤビ子一型)半身寫眞一葉、證書費一元、印花稅一元ヲ提出スルコトヲ要ス公共機關ヨリ派遣セララル者ハ卒業證書及履歷書ヲ提出スルコトヲ要ス

第三十四條 自費生ニシテ留學證書ノ下附ヲ受ケムトスルトキハ卒業證書、保證書、最近ノ四寸(キヤビ子一型)半身寫眞二葉、證書費一元印花稅一元ヲ提出スルコトヲ要ス

第三十五條 公共機關又ハ私法人ヨリ派遣セララルトキハ派遣機關ハ代リテ留學證書ノ發給ヲナシ且第三十三條ニ規程シタル所定条件ヲ提出スルコトヲ要ス

但シ寫眞ハ二葉提出スルコトヲ要ス
 第三十六條 公費生ハ留學證書受領後之ヲ外交部又ハ外交部委託ノ施券發給機關ニ對シ鑑定ノ發給ヲ申請シ且關係國ノ領事館ニ同名ヲ申請スルコトヲ要ス
 第三十七條 自費生ハ留學證書受領後其ノ出國期日ヲ三月トス期日ニ至ルモ事故ニ因リ出發スルコト能ハザルトキハ理由ヲ具申シテ留學證書ト共ニ本部ニ申請シテ註記ヲ受ケ三月延期スルコトヲ得但シ一回ニ限ル
 第三十八條 自費生ニシテ留學證書受領後出國セザル以前ニ改メテ他國ニ赴カムト欲スルトキハ保證書及寫眞一葉、印花稅一元ヲ添ヘテ舊ニ受領シタル證書ヲ部ニ提出シ改メテ赴カムトスル留學國ノ留學證書ノ下附ヲ申請スルコトヲ要ス
 第三十九條 甲國留學シタル自費生ニシテ改メテ乙國ニ留學セムト欲スルトキハ最近ノ四寸(キヤチビー型)半身寫眞一葉、印花稅一元ヲ添ヘテ部ニ乙國行ノ留學證書ノ審査發給ヲ申請スルコトヲ要ス

第五章 附 則

第四十條 公費生ハ留學國到着後二週間以内ニ受領シタル留學證書ヲ該國駐在ノ留學管理機關ニ提出シテ檢査ヲ受ケ到着ノ旨ヲ報告スベシ
 第四十一條 華僑自費生ニ在リテハ留學管理機關ノ國文及本國ノ歴史、地理ノ試験ニ合格スルニ非ザレハ該留學管理機關ヨリ本部ニ留學證書ノ發給ヲ申請スルコトヲ得ズ
 第四十二條 留學證書ヲ受領セズシテ直ニ國外ニ留學シタル者ハ下記制裁ヲ受クベキモノトス
 一 留學生ノ名義ヲ以テ旅券ヲ請領スルコトヲ得ズ
 二 留學管理機關ノ入學紹介ヲ請求スルコトヲ得ズ
 三 奨勵金ノ補助ヲ請求スルコトヲ得ズ
 四 歸國ノ際之ヲ登錄セズ或ニ其ノ留學資格ヲ承認セズ
 第四十三條 本規則ハ必要ニ應ジ部ニ於テ之ヲ修正スルコトヲ得

第四十四條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 附表一 保證書(省略)
 附表二 履歷書(省略)

學校學年學期及休暇日期暫行規程

民國二十七年十二月二十九日

- 第一條 各級學校ハ毎年八月一日ヲ以テ學年ノ始トシ、翌年七月三十一日ヲ以テ學年ノ終トス
- 第二條 一學年ヲ二學期ニ分チ八月一日ヨリ翌年一月三十一日迄ヲ第一學期トシ、二月一日ヨリ七月三十一日迄ヲ第二學期トス
- 第三條 各級學校ハ每學期第四條甲種休暇日ヲ除キ授業期間ノ日數ハ左ノ規定ニ依ル
 專門以上ノ學校ハ第一學期百三十六日、第二學期百三十八日(四年ハ百三十九日)
 中等學校ハ第一學期百四十三日、第二學期百四十五日(四年ハ百四十六日)
 小學ハ第一學期百四十六日、第二學期百四十八日(四年ハ百四十九日)
- 第四條 各級學校ノ毎年ノ休暇日ハ左ノ規定ニ依ル

甲 例假(定例休暇)

- (一) 暑假 專門以上ノ學校ハ七十日ヲ限トス(六月二十三日ヨリ八月三十一日迄)
中等學校ハ五十六日以内(六月三十日ヨリ八月十四日迄)
小學ハ五十日以内トス(七月三日ヨリ八月二十一日迄)
- (二) 元旦 各級學校一律ニ一日ト定ム(二月一日)
- (三) 寒假 各級學校一律ニ十四日ト定ム(一月十八日ヨリ二月三十一日迄)
- (四) 春節 各級學校一律ニ三日ト定ム(陰曆二月一日ヨリ二月三日迄)
- (五) 夏節 各級學校一律ニ一日ト定ム(陰曆五月五日)
- (六) 秋節 各級學校一律ニ一日ト定ム(陰曆八月十五日)
- (七) 冬至 各級學校一律ニ一日ト定ム(陰曆十一月十五日)

依リ推算ス

乙 紀念暇

- (一) 孔子誕生紀念日(陰曆八月二十七日)
 - (二) 國慶紀念日(十月十日)
 - (三) 政府聯合紀念日(九月二十二日)
 - (四) 中華民國維新政府成立紀念日(三月二十八日)
- 右記紀念日ハ各級學校均シク一日休暇スヘシ
- 第五條 各地方ノ特殊紀念日ニシテ休暇スベキモノハ省教育廳又ハ中央直轄市ノ教育局ニ申請シ査定ヲ經教育部ニ報告スルモノトス
- 第六條 各級學校ノ學校紀念日ハ一日休暇ス
- 第七條 日曜日及第四、第五、第六ノ各條ノ各種休暇日ヲ除キ濫ニ休暇スコトヲ得ズ各種ノ集會ハ日曜日ニ舉行スベシ
- 第八條 專門以上ノ學校ノ學校歴ハ學年開始二月前ニ學校ニ於テ本規程ニ依據シテ編成シ教育部ニ直送又ハ轉報スルモノトス中等以下ノ學校歴ハ學年開始

始二月前ニ省教育廳又ハ中央直轄市ノ教育局ニ於本規程ニ依據シテ制定シ教育部ニ報告スルモノトス

國立又ハ私立ノ專門以上ノ學校附設ノ中等以下ノ學校及維新政府各機關ノ省又ハ中央直轄市ノ市ニ設立シタル中等以下ノ學校ハ所在地ノ教育廳又ハ教育局ノ制定シタル學校歴ヲ遵用ス(省立ノ中等以下ノ學校又ハ省立ノ專門以上ノ學校附設ノ中等以下ノ學校ノ中央直轄市ノ市ニ在ルモノ亦同シ)

- 第九條 暑中休暇日ノ始期、終期ハ鄉村小學ニシテ特殊ノ事情アルトキハ所在地ノ農業狀況ニヨリ適宜移動(繰上ゲ繰延ベノ如シ)又休暇日ノ數期ニ分チ間隔ノ休暇(放暑假、麥假、秋收假等ニ分チ暑中休暇ノ日數ヲ減少スルカ如シ)トナスコトヲ得但シ休暇日ノ總數ハ五十日ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ズコトヲ場合ニ於テハ省教育廳又ハ中央ノ直轄市ノ教育局ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス
- 第十條 寒暑假日ノ始期、終期ハ嚴寒酷暑ノ省市ニ在リテハ當地ノ事情ニ依リ適宜變更スルモノトス

ス
前條(前項?一譯者)ノ休暇日ノ總數ハ第四條甲
項(一)、(三)兩號ノ規定ヲ超過スルコトヲ得ズコノ
場合ニ於テハ省教育廳又ハ中央直轄市ノ市教育局ヨ
リ教育部ニ申請シテ認可ヲ受クルコトヲ要ス
第十一條 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

宗教團體經營教育事業條例

民國二十八年四月十二日

- 第一條 各種宗教團體ノ經營スル教育事業ハ本條
例ノ規定ニ據ルベシ
- 第二條 宗教團體ノ經營スル教育事業ハ其ノ主管
ヲ教育行政機關ニ呈示シ其ノ審査許可ヲ得タル上之
ヲ設立スベシ
- 第三條 宗教團體ノ設立セル高等又ハ專門以上ノ
學校ハ教育部ヲ主管機關トシ中等以下ノ學校ハ當該
各省、市又ハ縣教育機關ヲ主管機關トス
- 第四條 宗教團體經營ノ教育事業ハ其ノ主管行政
機關ヲ通ジテ計畫ヲ樹立シ又ハ計畫書ヲ作成シ且其
ノ計畫、書式及手續ハ私立學校ノ規定及文化團體組
織大綱ノ規定ニ照シ之ヲ處理スベシ
- 第五條 外國宗教團體ノ設立ニ係ル學校ハ中國人

ヲ以テ其ノ校長又ハ院長ト爲スベシ

- 第六條 宗教團體ノ設立セル學校ニ於テハ宗教ヲ
以テ必修科目ト爲スコトヲ得ズ又其ノ學課ニ於テ宗
教ノ宣傳ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第七條 宗教團體ノ設立セル學校ハ宗教儀式ヲ行
フ場合ト雖モ之ニ學生ノ參加ヲ強制スルコトヲ得ズ
- 第八條 宗教團體設立ノ學校又ハ其他ノ教育事業
機關ニ於ケル學制及系統等ハ教育部ニ於テ公布セル
規定ニ據リ之ヲ處理スベシ但シ實驗實習ヲ伴フモノ
又ハ既ニ主管行政機關ニ申請シテ其ノ審査許可ヲ得
タルモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 第九條 宗教團體經營ノ學校ニシテ社會教育ノ性
質ヲ有スルモノ、補習學校、民衆學校等ハ總テ本條
例第五條及第六條ノ規定ニ照シ之ヲ處理スベシ
- 第十條 宗教團體經營ノ教育事業ノ施設方針ニシ
テ教育ノ主旨又ハ法令ニ違反スル時ハ主管教育行政
機關ハ何時ニテモ之ヲ糾正スルコトヲ得事情重大ナ
ルトキ又ハ必要ト認メタルトキハ直接ニ上級機關ニ

上申シ其ノ許可ヲ得タル上之ヲ閉鎖又ハ解散セシムルコトヲ得

第十一條 宗教團體ノ集合、結社、教養又ハ學術ノ研究ハ文化團體組織大綱ニ照シ之ヲ處理スベシ

第十二條 宗教團體ニシテ其ノ信仰セル宗教ヲ布教スル爲其ノ機關ヲ設立シ生徒ヲ募集セントスルモノハ學制ニ依ル學校ノ名稱ヲ用フルコトヲ得ズ又各種學校ノ學則、編制、課程等ニ類似セル施設ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條 宗教團體設立ノ學校ハ私立學校ノ規定ニ據リ之ヲ處理スベシ

第十四條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

文化團體組織大綱

民國廿八年四月十二日

第一條 學術教育ノ増進又ハ風俗習慣ノ改良等ヲ目的トスル性質ヲ有スル團體ハ總テ文化團體ニ屬ス

第二條 文化團體ハ中國ノ文化ヲ増進シ固有ノ道徳ヲ發揚シ世界ノ知識ヲ吸收シ以テ社會ノ進歩ヲ促進シ東亞ノ平和ヲ鞏固ニスルヲ以テ目的トス

第三條 文化團體ハ法律ニ規定セル範圍外ノ政治運動ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條 文化團體ハ公共ノ秩序及善良ノ風俗ヲ阻害スル活動ヲ爲スコトヲ得ズ

第五條 文化團體ノ名稱ハ其ノ組織上ノ主旨ト符合セシムルコトヲ要ス

第六條 文化團體ノ組織ニ關スル方式ハ其ノ本質及地方ノ實狀ニ依リ之ヲ定ム

第七條 文化團體ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時又ハ特殊ノ委員會ヲ組織スルコトヲ得但シ此ノ場合

ニ於テハ當該地區主管官署ニ申請スルコトヲ要ス

第八條 文化團體ノ經費ハ原則トシテ會員之ヲ負擔スベシ

第九條 文化團體ノ章程規則ハ本大綱ニ遵據シテ之ヲ制定シ且當該地區主管官署ニ提出シ其ノ審査許可ヲ受クベシ

第十條 本大綱ハ宗教團體ニ之ヲ準用ス

第十一條 本大綱ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

文化團體組織大綱施行細則

民國二十八年四月二十二日

- 第一條 文化團體組織大綱ニ掲グル主管官署ハ法令ニ別段ノ定アルモノノ外左ノ各號ノ規定ニ依ル
 - 一 學術教育ノ増進ヲ目的トスル團體ノ主管官署ハ中央ニ於テハ教育部、省ニ於テハ教育廳、市ニ於テハ教育局、縣ニ於テハ縣公署トス
 - 二 風俗習慣ノ改良ヲ目的トスル團體ノ主管官署ハ中央ニ於テハ內政部、省ニ於テハ民政廳、市ニ於テハ社會局、縣ニ於テハ縣公署トス
- 第二條 文化團體ハ會務ノ進行ニ關シ政府主管機關ノ指揮ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テ二以上ノ機關ニ關係アル事項アルトキハ當該關係主管機關ニ於テ協議ノ上之ヲ處理スベシ
- 第三條 文化團體ノ設立ニ必要ナル發起人等ハ人民團體組織方案公布前ニ於テハ主管官署ニ申請ノ上之ヲ定ムベシ

二一六

- 第四條 文化團體ニ於テ必要ト認ムル時ハ主管官署ノ許可ヲ經テ團體ヲ以テ其ノ會員ト爲スコトヲ得
- 第五條 文化團體ニシテ文化事業ノ發展ヲ謀ル爲分會ヲ設立スル必要アルトキハ其ノ計畫書ヲ當該地區主管官署ニ提出シ許可ヲ受クベシ
- 第六條 文化團體ノ名稱ハ某會又ハ某地分會ト稱スルコトヲ得ス
- 第七條 文化團體ニシテ會員大會又ハ代表大會ヲ舉行セントスルトキハ當該地區主管官署ノ許可ヲ受クベシ
- 第八條 文化團體ニシテ會員大會又ハ代表大會ヲ舉行セントスルトキハ當該地區主管官署ニ其ノ指揮及監督ノ爲吏員ノ派遣ヲ申請スベシ
- 第九條 文化團體ハ毎年度末ニ於テ左ノ各號ノ會務狀況ヲ當該地區主管官署ニ報告シ主管官署ハ教育部又ハ內政部ニ轉送シ之ヲ保存セシムベシ
 - 一 前年度ニ於テ爲シタル重要事項
 - 二 次年度ニ於テ爲サントスル各種計畫

- 三 前年度ノ決算及次年度ノ豫算
 - 四 前年度ニ於ケル新加入會員ノ姓名、年齡、原籍及學歷
- 第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ文化團體ノ會員タルコトヲ得ズ
- 一 維新政府ノ政綱ニ違背スル言論又ハ行動ヲ爲ス者
 - 二 公權ヲ觀察セラレ未ダ復權セザル者
 - 三 禁治產者
- 第十一條 文化團體法令ニ違反シタルトキハ法ノ定ムル所ニ依リ之ヲ解散セシム
- 第十二條 本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二一七

寺廟登記條例

民國二十八年二月十三日

- 第一條 僧道ノ住持シ又ハ居住スル一切ノ官公又ハ私設ノ壇廟、庵觀ハ戸口調査及不動産登記ニ關スル法令ニ依リテ處理スルノ外本條例ニ依リテ之ヲ登記スヘシ
- 前項ニ謂フ僧道ト僧、尼、道士、女冠ヲ指ス
- 第二條 寺廟登記ヲ左記ノ三種ニ分チ住持ノ僧道ヨリ申請シテ處理ス
 - 一 人口登記
 - 二 不動産登記
 - 三 法物登記
- 第三條 人口登記ハ空道ニ限ル但シ寺廟使用人又ハ寄居ノ僧道亦登記スルコトヲ要ス
- 第四條 寺廟内ノ住持其ノ他職務ヲ有スル僧道ハ登記ニ際シ其ノ職務ヲ註明スベシ
- 前項ノ僧ニ道場更又ハ増減アリタルトキハ登記ヲ申

二一八

- 請スベシ
- 第五條 僧道ニ非ズシテ寺廟ノ主トナリタル者ハ前條ノ規定ヲ準用シテ併セテ登記ス
- 第六條 未成年者ハ僧道トシテ登記スルコトヲ得ズ
- 第七條 僧道還俗シタルトキハ登記取消ヲ申請スヘシ
- 第八條 寺廟不動産トハ寺廟建築物及其ノ附屬土地、家屋ヲ包括ス
- 法物トハ宗教上、歴史上又ハ美術上ニ重要ナル關係ヲ有スル佛像、神像、禮器、樂器、法器、經典、彫刻、繪畫其ノ他保存ニ係ル一切ノ古物ヲ包括ス
- 第九條 寺廟ノ不動産及法物ニ増減アリタルトキハ登記ヲ申請スベシ
- 廟產ニシテ恒例ニ依リ賣却ヲ許サザルモノハ仍舊例ニ依リテ處理ス
- 第十條 寺廟登記ハ各縣ニ在リテハ縣公署ニ於テ特別市又ハ普通市ニ在リテハ社會局ニ於テ之ヲ處

理ス

- 第十一條 寺廟登記ヲ處理スル機關ハ左記帳簿ヲ備ヘ附クベシ
 - 一 寺廟登記簿
 - 二 寺廟人口登記簿
 - 三 寺廟不動産登記簿
 - 四 寺廟法物登記簿
- 前項簿式ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十二條 縣公署、特別市又ハ普通市社會局ハ寺廟登記申請ヲ受理シタルトキハ三日以内ニ職員ヲ派シテ其ノ申請事項ヲ調査スベシ若シ調査事項ト事實ト符合セザルトキハ申請人ヲシテ事實ニ據リテ訂正セシムベシ
- 第十三條 第一次登記ハ三月以内ニ處理ヲ完了スルモノトス
- 前項ノ期間ハ本條例郵送到達ノ日ヨリ起算ス
- 第十四條 第一次登記ノ處理完了シタル後ハ其ノ處理機關タル縣公署ハ省政府民政廳ニ特別市社會局ハ

特別市政府ニ、普通市社會局ハ當該市政府ヲ經テ省政府民政廳ニ夫々帳簿ヲ作成シテ報告スベシ報告用帳簿ヲ様式ハ別ニ之ヲ定ム

- 第十五條 縣公署、特別市又ハ普通市社會局ハ第一次報告後三、六、九、十二月ノ月末ニ帳簿ヲ作製シテ登記情況ヲ報告スベシ其ノ報告手續ハ前條ノ規定ニ依ル
- 第十六條 既ニ縣公署、特別市又ハ普通市社會局ノ登記ヲ經タル寺廟不動産ニシテ不動産登記ニ關スル法令ニ依リ不動産登記事項ヲ辦理スル機關ノ登記シタル各種事項ト符合セザルコトヲ發見シタルトキハ直ニ照合シテ訂正スベシ
- 第十七條 寺廟ニシテ本條例ノ各規定ニ違反シタルトキハ事由ノ輕重ニヨリ左記ニ依リテ之ヲ處罰スルコトヲ得
 - 一 事由ナルトキハ輕微二十元以下ノ科料ニ處シ仍強制シテ之ニ登記セシム
 - 二 事由重大ナルトキハ百元以下ノ科料ニ處シ又ハ其ノ住持ヲ更迭ス
- 第十八條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二一九

監督寺廟條例

民國二十八年一月十八日(內政部部令)

- 第一條 僧侶、道士及住持ヲ有スル宗教上ノ建築物ハ其ノ名稱ノ如何ヲ問ハズ凡テ寺廟トス
- 第二條 寺廟及其ノ財產法物ハ法律ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本條例ニ依リ之ヲ監督ス
前項ニ於テ法物トハ宗教、歴史及美術ニ關係アル佛像、禮器、樂器、法器、經典、彫刻、繪畫其ノ他寺廟ニ保存セララルル一切ノ古物ヲ謂フ
- 第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル寺廟ニハ本條例ノ規定ヲ適用セズ
一 政府機關ノ管理スルモノ
二 地方公共團體ノ管理スルモノ
三 個人ノ設立並ニ管理テナスモノ
- 第四條 荒廢セル寺廟ハ地方自治團體之ヲ管理スベシ
- 第五條 寺廟ノ財產及法物ハ管轄地方官廳ニ申請

三三〇

- シテ登記ヲ受クベシ
- 第六條 寺廟ノ財產及法物ハ寺廟ノ所有ニシテ住持之ヲ管理スベシ
寺廟ニ於テ管理權ヲ有スル僧侶道士ハ其ノ名義ノ如何ヲ問ハズ凡テ住持ト看做ス但シ中華民國人民ニ非ザレバ住持トナルコトヲ得ズ
- 第七條 住持ハ教義ヲ宣揚シ戒律ヲ修持シ其ノ他正當ノ支出ヲ爲ス場合ノ外寺廟財產ノ收入ヲ使用スルコトヲ得ズ
- 第八條 寺廟ノ不動產及法物ハ所屬教會ノ決議及主管官廳ノ許可ヲ經ルニ非ザレバ之ヲ處分シ又ハ變更スルコトヲ得ズ
- 第九條 寺廟ノ收支ノ款項及施行スル事業ハ半年末毎ニ住持ヨリ主管官廳ニ報告シ該ニ之ヲ公告スベシ
- 第十條 寺廟ハ其ノ有スル財產ニ應ジ公益又ハ慈善事業ヲ行フベシ
- 第十一條 本條例第五條、第六條又ハ第十條ノ規定

ニ違反スル者ハ主管官廳ニ於テ其ノ住持ノ職務ヲ廢止シ第七條又ハ第八條ノ規定ニ違反スル者ハ之ヲ寺廟ヨリ追放シ又ハ法院ニ送致スルコトヲ得

第十二條 本條例ハ西藏、西康、青海及蒙古ノ寺廟ニハ之ヲ適用セズ

第十三條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三三一

第九編 司

法

憲法附則

懲治國賊條例

民國二十七年十一月五日

- 第一條 自己又は其ノ徒黨ノ權位ヲ保持スル爲外
國ト戰端ヲ開キ國土軍隊ヲ失ヒ國家人民ニ禍セル者
ハ國賊トシ死刑ニ處ス
幫助又ハ共謀シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者亦同ジ
- 第二條 國賊ノ使指又ハ唱導ヲ受ケ國賊ニ響應シ
テ左ノ行爲ノ一ヲ爲シタル者ハ死刑又ハ無期徒刑ニ
處ス
 - 一 進土政策ニヨリ地方ニ害ヲ貽シタル者
 - 二 濫ニ徵發ヲ行ヒ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ民財ヲ
詐取シタル者
 - 三 軍用品ヲ購入又ハ運輸シタル者
 - 四 濫ニ兵役ヲ課シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ民力ヲ
傷耗シタル者
 - 五 決水又ハ放火シタル者
 - 六 治安ヲ擾亂シタル者

- 七 衆ヲ聚メテ暴動シタル者
- 八 交通ヲ妨害シタル者
- 九 金融ヲ擾亂シタル者
- 十 公務員ヲ加害セントシタル者
- 十一 公務員ノ祖宗ノ墳墓ニ加害シタル者
共謀シテ前項第五至第十一號ニ定ムル罪ヲ犯シ
タル者亦同ジ
- 第三條 國賊ノ使指ヲ受ケ又ハ國賊ノ爲ニ聲援シ
テ左ノ行爲ノ一ヲ爲シタル者ハ無期徒刑又ハ十年以
上ノ有期徒刑ニ處ス
 - 一 言語、文字又ハ圖書ヲ以テ宣傳ヲ爲シタル者
 - 二 民衆ヲ煽惑シテ盲從又ハ附和セシメタル者
- 第四條 本條例ニ定ムル罪ヲ犯シタル者ナルコト
ヲ明知シ之ヲ隱匿シテ報告セザル者ハ其ノ犯シタル
罪ニ依リ之ヲ處斷ス
- 第五條 本條例ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
- 第六條 本條例ニ定ムル罪ヲ犯シ自首シタルトキ
ハ其ノ刑ヲ輕減ス自首ニ因リ國賊ノ陰謀ヲ遂行スル



- ヲ得ザラシメタルトキハ其ノ刑ヲ免除ス
- 第七條 本條例ニ定ムル罪ヲ犯シタルトキハ高等法院ニ於テ第一審裁判ヲ爲ス
- 第八條 本條例ニ定ムル罪ヲ犯シ死刑ヲ宣告シタルトキハ統制ヲ用フルコトヲ得
- 第九條 第一條及第二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ財產ヲ沒收ス
- 前項ノ沒收財產ハ高等法院ニ於テ缺席判決ス
- 第十條 本條例ニ規定セザルモノハ刑法ヲ適用ス
- 第十一條 本條例ノ有效期間及其ノ施行期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

懲治盜匪暫行條例

民國二十七年四月十五日

- 第一條 左記各款ニ掲グル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス
- 一 公然城、市、村、鎮、鐵路、港灣、飛行場又ハ軍用地ヲ占據シタル者
- 二 衆ヲ聚メテ公署ノ重要物品又ハ水、陸、空ニ於テ公衆ノ運輸ニ供スル舟、車、航空機ヲ掠奪シタル者
- 三 衆ヲ聚メ兇器ヲ攜帶シ竊盜ヲ常業ト爲ス者
- 四 海洋ニ在リテ竊盜ヲ行フ者
- 五 竊盜シテ故意ニ殺人シ又ハ傷害致死若ハ重傷ニ至ラシメタル者
- 六 竊盜シテ放火又ハ強姦シタル者
- 七 財物強奪ノ意圖ヲ以テ人ヲ擄ヘ又ハ屍體ヲ盜取シタル者
- 八 財物強奪ノ意圖ヲ以テ人ヲ擄ヘテ強姦シ又ハ強姦シテ之ニ害ヲ與ヘタル者
- 九 衆ヲ聚メ兇器ヲ攜帶シ墳墓ヲ發掘シテ殮物ヲ盜取シ又ハ墳墓ヲ發掘シテ殮物ヲ盜取スルヲ常業ト爲ス者
- 十 恐嚇取財ノ意圖ヲ以テ爆烈物其ノ他ノ危險物ヲ投擲シ人ヲ死又ハ重傷ニ至ラシメタル者
- 十一 衆ヲ聚メ強暴脅迫ヲ以テ法ニ依リ拘禁セラレタル者ヲ強奪シ又ハ法ニ依リ拘禁セラレタル者衆ヲ聚メ強暴脅迫ヲ以テ脱逃シタル者ノ各首謀者
- 十二 強盜ヲ爲ス意圖ヲ以テ暴動ヲ煽動シ公安ヲ擾害シタル者
- 十三 公安ヲ擾害スル意圖ヲ以テ放火又ハ決水シ其ノ他公署軍事設備若ハ現ニ多衆居留シテ執業セル建築物ノ所在セル場所又ハ水、陸、空ニ於テ公衆ノ運輸ニ供スル舟、車、航空機其ノ他公衆交通ノ設備ニ關係アルモノヲ毀壞シテ人ヲ死又ハ重傷セシメタル者

- 十四 作戦又ハ戒嚴區域内ニ在リテ一切ノ交通設備ニ用ヒタル物品ヲ盗取シタル者
- 第二條 治安維持又ハ盜匪ヲ査緝スル職務ニアル者自ラ第一條ニ定ムル罪ヲ犯シ又ハ結託、庇護、隠匿シ若ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ第一條ニ定ムル罪ヲ犯シタル者ヲ幫助シタル者ハ死刑ニ處ス
- 第三條 左ニ掲ケル情狀ノ一ニ該當スル者ハ本刑ヲ二分ノ一ニ輕減スルコトヲ得
 - 一 第一條第七號ノ財物ヲ強要スル目的ヲ以テ人ヲ擄フルノ罪ヲ犯シ未ダ不正ノ所得物ヲ得ズシテ擄ヘラレタル者ヲ釋放シタル者
 - 二 第一條第七號ノ財物ヲ強要スル目的ヲ以テ屍體ヲ盗取スルノ罪ヲ犯シ未ダ不正ノ所得物ヲ得ズシテ屍體ヲ送回シタル者
 - 三 第一條第八號ノ財物強要ノ意圖ヲ以テ人ヲ強要スルノ罪ヲ犯シ決前ニ擄ヘタル人ヲ送回シ又ハ所在地ヲ明示シタル爲所在列明スルヲ得タル者
- 第四條 本條例ニ依リ死刑ノ判決ヲ言ヒ渡シタル當該司法機關ハ判決後七日以内ニ判決謄本ヲ具シ圖書及證據書類ヲ添附ノ上當該省高等法院ニ提出シ院長ハ意見書ヲ具シ司法行政部ニ進達ノ上再審査ヲ受ケ具ノ許可ヲ得タル後刑ヲ執行ス
- 第五條 前條ノ規定ニ依リ呈送シテ再審査ヲ求ムル場合ニ於テ邊境又ハ交通不便ノ區域ニ於テハ高等法院院長ニ於テ當該省公署ニ轉送シ再審査ノ上其ノ許可ヲ得タル後刑ヲ執行ス
- 第六條 現ニ軍隊駐屯シ掃蕩中ノ剿匪區域内ニ於テ本條例ニ定ムル罪ヲ犯シタル者ハ該區域内高級軍事機關之ヲ審判ス
- 第七條 前項ノ軍事機關ハ判決後七日以内ニ判決謄本ヲ具シ圖書及證據書類ヲ添附ノ上綴靖部ニ提出シ其ノ許可ヲ得タル後刑ヲ執行ス
- 第七條 前三條ニ定ムル送付再審査ノ案件ニ對シテハ被告又ハ其ノ法定代理人若ハ配偶者ハ判決後五

- 日以内ニ原審判機關ニ辯護書ヲ提出スルコトヲ得前項ノ辯護書ハ原審判機關ニ於テ一括シテ再審査ニ同付ス
- 第八條 第四條及第五條ノ再審査機關ニ於テ原審判機關ノ判決ニ疑義アリト認メタルトキハ理由ヲ明示シ再審査ヲ命令シ又ハ係員ヲ派遣シテ審査ニ立會ハシメ若ハ高等法院ニ再審査ヲ仰ゲモノトス第六條ノ上級軍事機關ニ於テ原審判機關ノ判決ニ疑義アリト認メタルトキハ理由ヲ明示シ再審査ヲ命令シ又ハ係員ヲ派遣シテ審査ニ立會ハシム
- 第九條 死刑ノ執行ハ銃殺ニ依ルコトヲ得
- 第十條 本條例ニ依リ死刑ヲ執行スル犯人ノ姓名年月日及犯罪事實ハ高等法院院長ニ於テ毎月末日司法行政部ニ報告スルモノトス省公署ニ於テ審査ノ上許可シタルモノ及省公署ニ通知シ軍事機關ニ於テ審査ノ上許可シテ刑ヲ執行シタルモノニ付テハ該執行機關ハ綴靖部ニ報告シ同時ニ司法行政部ニ記録ヲ送付スベシ
- 第十一條 刑罰法規則及刑事訴訟法ノ規定ニシテ本條例ニ抵触セザルモノハ仍ホ之ヲ適用ス
- 第十二條 本條例ノ施行期間ハ二年ト暫定ス
- 第十三條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

戒煙暫行條例

民國二十八年四月三十日

- 第一條 本條ニ掲グル鴉片トハ生鴉片、鴉片煙膏及藥用鴉片ヲ謂フ
- 第二條 鴉片ノ吸食ハ之ヲ禁止ス但シ鴉片中毒ニ罹リ治療上期ヲ分テテ戒絶スルノ必要ヲ認メタル者ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第三條 政府ハ吸煙者ノ習癖ヲ矯正スル爲メ鴉片中毒者ニ對シ必要ノ取締ヲ加フル事ヲ得
- 第四條 鴉片又ハ鴉片吸食用具ノ携帶及鴉片又ハ鴉片吸食用具ノ製造又ハ販賣ハ政府ノ許可ヲ經ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第五條 禁利ノ目的ヲ以テ他人ニ鴉片ヲ吸食セシムル場所ヲ設置シ又ハ其ノ設備ヲ爲スコトヲ得ズ但シ鴉片ノ小賣商ニシテ已ニ政府ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第六條 政府ノ許可ヲ經ズシテ鴉片又ハ其ノ代用品ヲ製造スル目的ヲ以テ鴉片ニ類シタル物品ヲ栽培スルコトヲ得ズ

二二八

- 第七條 前條ノ目的ヲ以テ罌粟ノ種子ヲ賣買又ハ授受スルコトヲ得ズ但シ賣買又ハ授受ニ付已ニ政府ノ許可ヲ經タル罌粟栽培者ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第八條 政府ノ許可ヲ經タル罌粟栽培者ハ其ノ生産シタル鴉片ヲ政府ノ指定スル者ニ賣却スベシ
- 第九條 鴉片類似品ハ總テ之ヲ製造、賣買、授受、所有又ハ所持スルコトヲ得ズ
- 第十條 該管官吏ハ第三條ニ規定スル者ノ店舗、製造場其他ノ場所ニ入り帳簿、書類、原料、製品、器具、機械其他ノ物件ヲ検査シ關係者ニ對シ訊問又ハ取締上必要ナル處分ヲ加フルコトヲ得
- 第十一條 第四條乃至第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ七年以下ノ徒刑又ハ五千元以下ノ罰金ニ處ス
- 第十二條 第七條又ハ第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ五年以下ノ徒刑又ハ三千元以下ノ罰金ニ處ス

- 前項ノ徒刑及罰金ハ之ヲ併科スルコトヲ得
- 第十三條 第十條ニ定ムル該管官吏ノ検査ヲ妨害シ訊問ニ對シ答辯セズ又ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シ其他該管官吏ノ處分ニ阻セザル者ハ五ヶ月以下ノ徒刑又ハ千元以下ノ罰金ニ處ス
- 第十四條 前項ノ徒刑及罰金ハ之ヲ併科スルコトヲ得
- 第十五條 本條例ノ規定ニ違反シタル者ノ鴉片、罌粟又ハ鴉片吸食ノ器具ハ犯人ニ屬スルト否トテ問ハズ總テ之ヲ沒收ス
- 第十六條 前項ノ物品ニシテ沒收スルコト能ハザルトキハ相當ノ價格ヲ追徴ス
- 第十七條 團體代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者ニシテ團體ノ業務ニ關シ本條例ニ違反シタルトキハ團體ノ代表者及違反者ヲ處罰ス
- 第十八條 本條例ノ施行期日ハ別ニ之ヲ公示ス

二二九

戒烟暫行條例施行細則

民國二十八年五月八日

- 第一條 戒烟總局ハ必要ト認ムルトキハ鴉片中毒患者ヲ救濟機關ニ收容スルコトヲ得
- 第二條 鴉片又ハ鴉片吸飲用具ヲ移輸入セントスル者ハ戒烟局長ノ許可ヲ受クベシ
- 第三條 鴉片又ハ鴉片吸飲用具ヲ製造シ又ハ販賣セントスル者ハ戒烟局長ノ許可ヲ受クベシ
- 第四條 鴉片販賣者及鴉片吸飲用具製造者ハ指定場所以外ニ於テ營業スルコトヲ得ズ鴉片吸飲用具ノ製造人ニシテ店舖ヲ設ケ營業セントスルトキハ戒烟局長ノ許可ヲ受クベシ
- 第五條 鴉片又ハ鴉片吸飲用具ヲ移輸出入セントスル者ハ出貨人ノ住所、姓名、數量、價格及移輸出ノ経路ヲ明記シ戒烟總局長ノ許可ヲ受クベシ
- 第六條 鴉片販賣者及鴉片吸飲用具製造者ハ帳簿ヲ備ヘ鴉片及鴉片吸飲用具輸出入ニ付其ノ種類、數量、價格、年月日及出入場所ヲ明記スベシ

三三〇

- 第七條 鴉片販賣者又ハ鴉片吸飲用具販賣者ハ鴉片吸飲用具輸出入ニ付毎月十日迄前月分ノ狀況ヲ明記シ所轄戒烟局長ニ報告スベシ
- 第八條 鴉片ノ種植區域及其ノ面積ハ毎年戒烟局長之ヲ指定ス
- 第九條 鴉片ノ種植セントスル者ハ左ノ事項ヲ明記シ毎年所轄戒烟局長ニ申請シテ其ノ許可ヲ受クベシ
 - 一 住所、姓名及生年月日
 - 二 種植場所及面積
- 第十條 前條ノ許可ヲ得タル者ハ一種植地毎ニ一標柱ヲ立テ該場所、面積、種植者ノ住所及姓名ヲ明記スベシ
- 第十一條 鴉片ノ數量ヲ所轄戒烟局長ニ報告スベシ
- 第十二條 鴉片ノ種植者ハ其ノ生産セル生ノ鴉片ヲ所轄戒烟局長ノ指定スル場所ニ置クベシ

- 第十二條 鴉片販賣者及鴉片吸飲用具製造者ハ戒烟總局長又ハ戒烟分局長ノ定ムル保證金ヲ納ムベシ
- 第十三條 本細則ニ依リ指定及許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ指定及許可ヲ取消サレ又ハ指定期間満了後未ダ繼續ノ許可ヲ受ケズ又ハ死亡シ又ハ營業セルトキハ事實ノ發生シタル日ヨリ三十日以内ニ本人承認人又ハ財產管理人ヨリ所轄戒烟局長ニ對シ現存鴉片又ハ現存鴉片吸飲用具ノ處分ニ付其ノ指令ヲ仰グベシ
- 第十四條 鴉片販賣者ニシテ他人ニ鴉片吸飲ノ場所及設備ヲ供セントスルトキハ左ノ事項ヲ明記シ所轄戒烟局長ニ提出シテ其ノ認可ヲ受クベシ
 - 一 住所姓名及生年月日
 - 二 場所及設備
- 第十五條 第四條ノ規定ニ違反スル者ハ三月以下ノ拘留又ハ二百元以下ノ罰金ニ處ス
- 第十六條 第六條又ハ第八條ノ規定ニ違反スル者ハ一月以下ノ拘留又ハ百元以下ノ罰金ニ處ス

- 第十七條 本細則ニ依リ鴉片又ハ鴉片吸飲用具ヲ製造販賣シ又ハ許可ヲ得テ鴉片ヲ種植スル者ニシテ業務上不正ノ行爲アリタルトキハ其ノ業務ヲ停止シ其ノ指定又ハ許可ヲ取消シ又ハ其ノ保證金ヲ沒收スルコトヲ得
- 第十八條 本細則ハ戒烟暫行條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三三一

戒烟獎勵規則

民國二十八年五月八日

- 第一條 官控ニ出頭シテ戒烟條例ニ違反スル鴉片及所有者不明又ハ所有者所在不明ノ鴉片ヲ告發シ因リテ查獲ニ資シタル者又ハ取締官吏ニシテ之ヲ查獲シタル者ニハ本規定ニ依リ獎勵金ヲ支給ス
- 第二條 查獲シタル鴉片ハ價格ヲ評定シ保管及運搬ニ要セシ費用ヲ控除シテ得タル殘余金ノ十分ノ六ヲ以テ獎勵金トス
- 第三條 前條ノ獎勵金ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ支給ス
 - 一 獎勵金ノ十分ノ七ヲ以テ告發者ニ支給シ十分ノ三ヲ以テ查獲ニ從事シタル官署ノ官員ニ支給ス但シ告發シタル者ナキトキハ獎勵金全額ヲ查獲ニ從事シタル官署ノ官員ニ支給ス
 - 二 二以上ノ官署協力シテ查獲シタルトキハ獎勵金ノ十分ノ七ヲ以テ告發者ニ支給シ殘額ヲ查獲ニ

二二三

- 從事シタル官員ノ人數ニ按分比例シテ各官署ニ分配ス但シ告發者ナキトキハ獎勵金全額ヲ查獲ニ從事シタル官員ノ人數ニ按分比例シテ分配ス
- 官署ノ官員ニ支給スル前二號所定ノ獎勵金ハ各官署長官ニ於テ各官員ノ功績ヲ考査シ之ヲ支給ス
- 告發者ノ獎勵金ハ告發ヲ受ケタル官署長官ニ送附シ署長官ヨリ之ヲ支給ス
- 第四條 本規則ハ戒烟暫行條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鴉片緝私章程

民國二十八年五月八日

- 第一條 戒烟局員ハ戒烟條例違反ノ嫌疑アリト認メタル者又ハ犯罪ニ供セラレタル鴉片及鴉片吸用具ヲ發見シタルトキハ本章程ニ依リ逮捕又ハ押收スベシ
- 第二條 戒烟局員ハ所有者不明又ハ所有者所在不明ノ鴉片及鴉片吸用具ヲ發見シタルトキハ之ヲ押收スベシ
- 第三條 戒烟局員ハ戒烟條例違反ノ嫌疑アリト認メタルトキハ搜查ヲ爲シ必要アルトキハ嫌疑者又ハ參考人ヲ訊問スルコトヲ得
- 第四條 戒烟局員搜查、訊問、押收又ハ逮捕ヲ爲ストキハ其ノ身分ヲ證明スベキ證明書ヲ携帯シ要求アルトキハ即時之ヲ提示スベシ
- 前項ノ證明書ハ別記様式ニ依ル
- 第五條 戒烟局長ハ必要ト認ムルトキハ戒烟局員ヲシテ武器ヲ携帯セシムルコトヲ得

第六條

戒烟局員搜查、押收又ハ逮捕ヲ爲スニ當リ必要アリト認ムルトキハ警察官吏又ハ軍隊ニ應援ヲ求ムルコトヲ得

第七條

警察官吏、鹽務官吏、稅務官吏及稅關官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ戒烟條例違反ノ嫌疑メタル者又ハ所有者不明ノ鴉片及鴉片吸用具ヲ發見シタルトキハ第一條及第二條ノ規定ヲ準用ス

附則

第八條 本章程ハ戒烟暫行條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

式 樣

第 號

戒烟局員之證明書

姓名 年 齡

官 職

二二三

修正人事登記暫行條例

民國二十七年九月五日(內政部令)

- 第一條 各省市ハ戰後從來ノ戶數人口ニ變動ヲ生シ調査上正確ヲ期シ難キヲ以ツテ茲ニ條例及表式ヲ制定シ人事登記ヲ開始シ以テ調査ノ便ニ備フ
- 第二條 人事登記ハ暫時左ノ八項ニ分ツ
 - 一 原籍地復歸
 - 二 原籍地未復歸
 - 三 轉居
 - 四 別居
 - 五 死亡
 - 六 婚姻
 - 七 出生
 - 八 繼承
- 第三條 各省政府ハ民政廳ニ於テ規定ノ表式ニ照シ登記簿ヲ作製シ之ヲ備附スルト共ニ各道尹ニ交附シ道尹ヨリ各縣公署及各自治會ニ轉送シ更ニ同所ヨ

二三四

- リ區、鄉、鎮、坊等ノ公所ニ分送シ隨時項ヲ分子テ登記セシム
- 第四條 原籍地復歸者ノ登記事項ハ十日以内ニ前條各公所ニ詳細報告シ其ノ財產ニ契約關係アルモノハ該項書類及戶籍證明書ヲ提出スベシ
- 第五條 各自治會又ハ各區、鄉、鎮、坊公所ハ每月末登記整理簿ヲ作成シ直轄市縣公署ニ報告シ審查ヲ受クベシ但シ重要ナル事項ハ直ニ報告スルコトヲ要ス
- 第六條 市縣公署ハ各自治會又ハ各區、鄉、鎮、坊公所ノ登記表ヲ接收シタル後ハ戶口調査統計報告規則及様式ニ依リ市縣戶口變更統計表ヲ編製シ所轄道尹ヲ經テ民政廳ニ呈出スベシ民政廳ハ統計表ヲ作成シ省政府ヲ經テ內政部ニ呈送シ登錄ヲ受クベシ
- 第七條 區、鄉、鎮、坊公所又ハ自治會未成立ノ地方ニ於テハ人事登記ノ事務ハ該區之ヲ代行ス
- 第八條 人事登記事務取扱機關ハ登記申請人ヨリ費用ヲ要求又ハ徵收スルコトヲ得ズ

前項ニ違反シタル者ハ嚴罰ニ處スベシ

- 第九條 第九項人事登記取扱人員ニシテ成績優良ナル者ハ直轄市縣公署ヨリ所轄道尹ニ報告シ更ニ民政廳ニ於テ之ヲ取釋メ省政府ヲ經テ內政部ニ轉送シ特ニ之ヲ獎奨ス
- 第十條 人事登記表ハ原登記機關ニ於テ之ヲ保存ス
- 第十一條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二三五

第三審上訴臨時法庭組織條例

二十八年一月五日(司法行政部令)

- 第一條 司法院成立前ニ於テハ第三審上訴臨時法庭ヲ設ケ最高審判及法令ノ解釋統一ニ關スル職權ヲ行使セシム
第二條 第三審上訴臨時法庭ハ當分ノ內司法行政部ニ隸屬シ維新政府所在地ニ之ヲ設ク
第三條 第三審上訴臨時法庭ニ簡任ノ廳長一人、判事四人、薦任又ハ委任ノ書記官若干人ヲ置ク
第四條 第三審上訴臨時法庭ニ簡任ノ檢察官二人ヲ置キ檢察事務ヲ辦理セシメ薦任又ハ委任ノ書記官若干人ヲ置ク
檢察官ノ中經驗最モ深キ者一人ヲ以テ檢察長ノ職權ヲ兼行セシム
第五條 第三審上訴臨時法庭ノ職員ハ總テ司法行政部ヨリ選拔推薦シ又ハ任命派遣スルモノトス

二三六

- 第六條 本條例ニ規定ナキ事項ニ付テハ暫行法院組織法ノ規定ヲ適用ス
第七條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

訴訟費用規則

民國二十七年十一月二十八日司法行政部令

- 第一條 訴訟費用ハ本規則ニ依リ之ヲ徵收ス
第二條 民事ニシテ財產權ニ因リ起訴シタルトキハ訴訟目的物ノ金額又ハ價額ニ依リ裁判費用ヲ徵收ス
一 五十元以上七十五元未滿ハ二元二角
二 七十五元以上百元未滿ハ三元
三 百元以上二百元以下ハ六元
四 二百元ヲ逾エ千元未滿ナルトキハ百元毎ニ二元ヲ加ヘ百元未滿ノモノハ百元トシテ計算ス
五 千元以上二千元未滿ハ二十五元
六 二千元以上四千元未滿ハ三十二元
七 四千元以上七千元未滿ハ四十二元
八 七千元以上一萬元未滿ハ五十五元
九 一萬元以上一萬元未滿ハ七十元
十 一萬元ヲ逾エタルトキハ千元毎ニ三元ヲ加ヘ千

元未滿八千元トシテ計算ス

- 訴訟目的物ノ金額又ハ價額ノ五十元ニ滿タザルトキハ審判費ノ徵收ヲ免除ス
訴訟目的物ノ金額ヲ銀兩、銅貨又ハ外國貨幣ヲ以テ計算スルトキハ市價ニ依リテ國幣ニ換算スベシ
訴訟目的物ノ價額ノ計算ハ民事訴訟法第四百四十條乃至第四百七十條ノ規定ニ依ルベシ
第三條 民事ニシテ財產權ニ因ルニ非ズシテ起訴シタルトキハ前第一項第二號ニ依リ審判費ヲ徵收ス前項ノ訴ニ於テ併セテ財產權上ノ請求ヲ爲シ請求金額又ハ價額百元以上ナルトキハ其ノ金額又ハ價額ニ依リテ審判費ヲ徵收スベシ
第四條 本訴ト反訴ノ訴訟目的物相同シキトキハ反訴ニ付別ニ審判費ヲ徵收セズ
第五條 民事ニシテ第二審法院ニ上訴スルトキハ第二條及第三條ノ規定スル審判費ニ十分ノ四ヲ加徵シ、第三審法院ニ上訴スルトキハ十分ノ六ヲ加徵スベシ

二三七

更審後上訴ヲ爲ストキ亦同シ

第六條 民事ニ於ケル再審ノ訴ハ再審管轄法院ノ審級ニ按シ第二條、第三條及前條ノ規定ニ依リ審判費ヲ徴收スベシ

第七條 左ノ民事申請又ハ申立ハ審判費一元ヲ徴收ス

一 抗告又ハ再抗告

二 原狀回復ノ申請

三 假差押又ハ假處分ノ申請

四 除權判決ノ申請

前項以外ノ民事申請又ハ申立ハ審判費五角ヲ徴收ス但シ訴訟救助ノ申請ニハ暫時徴收ヲ免除ス

第八條 民事訴訟法五百十五條第一項ノ規定ニ依リ支拂命令ノ申請ヲ起訴ト看做ストキハ第二條ノ規定ニ依リ審判費ヲ徴收ス

第九條 民事強制執行ハ執行目的物ノ競賣金額ニ依リ執行費ヲ徴收ス

一 五十元以上百元以下ハ一元

二 百元以上二百五十元未満ハ一元八角

三 二百五十元以上五百元未満ハ二元五角

四 五百元以上一千元以下ハ三元五角

五 一千元ヲ逾エタルトキハ千円毎ニ一元五角ヲ加

徴シ一千元未満ハ千円トシテ計算ス

執行目的物ニシテ競賣ヲ經ザルトキハ其ノ金額又ハ價額ニ依リ前項所定ノ等級ニ按シテ十分ノ五ヲ徴收ス

第二條第二項、第三項及第四項ノ規定ハ本條ニ之ヲ準用ス

第十條 民事ニ於ケル判決文、召喚狀及其ノ他訴訟ニ關スル文書ノ送達ハ一件ニ付一角ヲ徴收ス

一日ノ内ニ往復スルコト能ザルトキハ一日ニ付別ニ食費、宿泊料五角及船車賃費ヲ徴收ス

郵便局ヨリ送達シタルトキハ第十四條ノ規定ニ依リ之ヲ處理ス

第十一條 抄録費ハ百字毎ニ一角ヲ徴收シ百字未満ハ百字トシテ計算ス送達スベキ裁判正本ハ別ニ抄録

費ヲ徴收スルコトヲ得ズ

第十二條 翻譯費ハ百字毎ニ四角乃至八角ヲ徴收シ法院ニ於テ之ヲ酌定ス百字未満ハ百字トシテ計算ス

第十三條 官報及新聞紙ノ登載費ハ定價ニ依リ計算ス

第十四條 郵便費、電信費及運送費ハ其ノ實數ニ依リ計算ス

第十五條 證人ノ出庭費ハ毎回五角トス 鑑定人及通譯ノ出庭費ハ毎回一元以上五元以下トシ法院ニ於テ之ヲ酌定ス

證人、鑑定人及通譯ニシテ尋問又ハ通譯ニ因リ一日以上滯留シタルトキハ出庭費ノ外ニ證人ニハ毎日滯留費五角ヲ支給シ、鑑定人及通譯ニハ毎日一元以上五元以下ヲ法院ニ於テ酌定シテ之ヲ支給ス

證人、鑑定人、通譯ノ途中旅費ハ實費ニ依リテ計算スベシ但シ法院ニ於テ相當ト認メタルモノニ限ル

第十六條 推事及書記官ノ證據調査ノ爲ノ出張旅費ハ官吏出張旅費暫行章程ニ依リ之ヲ處理ス

第十七條 本規則ニ規定セザル必要費用ハ實費ニ依リ之ヲ計算ス

第十八條 第二條乃至第九條、第十條第一項、第十一條及第十二條ニ依リ徴收スベキ費用ハ高等法院ニ於テ司法行政部ニ申請シ其ノ認可ヲ經テ適宜加減又ハ免除スルコトヲ得

第十九條 以前ニ施行シタル訴訟費用規則及該規則ニ依リ増徴收ノ命令ハ之ヲ廢止ス

第二十條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



非訟事件徵收費用規則

民國二十七年十一月二十八日司法行政部令

- 第一條 非訟事件ニ關シ法院ニ申請ヲ爲ストキハ本規則ニ依リ費用ヲ徵收ス
- 第二條 財產權ニ因リ申請ヲ爲ストキハ財產權ノ金額又ハ價額ニ依リ費用ヲ徵收ス
 - 一 五百元未滿ハ一元
 - 二 千元未滿ハ二元
 - 三 五千元未滿ハ三元
 - 四 一萬元未滿ハ五元
 - 五 五萬元未滿ハ十二元
 - 六 五萬元以上ハ三十元
- 第三條 財產權ニ因ルニ非ズシテ申請ヲ爲ストキハ費用三元ヲ徵收ス
- 第四條 繼續シテ申請又ハ異議申立ヲ爲ストキハ毎回費用五角ヲ徵收ス
- 第五條 非訟事件ノ費用徵收ハ前三條ノ規定ニ依

二四〇

- ルノ外其ノ他法令ニ依リテ徵收スベキ費用ハ訴訟費用規則第十條乃至第十七條ノ規定ヲ準用ス
- 第六條 第二條乃至第五條ニ依リ徵收スベキ費用ハ高等法院ニ於テ金額ヲ擬定シ司法行政部ニ申請シテ其ノ認可ヲ經タル後之ヲ加減スルコトヲ得
- 第七條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

司法印紙規則

民國二十七年十一月二十一日司法行政部令

- 第一條 司法印紙ハ司法行政部ニ於テ之ヲ製造ス司法印紙ヲ偽造又ハ變造シタルトキハ刑法印花稅票偽造及變造ニ依リ處罰ス
- 第二條 司法印紙ハ司法機關ニ於テ之ヲ發賣ス司法印紙發售規則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第三條 司法印紙ヲ左ノ各種ニ分ツ
 - 一 一分 赭黃色
 - 二 五分 藍色
 - 三 一角 花青色
 - 四 二角 紫色
 - 五 五角 綠色
 - 六 一元 赭色
 - 七 五元 黃色
 - 八 十元 紅色
- 第四條 司法印紙ノ價格ハ國幣ヲ以テ計算シ其ノ

一元ニ滿タザルモノハ小銀貨又ハ銅貨ニ依リ收納スルコトヲ得

- 小銀貨又ハ銅貨ノ國幣換算ハ各地ノ市價ニ依リ之ヲ定メ收支一律トス
- 第五條 貼用スベキ印紙ノ數額ニ端數アリタルトキハ五厘以上ノモノニ在リテハ印紙一分ヲ購買シ五厘ニ滿タザルモノハ計算スルコトヲ要セズ
- 第六條 司法機關ニ提出スル書狀ニシテ規定ニ依リ部發行ノ訴訟用紙ヲ購買使用スベキモノハ司法印紙ノ貼用ヲ要セザルモノヲ除クノ外司法印紙一角ヲ貼用スベシ
- 第七條 左ノ司法收入ニハ司法印紙ヲ貼用スベシ
 - 一 訴訟費用規則第二條乃至第九條、第十條第一項、第十一條、第十二條ニ依リテ徵收スル費用
 - 二 登記費、登錄費及公證費
 - 三 罰金及科料 但シ罰金充ツベキ部分ハ此ノ限ニ在ラズ
 - 四 過怠金

二四一

- 第八條 貼用スベキ印紙ノ價格ハ司法機關ノ主管者ニ於テ計算シ且證明書ヲ作成ス
前項ノ證明書ハ計算ヲ請求シタル本人ニ交付シタル本人自身之ヲ携行シ印紙發售處ヨリ印紙ヲ購買シテ貼用スベシ
- 第九條 司法印紙貼用後金錢收納係員ハ直ニ抹消シ且領收證ヲ發給ス
- 第十條 印紙抹消ノ機械ハ司法行政部ニ於テ製造シタル上之ヲ配布シ又ハ各高等法院ニ於テ定式ニ依リ之ヲ製造ス
- 第十一條 購買貼用シタル司法印紙ハ司法機關ノ計算ノ錯誤ニ因リ定額ヲ超過シタル場合ヲ除クノ外原價額ヲ返却セズ
- 第十二條 管轄處ノ事件ニ付已ニ司法印紙ヲ購買貼用シ裁列費ヲ納入シタルトキハ事件ト共ニ管轄權ヲ有スル機關ニ通知スベシ此ノ場合ニ於テハ新タニ審判費ヲ徵收セズ
- 第十三條 司法機關ハ第六條及第七條ニ依リ司法印

- 紙ヲ貼用スベキ司法收入ニ付夫々日記簿ヲ備ヘ附ケ司法印紙貼用者ノ姓名、住所、件名若ハ事由、貼付司法印紙ノ數額及其ノ月日ヲ記載スベシ
- 第十四條 高等法院ハ毎月末ニ前條ノ各日記簿ノ記載事項ヲ表ニ記入シ部ニ報告スベシ高等以下ノ司法機關ハ所屬高等法院經由部ニ報告スベシ
前項ノ記載報告ノ時期ハ週クトモ一月ヲ超ユルコトヲ得ズ
- 第十五條 各種ノ印紙收入ハ毎月記表報告ト共ニ司法行政部ニ呈送シテ查收スルコトヲ要シ他項ニ流用スルコトヲ得ズ
- 第十六條 第八條ノ證明書、第九條ノ領取書、第十三條ノ各日記簿及第十四條ノ月報表ノ定式ハ司法印紙發售細則ニ規定スル各種附式ニ依リ之ヲ辦理ス
- 第十七條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

司法印紙發賣細則

民國二十七年十二月二十二日司法行政部令

- 第一條 司法機關ハ司法印紙發售處ヲ設ケ職員ヲ派シテ印紙發賣事務ヲ管理セシムベシ
- 第二條 徵收スベキ費用ニシテ印紙貼用スベキトキハ其ノ印刷ハ徵收スベキ司法機關ニ於テ發賣スベシ
- 第三條 省高等法院ノ毎年ノ印紙請求受領ハ三、六、九、十二月ノ四回ニ分チ之ヲ辦理シ毎次請求受領ノ時期ニ豫メ所屬各機關ノ一季内ニ要スル印紙總額ヲ算出シ種類ヲ分チ枚數ヲ表ニ記入シ司法行政部ニ申請シテ發給ヲ受クベシ但シ發賣不足シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第四條 司法機關ノ受領シタル印紙ハ會計主任者ニ負責保管セシメ主任ハ逐日其ノ所要數ニ依リ發售處ニ交付シテ發賣セシムベシ
- 第五條 徵收スベキ費用ノ印紙貼用スベキモノ

- ニシテ當事者ニ於テ豫納金ヲ納入シアルトキハ豫納金中ヨリ購入貼付スルコトヲ得執行費ニ在リテハ執行所得ノ金額中ヨリ購入貼付スルコトヲ得送達費ハ執達員ニ於テ被送達者ヨリ現金ヲ徵收シ購入貼付スルコトヲ得
- 第六條 印紙ハ所定ノ用紙又ハ書狀ニ貼付シ隨時關係書類ニ添付スベシ
- 第七條 案件擔當者ニシテ印紙ヲ貼付セズ又ハ貼付セルモ金額ノ不足ナル書狀ヲ發見シタルトキハ訴訟救助案件ヲ除クノ外貼付又ハ追補貼付スベキ數額ヲ算出シテ證明書ヲ作製シ當事者ニ交付シテ發售處ヨリ購入シ追補貼付セシムベシ
- 第八條 司法印紙規則第十一條ノ規定ニ依リ返却スベキ印紙ノ價額ハ案件擔當者ニ於テ印紙價額返却證書ヲ作製シ返却金額ヲ記入シテ原納金者ニ交付シ前ニ受領シタル領收證ト共ニ携行シテ發售處ヨリ受領スベシ
發售處ハ前項ノ返却金支拂後ニ受領者ノ領收書ヲ徵

取シ原領收證ニ貼付シテ證據ト爲シ前ニ發給シタル

領收證内ニ返却金額ヲ明記シ受領者ニ交付スベシ

第九條 印紙ハ貼付スベキ金額ニ依リテ發賣ス
(例ハバ貼付スベキ金額ガ一角、五角又ハ一元ナル
トキハ一角、五角又ハ一元ノ印紙ヲ發售シテ貼付セ
シムベシ)

相當ノ印紙ナキトキハ金額ノ大ナル印紙ヨリ順次發
賣シテ貼付セシムベシ(例ハバ貼付スベキ金額九十
六元八角五分ナルトキハ十元ノ印紙九枚、五元、一
元、五角、二角、一角及五分ノ印紙各一枚ヲ發賣シ
テ貼付セシムベシ)

第十條 印紙ハ該發售處ニ於テ購入貼付シタルモ
ノニ非ザレバ抹消ヲ拒絕スベシ

印紙ニシテ該發售處ノ抹消ヲ經ズシテ機械呈遞シタ
ルトキハ收件處ハ直ニ查明シ發售處ノ流漏ニ係ルト
キハ抹消ヲ補行スルノ外其ノ事由ヲ該管長官ニ報告
シ審査受ケタル上之ヲ處置スベシ

第十一條 發售處ノ印紙發賣時間ハ司法機關ノ執務

時間ニ同ジ

第十二條 發售處ハ收受シタルトコロノ金錢ヲ發售
司法印紙日記簿ニ添ヘ逐日會計主務者ニ送致シ查收
ノ上捺印ヲ受ケベシ

印紙價額ノ返却等ノ事アリタルトキ印紙價額返却登
記簿ニ記入ノ上之ヲ會計主任者ニ送致シ查收ノ上捺
印ヲ受ケベシ

第十三條 發售處ハ左ノ各簿ヲ備ヘ附クベシ

一 發售司法印紙日記簿

逐日發賣シタル印紙ノ各項司法收入額、印紙ノ

種類枚數ヲ記入シ毎日一回決算ス

二 印紙價額返却登記簿

返却シタル印紙原價ノ金額、印紙ノ種類及枚數
ヲ記入シ毎月一回決算ス

第十四條 發售處ハ各項費用ノ徵收金額及印紙購入
ニ付辦法ヲ夫々表ニ記入シテ揭示シ以テ大衆ノ觀覽
ニ供スベシ

第十五條 發售處ハ司法印紙規則第十四條ノ規定ニ

依リ毎月ノ受入及賣殘印紙數ヲ原簿ニ記入シ徵收報
告表及返却印紙價額證書ト共ニ一括シテ報告スベシ

第十六條 發售處又ハ收發處ノ職員ニシテ左ノ事由
ノ一ニ該當スルトキハ該管長官ニ於テ適宜處分シ又
ハ申請シテ懲戒ニ付スベシ

一 發賣時間中ニ印紙ヲ發賣セザルトキ

二 貼用シタル印紙ヲ抹消セザルトキ

三 各項帳簿證憑ノ記載ヲ誤リ又ハ報告ヲ遲延シタ
ルトキ

四 本規則第十條ノ規定ニ違反シタルトキ

第十七條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ旅行ス

附帳簿書表様式(省略)

司法訴状用紙規則

民國二十七年十一月二十一日司法行政部令

第一條 民事又ハ刑事訴訟ニシテ口頭ニ依ルコトヲ得ルモノヲ除ク外ハ司法狀紙ヲ購入使用スルモノトス

第二條 司法狀紙ヲ左ノ二種ニ分ツ

一 民事狀

二 刑事狀

第三條 司法狀紙ノ費用徴收ハ左ノ規定ニ依ル

一 民事狀 一通ニ付國幣六角

二 刑事狀 一通ニ付國幣三角

一角ヲ國幣ノ十分ノ一ト計算シ小銀貨又ハ銅貨ヲ以テ換算スルトキハ各地ノ市價ニ依リ之ヲ定メ收支一律トス

第四條 司法狀紙ハ司法行政部ニ於テ製造、編號及捺印シテ配布シ標造又ハ副狀ヲ製造シテ發賣スルコトヲ得ズ

二四六

第五條 狀紙ノ表紙ト狀内用紙ヲ貼合シタル箇所ニハ高等法院ノ官印ヲ押捺シ且表頁ニ發賣機關ノ官印ヲ押捺スベシ

第六條 司法狀紙ハ定價ニ依リ發賣スルコトヲ要シ司法行政部ノ認可ヲ經ルニ非ザレバ加減スルコトヲ得ズ

第七條 司法狀紙ノ發行徴收事項ハ發賣機關ニ於テ職員ヲ派シ管理ス高等法院ニ在リテハ毎月表ヲ作製シ司法行政部ニ報告シテ査收スベシ高等以下ノ司法機關ニ在リテハ毎月表ヲ作製シ所轄高等法院ニ報告シテ其ノ書後ヲ經タル上司法行政部ニ轉報スベシ

第八條 狀内用紙不足ノ際ハ出訴人ニ於テ隨意用紙ヲ備へ原狀ノ寸法ニ依リ頁數ヲ增加スルコトヲ得但シ接合箇所ニ出訴人ニ於テ印章又ハ捺印ヲ押捺スベシ

第九條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十編 産業、諸法

露光量違いにより重複撮影

司法訴状用紙規則

民國二十七年十一月二十二日司法行政部令

第一條 民事又ハ刑事訴訟ニシテ口頭ニ依ルコトヲ得ルモノヲ除ク外ハ司法狀紙ヲ輸入使用スルモノトス

第二條 司法狀紙ハ左ノ様ニ分ツ
一 民事狀
二 刑事狀

第三條 司法狀紙ノ使用得收メノ規定ニ依リ
一 民事狀 一通ニ付國幣五角
二 刑事狀 一通ニ付國幣三角

一角ヲ國幣ノ十分ノ一ト計算シテ銀貨又ハ銅貨ヲ以テ換算スルコトキハ各地ノ市價ニ依リ之ヲ定メ收受ノ旨トス

第四條 司法狀紙ハ司法行政部ニ於テ製造シ、編號及捺印シテ配布シ、遺失ハ副狀ヲ製造シ、發售スルコトヲ得ス

二四六

第五條 狀紙ノ表紙ト狀内用紙ヲ聯合シキル簡潔ニハ高等法院ノ官印ヲ押捺シ且表頁ニ發賣機關ノ官印ヲ押捺スベシ

第六條 司法狀紙ハ定價ニ依リ發售スルコトヲ要シ司法行政部ノ認可ヲ經ルニ非サレバ加減スルコトヲ得ス

第七條 司法狀紙ノ發行徵收事項ハ發賣機關ニ於テ職員ヲ派シ管理ス高等法院ニ在リテハ毎月表ヲ作シ司法行政部ニ報告シテ徴收スベシ高等以下ノ司法機關ニ在リテハ毎月表ヲ作製シ所轄高等法院ニ報告シテ其ノ當責ヲ經タル上司法行政部ニ轉送スベシ

第八條 狀内用紙不足ノ際ハ出訴人ニ於テ隨意用紙ヲ備へ原狀ノ寸法ニ依リ頁數ヲ增加スルコトヲ得但シ枚數商標ニ出訴人ニ於テ印章又ハ捺印ヲ押捺スベシ

第九條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十編 産業、諸法

第十條 鑛業 附則

鑛業法

民國十九年五月二十六日公布
民國二十一年一月二十三日改正

第一章 總則

第一條 中華民國領域土内ノ鑛物ハ國有トシ本法ニ依リ鑛業權ヲ取得スルニ非ザレハ試掘又ハ探掘ヲ爲スコトヲ得ズ

第二條 本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ左記ノ鑛物ヲ謂フ

- | | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 鐵 | 錫 | 銀 | 銅 | 鉛 | 鋅 | コバルト |
| アンチモニー | ニツケル | ニツケル | コバルト | コバルト | コバルト | コバルト |
| 亞鉛 | アルミニウム | 水銀 | 水銀 | 水銀 | 水銀 | 水銀 |
| 芒錳 | モリブデン | 白金 | 白金 | 白金 | 白金 | 白金 |
| イリヂウム | クロシウム | ウラニウム | ウラニウム | ウラニウム | ウラニウム | ウラニウム |
| タングステン | ラヂウム | マグネシウム | マグネシウム | マグネシウム | マグネシウム | マグネシウム |
| バナヂウム | カリウム | 硫黃 | 硫黃 | 硫黃 | 硫黃 | 硫黃 |

燐 砒素
石棉 雲母
岩鹽 明礬
天然曹達 重晶石
硼砂 黑鉛
弗石 耐火粘土
磁土 大理石
石炭類 石油類
煤矽砂類 顏料石類
國民政府ノ指定スル物 其他

第三條 試掘探掘及其附屬事業ヲ鑛業トス
第四條 試掘探掘權ヲ鑛業權トス
第五條 第二條ニ列舉シタル鑛物ハ第九條ニ定ムル國營鑛物及第十條ニ定ムル國家保留區域ヲ除キ中華民國人民本法ニ依リ鑛業權ヲ取得スルコトヲ得但シ所在地ノ縣市政府ハ優先權ヲ有ス
前項ノ中華民國人ノ經營ニ係ル鑛業力會社組織ナルトキハ株式會社ナル場合ニ限り外國人ノ株主タルコ

トテ許可スルコトヲ得但シ左記ノ制限ヲ受クルモノトス

- 一 會社ノ總株數ノ過半數ハ中華民國人ノ所有タルベシ
- 二 會社ノ取締役ノ過半數ハ中華民國人民タルベシ
- 三 會社ノ主席取締役及支配人ノ職ハ中華民國人民ヲ以テ之ニ充ツベシ

第六條 本法ニ依リ鑛業權ヲ取得シ登記ヲ爲シタル地域ヲ鑛區トシ鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地上境界線ノ直下ヲ以テ限リトナスニ簡以上ノ鑛區相隣接スルトキハ其隣接境界ハ少クトモ二十「メートル」ノ距離アルコトヲ要ス

第七條 鑛區ノ地表水面積ハ炭鑛ハ十五「ヘクタール」以上五百「ヘクタール」以下トシ其他ノ鑛物ハ二十「ヘクタール」以上二百五十「ヘクタール」以下トス河底ニ存在シテ面積ヲ計算スルコト能ハザル砂鑛ハ河身ニ沿ヒテ其長サヲ計算シ「キロメートル」以上五「キロメートル」以下トス

前項ノ鑛區面積ノ最大限度ハ特別ノ事情アル場合農鑛部ヨリ部員ヲ派シ又ハ省主管官署ニ命ジ部員ヲ派シテ調査ヲ爲サシメ必要ト認メタルトキハ之ヲ増加スルコトヲ得

第八條 探鑛地域ノ面積ガ前條所定ノ最小限度ニ及バザルモノハ小鑛業トス

第九條 鐵鑛、石油鑛、銅鑛及冶金用ニ適スル有煙炭ハ固禁トシ國家自ラ試掘探掘ヲ行フコト必要ナキトキハ之ヲ貸貸シテ試掘探掘ヲ爲サシムルコトヲ得但シ貸借人ハ中華民國人ニ限ル

天然瓦斯ニシテ「ヘリウム」「瓦斯」ヲ含ムトキハ政府ハ其天然瓦斯ニ對シテ「ヘリウム」ヲ採取スル權利ヲ保留スルコトヲ得鉄石油銅等ノ鑛產物ハ政府優先買收權ヲ有ス

前項ノ鑛產物ノ外國輸出數量及期限ハ其契約ヲ中央主管機關ニ提出シテ其許可ヲ經ルニ非ザレハ効力ヲ有セズ許可ヲ經タル場合ト雖モ必要ニ依リ制限ヲ加フルコトヲ得

第十條 前條各鑛物及左記各鑛物ハ農鑛部ガ保留ノ必要アリト認メタル場合一定區域ヲ劃シテ國家ノ保留區域トシ試掘探掘ヲ禁止スルコトヲ得

- 一 タングステン
 - 二 マンガン
 - 三 アルミニウム
 - 四 アンチモン
 - 五 ウラニウム
 - 六 ラヂウム
 - 七 カリウム
 - 八 燐
- 第十一條 第九條及第十條所定ノ各鑛物ヲ發見シタル者ハ直チニ農鑛部ニ報告スベシ農鑛部ハ調査ノ結果其報告者ガ最初ノ發見者タルコト列明シ且ツ國家ニ於テ探掘ヲ爲シ又ハ國家ノ保留區域ト爲スコトヲ必要ト認メタル場合其報告者ニ發見ニ要シタル實際費用ノ五倍以上ノ獎勵金ヲ交付スベシ

第二章 鑛業權

第一節 鑛業權ノ性質ト效力

第十二條 鑛業權ハ物權トシ本法ニ特別ノ規定アル場合ノ外不動産ニ關スル諸法律ノ規定ヲ準用ス

鑛業權ハ物權トシ本法ニ特別ノ規定アル場合ノ外不動産ニ關スル諸法律ノ規定ヲ準用ス

第十三條 鑛業權ハ分割スルコトヲ得ズ

第十四條 鑛業權ハ相續、讓渡、抵當、滯納處分及強制執行ノ目的タルノ外權利ノ目的ト爲スコトヲ得ズ

第十五條 前項ノ鑛業權ノ抵當ハ探掘權ニ限ル

第十六條 試掘權ノ存續期間ハ二年トス

探掘權ノ存續期間ハ二十年ヲ超過スルコトヲ得ズ期限到來シタルトキハ農鑛部ニ出願シ其許可ヲ得テ之ヲ延長スルコトヲ得但シ期間ノ延長ハ二十年ヲ超過スルコトヲ得ズ

第十七條 左記各項ハ農鑛部ニ出願シ其許可ヲ經タル後省主管官署ニ登記スルコトヲ要ス

- 一 鑛業權ノ設定、變更、移轉

一 探掘權ヲ抵當トスルトキハ其抵當權ノ設定、變更、移轉

農鑛部ハ前項第一號ノ許可ヲ爲ス場合ハ鑛業許可證ヲ下付シ又ハ許可證ニ其旨ヲ記入スベシ

第十八條 左記各事項ハ主管官署ニ登記ヲ爲スベシ

一 鑛業權ノ消滅及處分ノ制限

二 探掘權及抵當權ヲ設定シタルトキハ其抵當權ノ消滅及處分ノ制限

第二節 鑛業權ノ設定

第十九條 鑛業權ノ設定出願人ハ願書ニ鑛區圖ヲ添附シ主管官署ヲ經テ農鑛部ニ許可ヲ出願スベシ探掘權出願ノ場合ハ鑛床說明書ヲ添附スベシ

前項ノ出願ニ關係アル事項ニ就キ主管官署又ハ農鑛部方必要アリト認メタルトキハ調査員ヲ派遣シ又ハ所管地方官署ニ調査ヲ命ズルコトヲ得

第二十條 前條第一項ノ出願鑛區圖及說明書ハ各一通ヲ作成シ同時ニ所在ノ縣市政府ニ提出スベシ縣市政府ガ報告受領後六月内ニ上級主管官署ニ對シ自ら

探掘申請ヲ爲サザルトキハ第五條ニ規定スル優先權ヲ拋棄シタルモノト看做ス

縣市政府自ら探掘ヲ爲ス場合ハ原出願人ニ相當ノ償金ヲ交付スベシ若シ其鑛業權力第四十一條ノ規定ニ依リ取消サレタルトキハ原出願人ハ其ノ鑛業權ヲ優先シテ取得スル權利ヲ有ス

第二十一條 鑛業出願人ノ作成シタル願書、鑛區圖、鑛床說明書不充全ナルトキハ主管官署又ハ農鑛部期限ヲ附シテ訂正又ハ補足ヲ命ズルコトヲ得若シ期限内ニ訂正又ハ補足ヲ爲サザルトキハ其出願ヲ取消スベシ

第二十二條 左記各地域内ニ於テハ鑛業權ノ設定ヲ出願スルコトヲ得ズ

一 砲臺、要塞、軍港及一切ノ軍用工場ニ關係ヲ有シ禁止區域トシテ指定セラレタル地域内ニシテ所管官署ノ許可ヲ經ザル土地

二 通商市場ノ境界ヲ距ルコト「一キロメートル」以内ニシテ所管官署ノ許可ヲ經ザル土地

三 國有又ハ公有建築物、國葬地、鐵道、公用道路、緊要水利地及移過不可能ナル著名ノ古跡等ノ境界ヲ距ルコト百五十「メートル」以内ニシテ所管官署又ハ所有者及占有者ノ許可ヲ經ザル土地

第二十三條 鑛業出願人ハ鑛業出願地ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第二十四條 農鑛部又ハ省主管官署ハ試掘出願地ヲ探掘ニ適スルモノト認メタル場合附シ出願地ニ探掘出願ヲ爲スコトヲ命ズルコトヲ得若シ期限迄ニ探掘ノ出願ヲ許サザルトキハ試掘出願ヲ取消シ第三者ノ探掘出願ヲ許可スルコトヲ得

農鑛部又ハ省主管官署ハ探掘出願地ニ對シ引續キ試掘ヲ爲スコトヲ要スト認メタル場合前項ノ規定ヲ準用ス

第二十五條 二以上ノ鑛業出願地相重複シ鑛物同種ナルトキハ其重複部分ハ省主管官署ニ對シ先ニ出願シタル者優先シテ鑛業權ヲ取得ス

前項出願ノ願書到達日同相同ジキトキハ省主管官署ハ期限ヲ附シ各出願人ニ協議ノ上出願ヲ爲スベキコトヲ命ジ協議調ハザルトキハ省主管官署抽籤ヲ以テ優先權者ヲ決定ス

第二十六條 試掘出願地ト探掘出願地ト重複シ出願同時ニシテ且鑛物同種ナルトキハ其ノ重複部分ノ探掘出願人ニ於テ鑛業權取得ノ優先權ヲ有ス

第二十七條 試掘出願人ガ同種ノ鑛物ニ對シ更ニ探掘ヲ出願シ其出願地ガ他人ノ探掘出願地ト重複セル場合ハ其試掘出願書到達ノ日ヲ探掘出願書到達ノ日ト看做ス

第二十八條 試掘出願地ガ他人ノ鑛區ト重複シ鑛物同種ナルトキハ其重複部分ハ許可スルコトヲ得ズ

第二十九條 探掘出願地ガ他人ノ鑛區ト重複シ鑛物同種ナルトキハ其重複部分ハ許可スルコトヲ得ズ但シ

第三十條 試掘出願地ニ就テ他人ガ更ニ探掘ノ出願ヲ爲シ且鑛物同種ナルトキハ他人ノ探掘出願ト重複

セム部分ニ就テハ第二十四條第一項ノ規定ヲ準用ス
 第三十一條 鑛業出願地ガ他人ノ鑛業出願地又ハ他人ノ鑛區ト相重複シ鑛物異ナル場合主管官署ハ先ニ出願者又ハ鑛業権者ニ通知スベシ
 先ノ出願者又ハ鑛業権者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内鑛業権ヲ取得スル優先権ヲ有ス
 前項ノ規定ノ第三十八條ノ場合ニ於テ鑛業権者ノ承諾ヲ得タルトキハ之ヲ適用セズ
 第三十二條 試掘権者ハ試掘期間ノ満了後三十日以内ニ其ノ地域内ノ同種ノ鑛物ニ對シ鑛業権取得ノ優先権ヲ有ス
 第三十三條 鑛業出願地ノ位置形狀ト鑛床ノ位置形狀ト合致セズ鑛利ヲ損スルトキハ農鑛部又ハ省主管官署ハ期限ヲ附シ出願人ニ更正ヲ命ズルコトヲ得期限迄ニ更正ヲ申請セザルトキハ其出願ヲ取消ス
 前項ノ場合出願人ニ於テ自ラ更正ヲ申請スルコトヲ得

第三十四條 農鑛部分又ハ省主管官署ハ鑛業出願地ガ
 公益ヲ害シ又ハ經營ノ價值ナシト認ムルトキハ其出願ヲ許可セザルコトヲ得
 第三十五條 鑛業出願地ノ一部ガ他人ノ鑛區ト重複シ錯誤ニ因リ許可シタルトキハ農鑛部又ハ省主管官署ハ期限ヲ附シテ原出願人ニ訂正ヲ命ズルコトヲ得
 第三節 鑛業權變更及移轉
 第三十六條 鑛業権者カ許可セラレタル鑛區ノ増減訂正、合併、分割ヲ出願セムトスルトキハ願書ニ新舊關係鑛區圖及理由書ヲ添附シ省主管官署ヲ經由シテ農鑛部ニ許可ヲ出願スルコトヲ得
 前項ヲ出願ニ就キ調査ノ必要アルトキ又ハ添附書類ガ完備セザルトキハ第十九條第二項及第二十一條ノ規定ヲ適用ス
 第三十七條 鑛區ノ位置形狀ト鑛床ノ位置形狀ト合致セズ鑛利ヲ損スルトキハ農鑛部又ハ省主管官署ハ期限ヲ附シテ訂正ヲ命ズルコトヲ得
 第三十九條 鑛業権者鑛床ノ位置形狀ニ因リ隣接鑛區

ニ掘進スル必要アルトキハ隣接鑛業権者ト協議ノ上シテ其ノ承諾書ヲ取得シ鑛床圖及説明書ヲ添附シテ省主管官署ヲ經由シテ鑛區ノ増改ヲ出願スベシ
 前項ノ事由ニ因リ隣接鑛業権者ト協議スル場合隣接鑛業権者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒絶スルコトヲ得ズ

第三十九條 鑛業権者鑛區外ニ於テ排水通氣及運送ノ爲坑道ヲ掘鑿シタルニ因リ鑛物ヲ發見シタルトキ又ハ鑛區内ノ同一鑛床中ニ於テ異種ノ鑛物ヲ發見シタルトキハ直ニ省主管官署ヲ經由シテ農鑛部ニ報告スベシ
 省主管官署ハ前項鑛區外發見鑛物ニシテ探掘ノ價值アリ且單獨ニ探掘スルコトヲ得ザルモノト認メタルトキハ期限ヲ附シ該鑛業権者ニ増區ヲ命ズルコトヲ得

第四十條 鑛業権ガ移轉スルトキハ移轉前其鑛業権者カ鑛業権ニ關シテ有シタル一切ノ權利義務亦之ニ

隨ヒテ移轉ス

第四節 鑛業權消滅

第四十一條 鑛業権ハ左記事由ノ一アルトキハ之ヲ取消ス

- 一 登記後不可抗力ノ故障ナクシテ二年内ニ探掘ニ着手セザルトキ又ハ一年以上作業ヲ停止シタルトキ
- 二 鑛業権者外國人ニ移轉又ハ抵當ニ供シタルトキ
- 三 鑛業公益ヲ害シ除害ノ方法ナキトキ
- 四 正當ノ理由ナクシテ二期以上鑛業稅ヲ納入セザルトキ
- 五 正當ノ理由ナクシテ第三十五條及三十七條ノ規定ニ依ル鑛區ノ訂正ヲ許サザルトキ

第四十二條 鑛業権ノ處分ガ制限ヲ受ケタルトキハ廢業スルコトヲ得ズ

第四十三條 鑛業権者ハ探掘權ガ取消サレ又ハ自ラ廢業ヲ爲シタルトキハ一年内ニ限り鑛業財産ヲ處分スルコトヲ得但シ特別ノ事由アリ且權利ヲ害セザルトキ

ハ農礦部ニ一年ノ期間延長許可ノ申請ヲナスコトヲ得

第五節 鑛業權ノ抵當

第四十四條 探掘權者ガ探掘權ヲ抵當ニ供セントスルトキハ願書ニ抵當權設定契約書ヲ添附シ省主管官署ヲ經由シテ農礦部ニ許可ヲ出願スベシ

第四十五條 抵當權設定後探掘權者ニ於テ鑛區ノ分割、合併、減少又ハ増加ヲ爲サントスルトキハ抵當權者ノ承諾ヲ經ルコトヲ要ス

第四十六條 滿期ニ因ル探掘權ノ消滅ハ抵當權ノ拘束ヲ受ズ

第四十七條 省主管官署ハ抵當權ヲ設定シタル探掘權ニ關シ取消又ハ廢業ノ登記ヲナストキハ直チニ抵當權者ニ通知スベシ

抵當權者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル後六十日以内ニ該鑛業權ノ競賣ヲ申請スルコトヲ得但シ第四十一條第三號ニ依リ取消サレタルトキハ競賣ヲ申請スルコトヲ得ズ

探掘權ハ前項ノ所定期間内及競賣手續完了ノ日迄競賣目的ノ範圍内ニ於テ存続スルモノト看做ス
前項鑛業權、競落ノ探掘權ハ原探掘權消滅登記ノ日ヨリ承繼シタルモノト看做ス

第三章 國營鑛業

第四十八條 國營鑛業ハ農礦部之ヲ管理ス

第四十九條 國營鑛業ハ農礦部ニ於テ其鑛區ヲ劃定シテ國營鑛業權ヲ設定シ行政院ニ報告シ並ニ鑛區所在地ノ主管官署ヲシテ登記ヲナサシムルコトヲ要ス

第五十條 國營鑛業ニ於テ國家ガ試掘又ハ探掘セムトスルトキハ會社組織トシ私人ノ加入ヲ許可スルコトヲ得但シ外國人ノ加入スル場合ハ第五條第二項ノ規定ヲ適用ス

第五十一條 國營鑛業權ヲ貸貸セントスルトキハ其ノ條件ハ農礦部ト貸借人トノ契約ヲ以テ之ヲ定ム
前項ノ契約ニ於テハ貸借期間内及毎年ノ貸借料ヲ明ニシ且鑛區ノ實際狀況ニ依リ毎年ノ最低產出額及毎年

ノ最低投資額ヲ定ムルコトヲ要ス

第五十二條 國營鑛業權ヲ私人ニ貸貸ヲ許可セザル以前ニ於テハ同條件ノ下ニ所管地方政府ハ貸借ノ優先權ヲ有ス出願人私人ナルトキハ農礦部ニ對シ出願ノ先ナル者貸借ノ優先權ヲ有ス

第五十三條 國營鑛業權貸借人ハ貸借セル國營鑛業權ヲ轉貸若クハ抵當、典質ニ借シ又ハ讓渡スルコトヲ得ズ

第五十四條 國營鑛業權ノ貸借期間ハ二十年以内トシ期間滿了後國家ガ自營ノ爲之ヲ回收セザル限り貸借人ハ繼續貸借ノ優先權ヲ有ス

貸借人ハ左記ノ規定ニ依リ毎年貸借料ヲ納入スベシ
一 純利益ガ拂込資本ノ一割以下ナルトキハ貸借料ヲ免除ス

二 純利益ガ拂込資本ノ一割以上三割五分以下ナルトキハ超過部分ノ五割ヲ貸借料トシテ納入スベシ
三 純利益ガ拂込資本ノ三割五分ヲ超過シタルトキハ三割五分迄ハ前項ノ規定ニ依リ、三割五分ヲ超

過シタル部分ニ就テハ七割五分ヲ貸借料トシテ納入スベシ

第五十五條 貸借期間滿了シ國家カ回收シテ自營スルトキハ貸借人ガ鑛業上使シタル財產又ハ設備ハ公平ナル評價ヲ以テ之ヲ買收スベシ貸借期間滿了スルモ、國カ回收ヲ必要トセザルトキハ原貸借人ニ繼續シテ貸借契約ヲ締結スルコトヲ許可ス

第五十六條 貸借人ニ左記事由ノ一アル場合ハ其ノ貸借契約ヲ取消ス

- 一 第五十三條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 期間内ニ貸借料ヲ納入セザルトキ
- 三 貸借後三年内ニ正當ノ理由ナクシテ鑛場ノ設備ヲ爲サザルトキ
- 四 貸借後二年内ニ正當ノ理由ナリ探掘ニ着手セズ又ハ中途一年以上作業ヲ停止シタルトキ

第五十七條 前條各號ノ事由ニ依リ貸借契約ヲ取消サレタルトキハ原貸借人ノ所有ニ係ル鑛業上ノ附屬財產及一切ノ設備ハ保安ノ範圍ニ屬スルモノ又ハ國

家ニ於テ買取スルモノヲ除キ半年以内ニ之ヲ移轉スベシ但シ特別ノ事由ニ因リ農鑛部ノ許可ヲ得タル場合ハコノ限ニ在ラズ

第五十八條 第十四條第十五條第十六條第四十一條及第四十三條ノ規定ハ因營鑛業ニ適用セズ

第四章 小鑛業

第五十九條 小鑛業權ハ左記各號ノ事由ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ設定スルコトヲ得

- 一 交通不便ナル地方ニシテ當該主管官署ヲ農鑛部ニ申請シテ許可ヲ得テ小鑛業區域ト定メタルトキ
- 二 鑛量貧弱ニシテ大規模經營ノ價值ナキトキ
- 三 鑛業ノ發達セザル區域ニシテ其鑛產物ヲ該地方ニ於テ需要スルトキ

前項第一號ノ小鑛業區域ハ省主管官署ノ申請アルトキ又ハ農鑛部ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ取消スルコトヲ得

第六十條 小鑛業權ハ探掘權ニ限ルモノトス

第六十一條 小鑛業ニハ外國資本ヲ加入セシムルコトヲ得ズ

第六十二條 小鑛業權ハ十年間存續ス期間満了後鑛利ニ害ナキトキハ五年ノ延期ヲ出願スルコトヲ得但シ第五十九條第一項第一號又ハ第三號ニ規定スル事由消滅シタルトキハ延期スルコトヲ得ズ

小鑛業ノ存在ハ鑛業權ノ出願ヲ妨グルコトヲ得ズ但シ出願區域カ小鑛區ト重複スルトキハ小鑛業權者ニ對シ小鑛業權ノ許可期間内ニ於ケル探掘ノ繼續ヲ許可スベシ但シ期間満了後ハ再延期スルコトヲ得ズ

第六十三條 小鑛業權ノ設定出願人ハ願書ニ鑛區圖ヲ添附シテ省主管官署ニ出願スヘシ主管官署之ヲ許可シタルトキハ登記ノ上小鑛業許可證ヲ下付スベシ但シ農鑛部ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ小鑛業許可證ハ農鑛部ヨリ豫メ省主管官署ニ配付ス

第六十四條 農鑛部ハ前條ノ許可ガ第五十九條ノ規則ニ違反スルモノト認メタルトキハ之ヲ取消スルコトヲ得

第六十五條 小鑛業權者カ期間内又ハ期間満了六月以内ニ第三十六條ノ規定ニ依リ各小鑛業區ノ合併ヲ出願スルトキハ鑛業權取得ノ優先權ヲ有ス

第六十六條 第九條第十五條第十六條第九十五條第九十八條九十九條及第一百一條ノ規定ハ之ヲ小鑛業ニ適用セズ

第五章 土地使甲

第六十七條 鑛業ニ實際使用スル地面ヲ使甲土地トス

第六十八條 探掘者鑛業出願人又ハ鑛業權者ハ必要ノ場合他人ノ土地ニ於テ測量又ハ調査等ヲ爲スコトヲ得但シ所在地地方官署ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ許可ヲ得テ測量又ハ調査ヲ行フトキハ豫メ土地占有者ニ通知スルコトヲ要ス

第六十九條 測量及調査ノ爲障礙物ヲ除去スル必要アルトキハ土地所有者又ハ土地占有者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス前項ノ承諾ヲ得ルコト能ハザルトキハ所在

地ノ地方官署ニ障礙物除去ノ許可ヲ申請シ同時ニ土地所有者又ハ土地占有者ニ通知スベシ

第七十條 鑛業權者ハ鑛業上緊急ノ危險ヲ防禦スル爲他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スルコトヲ得但シ遲滞ナク所在地地方官署ニ届出テ且土地所有者又ハ土地占有者ニ通知スベシ

第七十一條 前三條ニ依リ土地所有者又ハ土地占有者カ損害ヲ受ケタルトキハ探掘者鑛業出願人又ハ鑛業權者ハ相當ノ賠償金ヲ交付スベシ

第七十二條 鑛業權者ガ鑛業上就人ノ土地ヲ使用スル必要アル場合ニ於テ二十四時間以内ニシテ且土地及其附屬物ヲ害セザルトキハ一日前ニ使用目的ヲ土地所有者又ハ土地占有者ニ通知スルコトヲ得土地所有者又ハ土地占有者ハ正當ノ理由アルニ非ザレハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ズ

第七十三條 鑛業權者ハ左記各號ノ一ニ因リ必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

- 一 炭坑及坑道ノ開鑿

二 鑛物、土石、燐後藥、游炭、鑛滓、灰燼又ハ一切ノ鑛業用材料ノ堆積

三 鑛業關係ノ工場倉庫其他必要家屋建築

四 鐵道軌道、道路、運河、水道、汽管、溝渠、池井、索道又ハ電線等ノ設置

五 其他鑛業上必要ナル各種工事又ハ工作物ノ施設

第七十四條 前條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セントスルトキハ省主管官署ノ許可ヲ經テ並ニ施工計畫圖及說明書ヲ省主管官署ニ提出シ其ノ審査ヲ受クベシ省主管官署ハ前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ直チニ之ヲ公告シ且土地所有者及關係者ニ通知スルコトヲ要ス

前項ノ公告又ハ通知ノ後鑛業權者ハ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲メ土地所有者ト協議スルコトヲ要ス第一項ノ規定ニ於テ其土地カ公有地ナルトキハ省主管官署ハ許可前ニ該土地所有者ノ同意ヲ求ムルコトヲ要ス

第七十五條 鑛業權者ハ鑛區内ノ土地カ自己ノ鑛業ニ使用ノ必要アル場合ノ外正當ノ理由ナクシテ隣接鑛業權者ノ鑛業上必要トスル使用ヲ阻止スルコトヲ得ズ

第七十六條 鑛業權移轉スルトキハ該地使用ノ權利義務亦之ニ從ヒ移轉ス鑛業權ヲ喪失スルトキハ土地使用者ノ權利ヲ喪失スルモノトス

第七十七條 鑛業權者カ他人ノ土地ヲ使用スルトキハ土地所有者及關係者ニ相當ノ償金ヲ支拂フコトヲ要ス

第七十八條 土地ノ使用三年以上ヲ要シ又ハ使用ニ因リ性質ヲ變ズベキ場合ハ鑛業權者ハ土地所有者ト協議シ又ハ土地所有者ノ請求ニ依リ相當ノ償金ヲ支拂フベシ但シ鑛業ヲ廢止シ又ハ使用ヲ完了シタルトキハ土地ノ原土地所有者ニ返還スハコトヲ要ス

第七十九條 鑛業上ノ作業ノ爲用地又ハ鑛區以外ノ土地

地價格ノ低減其ノ他ノ損失ヲ生ジタルトキハ鑛業權者ハ土地所有者及關係者ニ相當ノ償金ヲ支拂フコトヲ要ス但シ其土地カ從來ノ效用ヲ失フトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第八十條 使用土地ニ於テ道路、溝渠、溝渠、溝渠ノ工作物ノ増築又ハ改修ヲ必要トスル場合ハ第七十八條ノ規定ニ依リ一時前償金ノ支拂ノ外鑛業權者ハ土地所有者及關係者ニ相當ノ償金ヲ支拂フコトヲ要ス

第八十一條 二人以上ノ鑛業權者カ共同シテ地面及附屬物ニ損害及ボシタルトキハ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズ何レガ損害ヲ及ボシタリヤヲ證明スルコト能ハザルトキ亦同ジ

第八十二條 第七十四條第二項ノ公告又ハ通知ヲ經タル後土地所有者及關係者ニシテ其ノ土地ノ形狀ヲ變更シ又ハ新築、改築、大修繕其ノ他工事ヲ施行セントスルトキハ省主管官署ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス許可ヲ得ザル場合ハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ工事ニシテ鑛業ノ性質ト相容レズ又ハ建築ニ損害ヲ及ボシタル場合ハ禁止ヲ申請スルコトヲ得

第八十三條 土地所有者ガ損害賠償ノ請求ヲ提出シタルトキハ土地ニ損害ヲ受ケタルトキハ建築物ニ損害アルモ賠償ヲ請求スルコトヲ得ズ

土地所有ガ土地ニ顯著ナル危險アルニ拘ハチズ注意ヲ怠リ建築ヲ爲シタル場合亦前項ノ規定ヲ適用ス

第八十四條 第十七條第二項ノ公告又ハ通知ヲ經タル後鑛業ノ廢止又ハ變更アリタル場合鑛業權者ハ土地所有者又ハ關係者ガ之ニ因リ受ケタル損害ニ對シ相當ノ償金ヲ支拂フコトヲ要ス

第八十五條 土地所有者及關係者ハ償金ニ就キ鑛業權者ニ對シ相當ナル擔保ノ提供ヲ要求スルコトヲ得

第八十六條 鑛業權者カ償金ヲ支拂ハズ又ハ擔保ヲ提供セザルトキハ土地所有者及關係者ハ其ノ使用ヲ拒絕スルコトヲ得

第八十七條 土地ノ權利ハ使用期間中ハ礦業權者ニ歸

シ其ノ他假ニ設定セラレタル權利亦停止スルモノト

ス但シ使用ニ妨ケナキトキハ此ノ限リニ在ラス

第八十八條 土地ノ使用ヲ經了シタルトキハ礦業權者

ハ其土地ヲ原狀ニ恢復シ土地所有者ニ返還スルコト

ヲ要ス

原狀ニ恢復スルコト能ハザル爲生シタル損害ニ對シ

テハ第七十八條ノ規定ニ依リ償金ヲ支拂フ外土地所

有者ニ相當ノ償金ヲ支拂フコトヲ要ス

第八十九條 土地使用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ之ヲ

準用ス

第九十條 本章中礦業權者ニ關スル規定ハ國營礦業

權ノ貸借人ニ準用ス

第六章 礦業稅

第九十一條 礦業稅ハ左記二種ニ分チ礦業權者之ヲ納

入スベシ

一 礦區稅

二 礦產稅

國營礦業權ヲ貸借スルトキハ前項ノ礦業稅ハ貸借人

之ヲ納入スベシ

第九十二條 礦區稅ハ地稅以外ノ稅トス其稅率左ノ如

シ

一 試掘礦區ハ「アール」ニ付年額國幣一分河底

ニ在ル砂礫ハ河道下「メートル」ニ付年額國幣一

分トス

二 探掘礦區ハ「アール」又ハ河道ノ長サ十「メー

トル」ニ付事業開始後五年内ハ每年額國幣二分六

年ヨリ以降ハ年額國幣五分トス

探掘權者カ坑夫ノ罷業其他ノ不可抗力ニ因リ作業ヲ

繼續スルコト能ハザルコト二月以上ニ及ブトキハ作

業不能期間ニ於ケル礦區稅ノ免除ヲ申請スルコトヲ

得

第九十三條 礦產稅ハ礦產物價格ノ百分ノ二乃至百分

トス

前項ノ礦產物價格ハ產出地附近市場ノ平均市價ヲ標

トス

セシムルコトヲ要ス

第九十七條 礦業權消滅後一年以内ニ農礦部又ハ省主

管官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ舊礦業權者命シ危

險豫防ノ設備ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十八條 探掘權者ハ礦業事務所ニ坑内實測圖及礦

業源ヲ備ヘ其ノ副本ヲ作成シテ省主管官署ニ提出ス

ベシ

第九十九條 礦業權者ハ毎年一月全年ノ礦業狀況説明

表ヲ作成シ農礦部及省主管官署ニ提出スベシ

第一百條 試掘ノ時取得シタル礦物ハ省主管官署ノ

許可ヲ經ルニ非ザレハ賣却スルコトヲ得ズ

第一百一條 礦業權者ノ使用スル主要技術員ハ技術員

登記法ニ依リ合格登記シタル者ノ中ヨリ之ヲ選任ベ

シ前項ノ技術員ニシテ不合格ノ者又ハ其ノ任ニ堪ヘ

ザル者アルトキハ農礦部又ハ省主管官署ハ其ノ改任

ヲ命ズルコトヲ得

第一百二條 農礦部ハ各礦山ノ礦業ヲ監察スル爲礦業

繁盛ノ區域又ハ重要礦山ニ礦業監察員ヲ置クコトヲ

得

第九十五條 農礦部又ハ省主管官署ニ於テ必要ト認ムル

トキハ探掘權者命シ施工計畫書及作業報告書ヲ提出

セシムルコトヲ得

前項提出ノ施工計畫書及作業報告書ハ農礦部又ハ省

主管官署ニ於テ變更ノ必要アリト認ムルトキハ礦業

權者ニ命ジ之ヲ變更セシムルコトヲ得

第九十六條 農礦部又ハ省主管官署ニ於テ礦業作業ニ

對シ危險又ハ公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ礦

業權者ニ命ジテ豫防方法ヲ講ゼシメ又ハ作業ヲ中止

得

鑛業監察員規定ハ農鑛部ニ於テ部令ヲ以テ之ヲ定ム
第百三條 鑛業權者事故ノ爲隣接鑛區ヲ調査スル必
要アルトキハ農鑛部又ハ省主管官署ニ對シ係員ノ派
遣ヲ申請シ各鑛業權者ト共同シテ實地調査ヲナスコ
トヲ得

前項ノ規定ハ其ノ他ノ利害關係者ニ之ヲ適用ス
第百四條 農鑛部又ハ省主管官署カ職權ヲ以テ又ハ
鑛業出願者若ハ鑛業權者ノ申請ニ依リ鑛業出願地又
ハ鑛區ニ係員ヲ派遣スルトキハ其費用ハ其出願者又
ハ鑛業權者ノ負擔トス

第百五條 專門學校以上ノ鑛科學生ニシテ鑛山ニ於
ケル實習ヲ希望農鑛部又ハ省主管官署ノ通知ヲ受ケ
タルトキハ鑛業權者ハ故ナク之ヲ拒絕スルコトヲ得
ズ

實習規則ハ農鑛部之ヲ定ム

第百六條 省主管官署ハ毎年所管内ノ鑛區面積、鑛
物ノ種類、產額、鑛稅收入ヲ分別調査シ詳細ナル統
計表ヲ作成シ四月以前ニ實業部ニ對シ提出スベシ

第百七條 本章ノ鑛業權者ニ關スル規定ハ固然鑛業
權者ノ貸貸人ニ之ヲ適用ス

第八章 罰則

第百八條 左記行爲ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ
有期徒刑又ハ三千元以下ノ罰金ニ處ス

一 詐術ヲ以テ鑛業權ヲ取得シ又ハ違法採鑛ヲ爲シ
タルトキ

二 第四十一條第二號ノ行爲アリタルトキ

第百九條 左記行爲ニ該當スル者ハ二千元以下ノ罰
金ニ處シ其ノ契約ハ無効トス

一 鑛業權ヲ私ニ貸貸シ又ハ入質ニ供シタルトキ

二 許可ヲ得ズシテ鑛業權ヲ讓渡シ又ハ抵當ニ供シ
タルトキ

第百十條 鑛區以外ニ於テ採鑛シタル者ハ一千元以
下ノ罰金ニ處ス

第百十一條 前條及第百八條第一號ノ行爲アル者ハ其
權ノ貸借人ニ之ヲ適用ス

第九章 附則

第百十九條 本法施行前既ニ鑛業權ヲ取得シタル者ハ
本法ニ依リ鑛業權ヲ取得シタルモノト看做ス但シ其
ノ期間ガ本法所定ノ期間ニ比シ短期ナルトキハ原則
間ニ依ル

第百二十條 本法ノ施行細則ハ農鑛部之ヲ定ム

第百二十一條 本法ノ施行期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

ノ採掘シタ鑛產物ヲ沒收シ既ニ賣却シタルトキ又ハ
自ラ使用シタルトキハ其相當代價ヲ追徴ス

第百十二條 第二十二條ノ規定ニ違反シ又ハ第九十六
條及第九十七條ノ命令ニ從ハザル者ハ五百元以下ノ
罰金ニ處ス

第百十三條 第九十五條第二項第百條及第百一條ノ規
定ニ違反シタル者ハ二百元以下ノ罰金ニ處ス

第百十四條 第六十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ百元
以下ノ罰金ニ處ス

第百十五條 所轄官吏タル業ニ關スル帳簿又ハ物件ノ
検査ヲ拒絕又ハ妨礙シタル者ハ五十元以下ノ罰金ニ
處ス

第百十六條 稅稅者ハ納稅額ノ二倍以上五倍以下ノ罰
金ニ處ス

第百十七條 鑛業權者ハ其代理人雇傭者又ハ其他ノ從
業者ガ業務上本法ニ違反シタル者ハ其自己ノ意思ニ
出テザルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免カルコトヲ得ズ

第百十八條 本章ノ鑛業權者ニ關スル規定ハ固然鑛業

鑛業法施行細則

民國十九年十二月十四日部令

- 第一條 中華民國領域内ノ鑛物ニシテ鑛業法第二條ニ列舉セザルモノニ鑛業法ヲ適用セントスルトキハ農鑛部ヨリ國民政府ニ申請シ國民政府之ヲ指定ス
- 第二條 中華民國人二人以上共同シテ探鑛ヲ出願スルトキ未ダ會社ヲ組織セザルトキハ先ヅ會社ノ名稱及定款ヲ制定シ代表者ヲ定メ全員ノ連署ヲ以テ出願シ鑛業權取得後會社法ニ依リ登記ヲ申請スベシ但シ二人以上共同シテ試掘又ハ小鑛業ノ出願ニ付テハスルトキ未ダ公司ノ會社ヲ組織セザルトキハ合併契約ヲ締結シ代表者ヲ定メ共同者全員ノ連署ヲ以テ出願スルトキ要ス出願人ノ變更鑛業權ノ設定移轉其他ノ重要事項ノ申請ニ關シテハ共同者ノ三分ノ二以上連署又ハ全員ノ決議ヲ添附スベシ
- 第三條 鑛業法第五條第二項ノ規定ニ依リ會社ヲ組織シテ外國人ノ株主タルコトヲ認容スルトキハ其

二六四

- 發行スル株券ハ記名式トシ且同項ニ列舉セル規定ハ會社ノ定款内ニ各別ニ明記スベシ既存ノ内外人合併會社ノ定款方前項ノ規定ニ適合セザルトキハ出願ニ先テ之ヲ改正スベシ
- 第四條 鑛區ノ形狀ハ整齊ナルコトヲ要シ且左記各款ノ制限ヲ受クルモノトス
 - 一 全區ノ面積ハ中間ニ空隙アリ又ハ數箇所ニ分隴スルトコトヲ得ス
 - 二 鑛床ノ露頭ニ就キ區劃ヲ定メ狹長ニ失シ又ハ彎曲セル地面ナルコトヲ得ズ
- 第五條 鑛業出願地ノ面積カ鑛業法第七條ニ定ムル限度ヲ超過スルトキハ願書ニ其必要ナル事由ヲ記載スベシ
- 第六條 鑛業法第六條第三項ニ定ムル隣接鑛區下ノ間隔内ノ鑛物ニシテ鑛利ヲ保護スル爲ニ試掘又ハ探鑛ヲ出願スル必要アルトキハ鑛業出願人ハ鑛業權者ト協議ノ上協定書額ヲ添附シテ省主管官署ヲ經テ農鑛部ニ其ノ査定ヲ申請スベシ

- 第七條 同一地域内ニ於テ鑛床ヲ製ニスル各種ノ鑛物ノ試掘探掘ヲ出願セントセルトキハ各種ノ鑛物ニ就キ各別ニ出願スベシ但シ各種鑛物カ同一鑛床ニ在ルトキハ併セテ一鑛業トシテ出願スルトコトヲ得
- 第八條 炭炭ヲ製造スルニ適セズ又ハ製造スル炭炭ガ冶金ニ適セザル有煙炭ニ對シテ鑛業權ノ設定ヲ出願セントスルトキハ該鑛物及其分析表ヲ添附シテ農鑛部ノ檢定ヲ受クベシ
- 前項ノ規定ニ依リ鑛業權ヲ取得シタル後地質關係ニ因リ鑛區内ニ於テ冶金ニ適スル有煙炭ヲ發見シ且埋藏量豐富ナルトキハ既ニ設定シタル鑛業權ノ期間滿了後之ヲ延長スルトコトヲ要ス農鑛部ニ於テ因於鑛業權ヲ設定シ原鑛業權者ノ鑛業ニ使用シタル財產又ハ設備ヲ公平ニ評價シテ之ヲ買收スルトコトヲ得但シ國家自ラ試掘又ハ探掘ヲ行フ必得ナキトキハ原鑛業權者ハ從前ノ條件ニテ賃借ノ優先權ヲ有シ鑛業法第五十二條ノ拘束ヲ受ケザルモノトス
- 第九條 某鑛物ノ鑛業權ヲ取得シタル後鑛質ノ符

二六五

- 合セザルコトヲ發見シタルトキハ鑛物名稱ノ變更又ハ増補ヲ申請スベシ
- 前項ノ規定ハ鑛業出願人ニ之ヲ適用ス
- 第十條 鑛業法第九條第四項ノ許可ハ農鑛部之ヲ行ヒ其ノ鉄鑛等ノ鑛石ノ輸出ハ之ヲ制限シ必要アルトキハ適宜輸出稅ヲ增加スルトコトヲ得
- 第十一條 農鑛部ガ鑛業法第十條ニ依リ國家保留區ヲ制定スルトキハ鑛物及區域ヲ指定シ省主管官署ニ命ジテ所在地ノ縣市政府ニ轉令シ各別ニ公告セシムベシ
- 前項ノ區域内ニ於ケル未指定ノ鑛物ハ法規ニ依リ試掘探掘ノ出願ヲ許可ス
- 第十二條 既ニ制定シタル保留區域ト雖モ農鑛部ガ狀態ノ變遷ニ因リ保留ノ必要ナシト認メタルトキハ禁止ヲ解除スルトコトヲ得
- 第十三條 鑛業法第九條第十條ニ定メタル鑛物發見ノ届出アリタルトキハ該鑛物ガ未ダ届出又ハ出願ナク又ハ地質調査機關ニ依リテ調査セラレズ其他書籍

ニ記載セラレザルモノナキトキハ既ニ探掘セルト否
トニ拘ラズ届出人ヲ該鑛發見者ト看做ス但シ發見日
時發見經過及該鑛發見ノ實費ヲ報告シ並ニ發見シタ
ル鑛物ヲ添附スベシ發見人ガ鑛物探査中ノ生活費亦
前項ノ實費ニ加算スルコトヲ得

發見届出ノ鑛物ガ第一項ノ規定ニ合致シ農鑛部ニ於
テ國家自ラ試掘若クハ探掘ヲ行ヒ又ハ國家ノ保留區
トナスノ必要ナシト認ムルトキハ貸借人又ハ鑛業權
者ヨリ發見者ニ對シ鑛業法第十一條ニ規定スル獎勵
金ヲ與フベシ

第十四條 鑛業法第五條ニ規定スル縣市政府ノ優先
權ハ縣市ノ自治完成ノ前後ニ從ヒ順次之ヲ行使セシ
ム

第十五條 鑛業法第三十一條第三十二條及第六十五
條ノ優先權ハ同法第五條ノ優先權ノ拘束ヲ受ケズ

第十六條 鑛業法第五條ニ定ムル縣市政府ノ優先權
ハ同法第二十條ノ規定ニ依リ之ヲ擔塞シタルモノト
看做シタル後ハ再ビ優先權ノ主張ヲナスコトヲ得ズ

第十七條 鑛業權設定出願人ハ鑛業法第二十條ノ規
定ニ依リ所在地ノ縣市政府ニ提出シタル申請書ノ受
領證ヲ省主管官署ニ送付スベシ縣市政府ガ申請書ヲ
受領シタル日ヨリ六月以内ニ省主管官署ニ該鑛ノ探
査出願セザルトキハ原出願書額ヲ農鑛部ニ送付ス
ベシ

第十八條 縣市政府ガ鑛業法第二十條ノ規定ニ依ル
申請書ヲ受領シタル後六月以内ニ該鑛ノ探査出願
シタルトキハ原出願人ニ對シ償金ヲ與フベシ申アル
トキハ省主管官署之ヲ裁決ス

第十九條 縣市政府ガ前條ノ事情ニ依リ鑛業權ヲ取
得シタル後鑛業權ガ取消サレタルトキハ鑛業法第四
十一條第三號ノ事由ニ因リ取消サレタル場合ヲ除ク
ノ外省主管官署ハ直チニ原出願人ニ通知スベシ
原出願人ガ前項ノ通知書到着後六月以内又ハ通知ノ
方法ヲ公告ヲ爲シタル後六月以内ニ省主管官署
ニ出願シ復活ヲ申請セザルトキハ他人ヲシテ法規ニ
從ヒ出願セシムルコトヲ得

第二十條 鑛業法第二十五條第二項ノ規定ニ依リ抽
籤ヲ以テ優先權ヲ決定スルトキハ抽籤日ヲ豫定シ十
五日以前ニ各鑛業出願人ニ通知シ之ニ出頭シテ自ラ
抽籤ヲ行ハシムベシ鑛業出願人ガ抽籤日ニ出頭セザ
ルトキハ省主管官署長官ハ署内ノ職員二名以上ヲ指
定シテ代リテ抽籤ヲ爲サシメ該鑛業出願人ニ通知ス

第二十一條 鑛業法第二十六條ノ同時出願ノ場合ハ同
法第二十七條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第二十二條 鑛區内又ハ鑛業出願地内ノ異ナル鑛床ニ
アル異質ノ鑛物ニ對シ他人ガ探掘ヲ出願シタル後鑛
業權者又ハ先願者ガ鑛業法第三十一條第二項ノ期間
内ニ出願ヲ爲サザルトキハ省主管官署ハ他人ノ出願
ヲ轉達スルコトヲ得但シ鑛業權者ノ鑛業ヲ妨害セザ
ルコトヲ要ス

第二十三條 鑛業法第三十九條ノ規定ニ依リ鑛區内ニ

異種ノ鑛物ヲ發見シタルコトヲ届出テタルトキハ鑛
業法第九條ノ各鑛物ニ屬ス鑛モノヲ除クノ外農鑛部
ハ前條第二項ノ規定ニ依リ辦理シ發見セラレタル異
種ノ鑛物カ同一鑛床ニ在ラザルトキハ前條第一項ノ
規定ニ依リ辦理スベシ

第二十四條 鑛業出願人ハ名義ノ變更ヲ申請スルコト
ヲ得但シ省主管官署又ハ農鑛部ノ許可ヲ得ルコトヲ
要ス鑛業出願人ノ一部又ハ代表者ノ變更アリタルト
キハ省主管官署又ハ農鑛部ニ届出ツベシ

第二十五條 鑛業出願ニ際シテ納入スベキ手数料左ノ
如シ

- 一 鑛業權設定ノ出願三十元
 - 二 鑛業權ノ移轉抵當權ノ設定又ハ期間延長ノ出願
二十元
 - 三 鑛業權又ハ出願人又ハ出願地變更ノ申請十元
 - 四 他人ノ鑛區調査ノ申請又ハ他人ノ土地長期使用
ノ申請十元
- 前項ノ出願及申請事項ニシテ試掘又ハ小鑛業ノ場合

ハ其ノ費額ヲ半減シテ徵收ス
 第二十六條 主管官署ハ前條ノ手数料ヲ徵收シタル後
 共ノ一半ヲ農鑛部ニ送付スルモノトス
 第二十七條 鑛業出願書ニハ左ノ各項ヲ記載スベシ
 一 出願ノ原因
 二 出願ノ目的
 三 鑛業出願地又ハ鑛區ノ詳細ナル地名及鑛物名
 四 出願地ノモノハ其ノ經過
 五 利害關係ヲ有スル第三者アルトキハ其ノ事實
 六 出願人ノ姓名、原籍、住所若シ連署人アルトキ
 ハ其ノ姓名、原籍、住所
 七 出願人方法人ナルトキハ其ノ名稱及所在地並ニ
 原登記機關
 八 出願年月日
 第二十八條 鑛區圖ハ實測ニ依リテ記入シ本細則附屬
 第一號、第二號、及第三號ノ様式ニ依リテ作成シ
 有光紙又ハ青寫眞ヲ使用スルコトヲ得ズ且左記各號
 ヲ記入スベシ

一 鑛業及鑛物ノ種類
 二 出願地ノ省縣市町村及其主要地名並ニ縣市又ハ
 鄉村ニ對スル方位距離
 三 出願地ノ面積
 四 出願地域内及其附近ノ大小地名又ハ山河名
 五 基點及其ノ標識ノ名稱
 六 基點及測點ノ番號
 七 境界線及基點ト連接線ノ方位角度及長度
 八 南北線ノ表示
 九 縮尺ノ大小
 十 鑛床ニ露其露頭ノ走向及傾斜
 十一 隣接鑛區アルトキハ其ノ境界間ノ最短距離
 十二 出願地又ハ鑛區ノ更ノ場合ハ新舊ノ關係及面
 積
 十三 出願地ガ鑛業法第二十二條ニ列舉スル各地域
 内又ハ其附近ニアルトキハ其ノ距離及一切ノ關係
 十四、出願人及製圖人ノ姓名住所
 砂鑛ガ河底ニ在リテ面積ノ計算ニ不便ナルトキハ前

項第三號ノ面積ハ河流ノ總延長線ヲ以テ之ニ代フル
 コトヲ得
 第一項第五號ノ基點ノ標識ハ鑛業出願地内外ノ固定
 物體ヲ擇ブヘシ附近ニ固定物體ナキトキハ石柱又ハ
 其ノ他ノ堅固ナル標識ヲ立ツベシ
 第二十九條 鑛床說明書ハ左ニ掲グル各人ニ依リテ之
 說明スベシ
 一 鑛床ノ構造及形狀
 二 鑛物ノ種類及其ノ成分
 三 副産物アルトキハ其ノ種類及成分
 前項ノ鑛床說明書ニ於テ各鑛物ノ成分ヲ確定シ能ハ
 ザルトキハ該鑛床中ノ鑛石標本ヲ以テ之ニ代フルコ
 トヲ得
 第三十條 鑛業法第十九條ノ規定ニ依リ鑛業權ノ設
 定ヲ出願スルトキハ願書ニ鑛區圖五部ヲ添付シ試掘
 出願ノ場合ハ別ニ鑛床說明書二部ヲ添付スベシ
 第三十一條 鑛業法第三十六條ノ規定ニ依リ鑛區ノ増
 減ニ因ル鑛業權變更ノ申請及鑛區ノ合併分割ニ因ル

鑛業權設定ノ申請ヲ爲ストキハ願書ニ鑛區圖五部新
 舊關係圖權部及理由書二部ヲ添付スベシ但願書ニ
 理由ヲ敘述セル場合ハ理由書ノ添付ヲ免除スルコト
 ヲ得
 第三十二條 鑛業法第三十八條ノ規定ニ依ル鑛業權
 者ノ請求ニ對シ隣接鑛業權者ガ正當ノ理由ナクシテ
 之ヲ拒絕シタルトキハ鑛業權者ハ鑛床ノ位置形狀及
 兩鑛區ノ關係ヲ圖面ニ表ハシテ說明シ省主管官署ノ
 裁定ヲ申請スルコトヲ得
 第三十三條 採鑛權者ガ鑛業法ノ規定ニ違反セズ且本
 細則第八條第二項ノ事由ナキトキハ農鑛部ハ期間延
 長ノ申請ニ對シテ許可ヲ與ヘ省主管官署ニ命ジテ登
 記ヲ爲サシムベシ
 前項ノ期間延長ノ申請ハ滿期前ニ申請書ヲ提出シタ
 ル者ヲ除クノ外已ムヲ得ザル事由ナキ限リ滿期後三
 月以内ニ之ヲ爲スベシ但シ滿期後農鑛部力延期ヲ許
 可スル迄ノ期間採鑛作業ノ繼續スルコトヲ得
 第三十四條 採鑛權ノ期間延長ノ許可アリタルトキハ

探礦權ニ設定シタル抵當權ハ之ニ關スル契約ニヨル制限ヲ除クノ外繼續シテ效力ヲ有ス

第三十五條 鑛業法第四十四條ノ規定ニ依リ探礦權ヲ抵當ニ供セントスルトキハ申請書ニ契約ノ謄本二部ヲ添附シ契約書ニ左記各號ヲ記載スベシ

一 抵當權者ノ氏名、原籍、法人ナルトキハ其ノ名稱及原登記機關

二 債權ノ金額又ハ價格

三 抵當物件

四 償還方法及期限

五 相互ノ制限條件

第三十六條 探礦權者ガ鑛業權ノ名義變更又ハ分割合併ニ因リ別ノ鑛業權設定ノ申請ヲ爲ストキハ本細則第三十一條ノ規定ニ依リ辦理スルヲ除クノ外鑛業法第四十五條ノ規定ニ依リ抵當權者ノ承諾書ヲ添附スベシコノ場合ニ於テハ抵當權者亦抵當權設定ノ申請ヲ爲ス事ヲ要ス

第三十七條 鑛業法第四十七條ノ規定ニ依リ鑛業權ノ

競賣ヲ完了シタルトキハ原鑛業權ノ抵當權ハ消滅ス

第三十八條 鑛業權競賣人ハ鑛業法第五條ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第三十九條 鑛業權移轉ノ申請ハ左記各號ノ規定ニ從フコトヲ要ス

一 相續ニ因リ移轉スルトキハ相續人ハ原鑛業許可證及證明文件ヲ添附シテ申請スベシ

二 讓渡ニ因リ移轉スルトキハ讓受人ハ原鑛業許可證ト連署シ原鑛業許可證ヲ添附シテ申請スベシ

三 競賣ニ因リ移轉スルトキハ競賣人ハ競賣官署ノ證明書ヲ添附シテ申請スベシ

第四十條 鑛業權消滅後ト雖モ原鑛業權者ハ鑛利保護及危險豫防ノ設備ニ對シ農鑛部又ハ省主管官署ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ自由ニ處分スルコトヲ得ズ

第四十一條 鑛業出願書及圖面ガ省主管官署ニ到達シタルトキハ當日中ニ順次交付受付簿ニ記載シ且發行スル受領書ニ日附ヲ記入シテ主管係員署名捺印シ鑛業出願人ニ交付スベシ

前項ノ願書圖面等ヲ郵送スル場合ハ配達證明書留郵便トシ其ノ受領證ヲ保存スベシ省主管官署ハ郵便到着ノ日附ヲ記載シ並ニ受領證書面ニ到着日ヲ記載スベシ

第四十二條 農鑛部又ハ省主管官署ハ探礦ノ出願ニ對シ期日ヲ定メテ出願人ヲ立會ハシメ左記各點ヲ調査スベシ

一 鑛區圖ニ記載スル各基點及各境界線並ニ詳細ナル地名ト實地ガ符合スルヤ否ヤ

二 出願地ト他人ノ鑛區又ハ先願ノ出願地トノ間ノ重複ノ有無及隣接鑛區ニ對スル規定ノ距離

三 鑛業法第二十二條ノ規定ニ違反セザルヤ且同法第三十四條ニ記載スル事情ノ有無

四 出願地ト鑛床ノ位置形狀トカ相符合スルヤ否ヤ且出願書ニ記載スル鑛物ト鑛床内ノ鑛物カ相符合スルヤ否ヤ

五 出願地内ニ於ケル其他ノ鑛物又ハ鑛床ノ有無

六 鑛業法第二十四條第二項ノ事情ノ有無

七 出願地ノ面積カ鑛業法第七條ニ規定スル最大限度ヲ超過スルトキハ其特別狀況ノ調査

八 鑛業法第三十六條ニ依ル出願ニ對シテハ其新舊鑛區ノ關係ノ調査

九 小鑛業ノ場合ハ其實地狀況ガ鑛業法第五十九條ノ規定ニ該當スルヤ否ヤ

十 其他調査ノ必要アル事項

第四十三條 鑛業法第三十四條ノ事由ニ因リ許可ヲ與ヘザルトキハ公益ニ害アリ又ハ經營ノ價值ナキ正確ナル事實及理由ヲ各別ニ批示スベシ

第四十四條 鑛業法第三十三條及第三十七條ノ事由ニ因リ期限ヲ附シテ鑛業出願地ヲ更正セシメ又ハ鑛區ノ訂正ヲ命ズルトキハ更正又ハ訂正ヲ行フベキ點ヲ詳細ニ指示スベシ

第四十五條 鑛業ノ出願ニシテ左記各號事由ノ一アルトキハ省主管官署ハ之ヲ受理セズ

一 出願地又ハ鑛區ガ管轄内ニ在ラザルトキ

二 願書ニ出願人ノ氏名住所ヲ記入セズ又ハ出願人

ガ鑛業法第五條ノ規定ニ該當セザルトキ

- 三 出願事項ハ鑛區圖ヲ以テ根據トスベキヲ以テ鑛區圖ヲ添附セズ又ハ添附シタル鑛區圖ニ地名基點及鑛區ノ境界ナキトキ
- 四 出願シタル鑛物カ鑛業法第二條ニ列舉セラレズ並ニ指定ノ價值ナキトキ
- 五 出願シタル鑛物カ鑛業法第九條ニ依リ同然ニ歸スベキモノ並ニ小鑛業權設定ニ關スル規定ニ該當セズ又ハ同法第十條ニ依リ試掘採掘ヲ禁止スベキモノナルトキ

前項ニ列記スル出願ハ之ヲ優先權ノ根據ト爲スコトヲ得ズ

第四十六條 鑛業出願ニシテ左記事由ノ一アルトキハ省主管官署ハ期限ヲ定メテ更正又ハ補充出願ヲ命ズ

- 一 鑛業法第二十一條ノ規定ニ依リ出願人ノ更正又ハ補充シタル鑛區圖ニ尙遺漏又ハ錯誤アルトキ
- 二 必要ナル證明文書ノ完備セザルトキ

- 三 納入スベキ手数料ヲ納入セザルトキ
- 四 連署スベキ者ガ連署セザルトキ
- 五 第三者ト協議又ハ協定スベキ事項ヲ協議又ハ協定セザルトキ
- 六 鑛業出願地ガ鑛業法第二十二條ニ列舉スル土地ニアルニ拘ハラズ許可書ヲ添附セザルトキ
- 七 其他鑛業法及本細則ノ規定ニ違反シ其更正又ハ補呈ヲ命ズベキトキ

前項ノ期限ハ道路里程ノ遠近及事項ノ難易ニヨリ適宜之ヲ定ム

第四十七條 鑛業ノ出願ニシテ左記事由ノ一アルトキハ直チニ取消ノ旨公告シ同時ニ出願人ニ通知スベシ

- 一 鑛業法又ハ本細則ニ依リ許可スベカラザルトキ
- 二 前條ニ定ムル期限ヲ遵守セズ期限附隨告知ナスコトニ及ブモ尙之ニ從ハズ且其ノ事由ヲ申シ出テザルトキ
- 三 鑛業出願人ガ實地調査ノ時其出願地ヲ明示スル能ハズ又ハ其指定スル地域ガ鑛區圖ノ記載ト全然

符合セザルトキ

- 四 鑛業出願人ガ指定ノ期日ニ調査測量ニ立會ハズ期限附隨告知ナスコト數回ニ及ブモ尙其期日ニ現場ニ到ラズ且其事由ヲ届出テザルトキ
- 五 其他鑛業法又ハ本細則ニ依リ取消ヲナスベキトキ

前項ニ列舉スル取消ヲナスベキ出願ノ取消公告ヲ爲サザル時ト雖モ未ダ取消ナキ故ヲ以テ權利ノ主張ヲ爲スコトヲ得ズ

第四十八條 鑛業ノ出願ニシテ左ニ掲ゲル事由ノ一アルトキハ省主管官署ハ直チニ農鑛部ニ轉達スベシ

- 一 出願事項ガ農鑛部ノ許可ヲ經ベキモノニシテ調査ノ結果前條ニ掲ゲル事由ナキトキ
- 二 出願事項ガ鑛業法又ハ本細則ノ規定上疑義アリ豫メ解釋ヲ明ニスベキ必要アルトキ
- 三 出願換物ガ新發見ノ鑛物ニシテ國民政府ノ指定ヲ要スルモノナルトキ

第四十九條 鑛業權ノ變更移轉又ハ鑛區ノ訂正及鑛區

ノ分割ニ因リ鑛業權ノ設定ヲ爲シ鑛業許可證ノ書換ヲ爲ストキハ鑛業權ノ滿期年月日ハ原鑛業許可證ニ記載スル所ニ從フ

鑛區ノ合併又ハ分割ト合併ト同時ニ行フニ因リ鑛業權ノ設定ヲ爲シ鑛業許可證ヲ書換フルトキハ各鑛業權ノ未滿期間ヲ合計平均シテ其ノ鑛業權ノ存續期間ト爲ス

第五十條 左ニ掲ゲタル事項ハ出願ヲ許可シタル後原鑛業許可證ニ記載捺印スベシ

- 一 鑛業權ノ期間延長
- 二 鑛業權者ノ名稱變更
- 三 鑛業合併人ノ脱退又ハ相繼又ハ加入
- 四 鑛物名稱ノ更正又ハ増補
- 五 其他記載スベキ事項

第五十一條 鑛業權ガ消滅シタルトキ又ハ鑛業許可證ヲ書換フル時ハ原鑛業權者ヲシテ原鑛業許可證ヲ返納セシメ之ヲ廢棄スベシ

第五十二條 鑛業權ノ設定變更又ハ區訂正ノ許可ヲ爲



シタルトキハ其ノ鑛區圖ハ農鑛部及省主管官署ニ於テ各別ニ捺印シ各一部ヲ保存シ所在地縣市政府及原出願人ニハ省主管官署ヨリ各一部ヲ交付スベシ

第五十三條 鑛業法第四十一條ノ十定ニ依リ農鑛部ノ査定ヲ經テ鑛業權ヲ取消シタルトキハ省主管官署ヲシテ之ヲ公告セシムベシ

第五十四條 鑛業法第三章ニ稱スル國禁鑛業トハ國家ガ鑛業權ヲ設定シタル鑛業ヲ指フ同法第九條ニ屬セザル各業ニシテ中央又ハ地方各官署ノ經營スルモノハ法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外同法ノ鑛業權ニ關スル規定ヲ適用ス

第五十五條 鑛業法第四十九條ノ規定ニ依リ農鑛部ガ國禁鑛業權設定ヲ申請スルトキハ鑛區圖一部ヲ添附シ登記ヲ爲サシムルトキハ鑛區圖二部ヲ添附シ省主管官署ヨリ所在地縣市政府ニ一部ヲ交付シテ各別ニ之ヲ公告スベシ

第五十六條 省政府ノ鑛業法第五十二條ノ規定ニ依ル國禁鑛業權貸借ノ申請ハ縣市政府ノ申請未許可前ニ

於テハ優先權ヲ有ス

第五十七條 國禁鑛業權ハ試掘權採掘權ノ區別ナシ

第五十八條 國禁鑛業權ノ貸貸又ハ其ノ解約ハ農鑛部ニ於テ省主管官署ヲシテ登記セシム

第五十九條 國禁鑛業權貸借人ハ營業年度終了ノ時決算書、營業報告書及貸借對照表ヲ作成シ農鑛部ニ提出スベシ農鑛部ハ係ヲ派シテ其ノ營業狀況ヲ調査シ帳簿ヲ検査スルコトヲ得

第六十條 農鑛部ハ國禁鑛業權貸借人ニ對シ保證金ヲ納入セシムルコトヲ得

第六十一條 貸貸シタル國禁鑛業權ノ期間満了シ國家ガ之ヲ回收シテ自ラ經營スル必要アルトキハ滿期ノ六月前ニ貸借人ニ通知スベシ

第六十二條 國禁鑛業權貸借契約消滅後國家自ラ經營ヲ行フ必要アルトキハ原貸借人ハ保安ノ範圍内ニ於ケル必要ナル設備ニ關シテ償金ヲ要求スルコトヲ得

第六十三條 鑛業法第五十九條ノ規定ニ依ル小鑛業區

城ハ農鑛部ノ許可又ハ取消アリタルトキハ省主管官署及所在地縣市政府ヨリ各別ニ之ヲ公告スベシ

第六十四條 小鑛業ノ出願人ハ其ノ願書ニ該出願ガ鑛業法第五十九條第一項第何號ノ規定ニ依リタルカヲ記載スベシ

第六十五條 鑛業法第四十一條ニ列舉スル事由ニ因リ小鑛業權ヲ取消スベキトキハ省主管官署之ヲ行フベシ但シ農鑛部ニ之ヲ報告スルコトヲ要ス

第六十六條 二以上ノ小鑛區ノ相隣接セル地域ニ於テ鑛業法第六十二條第二項ノ出願アルトキハ省主管官署ハ該小鑛業者ヲシテ一年以内ニ鑛區合併ヲ出願セシムベシ若シ期間内ニ出願ヲ爲サザルトキハ他人ヲシテ鑛業權ノ出願ヲナサシムルコトヲ得其ノ小鑛業權ノ原有期間ガ六月以内ニ滿了スルトキハ同法第六十五條ノ規定ヲ適用スベシ

第六十七條 鑛業法第六十五條ノ優先權ノ規定ハ同法第九條ノ鑛物ニハ之ヲ適用セズ

第六十八條 鑛業法第六十八條第六十九條及第七十條

ノ事由ニ因リ地方官署ニ許可ヲ申請スルトキハ申請書ニ左記各號ヲ記載スベシ

- 一 土地ノ名稱及種類
- 二 土地所有者又ハ土地占有者ノ姓名住所
- 三 使用目的
- 四 障礙物除去ノ必要アルトキハ障礙物ノ名稱及價格

第六十九條 鑛業法第七十三條及第七十四條第一項ノ規定ニ依リ他人ノ土地使用並ニ施業計畫ノ審定ヲ申請スルトキハ申請書ニ前項第一第二第三各號ノ事項ヲ記載スル其ノ他使用期間ヲ記載スベシ

第七十條 土地使用ノ賠償又ハ報償又ハ擔保ニ關シテ申請スルトキハ主管官署ノ査定ヲ申請スルコトヲ得

第七十一條 土地所有者又ハ關係人ガ前條ノ査定ニ服サザルトキハ鑛業權者ハ償金又ハ擔保ヲ提供シテ其ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ主管官署ニ届出タルコトヲ要ス

第七十二條 償金又ハ擔保ノ査定ニ關シテ不服アルト

キハ法ニ依リ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 第七十二條 鑛區稅ハ農鑛部ニ於テ徵收又ハ省主管官署ニ委託シテ代ツテ徵收セシム省主管官署ガ鑛區稅ヲ徵收シタルトキハ農鑛部ニ送付シ農鑛部ニ於テ之ヲ受領シタルトキハ直ニ省主管官署ニ通知スベシ
 第七十三條 鑛產稅ハ財政部農商部ト協議シ省主管官署ニ委託シテ代ツテ徵收セシム又ハ別ニ徵收機關ヲ指定シテ辦理セシム
 第七十四條 鑛業權者又ハ小鑛業權者及因營鑛業權賃借人ハ毎年一月及七月ニ於テ當期六月分ノ鑛區稅ヲ農鑛部又ハ省主管官署ニ納入スベシ
 第七十五條 鑛區ノ分割又ハ合併ヲ申請シ既ニ鑛區稅ヲ納入シタル場合ヲ除ク外鑛業權ノ設定又ハ變更ノ申請ヲ爲ストキハ省主管官署ニ於テ調査ノ上該申請人ニ通知シテ六月分ノ鑛區稅ヲ豫納セシメ之ヲ第一期ノ鑛區稅トシ書類ニ添ヘテ農鑛部ニ轉送スベシ前項豫納ノ鑛區稅ハ月割ヲ以テ計算スベシ
 第七十六條 鑛業法第九十二條第二項ノ鑛區稅免除規

定ニ關シ作業不能期間ノ計算ハ本編則第八十六條ノ届出ヲ基準トスベシ鑛業權者ガ届出ヲ爲サズ又ハ届出ノ確實ナルトキハ農鑛部又ハ省主管官署ハ鑛區稅免除ノ申請ヲ許可セザルコトヲ得
 第七十七條 鑛業權者又ハ小鑛業權者及因營鑛業權賃借人ガ月割ニテ鑛產稅ヲ納入スルトキハ當月ノ出鑛數表及市價表ヲ添附スベシ省主管官署又ハ指定徵稅機關ガ前項ノ稅額及市價表ヲ檢査ノ上錯誤又ハ納稅不足ヲ確認シタルトキハ納稅人ヲシテ之ヲ補納セシムベシ
 第七十八條 鑛業法第九十三條第二項ノ規定ニ依リ省主管官署ハ附近市場ノ市價ヲ毎月農鑛部ニ報告スベシ
 農鑛部ハ前項ノ報告ニ依據シ毎年年末ニ於テ平均市價ヲ査定シ財政部ト共ニ之ヲ省主管官署又ハ指定徵稅機關ニ通報シ納稅者ニ通知シ査定標準ニ依リ清算セシムベシ
 第七十九條 省主管官署又ハ指定徵稅機關ガ鑛產稅ヲ

收納シタルトキハ報告及送金ヲ爲スノ内一月及七月ニ於テ各種鑛產物及稅收總額表ヲ作成シ各別ニ財政部及農鑛部ニ提出スベシ
 第八十條 鑛業權者ハ鑛業權取得後六箇月以内ニ作業ヲ開始シ且事務所ヲ設置スベシ作業開始ノ期日及雇川スル主要技術員ハ各別ニ農鑛部及省主管官署ニ届出ツベシ
 第八十一條 鑛業法第九十五條第一項ノ規定ニ依リ探鑛權者ガ施業計畫書及作業報告書ヲ提出スルトキハ圖面ヲ附シテ詳細ニ説明スベシ
 第八十二條 坑内實測圖ハ本編則附屬第四號第五號ノ様式ニ依リテ作成シ並ニ毎月上旬ニ於テ前月中ノ掘進状況ヲ記入スベシ
 第八十三條 鑛業簿ハ日記簿及月記簿ノ二種ニ分チ日記簿ニハ左記各號ニ依リ逐日記載シ月記簿ニハ左記各號ニ依リ一月ノ總額ヲ記載シ且當月ノ作業日數及賃銀總額ヲ記載スベシ
 一 鑛物探鑛高

二 鑛物質上高
 三 賃上金額
 四 勞働者數
 第八十四條 鑛業明細表ハ鑛業狀況ニ就キ第六號第七號及第八號様式ニ依リ作成シ一年間ニ於ケル各項數額ヲ當欄内ニ記入スベシ
 第八十五條 鑛業權者ガ選鑛練鑛ノ工場ヲ附設スルトキハ詳細ナル說明書圖面ヲ各別ニ農鑛部及省主管官署ニ提出スベシ
 第八十六條 鑛業權者ガ中途ニテ作業ヲ停止シ又ハ作業ヲ復キスルトキハ各別ニ農鑛部及省主管官署ニ届出テ且其ノ原因ヲ記載スベシ
 前項ノ作業停止ノ届出ハ農鑛部又ハ省主管官署之ヲ調査シ其原因不明ナルカ又ハ消滅シタリト認めタルトキハ期限ヲ附シテ其ノ開始ヲ命ズルコトヲ得
 第八十七條 鑛業法第六條ノ鑛區面積統計規定ニ依リ省主管官署ハ鑛物ノ種類、鑛業權ノ種類、鑛區所在地名稱、鑛業權者及各鑛區ノ面積ニ就キ各別ニ記

載シタル表冊ヲ編成シ並ニ同時ニ管轄區域内ノ因然
 礦業區、國家保留區、試掘礦區、探掘礦區、小礦業
 區ニ就キ省礦區ノ位置關係圖ヲ作成シ別ニ色彩ヲ
 以テ其ノ鑛質ヲ表示スベシ
 前項礦區ノ位置關係圖ハ各礦區ノ増減變更ニ就キ毎
 年各一種ノ圖面ヲ作成シ一部ヲ農商部ニ提出シ且公
 報ニ登載シテ之ヲ公告スベシ

第八十八條 鑛業法施行前ニ於テ取得シタル鑛業權ニ
 シテ期間ヲキモノハ鑛業法ニ規定スル期間ニ依リ鑛
 業法施行ノ日ヨリ起算スベシ但シ鑛區稅ノ徵收ニ關
 シテハ鑛業權ヲ取得シタル年ヨリ起算ス

第八十九條 鑛業法施行前ニ於テ鑛業權ヲ取得シタル
 者ハ同法施行ノ日ヨリ一年以内ニ鑛業許可證ノ書換
 チ申請スベシ

第九十條 鑛業登記ニ關シテハ農商部ニ於テ別ニ之
 ヲ定ム

第九十一條 本細則ハ鑛業法ト同日ニ之ヲ施行ス

鑛業條例修正條文

民國二十七年十二月二十一日

「鑛業法」ヲ「鑛業條例」ニ改ム各項中ノ「本法」ヲ
 「本條例」ニ「國民政府」ヲ「政府」ニ「農商部」ヲ
 「實業部」ニ改並ニ第三條、第五條、第九條、第五十
 條、第五十三條、第六十一條ヲ左ノ如ク改ム

第二條 本條例ニ於テ鑛物ト稱スルハ左記ノ各種
 トス
 金鑛、銀鑛、銅鑛、鐵鑛、錫鑛、鉛鑛、安替母尼鑛、
 「ニッケル」鑛、「コバルト」鑛、「亞鉛鑛」、「アル
 ミニウム」鑛、水銀鑛、砒鑛、「モリブデン」
 鑛、「白金鑛」、「イリヂウム」鑛、「グローム」鑛、
 「ウラニウム」鑛、「ラヂウウム」鑛、「タンダス
 テン」鑛、「マグネシウム」鑛、釩「バナヂニウ
 ム」鑛、「カリニウム」鑛、硫酸鑛、砒鑛、格
 魯鐵鑛、耐火頁岩、耐火粘土、水晶、石棉、雲母、
 石膏、岩鹽、明礬、金剛石、天然青達、重晶石、硝

酸鹽、硼砂、黑鉛、綠松石、螢石、耐火粘土、螢石、
 磁土、大理石、苦土石、石灰類、石油類、煤砂類、
 顏料石類、滑液鑛、滑液鑛ハ民國二十八年二月二十
 七日附政府公報第四十三號ヲ以テ追加
 其ノ他政府ノ指定シタルモノ

第五條 第二條ニ掲ゲタル各鑛物ハ第九條ニ定ム
 ル因然及第十條ニ定ムル國家保留區ヲ除クノ外中華
 民國人ハ本條例ニヨリ鑛業權ヲ取得スルコトヲ得但
 シ所在地ノ縣市政府ハ優先權ヲ有ス

前項中華民國人ノ經營スル鑛業ニシテ會社組織ナル
 トキハ株式會社ニ限リ外國人ノ株主タルコトヲ許ス
 コトヲ得但シ左記兩款ノ規定ニ依ラザルベカラズ
 一 會社總株數ノ半數以上ハ中華民國人ノ所有トナ
 スベシ

二 會社ノ社長、取締役、監査役、總支配人及支配
 人等ノ職ハ外國人所有ノ株式ガ會社總株數ノ半數
 ニ達シタルトキ中華民國人及外國人各半數其ノ職
 ニ任ズルヲ得

前項ノ外資ヲ要スルトキ外國人所有ノ株式ヲ總株式ノ半數以上ニ増加シ之ニ因リ取締役、監査役、支配人亦各員ノ人數ヲ總株式ノ半數ニ非ザレバ會社其ノ目的ヲ達スルコト能ハザルトキハ實業部ハ事情ニ依リ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第九條 鐵礦、石油礦、銅礦及冶金用ニ適スル石煙炭ハ國營トシ國家ニ於テ試掘探掘ヲ行フ國家自ラニ於テ試掘探掘ヲ行フ必要ナキトキハ之ヲ貸貸シテ試掘探掘ヲ爲サシムルコトヲ得但シ貸借人ハ中華民國人ニ限ル天然瓦斯ニシテ「ヘリウム」瓦斯ヲ含有スルモノニ付テハ政府其ノ瓦斯ニ對シ採取權ヲ保留スルコトヲ得第一項ノ貸借人ガ會社組織ナルトキハ外國人ノ加入ニ關シテハ第五條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五十條 國營鐵業ニシテ外資ヲ必要トシ又ハ民營ト合作シテ試掘探掘セントスルトキ適法ノ會社ト認メタル場合ハ國家ハ國營鐵業權ヲ現金ノ出資ニ準作スルコトヲ得

第五十三條 國營鐵業權ノ貸借人ニシテ所要資本ガ概算ヲ認メ自ラ試掘探掘ヲ行フコト能ハザルトキハ第五十條ノ規定ニ從ヒ實業部ニ申請シ其ノ貸借權ヲ以テ他人ト合辦シ又ハ他ノ會社ニ出資ヲ爲スコトヲ得並ニ之ヲ以テ抵當權又ハ讓渡ノ目的ト爲スコトヲ得

第六十一條 小鐵業ノ經營ニ外資ヲ必要トスルトキハ第五條第二項第三項ニ依リテ處理ス

鑛業條例施行細則修正條文

民國二十七年十二月二十二日

「鑛業法施行細則」ヲ「鑛業條例施行細則」ニ改ム各條中ノ「鑛業法」ヲ「鑛業條例」同法「同條令」ニ「國民政府」ヲ「政府」ニ「農鑛部」ヲ「實業部」ニ改メ並ニ第十二條、第八十八條、第八十九條、第九十條、第九十一條ヲ左ノ如ク改ム

第十二條 已ニ對定シタル保留區ト雖モ情勢ノ變遷ニ因リ實業部ニ於テ其ノ保留ノ必要ナシト認メ政府ノ認可ヲ經テ禁令ヲ解除シタルトキハ法ノ定ムルトコロニ從ヒ人民ヲシテ試掘探掘セシムルコトヲ得

第八十八條 本細則公布前既ニ法ニ依リ取得シタル鑛業權ハ施行ノ日ヨリ六月以内ニ鑛圖ヲ附シ鑛稅ヲ納メテ登記ヲ出願シ新證書ノ書換ヲ受クベシ但シ期間經過後ト雖モ遲延ノ理由ヲ明ニシタルトキハ事情ヲ斟酌スルニヨリ三月ヲ限リ延期ヲシ鑛稅完納後前項ノ規定ニ依リテ處理スルコトヲ得

第八十九條 本細則公布前ニ於テ行ヒタル各種鑛業登記及其ノ既ニ發給シタル證書ニ關シテハ公布ノ日ヨリ三月以内ニ本細則ニ依リ登記ヲ更新シ新證書ヲ受クベシ

其ノ既ニ三月ヲ超ユルモ正當ナル理由アリ憐愍ニ出テタルニ非ザルトキ事實ヲ具申シテ主管機關ニ審査處理ヲ請求スルコトヲ得

第九十條 鑛業登記規則ハ實業部ニ於テ之ヲ定ム

第九十一條 本細則ハ鑛業條例ト同日ニ之ヲ施行ス

商標法

民國二十七年十一月八日

第一條 自己ノ生産、製造、加工、選擇、卸賣又ハ取扱商品ナルコトヲ表明スル爲商標ヲ專用セムトスル者ハ本法ニ依リ登録ヲ申請スベシ、商標ニ用フル文字、圖形、記號又ハ其ノ結合シタルモノハ特別顯著ニシテ且名稱及施スベキ色ヲ指定スルコトヲ要ス本法施行前ニ登録ヲ受ケタル商標ハ專用權者ニ於テ原登錄證及原商標圖樣ヲ返納シ新證書ヲ受領スルニ非ザレバ繼續シテ效力ヲ有セズ

前項ノ新證書受領期間ハ不可抗力ノ事由アル場合ヲ除クノ外本法施行ノ日ヨリ二月以内トス其ノ期間ヲ經過スルトキハ商標ノ專用權ヲ放棄シタルモノト看做ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ商標トシテ登録スルコトヲ得ズ

一 中華民國國旗、國徽、國璽、軍旗、官印及勳章

二八二

二 同一又ハ類似ノモノ

三 赤十字章又ハ外國ノ國旗若ハ軍旗ト同一又ハ類似ノモノ

四 風俗秩序ヲ妨害シ又ハ公衆ヲ欺罔スルノ虞アルモノ

五 同一種類商品ニ習慣上利用ウル標章ト同一又ハ類似ノモノ

六 世界ニ周知セラルル他人ノ標章ト同一又ハ類似ノモノヲ同一商品ニ使用スルモノ

七 政府ノ附與シタル獎章及博覽會又ハ勸業會等ノ附與シタル獎牌若ハ褒狀ト同一又ハ類似ノモノ但シ自己ノ受獎シタルモノヲ商標ノ一部分ト爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ

八 他人ノ肖像、姓名、商號又ハ法人又ハ其ノ他ノ團體ト同一名稱ヲ有スルモノ但シ其ノ承認ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

九 他人ノ登録シタル商標ノ失効後一年未滿ノモノト同一又ハ類似ノモノ但シ其ノ登録失効前一年

九 以上使用セザルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

十 使用シタル商標ノ文字又ハ圖形ノ讀音ニシテ既ニ登録ヲ受ケタル商標ノ讀音ト類似ノモノ但シ同音ヲ以テ標準トス

第三條 二人以上ノ者同一商品ニ付同一又ハ類似ノ商標ヲ登録ヲ申請シタルトキハ中華民國領土内ニ於テ實際上ノ最先使用者ノ登録ヲ許可スベシ其ノ申請前ニ未ダ使用セズ又ハ最先使用者不明ナルトキハ最先申請者ノ登録ヲ許可スベシ其ノ申請同日ナルトキハ各申請者ヲシテ協議セシメ其ノ一人ノ專用ニ歸スルニ非ザレバ之ガ登録ヲ許サズ

第四條 中華民國領土内ニ於テ善意ヲ以テ十年以上繼續使用シタル商標ニ付之ガ登録ノ申請ヲ爲シタルトキハ第二條第五號及第三條ニ規定シタル制限ヲ受ケズ但シ商標局ニ於テ必要ト認メタルトキハ其ノ形式又ハ施スベキ色ニ修正又ハ制限ヲ加フルコトヲ得

第五條 同一商人ニシテ同一商品ニ對シ類似ノ商

標ヲ使用スルトキハ聯合商標ト爲ス場合ニ限り登録ヲ申請スルコトヲ得

第六條 外國人民ニシテ商標相互保護ニ關スル條約ニ依リ其ノ商標ヲ專用セントスルトキハ本法ニ依リ登録ヲ申請スベシ

第七條 商標登録ノ申請ニ因リ生ジタル權利ハ其ノ營業ト共ニ他人ニ移轉スルコトヲ得

前項ノ權利ヲ承繼シタルトキハ原申請人ノ名義變更ヲ申請スルニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第八條 中華民國領土内ニ住所又ハ營業所ヲ有セザル者ハ中華民國領土内ニ住所又ハ營業所ヲ有スル者ニ委託シテ代理人ト爲スニ非ザレバ商標登録ノ申請及其ノ他ノ手續ヲ爲スルコトヲ得ズ且商標專用權又ハ商標ニ關スル權利ヲ主張スルコトヲ得ズ

前項ノ代理人ハ特ニ委託ヲ受ケル權限ヲ有スルノ外本法及其ノ他ノ法令ニ定ムル商標ニ關スル一切ノ手續及訴訟事務ニ付本人ヲ代表ス

第九條 前條ノ代理人ノ選任、更迭又ハ其ノ代理

權ノ變更若ハ消滅ハ商標局ニ申請シ其ノ登録許可ヲ
經ルニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得
ズ

第十條 商標局ハ商標ニ關係テ有スル代理人ヲ不
適當ト認メタルトキハ之ヲ更迭セシメ其ノ商標ニ關
シテ爲シタル行爲ヲ無効ト爲スコトヲ得

第十一條 商標局ハ外國及僻遠ノ地又ハ交通不便ノ
地ニ居住スル者ニ對シ職權ニ依リ又ハ申請ヲ待テ其
ノ商標局ニ對シ爲スベキ手續ノ法定期間ヲ延長スル
コトヲ得

第十二條 商標ニ關スル申請及其ノ他ノ手續ニシテ
法定又ハ指定ノ期間後ニ爲サレタルトキハ商標局ハ
之ヲ却下スルコトヲ得 但シ止ムテ得ザル事由アリ
ト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 事由ヲ表明シ商標ニ關スル證明、圖樣ノ
模寫及書類ノ査閲又ハ抄録ノ申請アリタルトキハ商
標局ハ秘密ヲ守ル必要アリト認ムルモノヲ除クノ外

之ヲ拒絕スルコトヲ得ズ

第十四條 商標ハ登録ノ日ヨリ登録人ニ於テ商標專
用權ヲ取得ス商標專用權ハ登録申請ノ際ニ指定シタ
ル商品ニ限ル

第十五條 普通ニ使用セラルル方法ヲ以テ自己ノ姓
名、商號、商品ノ名稱、產地、品質、形狀及效用等
ヲ表示シタルモノハ商標專用權ノ效力ニ拘束セラレ
ズ但シ商標登録後懸念ヲ以テ同一ノ姓名又ハ商號ヲ
使用シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 商標ノ專用期間ハ登録ノ日ヨリ二十年ト
ス

前項ノ專用期間ハ本法ノ規定ニ依リ延長ヲ申請スル
コトヲ得但シ毎回二十年ヲ越ユルコトヲ得ズ

第十七條 商標專用權ハ其ノ營業ト共ニ他人ニ移轉
シ又ハ商標使用ノ商品ニ附隨シ分割シテ移轉スルコ
トヲ得但シ聯合商標ノ商標權ハ分割シテ移轉スルコ
トヲ得ズ

第十八條 商標專用權ノ移轉ハ商標局ノ許可ヲ經テ

登録スルニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコト
ヲ得ズ、其ノ商標專用權ヲ以テ實權ノ目的物ト爲ス
トキ亦同シ

第十九條 商標專用權ハ登録人ニ於テ申請ニ依リ取
消スコトヲ得ルノ外左ノ事由ノ一ニ該當スルトキハ
商標局ハ其ノ職權ヲ以テ又ハ利害關係人ノ申請ニ依
リ之ヲ取消スコトヲ得

一 其ノ登録商標ヲ自ら變更シ又ハ附記シ之ヲ欺罔
使用シタルトキ

二 登録後正當ノ事由ナクシテ滿一年間使用セズ又
ハ滿二年間使用ヲ停止シタルトキ

三 商標權移轉後滿一年間登録ノ申請ヲ爲サザルト
キ但シ相續ニ因ル移轉ハ此ノ限ニ在ラズ

前項第二號ノ規定ハ聯合商標ニ仍其ノ一ヲ使用スル
トキハ之ヲ適用セズ、商標局ハ第一項所定ノ取消處
分ヲ爲サトスルトキハ六十日以前ニ商標專用權者
又ハ其ノ代理人ニ通知スベシ
第一項所定ノ取消處分ニ不服アルトキハ六十日以内

ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二十條 商標專用期間内ニ其ノ營業ヲ廢止シタル
トキハ商標專用權ハ消滅ス

第二十一條 商標ノ專用又ハ其ノ專用期間延長ノ登録
ニシテ第一條乃至第五條ノ規定ニ違反シタルトキハ
商標局ノ評定ヲ經テ無効トス

第二十二條 商標局ニハ商標原簿ヲ備ヘ商標專用權又
ハ商標ニ關スル權利及法令ニ定ムル一切ノ事項ヲ登
録スベシ、登録認可ヲ經タル商標ハ商標原簿ニ登録
シ登録證ヲ下付ス

第二十三條 商標局ハ商標公報ニ登録商標及商標ニ關
スル必要事項ヲ登載スベシ

第二十四條 登録事項ニ付變更又ハ抹消ノ申請アリタ
ルトキハ商標局ノ許可ヲ經タル後商標公報ニ登載シ
テ之ヲ公告スベシ

第二十五條 商標ノ專用又ハ其ノ專用期間延長ノ登録
ヲ爲サトスルトキハ申請人ニ於テ申請ニ當リ規定
ノ登録費ヲ納付スベシ但シ商標局ニ於テ却下シタル

トキハ之ヲ返還スベシ

第二十六條 登録申請シタルトキハ各商品ノ類別ニ就キ其ノ商標ヲ使用スル商品ヲ指定スベシ
前項ノ商品ノ分類方法ハ施行細則ニ之ヲ定ム

第二十七條 商標局ハ專用申請シタル商標ニ付審査ノ上合法ト認めタルトキハ審査書ヲ以テ申請人ニ通知スルノ外之ヲ商標公報ニ登載シ滿六月ヲ經テ利害關係人ノ異議申立ナキトキ又ハ其ノ異議ニ對シ辯明アリタル後始メテ登録ヲ行フ
專用期間ノ延長ヲ申請シタル商標ニシテ審査ノ上合法ト認めタルトキハ登録證ヲ再下付シ商標公報ニ登載シテ之ヲ公告スベシ

第二十八條 商標申請人ニシテ却下ニ對シ不服アルトキハ審査書送達ノ日ヨリ三十日以内ニ不服理由書ヲ具シ再審査ヲ申請スルコトヲ得
再審査ノ審査ニ對シ不服アルトキハ六十日以内ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條 商標ニ關スル異議ニ就テハ前條ノ規定ヲ

準用ス

異議申立ニ對シ裁定アリタル後ハ相手方ハ同一事實及證據ニ因リ評定ヲ請求スルコトヲ得ズ

第三十條 左ノ事項ハ利害關係人ニ於テ評定ヲ請求スルコトヲ得

一 第二十一條ノ規定ニ依リ其ノ登録ヲ無効トスベキモノ

二 商標專用權ノ範圍ヲ認定スベキモノ

第一條又ハ第二條第一號乃至第六號ノ規定ニ違反シ其ノ登録ヲ無効トスベキトキハ審査員ハ評定ヲ請求スルコトヲ得

第二條第七號、第八號及第三條乃至第五條ノ規定ニ違反シタル登録商標ニシテ商標公報ニ登載ノ日ヨリ滿三年ニ達シタルトキハ評定ヲ請求スルコトヲ得ズ

第三十一條 評定ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ請求書正副本ヲ商標局ニ提出スベシ評定事項ニ關シ各當事者ノ提出シタル書狀ハ商標局ニ於テ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ期限内ニ書面ヲ具シ相互ニ答辯セシメ且

詰問書ヲ發シテ陳述セシムルコトヲ得

第三十二條 評定ハ評定委員三人ノ合議ニ依リ其ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

評定委員ハ商標局長ニ於テ事件毎ニ之ヲ指定ス
評定委員ニシテ該事件ニ利害關係ヲ有シ又ハ參與シタルコトアルトキハ之ヲ選避スベシ

第三十三條 評定ハ書狀ニ就キ之ヲ爲スコトヲ得、但シ必要ト認めルルトキハ日時ヲ指定シテ當事者ヲ召集シ口頭辯論ヲ爲サシムベシ

評定ニ關スル當時者ニシテ法定又ハ指定ノ期間ニ出頭セザルトキト雖評定ハ之ニ因リテ中止セズ

第三十四條 評定ニ關スル事件ニ利害關係ヲ有スル者ハ評定終結以前ニ參加ヲ申請スルコトヲ得其ノ許否ハ當事者ニ詢問シ且評定委員ニ於テ合議ノ上之ヲ決定ス

第三十五條 評定ノ評決ニ對シ不服アルトキハ評定書送達ノ日ヨリ三十日以内ニ再評定ヲ請求スルコトヲ得、其ノ一切ノ手續ハ評定ニ關スル規定ヲ適用ス

第三十六條 再評定ノ評決ニ對シ不服アルトキハ六十日以内ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第三十七條 商標ニ關スル事件ニシテ評定ノ評決ヲ經テ確定シタル後ハ同一事實及同一證據ニ就キ同一ノ評定ヲ請求スルコトヲ得ズ

第三十八條 禁利事業ニ非ザル商品ニ標章ヲ專用セムトスル者ハ本法ニ依リ登録ヲ申請スルコトヲ要ス
前項ノ標章ハ商標ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十九條 商標登録費及其ノ他商標關係事件ニ付納付スベキ公費ハ施行細則ニ之ヲ定ム

第四十條 本法施行細則ハ實業部ニ於テ之ヲ定ム

第四十一條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



度量衡暫行條例

民國二十七年十一月十六日

- 第一條 中華民國度量衡ハ萬國權度公會ノ制定シタル白金、イリチウム合鍍ノ公尺、公斤原器（メートル、キログラム原器）ヲ以テ標準ト爲ス
- 第二條 中華民國度量衡ハ萬國公制ヲ採用シテ標準制ト爲シ並ニ暫時輔制ヲ設ケ之ヲ市用制ト稱ス
- 第三條 標準制長度ハ公尺（メートル）ヲ以テ單位トシ容量ハ公升（リットル）ヲ以テ單位トス一公尺ハ公尺原器ノ攝氏零度計零度ノ時ニ於ケル首尾兩標點間ノ距離ニ等シク一公斤ハ公斤原器ノ重量ニ等シク一公升ハ一公升ノ純粋ノ水ノ最高密度七百六十公釐氣壓ノ時ニ於ケル容積ニ等シク此ノ容積ハ通常一立方公分トス
- 第四條 標準制ノ名稱及定位法左ノ如シ

公分	公尺ノ百分ノ一即チ十公釐ニ等シ	〇.〇〇	公尺
公寸	公尺ノ十分ノ一即チ十公分ニ等シ	〇.一	公尺
公尺	單位即チ十公寸		公尺
公丈	十公尺ニ等シ	一〇	公尺
公引	百公尺即チ十公丈ニ等シ	一〇〇	公尺
公里	千公尺即チ十公引ニ等シ	一〇〇〇	公尺
地積			
公畝	公畝ノ百分ノ一ニ等シ單位即チ一百平方公尺	〇.〇一	公畝
公頃	一百公畝ニ等シ	一〇〇	公畝
容量			
公撮	公升ノ千分ノ一ニ等シ	〇.〇〇一	公升
公勺	公升ノ百分ノ一即チ十公撮ニ等シ	〇.〇一	公升
公合	公升ノ十分ノ一即チ十公勺ニ等シ	〇.一	公升
公升	單位即チ一立方公分		公升
公斗	十公升ニ等シ	一〇	公升

二八八

- 公石 百公升即チ十公斗ニ等シ
- 公乘 千公升即チ十公石ニ等シ
- 重量
- 公絲 公斤ノ百萬分ノ一ニ等シ
- 公毫 公斤ノ十萬分ノ一即チ十公絲ニ等シ
- 公釐 公斤ノ一萬分ノ一即チ十公毫ニ等シ
- 公分 公斤ノ千分ノ一即チ十公釐ニ等シ
- 公錢 公斤ノ百分ノ一即チ十公分ニ等シ
- 公兩 公斤ノ十分ノ一即チ十公錢ニ等シ
- 公斤 單位即チ十公兩
- 公衡 十公斤ニ等シ
- 公擔 百公斤即チ十公噸ニ等シ
- 公噸 千公斤即チ十公擔ニ等シ

公石	百公升即チ十公斗ニ等シ	一〇〇	公升
公乘	千公升即チ十公石ニ等シ	一〇〇〇	公升
公絲	公斤ノ百萬分ノ一ニ等シ	〇.〇〇〇〇一	公斤
公毫	公斤ノ十萬分ノ一即チ十公絲ニ等シ	〇.〇〇〇〇一	公斤
公釐	公斤ノ一萬分ノ一即チ十公毫ニ等シ	〇.〇〇〇一	公斤
公分	公斤ノ千分ノ一即チ十公釐ニ等シ	〇.〇〇一	公斤
公錢	公斤ノ百分ノ一即チ十公分ニ等シ	〇.〇一	公斤
公兩	公斤ノ十分ノ一即チ十公錢ニ等シ	〇.一	公斤
公斤	單位即チ十公兩		公斤
公衡	十公斤ニ等シ	一〇	公斤
公擔	百公斤即チ十公噸ニ等シ	一〇〇	公斤
公噸	千公斤即チ十公擔ニ等シ	一〇〇〇	公斤

- 第五條 市用制ノ長度ハ公尺ノ三分ハ一ヲ以テ市尺（略シテ尺ト呼ブ）トシ重量ハ公斤ノ二分ノ一ヲ以テ市斤（略シテ斤ト呼ブ）容積ハ公升ヲ以テ市升（略シテ升ト呼ブ）トス一斤ヲ十六兩ニ分チ一千五百尺ヲ一里ト定メ六千平方尺ヲ一畝ト定メ其ノ他ハ均シク十ヲ以テ進ム
- 第六條 市用制ノ名稱及定位法左ノ如シ

長度			
市尺	尺ノ一萬分ノ一ニ等シ	〇.〇〇〇一	尺
市寸	尺ノ十分ノ一即チ十市尺ニ等シ	〇.〇一	尺
市分	尺ノ百分ノ一即チ十市寸ニ等シ	〇.〇〇一	尺
市釐	尺ノ千分ノ一即チ十市分ニ等シ	〇.〇〇〇一	尺
市毫	尺ノ百分ノ一即チ十市釐ニ等シ	〇.〇一	尺
市兩	單位即チ十市寸		尺
市斤	十斤ニ等シ	一〇	尺
市引	百斤ニ等シ	一〇〇	尺
市里	一千五百尺ニ等シ	一五〇〇	尺

二八九

地積	畝ノ千分ノ二ニ等シ	0.001	畝
畝	畝ノ百分ノ二ニ等シ	0.01	畝
分	畝ノ十分ノ二ニ等シ	0.1	畝
畝	單位即チ六平方尺	100	畝
噸	一百畝ニ等シ	100	畝
容量	升ノ千分ノ一ニ等シ	0.001	升
撮	升ノ百分ノ一ニ等シ	0.01	升
勻	升ノ十分ノ一ニ等シ	0.1	升
合	升ノ十分ノ一ニ等シ	0.1	升
升	單位即チ十合	10	升
斗	十升ニ等シ	100	升
石	百升即チ十斗ニ等シ	100	升
重量	斤ノ一十六萬分ノ一ニ等シ	0.00000625	斤
絲	斤ノ一十六萬分ノ一ニ等シ	0.00000625	斤
毫	即チ十絲ニ等シ	0.0000625	斤

釐	斤ノ一萬六千分ノ一	0.0000625	斤
分	斤ノ千六百分ノ一	0.00035	斤
錢	斤ノ一百六十分ノ一	0.00625	斤
兩	斤ノ十六分ノ一	0.0625	斤
斤	單位即チ十六兩	100	斤
擔	百斤ニ等シ	100	斤

二九〇

第七條 中華民國度量衡原器ハ實業部ニ於テ之ヲ保管ス

第八條 實業部ハ原器ニ依リ副原器ヲ製造シ維新政府各院、部、會、各省政府及各直轄市政府ニ分置ス

第九條 實業部ハ副原器ニ依リ地方標準器ヲ製造シ各省及各直轄市經由各縣及各市ニ頒布シ地方ニ於ケル檢定又ハ製造ノ用ト爲ス

第十條 副原器ハ十年毎ニ原器ニ照シテ檢定スルコトヲ要シ地方標準器ハ五年毎ニ副原器ニ照シテ檢

定スルコトヲ要ス

第十一條 度量衡ニ關スル事項ハ私人ノ買賣取引ニ於テ市用制ヲ暫行スルコトヲ得ルノ外他ハ均シク標準制ヲ用フベシ

第十二條 度量衡ノ劃一ハ實業部ニ於テ全國度量衡局ヲ設立シ之ヲ掌理セシムベシ省及直轄市ハ度量衡檢定所ヲ設立シ縣及市ハ度量衡檢定分所ヲ設立シ檢定事務ヲ處理セシムルコトヲ得 度量衡局、度量衡檢定所及分所規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 度量衡原器及標準器ハ實業部全國度量衡局ニ於テ度量衡製造所ヲ設立シ之ヲ製造ス 度量衡製造所規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十四條 度量衡器具ノ種類、樣式、物質、公差及其ノ使用ノ制限ハ實業部ニ於テ部令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 度量衡器具ハ法ニ依リテ檢定シ其ノ印證アルモノニ非ザレバ之ヲ販賣又ハ使用スルコトヲ得ズ 度量衡檢定規則ハ實業部ニ於テ之ヲ定ム

第十六條 國ノ公私ニ使用スル度量衡器具ハ檢査ヲ

受クルコトヲ要ス

第十七條 度量衡檢査執行規則ハ實業部ニ於テ之ヲ定ム

第十八條 度量衡器具ノ製造、販賣及修理ヲ以テ業ト爲ス者ハ地方主管機關ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス 度量衡器具營業條例ハ別ニ之ヲ定ム

第十九條 許可ヲ經タル度量衡器具ノ製造、販賣又ハ修理ノ營業者ニシテ本法ニ違反スルノ行爲アルトキハ主管機關ハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第二十條 第十五條又ハ第十八條ノ規定ニ違反シテ檢定ヲ受ケズ又ハ檢査ヲ拒絶シタル者ハ三十元以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 本條例施行細則ハ實業部ニ於テ之ヲ定ム 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

交易所法

民國二十七年十一月十六日

第二章 設立

- 第一條 商業繁盛ノ區域ニハ商人ヨリ實業部ニ申請シテ免許ヲ受ケ有價證券ヲ賣買シ又ハ一種若ハ數種ノ物件ヲ賣買スル交易所ヲ設立スルコトヲ得
- 第二條 有價證券ノ賣買又ハ同種物件ノ賣買ヲ爲ス交易所ノ設立ハ一區域ニ一箇所ヲ限リ其ノ區域ハ實業部ニ於テ之ヲ定ム
- 第三條 交易所ハ設立後滿十年ヲ以テ其ノ存立年限トス 但シ地方ノ商業情況ニ依リ滿期ノ際實業部ニ申請シ其ノ認可ヲ經テ之ヲ繼續延期スルコトヲ得
- 第四條 有價證券ヲ賣買シ又ハ標準物ニ依リ貨物ヲ賣買スル市場ハ均シク交易所ト看做シ本法ニ依ルニ非ザレバ之ヲ設立スルコトヲ得ズ

第三章 組織

第五條 交易所ハ地方ノ商業情況及賣買物件ノ種類ニ依リ同業會員ニ於テ之ヲ組織シ又ハ株式會社ヲ以テ之ヲ組織スベシ

- 第六條 同業會員組織ノ交易所ハ其ノ賣買ヲ爲シ得ル者ヲ該所ノ會員ニ限リ株式會社組織ノ交易所ハ其ノ賣買ヲ爲シ得ル者ヲ該所ノ取引員ニ限ル
- 第七條 交易所ハ實業部ノ認可ヲ受ケ該交易所ノ賣買ニ附帶スル業務ヲ經營スルコトヲ得 株式會社組織ノ交易所ハ倉庫業ヲ除クノ外前項ノ業務ヲ兼營スルコトヲ得ズ
- 第八條 交易所ノ定款ハ實業部ニ申請シテ認可ヲ受クベシ
- 第九條 交易所ノ取引員トナラムトスル者ハ交易所ヲ經營テ實業部ニ免許登錄ヲ申請スベシ
- 第十條 中華民國ノ國籍ヲ有スル人民又ハ法人ニ非ザレバ交易所ノ會員又ハ取引員トナルコトヲ得ズ 但シ領事裁判權ヲ放棄シタル國家ノ人民又ハ法人ハ此ノ限ニ在ラズ

左ノ事由ノ一ニ該當スル者ハ交易所ノ會員又ハ取引員トナルコトヲ得ズ

- 一 行為能力ヲ有セザル者
- 二 破産ノ宣告ヲ受ケタル者
- 三 公權ヲ侵害セラレ未ダ復權セザル者
- 四 一年以上ノ徒刑ニ處セラレ執行終了又ハ赦免後五年未滿ノ者
- 五 本法第四十五條乃至第五十二條ノ規定ニ依リ刑罰ニ處セラレ刑ノ執行ヲ終リ又ハ赦免ヲ受ケタル後五年未滿ノ者
- 六 交易所ニ於テ除名處分ヲ受ケタル後五年未滿ノ者

第四章

- 第十一條 交易所ノ會員又ハ取引員ニシテ前條第一項及第二項ニ掲グル事由ノ一ヲ發生シタルトキハ直ニ其ノ資格及登錄ノ效力ヲ喪失ス
- 第十二條 不正ナル手段ヲ用キテ會員又ハ取引員トナリタル者ハ實業部ニ於テ其ノ登錄ヲ取消シ又ハ除名シ又ハ交易所ヲ退出セシムルコトヲ得

第十四條 會員又ハ取引員ハ支店又ハ其ノ他如何ナル名義ヲ用フルヲ問ハズ其ノ他ノ同種交易所ヲ有スル區域ニ在リテ同種ノ賣買ヲ取扱フコトヲ得ズ

- 第十五條 何人ト雖交易所ノ賣買取引委託ノ代理權介又ハ取次ヲ以テ營業ト爲スコトヲ得ズ 但シ會員又ハ取引員ニシテ實業部ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十六條 會員又ハ取引員ハ交易所ニ對シ其ノ賣買ニ因リ生ズル一切ノ責任ヲ負フベシ
- 第十七條 取引員登錄ヲ申請スルトキハ登錄費ヲ納付スベシ 前項ノ登錄費ハ實業部ニ於テ之ヲ定ム
- 第十八條 會員又ハ取引員ハ保證金ヲ交易所ニ納付シ置クベシ
- 第十九條 交易所ハ會員又ハ取引員ニ對シ定款ノ規定ニ依リ其ノ營業ヲ停止シ又ハ一千元以下ノ罰金ヲ課シ又ハ除名スルコトヲ得
- 第二十條 交易所ハ定款ヲ以テ會員又ハ取引員ノ責

格ヲ規定シ其ノ員數ヲ限定スルコトヲ得
 會員又ハ取引員ニシテ前項ノ資格ヲ喪失シタルトキ
 ハ直ニ其ノ登録ノ效力ヲ喪失ス
 會員組織ノ交易所ノ地位ハ全體會員ノ四分ノ
 三以上ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ讓渡スルコトヲ得ズ
 第二十一條 取引員ニシテ廢業シタル者アルトキハ其
 ノ交易所ニ於テ取扱ヒタル買賣ノ結了後二週間ヲ經
 過スル迄仍廢業セザルモノト看做ス
 會員又ハ取引員ニシテ死亡、解散、除名、脱退及登
 録ノ取消又ハ失効等ノコトアリタルトキハ其ノ交易
 所ニ於テ取扱ヒタル買賣ノ結了ニ至ル迄前項ノ規定
 ヲ準用ス
 前二項ノ規定ニシテ該會員又ハ取引員ノ買賣ヲ結了
 スル者ナキトキハ交易所ハ定款ニ依リ他ノ會員又ハ
 取引員ニ委託シテ之ヲ結了セシムルコトヲ得
 第四章 職員
 第三十二條 交易所ノ職員ハ左ノ如シ
 理事長 一人

理事 二人以上
 監察役 若干人
 交易所職員ノ任期ハ三年トシ會員又ハ株主中ヨリ之
 ヲ選任シ實業部ノ認可ヲ經テ登錄スベシ
 第十條第一項及第二項ニ該當スル者ハ交易所ノ職員
 トナルコトヲ得ズ
 取引員ニ對シ資本ヲ供給シ損益ヲ分擔シ又ハ取引員
 ノ營業ト特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ交易所ニ
 於テ職員トナルコトヲ得ズ
 第二十三條 職員ニシテ前條第四項ノ事情アリ又ハ免
 許登錄ヲ經テ取引員トナリタルトキハ直ニ退職スベ
 シ理事長又ハ理事ニシテ認可登錄ヲ經テ其ノ他ノ交
 易所ノ理事長又ハ理事トナリタルトキ亦同シ
 實業部ニ於テ職員ノ不正手段ニ依リ登錄ヲ申請シタ
 ル事實又ハ前條ノ規定ニ違反シテ職員トナリタル者
 ヲ發見シ又ハ職員ニ第二十五條第二項ノ規定ニ違反
 スル者アリト認メタルトキハ退職セシムルコトヲ得
 第二十四條 職員ニ缺員ヲ生ジ實業部ニ於テ必要ト認

メタルトキハ交易所ニ命ジテ職員ヲ補選シ之ヲ繼任
 セシムルコトヲ得
 第二十五條 株式會社組織ノ交易所ノ職員又ハ雇員ハ
 如何ナル名義ヲ用フルチ間ハズ自身又ハ他人ニ委託
 シテ交易所ニ於テ買賣ヲ爲スコトヲ得ズ
 前項ノ交易所ノ職員又ハ雇員ハ其ノ取引員ニ對シ資
 本ヲ供給シ又ハ損益ヲ分擔又ハ取引員ノ營業ト特別
 ノ利害關係ヲ有スルコトヲ得ズ
 第二十六條 交易所ニ評議會ヲ設ケ交易所ノ重要事項
 ヲ評議スベシ
 交易所ハ證券交易所ヲ除クノ外鑑定員ヲ置キ受渡物
 品ノ等級ヲ鑑定セシムベシ
 第五章 賣買
 第二十七條 交易所ノ賣買ノ期限ハ有價證券ニ在リテ
 ハ三月ヲ超ユルコトヲ得ズ棉花、綿絲、綿布、金
 銀、雜穀、米穀、油類、皮革、生絲及砂糖ニ在リテ
 ハ六月ヲ超ユルコトヲ得ズ其ノ他ノ物品ニ在リテハ
 實業部ノ定ムル期限ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十八條 證券交易所ハ該所ノ株券ノ賣買ヲ爲スコ
 トヲ得ズ
 第二十九條 交易所ノ賣買方法ニ關シテハ別ニ實業部
 部令ヲ以テ之ヲ定ム
 第三十條 株式會社組織ノ交易所ハ定款ノ規定ニ依
 リ賣買雙方ニ保證金ヲ納付セシムベシ其ノ金額ト賣
 買登記價格ノ比例ハ左ノ規定ニ依ル
 一 物品取引 百分ノ十ヲ下ルコトヲ得ズ但シ綿絲
 ハ百分ノ五ヲ下ルコトヲ得ズ
 二 證券取引 百分ノ八ヲ下ルコトヲ得ズ
 三 金取引 百分ノ五ヲ下ルコトヲ得ズ
 第三十一條 交易所ハ賣買契約ヲ履行セザル者アルト
 キハ其ノ保證金及保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ充ツ
 ルコトヲ得
 第三十二條 株式會社組織ノ交易所ハ賣買ノ違約ニ依
 リ生ジタル損害ニ付賠償ノ責ヲ負フ但シ違約者ニ對
 シ其ノ賠償シタル金額及溢納ニ因リ生ジタル一切ノ
 費用ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第三十三條 株式會社組織ノ交易所ハ前條ノ規定ニ依リ賠償ノ責ヲ負フトキハ營業保證金ヲ國庫ニ納付シ置クベシ

第三十四條 株式會社組織ノ交易所ハ買高ニ依リ賣買雙方ヨリ手数料ヲ徵收スルコトヲ得 其ノ率ハ實業部ノ認可ヲ受クベシ

第三十五條 交易所ハ保證金、保證金ニ付處分ノ優先權ヲ有ス

第三十六條 交易所ノ買買ノ委託者ハ會員又ハ取引員ノ委託契約ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ違約ニ因リ生ジタル債權ニ關シ會員又ハ取引員ノ保證金ニ付交易所ヲ除クノ外其ノ他ノ債權者ニ比シ優先權ヲ有ス

第三十七條 會員又ハ取引員ハ受託シタル買買ニ付其ノ所屬交易所内ニ於テ買付、賣付又ハ受渡テ爲シタルトキニ非ザレバ委託者ニ對シ同様又ハ類似ノ計算方法ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ買買ノ決済書ハ交易所ニ於テ作成シ雙方ノ會員又ハ取引員之ニ署名シテ受渡テ爲スコトヲ要ス

會員又ハ取引員ガ第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ第五十二條ニ依リ之ヲ處罰ス

第三十八條 交易所ハ公定市價ヲ決定シ之ヲ公告スベシ

交易所ハ會員又ハ取引員ノ買高ヲ公告スベシ

第三十九條 何人ト雖交易所以外ニ於テ差金買買ヲ以テ目的トスル交易所類似ノ市場ヲ設立シ買買ヲ行フコトヲ得ズ

第四十條 會員又ハ取引員ハ公務員ノ委託ヲ受ケ空賣買ノ取引ヲ爲スコトヲ得ズ

第六章 監督

第四十一條 交易所ノ行爲ニシテ法令ニ違反シ又ハ公益ヲ妨害シ又ハ公安ヲ擾亂スルトキハ實業部ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 交易所ノ解散
- 二 交易所ノ營業停止
- 三 交易所ノ一部ノ營業ノ停止又ハ禁止
- 四 職員ノ解職

五 會員又ハ取引員ノ營業停止若ハ除名

第四十二條 實業部ハ交易所監督員ヲ任命シテ交易所ノ業務、帳簿、財産及其ノ他ノ物件及會員又ハ取引員ノ帳簿ヲ検査シ市場價格變動ノ原因ニ注意セシムベシ

交易所ノ職員、會員又ハ取引員ハ前項ノ検査ニ對シ物品又ハ文書ヲ提供シ質問ニ應答スルノ義務ヲ有ス

第四十三條 實業部ハ必要ト認ムルトキハ交易所ヲシテ定款ヲ變更セシメ又ハ其ノ決議案又ハ處分ヲ停止シ禁止シ若ハ取消スコトヲ得

第四十四條 交易所ハ存立年限内ニ自ラ解散スルトキハ實業部ノ認可ヲ受クベシ

第七章 罰則

第四十五條 第二十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ一萬元以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第十四條又ハ第十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ五千元以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第三十條ノ規定ニ違反シタル者ハ納ムベ

キ證據金ノ二倍以上十倍以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 第四十條ノ規定ニ違反シタルトキハ會員取引員及公務員ヲ買買價格ノ二倍以上十倍以下ノ罰金ニ處シ其ノ刑罪ニ涉ルトキハ法院ニ送致ス

第四十九條 交易所ノ職員、評議員又ハ鑑定員ニシテ其ノ職務ニ付賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ徒刑又ハ一萬元以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ本刑ノ二分ノ一ヲ加重ス

前項ノ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スル能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第五十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ徒刑又ハ三千元以下ノ罰金ニ處ス

- 一 交易所ノ職員、評議員又ハ鑑定員ニ對シ賄賂ヲ交付、贈與又ハ約束シタル者
- 二 交易所ノ公定相場ヲ偽造シテ之ヲ公告シタル者
- 三 公告若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虚偽ノ相場ヲ記載シタル文書ヲ作成シ又ハ之ヲ頒布シタル者

四 免許登録ヲ受ケズシテ交易所ヲ設立シタル者又ハ第三十八條ノ規定ニ違反シタル者
 前項第一號ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑罰ヲ免除シ又ハ輕減スルコトヲ得
 第五十一條 交易所ニ於ケル相場ノ變動ヲ意圖シテ流旨ヲ散布シ又ハ偽計ヲ行使シ又ハ暴行ヲ施シ又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ徒刑又ハ六千元以下ノ罰金ニ處ス
 第五十二條 交易所以外ニ於テ交易所ノ相場ニ依リ損益ヲ計リ空賣買取引ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ徒刑又ハ三千元以下ノ罰金ニ處ス
 第五十三條 會員又ハ取引ノ同居者、親族又ハ雇人ニシテ第十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ第十六條ニ依リ處罰スベシ 該會員又ハ取引員ハ自己ノ指揮シタルニ非ザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ 此場合ニ於テハ罰則ハ第四十六條ノ規定ヲ準用ス
 第五十四條 本法ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ行爲ヲ爲シタル董事、理事其ノ他業務ヲ執行スル職員ニ之

ヲ適用ス
 第八章 附則
 第五十五條 交易所課税法ハ別ニ之ヲ定ム
 第五十六條 交易所ノ資本金額、營業保證金及積立金等ニ關シテハ實業部令ヲ以テ之ヲ定ム
 第五十七條 本法施行細則ハ實業部ニ於テ之ヲ定ム
 第五十八條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

交通部航政局管理船舶暫行章程

民國二十八年三月十八日(交通部令)

第一章 總則
 第一條 交通部航政局ハ本章程ノ規定ニ依リ船舶ノ處理ヲ行フ
 第二條 船舶ハ他ノ關係法令ヲ遵守スルノ外本章程ノ規定ヲ遵守スベシ
 第三條 本章程ニ於テ船舶ト稱スルハ總噸數二十噸以上ノ汽船及二百噸以上ノ帆船ヲ謂フ
 第四條 中華民國國籍ヲ取得セル船舶ハ外國國旗ヲ掲揚スルコトヲ得ズ中華民國國籍ニ非ザル船舶ハ中國國旗ヲ掲揚スルコトヲ得ズ
 第五條 左ノ各號ノ事情ノ一ニ該當スルモノノ外中國船舶ニ非ザル船舶ハ中華民國港灣ニ停泊スルコトヲ得ズ
 一 法律ニ特別ノ規定アルモノ
 二 中華民國政府ノ許可ヲ得タルモノ

三 避難ヲ爲セルモノ
 第六條 船舶ハ船舶國籍證書又ハ船舶臨時國籍證書ヲ所持スルニ非ザレバ航行スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ニ掲グル事情ニ依リ航政局ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ
 一 試運轉ノトキ
 二 噸數計量ノトキ
 三 正當ノ事由アルトキ
 第七條 船舶ハ船舶國籍證書又ハ船舶臨時國籍證書ヲ取得スルニ非ザレバ中華民國國旗ヲ掲揚スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ事情ノ一ニ遭遇シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 一 中華民國國慶日又ハ記念日
 二 外國港口ニ停泊中該國國慶日ニ遇ヒタルトキ
 三 前二號ノ場合ヲ除クノ外慶祝又ハ敬意ヲ表示スベキトキ
 四 進水式ヲ舉行スルトキ
 五 前條ノ規定ニ依リ其ノ航行ヲ許可セラレタルト

第 八 條 船舶ハ左ノ各款ニ掲グル標識ヲ具備スベシ

- 一 船名
- 二 船籍港名
- 三 船舶ノ登録噸數
- 四 船舶登記番號
- 五 吃水尺度

前項各款ノ標識ハ之ヲ毀壞塗抹スルコトヲ得ズ但シ捕獲ヲ避クル爲行フ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

標識事項ニシテ登記事項ノ變更ニ因リ之ヲ變更スルノ要生ジタルトキハ直ニ其ノ變更ヲ爲スベシ

第 九 條 船舶ハ左ノ各款ニ掲グル文書ヲ具備スベシ

- 一 船舶国籍證書
- 二 船舶登記證書
- 三 船舶検査證書
- 四 船舶噸數證書

- 五 海員證書
- 六 海員名簿
- 七 旅客名簿
- 八 運送契約及貨物積込ニ關スル書類
- 九 船具目錄
- 十 航海日誌簿

第 十 條 船名ハ船舶所有者之ヲ定ム但シ同一船籍港ニ於ケル他船名ト同一ナル名稱又ハ字音ヲ混同スル名稱ヲ附スルコトヲ得ズ

第二章 船舶検査

第 十一 條 船舶ハ最初ノ航行ヲ開始セザルトキ航行期間満期ノトキ及航行期間内ニ於テ必要アルトキハ検査ヲ施行ス最初ノ航行ヲ開始セザルトキ及航行期間満期ノトキノ検査ハ船舶所有者ヨリ航政局ニ願出テ上之ヲ施行ス航行期間内ノ検査ハ航政局ニ於テ職權ニ依リ之ヲ施行ス

第 十二 條 已ニ検査ヲ受ケタル船舶ノ航行期間ハ三ヶ月以上一年以内トス但シ帆船ノ場合ニ在リテハ六月

以上三年以内トス期限ヲ經過シタル船舶ハ更ニ再検査ヲ受ケ之ニ合格スルニ非ザレバ航行スルコトヲ得ズ航行中満期ト爲リタル船舶ハ満期後最初ノ到達港ニ於テ該港ノ航政局又ハ航政局辦事處ニ申請シ検査ヲ受ケベシ

第 十三 條 船舶検査ハ航政局又ハ航政局辦事處所在地ニ於テ之ヲ施行ス但シ申請人ヨリ事由ヲ具シ該地ニ於テ検査シ能ハザル旨申出テタルトキハ航政局ニ於テ検査員ヲ派遣シ船舶所在地ニ於テ之ヲ施行ス

第 十四 條 検査員規程ニ照シテ検査ヲ施行シ合格ト認メタルトキハ指定航路、搭載人員、汽壓制限及航行期間ヲ列記シタル書類ヲ航政局ニ提出シ船舶検査證書ノ下附ヲ受ケシムベシ

第 十五 條 航政局ハ隨時検査員ヲ船ニ派遣シ検査ヲ爲サシムルコトヲ得検査員法令ノ規定ニ適合セザル個所ヲ発見シ又ハ航行上危險若ハ障礙ヲ生ズル候レアリ早急ニ検査ヲ要スト認メタルトキハ暫時其ノ航行ノ停止ヲ命ズルコトヲ得

第 十六 條 船長ハ船舶ノ船體堅固ナラズ又ハ船具ノ不完備若ハ其ノ他ノ事由ニ依リ航行上危險若ハ障礙ノ生ズル候アルコトヲ発見シタルトキハ航政局ニ検査ヲ施行ヲ申請スベシ其ノ航行中ナルトキハ若港後前段ノ申請ヲ爲スベシ

第 十七 條 船舶所有者検査ノ結果ニ不服アルトキハ事由ヲ具シ交通部ニ申請シ検査員ノ特派ヲ乞ヒ再検査ヲ受ケルコトヲ得再検査未ダ終了セザル以前ニ船舶ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得ズ

第 十八 條 中國船舶ニ對シテハ公務專用ノ船舶ヲ除クノ外本章程ノ規定ニ依リ検査ヲ施行ス

第 十九 條 左ノ各款ニ掲グル外國船舶ニ對シテハ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本章程ノ規定ニ依リ検査ヲ施行ス

- 一 中國人民ノ賃借セル中國各港間又ハ中國ト外國間ノ航行ヲ爲ス外國船舶
- 二 法律又ハ政府ノ許可ニ依リ中國港灣口岸間ヲ航行スル外國船舶

中國港ロリ客貨ヲ搭載シ出發セントスル外國船舶ハ船長ニ於テ航政局ニ對シ船舶検査書ノ検査ヲ申請シ若シ該検査書ノ期限既ニ滿了セルトキハ航政局ニ於テ更ニ検査ヲ施行ス

第二十条條 前二條ニ掲グル船舶ハ検査ニ合格シ證書ヲ附セラレタル後航行スルコトヲ得

第三章 船舶ノ丈量

第二十一条條 船舶ハ國籍證書下附申請前ニ船舶所有者ヨリ航政局ニ對シ丈量ノ申請ヲ爲スベシ

第二十二条條 外國ニ於テ船舶ヲ製造又ハ取得シタル者ハ最初ニ到着シタル中國ノ港ニ於テ前條ノ規定ニ依リ丈量ノ申請ヲ爲スベシ

第二十三条條 登記ヲ了シタル船舶ノ船體ノ様式若ハ噸積ヲ變更シ又ハ噸數計算ニ錯誤アリト認ムルトキハ船舶所有者ハ變更完了又ハ錯誤發覺ノ日ヨリ一月以内ニ第二十一条ノ規定ニ依リ重テ丈量ノ申請ヲ爲スベシ航政局ニ於テ發見シタル場合ハ職權ニ依リ重テ丈量ヲ行フ

再交付又ハ書換テ申請スベシ

第二十九條 船舶籍港以外ノ中國港又ハ外國港ニ停泊中前條ノ事情發生シタルトキハ該船舶ノ船長ハ該港ノ航政局、主管航政官署又ハ中國領事館ニ對シ船舶臨時國籍證書ノ發給ヲ申請スベシ

航行中前條ノ事情發生シタルトキハ該船舶ノ船長ハ到達港ノ航政局、主管航政官署又ハ中國領事館ニ對シ前項ノ申請ヲ爲スベシ

第三十条條 前條ノ事情ニ遭遇シタルトキハ船舶所有者ハ該船舶籍港ニ到達シタル後十日以内ニ航政局ニ對シ船舶臨時國籍證書ヲ引換ニ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スベシ

第三十一条條 登記ヲ了シタル船舶滅失沈没シ捕獲セラレ又ハ國籍ヲ喪失シタルトキハ船舶所有者ハ之等ノ事實ヲ發見シタル日ヨリ三十日以内ニ航政局ニ對シ登記取消ノ申請ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書ヲ確實ニ遺失シタル場合ヲ除クノ外當該證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶行衛不明ト爲リ六月ヲ經

第二十四條 外國船舶ニシテ中國港ロリ客貨ヲ搭載シ出發セントスル場合ハ船長ヨリ當該港航政局又ハ航政局辦事處ニ對シ當該船舶噸數證書ノ検査ヲ申請スベシ此ノ場合ニ於テハ當該國測量法式及中國測量法式同一ナルカ又ハ相互承認シタル場合ヲ除キ航政局ニ於テ丈量ヲ施行ス

第二十五条條 船舶ノ丈量ヲ終ヘタルトキハ航政局ニ於テ新ニ又ハ舊證書ヲ引換ニ船舶噸數證書ヲ附ス

第四章 船舶國籍證書

第二十六条條 船舶ノ所有者ハ船舶検査證書及船舶噸數證書ヲ取得シタル後自ラ船舶籍港ヲ定メ船舶登記章程ノ規定ニ依リ所有權ノ登記ヲ爲スベシ

第二十七条條 船舶前條ノ規定ニ依リ登記ヲ終ヘタルトキハ航政局ハ船舶登記章程ニ依リ登記證書ヲ發給シ併セテ交通部ニ船舶國籍證書ヲ發給ヲ申請スベシ

第二十八条條 船舶國籍證書ヲ滅失毀損シ又ハ登記事項ヲ變更シタルトキハ船舶所有者ハ滅失毀損又ハ登記事項變更ノ日ヨリ三十日以内ニ航政局ニ對シ證書ノ

ルモ仍所在不明ナルモノニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テ期限ヲ經過スルモ仍登記ノ取消及證書ノ返還ヲ爲サザル者ニ對シテハ航政局ハ一月以内ノ期限ヲ定メ登記ノ取消及證書ノ返還ヲ催告スルコトヲ得期限ヲ經過スルモ正當ナル事由ナクシテ催告ニ從ハザル者アルトキハ職權ニ依リ登記及證書ノ取消ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 中國港又ハ外國港ニ於テ船舶ヲ取得シ中國ニ於ケル他ノ港ヲ船舶港ト定ムル場合ニ於テハ船舶所在港ノ航政局、主管航政官署又ハ中國領事館ニ對シ船舶臨時國籍證書ノ發給ヲ申請シ船舶籍港ニ到達シタル後第二十六条ノ規定ニ依リ登記及船舶臨時國籍證書ノ取消ヲ申請スベシ

第三十三条條 船舶臨時國籍證書ノ有効期間ハ國外ニ於テ發給スル場合ニ在リテハ一年、國內ニ於テ發給スル場合ニ在リテハ六月ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ延期ノ申請ヲ爲スコトヲ得

再交付又ハ書換テ申請スベシ

第二十九條 船舶籍港以外ノ中國港又ハ外國港ニ停泊中前條ノ事情發生シタルトキハ該船舶ノ船長ハ該港ノ航政局、主管航政官署又ハ中國領事館ニ對シ船舶臨時國籍證書ノ發給ヲ申請スベシ

航行中前條ノ事情發生シタルトキハ該船舶ノ船長ハ到達港ノ航政局、主管航政官署又ハ中國領事館ニ對シ前項ノ申請ヲ爲スベシ

第三十条條 前條ノ事情ニ遭遇シタルトキハ船舶所有者ハ該船舶籍港ニ到達シタル後十日以内ニ航政局ニ對シ船舶臨時國籍證書ヲ引換ニ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スベシ

第三十一条條 登記ヲ了シタル船舶滅失沈没シ捕獲セラレ又ハ國籍ヲ喪失シタルトキハ船舶所有者ハ之等ノ事實ヲ發見シタル日ヨリ三十日以内ニ航政局ニ對シ登記取消ノ申請ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書ヲ確實ニ遺失シタル場合ヲ除クノ外當該證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶行衛不明ト爲リ六月ヲ經

ルモ仍所在不明ナルモノニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テ期限ヲ經過スルモ仍登記ノ取消及證書ノ返還ヲ爲サザル者ニ對シテハ航政局ハ一月以内ノ期限ヲ定メ登記ノ取消及證書ノ返還ヲ催告スルコトヲ得期限ヲ經過スルモ正當ナル事由ナクシテ催告ニ從ハザル者アルトキハ職權ニ依リ登記及證書ノ取消ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 中國港又ハ外國港ニ於テ船舶ヲ取得シ中國ニ於ケル他ノ港ヲ船舶港ト定ムル場合ニ於テハ船舶所在港ノ航政局、主管航政官署又ハ中國領事館ニ對シ船舶臨時國籍證書ノ發給ヲ申請シ船舶籍港ニ到達シタル後第二十六条ノ規定ニ依リ登記及船舶臨時國籍證書ノ取消ヲ申請スベシ

第三十三条條 船舶臨時國籍證書ノ有効期間ハ國外ニ於テ發給スル場合ニ在リテハ一年、國內ニ於テ發給スル場合ニ在リテハ六月ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ延期ノ申請ヲ爲スコトヲ得



第三十四條 船舶臨時國籍證書ハ有效期間満了前ト雖モ船舶籍港ニ到達シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第五章 罰 則

第三十五條 第五條ノ規定ニ違反シタルトキハ當該船長ヲ二千元以下ノ罰金ニ處ス其ノ情狀重大ナルトキハ當該船舶及積載貨物ヲ沒收スルコトヲ得

第三十六條 國籍ヲ偽稱スル目的ヲ以テ第四條ノ規定ニ違反シタルトキハ當該船長ヲ一千元以下ノ罰金ニ處ス其ノ情狀重大ナルトキハ當該船舶ヲ沒收スルコトヲ得

第三十七條 虚偽ノ事實ヲ以テ登記又ハ丈量申請シ依テ船舶國籍證書、船舶登記證書、船舶検査證書又ハ船舶噸數證書ヲ取得シタル者ハ一年以下ノ有期徒刑又ハ千元以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第六條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタルトキハ當該船長ヲ五百元以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第八條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五百元以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第二十八條又ハ第三十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百元以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタルトキハ當該船長ヲ一千元以下ノ罰金ニ處ス

一 船舶検査證書ヲ受領セズシテ航行シタルトキ

二 故ナク指定ノ航路若ハ航行期間ヲ遵守セズ又ハ汽艀制限ヲ超過シタルトキ

三 検査員ノ臨時検査ヲ拒絶シ又ハ航行停止命令ニ違反シタルトキ

四 第二十條ノ規定ニ違反シタルトキ

第四十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタルトキハ當該船長ヲ五百元以下ノ罰金ニ處ス

一 第九條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 船舶ノ周具ノ整備ヲ完了セズシテ航行シタルトキ

三 登載セル旅客其ノ定員ヲ超過シタルトキ

第四十三條 本章程ニ掲グル船長ニ對スル罰則ハ船長ヲ代理スル者又ハ船長ノ職務ヲ執行スル者ニ對シテ

モ之ヲ適用ス

第六章 附 則

第四十四條 船舶検査章程、船舶丈量章程、船舶登記章程、船舶國籍證書章程其ノ他船舶管理ニ關スル各章程ハ別ニ之ヲ定ム

前各條ノ規定及新ニ制定公布セララルル規程ノ外現行法令ニ抵触セザル範圍内ニ於テ從前ノ規程ヲ適用ス

第四十五條 本章程ノ規定ニシテ事宜ヲ盡サザル所アルトキハ隨時之ヲ改正スルコトヲ得

第四十六條 本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

實業部管理絲繭事業臨時辦法

二十七年九月二十九日(實業部令)

- 第一條 江蘇、浙江、安徽三省及各市區管轄區域內ニ於テ左ノ絲繭事業ヲ經營セントスル者ハ豫メ維新政府實業部ニ申請シ其ノ許可證ノ下附テ受ケタル後營業ヲ開始スルコトヲ得
 - 一 蠶種製造事業
 - 二 機械製絲事業
 - 三 繭問屋
- 維新政府實業部ハ前項各號ノ事業ノ管理及許可ニ關シ本辦法ノ外必要ニ應ジ命令ヲ發スルコトヲ得
- 第二條 前條第一項第一號ノ蠶種製造事業ノ申請者ハ本年十一月三十日迄ノ期間内ニ於テ申請書ヲ維新政府實業部ニ提出スベシ
- 前項ノ申請書ニハ詳細ニ左ノ各號ノ事項ヲ記載シ且必要ナル證明書類ヲ添附スベシ
 - 一 商號ノ名稱及經營者ノ氏名

三〇六

- 二 公司ノ性質及資本額
- 三 蠶種製造ノ場所及育蠶ノ場所
- 四 製種育蠶ニ使用スル家屋ノ間數及其平方面積ノ尺寸(標準制又ハ市制ニ按照シ計算ス)
- 五 孵化種蠶ノ數量及其ノ品名稱別並ニ蠶種製造數ノ豫定期額
- 第三條 第一條第一項第二號ノ機械製絲事業即チ生絲製造事業ノ申請者ハ本年十月三十一日迄ノ期間内ニ於テ申請書ヲ維新政府實業部ニ提出スベシ
- 前項ノ申請書ニハ詳細ニ左ノ各號ノ事項ヲ記載シ且必要ナル證明書類ヲ添附スベシ
 - 一 商號ノ名稱及經營者ノ氏名
 - 二 公司ノ性質及資本額
 - 三 工場ノ所在地
 - 四 絲絲ノ種類及數量(廠數及ピ台數)
 - 五 毎年絲絲工作ノ日數
 - 六 從業職工ノ員數及其ノ職務ノ區別
 - 七 事業計劃概要ノ說明

八 設備ノ要領

- 申請者ハ其ノ申請書中ニ前項第三號ノ工場ガ自己ノ所有ナリヤ否ヤヲ明記シ若シ他人ニ貸貸シ經營スル場合ニ於テハ必ズ貸借契約書ヲ申請書ニ添附ノ上維新政府實業部ニ提出スベシ
- 第四條 第一條第一項第三號ノ繭問屋ノ申請者ハ本年十一月三十日迄ノ期間内ニ於テ申請書ヲ維新政府實業部ニ提出スベシ
- 前項ノ申請書ニハ左ノ各號ノ事項ヲ明記スベシ
 - 一 商號ノ名稱及經營者ノ氏名
 - 二 会社ノ性質及資本額
 - 三 繭問屋ノ所在地
 - 四 繭乾燥機ノ種類及毎日生産スル乾燥繭ノ數量
 - 五 新繭買入ノ見積數量(春、夏、秋、冬ニ區別シテ記入スベシ)
 - 六 開業ノ豫定期日
- 第三條第二項ハ繭問屋ニ之ヲ准用ス
- 第五條 申請ニ對シ維新政府實業部許可ヲ爲シタ

ルトキハ許可證ヲ發給ス

- 第六條 實業部設絲事業ノ統制ニ關シ必要ト認メタルトキハ命令ヲ發スルコトヲ得
- 第七條 第一條ノ規定ニ依ル許可證ノ下附テ受ケズシテ營業ヲ爲ス者ハ一千元以下ノ罰金ニ處ス
- 第八條 第六條ノ規定ニ依ル命令ヲ遵守セザルトキハ維新政府實業部ハ許可ノ取消ヲ爲スコトアルベシ
- 第九條 本辦法ノ規定ニ依ル申請書ハ當該各省ノ建設廳ヲ經由ノ上維新政府實業部ニ提出シ其ノ審査ヲ受クベシ(南京、上海ノ市區内ニ在ル者ハ督辦市政府公署ヲ經由ノ上實業部ニ提出シ其ノ審査ヲ受クベシ)
- 第十條 各省建設廳申請書ヲ受領シタルトキハ直ニ意見又ハ說明ヲ具シ維新政府實業部ニ送達スベシ
- 各省督辦市政府公署ヲ經由ノ上提出スル場合ニ付亦同シ
- 第十一條 各省建設廳ハ本辦法ノ規定ニ依リ必要ノ手續費ヲ徵收スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ豫

三〇七

メ實業部ニ申請シ其ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス督辦市政公署ノ場合ニ付亦同シ本辦法施行前ニ各省、市及地方機關ノ制定セル各項暫行辦法ハ本辦法施行ノ日ヨリ一律ニ其ノ執行ヲ停止ス

第十二條 本辦法ハ民國二十七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 第一條第一項各號ノ事業經營者ハ本辦法施行後其ノ定メラレタル期間内ニ申請書ヲ提出スベシ若シ期限ヲ經過シタルトキハ維新政府實業部ハ申請書ヲ受理セズ又ハ許可ヲ爲サザルコトアレシ

華中蠶絲股份有限公司規程

二十七年十一月二十一日(實業部令)

第一條 華中機械製絲業ハ從來亂立ヲ放置スルノ狀態ニ在リ爲ニ製絲業者間ノ激烈ナル競争ヲ惹起シ無統制ノ經營ハ巨額ノ經濟的損害ヲ齎シ破産者續出シ利ハ農民經濟ノ健全ナル發達ヲ阻害シ爲政者ノ深慮ニ堪エザル處ナリ政府茲ニ無益ノ競争ヲ除去シ統制アル經營法ヲ實行シ以テ製絲業者ノ安全ヲ確保シ同時ニ本業ノ健全ナル發達ニ貢獻セシメンガ爲華中蠶絲股份有限公司ヲシテ機械製絲業ノ合理的經營ヲ實行セシメ既存ノ當該業者ヲ糾合シテ該公司ノ統制ニ服セシメ爾後同種事業ヲ新設スルヲ許サズ以テ同業相食ノ弊ヲ免レシム

第二條 蠶種製造業ト機械製絲業トハ密接不可分ノ關係アリ若シ其ノ經營相互ニ法ヲ得ザレバ絲業ノ圓滿發達ヲ望ムコトヲ得ズ政府ハ茲ニ蠶ミ華中蠶絲股份有限公司ヲシテ華中ノ蠶種製造業及既存ノ該業

ヲ包括糾合シ蠶種ノ供給調整ヲ爲サシメ以テ良質廉價ノ蠶種ヲ供給セシム

第三條 華中蠶絲股份有限公司ハ左ノ事項ニ付必ズ政府ノ審査及許可ヲ受クベシ

- 一 定款内ノ重要事項ノ變更
- 二 社長及副社長ノ選任及解任
- 三 合併又ハ解散ノ決議

附 則

第四條 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

上海恆產股份有限公司章程

民國二十七年九月十日實業部令

第一章 總則

- 第一條 上海恆產股份有限公司ハ上海附近ニ於ケル都市港灣建設事業ノ實施並ニ都市港灣建設ニ關係アル事業ノ經營ヲ其ノ目的トス本公司ハ本社ヲ上海ニ置ク
- 第二條 上海恆產股份有限公司ノ資本金ハ二千萬元トス但シ必要アルトキハ之ヲ增加スルコトヲ得
- 第三條 政府ハ一千萬元ニ限リ上海恆產股份有限公司ニ出資ス政府ハ現金以外ノ財產ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得
- 第四條 上海恆產股份有限公司ハ株金全部拂込前ト雖資本ヲ增加スルコトヲ得
- 第五條 上海恆產股份有限公司ノ株式ハ記名式ヲ用フ

第二章 職員

- 第六條 上海恆產股份有限公司ニ董事長(社長)及副董事長(副社長)各一人、理事二人以上、監事二人以下ヲ置ク
- 第七條 董事長ハ上海恆產股份有限公司ヲ代表シ公司ノ業務ヲ總理ス副董事長ハ董事長事故アルトキハ董事長ノ職務ヲ代理シ董事長兼員ノトキハ董事長ノ職務ヲ執行ス
- 第八條 董事長、副董事長共ニ事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ董事長兼員ノトキハ其ノ職務ヲ執行ス
- 第九條 副董事長及理事ハ董事長ヲ輔佐シ上海恆產股份有限公司ノ業務ヲ分掌ス
- 第十條 監事ハ上海恆產股份有限公司ノ業務ヲ監察ス
- 第十一條 董事長及副董事長ハ株主總會ニ於テ選任シ任期ハ共ニ四年トス
- 第十二條 監事ハ株主總會ニ於テ選任シ任期ハ三年トス

第三章 業務

- 第九條 上海恆產股份有限公司ハ左記業務ヲ經營ス
 - 一 都市建設事業
 - 二 港灣建設事業
 - 三 土地及建築物ノ賣買、賃貸、利用並ニ管理
 - 四 不動産信託業務
 - 五 其ノ他前各號ニ附隨スル業務
- 第十條 上海恆產股份有限公司ハ二十年ヲ存續期限トスル土地賃借權ヲ設定スルコトヲ得
- 第十一條 前項ノ土地賃借權ノ讓渡或ハ土地賃借權ニ對シ權利ヲ設定セムトスルトキハ上海恆產股份有限公司ノ認可ヲ經ルニ非ザレバ效力ヲ發生セズ

- 第十二條 政府ノ監督及補助
- 第十三條 政府ハ上海恆產股份有限公司ノ業務ヲ監督ス
- 第十四條 董事長及副董事長ノ選任及解任、定款内ノ重要事項ノ變更、社債ノ發行、彩票ノ發行並ニ事業ノ重要事項、利益金ノ處分及合併又ハ解散ノ議決等ハ均シク政府ノ認可ヲ受クベシ
- 第十五條 上海恆產股份有限公司ハ都市建設及港灣建設事業ノ進行ニ按ジテ道路、公園等ノ公共施設ヲ政府ニ引續クベシ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十六條 政府ハ都市建設及港灣建設事業ノ爲ニ必要ナル土地ヲ取得シテ之ヲ上海恆產股份有限公司ニ交付スルコトヲ得
- 第十七條 上海恆產股份有限公司ハ法令ノ定ムルトコロニ依リ都市建設及港灣建設ノ爲ニ必要ナル土地ヲ徵用スルコトヲ得
- 第十八條 上海恆產股份有限公司ハ法令ノ定ムルトコロニ依リ都市建設及港灣建設ノ實施ニ因リ顯著ナル利益ヲ享受シタル者ニ對シ其ノ享ケタル利益ヲ限度トシテ所要經費ノ全部或ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得
- 第十九條 上海恆產股份有限公司ノ所有地ニシテ未タ土地賃借權ノ設定ヲ經ザルモノニ對シテハ地租ヲ

免除ス
 第十八條 上海恒産股份有限公司ハ一億元ニ限リ社債ヲ發行スルコトヲ得
 上海恒産股份有限公司ノ社債ハ獎金ヲ給スルコトヲ得
 上海恒産股份有限公司ノ社債ハ公司法第七十八條ノ規定ニ拘ラス其ノ債券ノ金額ヲ十元迄低減スルコトヲ得
 第十九條 上海恒産股份有限公司ハ法令ノ定ムルトコロニ依リ彩票ヲ發行スルコトヲ得
 第二十條 政府ハ上海恒産股份有限公司ノ發行スル社債ノ元利償還ヲ保證ス
 第二十一條 上海恒産股份有限公司ノ第一次社債ハ法令ノ規定ニ依リテ寄託或ハ供託ヲ以テ政府ニ對スル保證或ハ擔保ノ用ニ充ツルコトヲ得
 第二十二條 上海恒産股份有限公司ハ政府ノ認可ヲ經テ第一次公債ヲ以テ本公司ノ株金拂込ノ用ニ充ツルヲ承認スルコトヲ得

第二十三條 上海恒産股份有限公司ハ毎營業年度ニ於テ其ノ配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ滿タザルトキハ政府ノ所有スル株式ニ對シ配當ヲ爲スコトヲ要セザルモノトス
 第二十四條 上海恒産股份有限公司ノ毎營業年度ニ於テ配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ滿タザルトキハ政府ハ其ノ不足額ヲ補給ス
 毎營業年度ニ於テ配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過シタルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項補給金ノ償還ノ用ニ充ツベシ
 第二十五條 上海恒産股份有限公司ノ毎營業年度ニ於テ配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超テ利益配當ヲ爲サムト

スルトキハ其ノ利益配當ガ總株式ノ拂込金額ニ對シ均一ノ比率ニ至ル迄ヲ限度トシテ其ノ超過額ヲ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ一ト二トノ比率ヲ以テ配當スベシ

附則

第二十六條 本章程ハ中華民國二十七年九月十日ヨリ之ヲ施行ス

華中電氣通信株式會社ニ關スル件

民國二十七年八月十五日(公報)

- 第一條 政府ハ華中電氣通信株式會社ヲシテ中支那ニ於ケル電氣通信事業ヲ統制經營セシム同會社ノ外ニ同種事業ヲ新設スルコトヲ得ズ又既存ノ同種事業ハ速ニ同會社ノ統制下ニ置クベシ
- 第二條 華中電氣通信株式會社ハ一般通信ノ處理ニ關シ損害賠償ノ責ニ任ズルコトナシ
- 第三條 一般通信ニ關スル料金ノ不納金額ニ付テハ華中電氣通信株式會社ハ國稅ニ次ギ先取特權ヲ有ス
- 第四條 華中電氣通信株式會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ電報ノ發信人ニ對シ其ノ電報ニ用ヒタル暗號又ハ隱語ノ說明ヲ求ムルコトヲ得
- 第五條 華中電氣通信株式會社ハ其ノ電報ノ取扱ヲ拒絶スルコトヲ得

- 第六條 華中電氣通信株式會社ハ拂込株金額ノ二倍ヲ限度トシテ社債ヲ募集スルコトヲ得
- 第七條 華中電氣通信株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ總株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達セザルトキハ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ付其ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄利益配當ヲ爲シ殘餘アルトキハ之ヲ政府ノ所有スル株式ニ配當スベシ
- 第八條 華中電氣通信株式會社ハ電線路ノ建設、保守又ハ測基ノ爲必要アルトキハ他人ノ土地若ハ建築物ニ立入り又ハ他人ノ土地ニ測量標ヲ設置スルトヲ得但シ日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ急迫ノ場合ニ非ザレバ占者ノ意思ニ反シテ邸宅又ハ構内ニ立入ルコトヲ得ズ

三一四

- 前項ノ規定ニ依リ他人ノ邸宅又ハ構内ニ立入ル場合ハ占有者ニ豫メ之ヲ通知スベシ
- 前二項ノ規定ニ依リ他人ノ土地又ハ建築物ニ立入ル者ハ其ノ身分ヲ證明スル證據ヲ携帯スベシ
- 第九條 華中電氣通信株式會社ハ電線路ノ建設又ハ公衆通信ニ障礙アル竹木其ノ他ノ植物ノ伐除若ハ移植ヲ所有者若ハ其ノ他ノ權利者ニ請求シ又ハ自ら之ヲ伐除若ハ移植スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ所有權者又ハ其ノ他ノ權利者ニ對シ相當ノ補償ヲ爲スベシ
- 第十條 華中電氣通信株式會社ハ電線路ノ建設又ハ公衆通信ニ障礙アル瓦斯支管、上下水道支管、電燈線、電力線、專用電氣通信施設其ノ他ノ工作物ノ移植ヲ所有者其ノ他ノ權利者ニ請求シ又ハ自ら之ヲ移植スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ所有權者又ハ其ノ他ノ權利者ニ對シ相當ノ補償ヲ爲スベシ
- 第十一條 華中電氣通信株式會社ハ道路、樹木、溝渠、堤防、公園其ノ他公共ノ用ニ供セラルル土地又

- ハ官有地ニ電線路ヲ建設スル必要アルトキハ其ノ效用ヲ妨ゲザル限度ニ於テ其ノ管理若シテ許可ヲ受ケ之ヲ使用スルコトヲ得
- 第十二條 華中電氣通信株式會社ハ他人ノ土地ニ電線路ヲ建設スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ其ノ他ノ權利者ニ豫メ之ヲ通知スベシ
- 第十三條 政府ハ華中電氣通信株式會社ノ事業ニ關シ公益上必要ナル命令ヲ爲シ又ハ其ノ設備ニ付公益上必要ナル措置ヲ爲スコトヲ得
- 前項ノ命令又ハ措置ニ因リ會社ニ損失ヲ生ジタルトキハ政府ハ之ヲ補償ス
- 第十四條 華中電氣通信株式會社ハ左ノ事項ニ付政府ノ認可ヲ受クベシ
 - 一 定款中重要ナル事項ノ變更
 - 二 社長及副社長ノ選任及解任
 - 三 合併及解散ノ決議

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三一五

時次長ヲ經テ部長ニ上陳シ之ヲ改ムルコトヲ得
第十四條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

- 二 消燈
- 三 全部ノ鍵ノ保管
- 第九條 日直及宿直時間内ニ於テ本部職員ニシテ門ヲ開キ事務室ニ入ラントスルモノアルトキハ其ノ理由ヲ説明スルニ非ザレバ許可スルコトヲ得ズ
- 第十條 日直及宿直員ハ小使及門衛ニ對シ嚴重ニ監督シ若シ規定ヲ守ラズ又ハ事務ヲ怠ル等ノコトアルトキハ總務司第四科ニ報告シ調査ノ上之ヲ處置スベシ
- 第十一條 日直及宿直員ハ日直及宿直時間内ニ於テハ少クトモ本部及宿舍ヲ二回巡視シ若シ寄宿人員ニ非ズシテ内ニ在リ閑談スル者又ハ寄宿セルモノアルトキハ嚴重ニ詰問シ其ノ退出ヲ命ズベシ
- 第十二條 日直及宿直人員中特殊ノ事故ニ因リ當直不能ノ者アルトキハ豫メ總務司長ニ報告シ代理者ヲ派遣シテ當直セシムベシ若シ故ナクシテ遅レ又ハ早退シタルトキハ曠職ヲ以テ之ヲ論ズ
- 第十三條 本規則ニ未ダ盡サザル事項タルトキハ隨

中華航空股份有限公司條例

(民國二十八年十二月十日公布)

- 第一條 中華航空株式會社ハ航空事業ノ振興發達ヲ圖リ之ヲ統制經營ニ當ル株式會社トス
- 第二條 中華航空株式會社ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス
 - 一 旅客及動物又ハ其ノ他ノ貨物ノ航空機ニヨル運送
 - 二 航空機ノ貸借
 - 三 其ノ他航空機ヲ以テスル一切ノ事業
 - 四 航空事業ノ發展ニ資スベキ事業
 - 五 前各款ニ附帶スル事業
 - 六 前各款ニ掲グル事業ニ對スル投資又ハ融資
- 第三條 中華航空株式會社ノ資本ハ五千萬圓トス但シ日華合辦航空會社設立ニ關スル協定ニ依ル聯合監督委員會ノ認可ヲ受ケ之ヲ增加スルコトヲ得
- 第四條 中華航空株式會社ノ株主ハ一株ニツキ一

箇ノ議決權ヲ有ス

- 第五條 中華航空株式會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ四分ノ一迄下ルコトヲ得
- 第六條 中華航空株式會社ハ株金額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得
- 第七條 中華航空株式會社ハ拂込株金額ノ二倍ニ達スル迄社債ヲ募集スルコトヲ得
- 第八條 社債ヲ募集スル場合ニ於テハ公司法第百八十六條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ
- 第九條 政府ハ社債ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得
- 第十條 社債權者ハ中華航空株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辦濟ヲ受クル權利ヲ有ス
- 第十一條 中華航空株式會社ニ總裁一人、副總裁二人、理事四人以上及監事二人以上ヲ置ク

第十一條 總裁ハ中華航空株式會社ヲ代表シ社務ヲ總理ス副總裁ハ總裁ヲ輔佐シ中華航空株式會社ノ業務ヲ掌理シ總裁事故アルトキ若ハ缺員ノトキハ理事中ノ一人其ノ職務ヲ代理シ若ハ其ノ職務ヲ行フ
 監事ハ中華航空株式會社ノ業務ヲ監督ス
 第十二條 總裁及副總裁ハ株式總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ハ四年トス
 第十三條 中華航空株式會社ハ左ノ事項ニ關シ聯合監督委員會ノ認可ヲ受クベシ
 一 總裁及副總裁其ノ他ノ重役ノ選任並ニ解任
 二 定款中重要ナル事項ノ變更
 三 資本ノ增加
 四 合併又ハ解散
 五 預算、決算及利益金處分
 第十四條 中華航空株式會社ハ左ノ事項ニ關シ聯合

監督委員會ニ報告スベシ
 一 株式總會ノ決議
 二 事業計畫
 第十五條 政府ハ中華航空株式會社ニ對シ公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ命令ニ因リ會社ニ生ジタル損失ハ政府之ヲ補償ス
 第十六條 政府ハ中華航空株式會社ニ對シ租稅關稅其ノ他一切ノ公課並ニ地方稅ヲ免除ス
 第十七條 中華航空株式會社ハ其ノ事業經營上必要アルトキハ他人ノ土地建物其ノ他ノ物件若ハ權利ヲ收用若ハ使用シ又ハ他人ノ土地建物其ノ他ノ物件ニ對スル權利ノ制限ヲ爲スコトヲ得
 第十八條 中華航空株式會社ハ其ノ經營スル航空事業ニ專用スル爲必要ナル通信、標識及放送ノ施設並ニ運川ヲ爲スコトヲ得
 第十九條 政府ハ別ニ定ムル所ニ依リ中華航空株式會社ヲシテ固有飛行場ニ關セル權限ノ一部ヲ行使セ

シムルコトヲ得

附則

第二十條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第二十一條 中華民國二十七年十二月十七日設立登記アリタル中華航空株式會社ハ本條例公布ノ日ヨリ本條例ニ依ル中華航空株式會社トス

華中水電股份有限公司規程

(民國二十七年十一月二十二日)
(經新政府公報第二十七號)

- 第一條 政府ハ華中水電株式會社ヲシテ中支那ニ於ケル電氣及水道事業ヲ統制經營セシメ同會社以外ニ同種事業ノ新設ヲ認メズ且既存ノ同種事業ハ速ニ同會社ノ統制下ニ入ラシム
- 第二條 自家用發電ハ餘熱利用等特別ノ場合ヲ除ク外之ヲ認メザルモノトス
- 第三條 發電、送電及配電ハ華中水電株式會社ヲシテ一貫的ニ經營セシムルモノトス
- 第四條 華中水電株式會社ハ水道事業ハ上水道及下水道事業ヲ兼營スルコトヲ得
- 第五條 華中水電株式會社ハ拂込株金額ノ二倍ヲ限リ社債ヲ募集スルコトヲ得
- 第六條 政府ハ華中水電株式會社ノ社債ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトアルベシ
- 第七條 政府ハ左ニ示ス公課ニ關シ之ヲ免除ス

三三〇

- 一 電氣及水道事業ノ復興ニ要スル重要機器材料ニ對スル三年間ノ關稅
- 二 會社設立ニ關スル登録稅
- 三 國稅以外ノ地方稅並其ノ他ノ公課
- 第八條 華中水電株式會社ハ政府ノ許可ヲ受ケ他人ノ土地ニ立入り電氣及水道工作物ノ施設ニ關スル調査若ハ測量ヲ爲シ又ハ工事ノ爲他人ノ土地ニ立入ルコトヲ得華中水電株式會社ハ電氣及水道工作物ノ修理又ハ監視ノ爲必要アルトキハ其ノ工作物ヲ施設シタル他人ノ土地又ハ建築物ニ立入ルコトヲ得
- 第九條 華中水電株式會社ハ必要アルトキハ電線路及水路ノ施設又ハ保守ニ際害ヲ及スベキ植物ヲ伐除シ又ハ移植スルコトヲ得
- 第十條 華中水電株式會社ハ道路、橋梁、溝渠、河川、堤防其ノ他公共ノ用ニ供セラルル土地ノ地上又ハ地中ニ電線路及水路ヲ施設スル必要アルトキハ其ノ効用ヲ妨ゲザル限度ニ於テ其ノ管理者ノ許可ヲ受ケテ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 華中水電株式會社ハ必要アルトキハ現在ノ使用方法ニ妨ゲザル限度ニ於テ他人ノ地上ノ空間若ハ地中ニ電線路及水路ヲ施設シ又ハ建築物ノ存在セザル他人ノ土地ニ電線ノ支持物ヲ建設スルコトヲ得

第十二條 政府ハ華中水電株式會社ニ對シ公益上必要ナル命令ヲ爲シ又ハ其ノ設備ニ必要ナル措置ヲ爲スコトアルベシ
前項ノ處置ニ因リ生ジタル損失ハ政府之ヲ補償スルコトアルベシ

第十三條 華中水電株式會社ハ左ノ事項ニ付政府ノ認可ヲ受クベシ
一 定款中重要ナル事項ノ變更
二 社長及副社長ノ選任及解任
三 合併及解散ノ決議
附則
本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三三一

華中水電股份有限公司修正條例

(民國二十九年三月二十一日公布)

第一章 總則

- 第一條 維新政府ハ戰後人民ノ生活ヲ回復シ迅速ニ水電事業ヲ改進黨シメンガ爲特ニ華中水電株式會社ノ設立ヲ許可ス
- 第二條 華中水電株式會社ハ左ノ各種事業ヲ經營ス
 - 一 各地原有ノ水道又ハ電氣事業ノ協議ノ上合作方式ヲ以テ經營スベキモノ
 - 二 從來水道設備又ハ電氣事業設備無キ區域内ノ水電事業
 - 三 瀑布又ハ江河ヲ利用シ大流量電流ノ製造ヲ計畫設置シ各地商人經營ノ電燈工場又ハ農事用ニ供給スルモノ
- 第四條 前項ニ關係スル附帶事業
- 第三條 華中水電株式會社ノ經營スル前條ノ業務

三三二

ハ未開業前ニ於テ左ノ書類四部ヲ取り備ヘ當地地方官廳ニ送呈シ該廳ニ推新政府ニ傳達シ審査ノ上認可ヲ經テ始メテ經營スルコトヲ得

- 一 企業計畫書
- 二 營業區域圖
- 三 收支概算表
- 四 工程計畫書並ニ附屬解說
- 五 營業章程概要
 - 一 經營スル事業ガ水道ナルトキハ左ノ書類ヲ附加ス
 - 二 水源ノ位置及水量ノ概要
 - 三 現在人口ト人口増殖後ノ水量ノ計算
- 六 經營スル事業ガ前條第一號ノモノナルトキハ左ノ書類ヲ併セ附加ス
 - 一 殘餘財產目錄並ニ一件宛明記セシ價格
 - 二 雙方協議ノ契約及其ノ代表人ノ姓名
 - 三 評價人ノ姓名履歷及雙方推舉ノ方法
- 四 舊公司ノ營業免狀又ハ其ノ他ノ證明文件

第四條 華中水電株式會社ノ維新政府ヲ經テ前條

- ニヨリ許可セラレタル區域内ニ於テハ同様ノ業務ヲ經營スルコトヲ得ズ但シ餘熱ヲ利用シ又ハ特別理由アルモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 第五條 華中水電株式會社ノ資本金五千萬圓中日各半ヲ支出ス但シ株主會ノ議決維新政府ノ審査認可ヲ經テ比例シテ之ヲ增加スルコトヲ得
- 第六條 華中水電株式會社ノ株主會ハ一株毎ニ一議決權ヲ有ス其ノ決議方法ハ出席株主ノ議決權過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ行フ
- 第七條 華中水電株式會社ノ經營期間内ニ政府必要アリト認ムルトキハ因替ニ歸セシムルコトヲ得政府ハ前項ノ規定ニ依リ因替ニ歸セシムルトキハ當該公司ノ資産全部ヲ適當價格ヲ以テ協議シ之ヲ買収ス

第二章 管理機關

第八條 華中水電株式會社ノ最高管理機關ニ左ノ

者ヲ置ク

- 一 取締役一人 華人
- 二 副取締役一人 日本人
- 三 常務取締役、取締役、監査役ノ定員ハ章程ヲ以テ之ヲ定ム但シ中日人員ハ平等配置スベシ
- 第九條 取締役、監査役ハ均シク株主會ノ選舉ニ由ル總取締役副總取締役常務取締役ハ取締役ノ互選ニ由ル
- 第十條 第八條ノ職員外ハ各部分各階級ノ人員少クトモ華人ハソノ百分ノ六十ヲ占ムベシ
- 第十一條 左ノ事項ハ取締役會ノ議決ヲ經ベシ
 - 一 重要規程ノ審定及修改事項
 - 二 重要契約ノ審定事項
 - 三 設備擴充及業務改造ノ審定事項
 - 四 公司財務ノ計畫及毎年度預算決算ノ審定事項
 - 五 公司職員ノ定員俸給等級ノ規定及中日人員配置事項
 - 六 高級職員ノ選出及任免事項

三三三

七 其ノ他重要事項

第三章 業務經營

第十二條 華中水電株式會社ノ經營スル第二條各項ノ業務ニシテ外國機械又ハ材料ヲ必要トスルトキハ實業部ニ申請シ上財政部ニ咨文ヲ傳達シ其ノ審査認可ヲ俟テ關稅ヲ減免スルコトヲ得

第十三條 華中水電株式會社ハ工程上ノ必要ニ因リ主管人ノ許可ヲ得テ河川、道路、橋梁、溝渠、堤防ヲ使用スルコトヲ得 但シ其ノ原有ノ效用ヲ妨害セザルヲ限度トス

第十四條 華中水電株式會社必要ノトキハ土地所有入及占有人ノ許可ヲ得テ土地ノ空間又ハ地下ニ電線路又ハ水路ヲ建設スルコトヲ得但シ土地所有入ノ現在使用法ヲ妨ケザル程度ヲ以テ限度トス

第十五條 電線路又ハ水路ヲ妨害スル樹木又ハ植物ハ所有入又ハ占有人ノ同意ヲ得テ華中水電株式會社之ヲ伐毀又ハ移植スルコトヲ得

第十六條 第十三條乃至第十五條ノ損失ハ華中水電

三三四

株式會社之ヲ補償スベシ雙方協議整ハズ又ハ使用ヲ拒絕セラレ補償ヲ拒絕スルトキハ地方官廳ニ於テ之ヲ裁決ス

第十七條 華中水電株式會社ノ經營スル水道又ハ電力電燈熱ハ總テ日夜供給スベク左ノ情況ヲ除クノ外之ヲ停止スルヲ得ズ

甲 使用家ノ使用不心得ニ因リ障害ヲ致セシモノ

乙 意外ノ事故又ハ天災地變ニ因リ不可抗力ナルモノ

丙 工作上ノ必要ニ因リ避免スル法無キモノ

但シ前以テ使用家ニ通告スベシ

第十八條 華中水電株式會社ノ各項ノ書付、帳簿、往來文件、對外通告ハ華文ヲ記載スルモノトシ人民ト接渉スル職員ハ華語ヲ使用スルモノトス

第十九條 華中水電株式會社ハ中國通用ノ貨幣ヲ使用スベシ

第四章 社債

第二十條 華中水電株式會社ノ發行スル社債ハ維新政府ニ呈シ其ノ許可ヲ得ベシ但シ拂込済ノ株數ノ二倍ヲ超過スルコトヲ得ズ

第二十二條 前條ノ手續ニ依リ募集セシ社債ハ維新政府其ノ償還金額ノ償還及利息ノ支拂ヲ保證スルコトヲ得

第二十三條 社債ノ債權人ハ華中水電株式會社ノ財產ニ對シ優先的受償權ヲ有ス

第五章 政府ノ監督

第二十三條 華中水電株式會社ハ維新政府實業部及地方官廳ノ指揮監督ヲ受クベシ

第二十四條 維新政府實業部及地方官廳ハ華中水電株式會社ニ對シ公益上必要ナル命令又ハ設備上必要ノ處置ヲ爲スコトヲ得前項ノ處置ヨリ生ズル損失ハ政府之ヲ見計ヒ償還スルコトヲ得但シ街燈ハ地方財政情況觀察ノ上會社純損ノ一部ヲ見計ヒ償還スルコトヲ得防火用水ハ會社ニテ供給ノ義務ヲ有ス

第二十五條 地方官廳ハ電氣メートル水道ノメートル比較驗査所、水質化學驗査所ヲ設置シ隨時華中水電株式有限公司ノ裝備セル電氣メートル水道メートル及水質ヲ引キ抜き驗査シ又ハ人民ノ請求ヲ受ケテ比較驗査又ハ化學驗査スルコトヲ得

第二十六條 左ノ事項ハ四部取揃ヘ地方官廳ニ呈シ之ヨリ級順ニ實業部ニ傳達シ審査ノ上認可スベシ

- 一 各種章程及賃價ノ制定變更
- 二 總取締役副總取締役、常務取締役、取締役、監査役ノ就任又ハ解任
- 三 合併又ハ解散ノ決議
- 四 社債ノ募集及停止

第二十七條 左ノ事項ハ四部取揃ヘ營業年度後三月内ニ地方官廳ニ呈シ之ヨリ級順ニ實業部ニ傳達報告スベシ

- 一 每營業年度ノ事業計畫ノ大要
- 二 株主ノ株式台帳
- 三 每營業年度ノ營業報告書、財產目錄、貸借對照

三三五

表、損益計算書及利益ノ分配
株主會ノ決議記録

第六章 附則

第二十八條 本條例未規定ノ事項ハ商法公司(合社)編
公用事業監督條例及其ノ他水電管理ニ關スル法規ヲ
適用ス

第二十九條 本條例ノ稱スル地方官廳トハ特別市ニ在
リテハ公用局トシ普通市ニ在リテハ工用局トシ縣ニ
在リテハ縣廳トス

第三十條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

中華電影股份有限公司條例

(民國二十九年三月二十一日公布)

第一條 維新政府ハ華中映畫事業ノ經營ヲ統一シ
以テ中日滿思想ノ融和ト文化ノ發展ヲ謀ランガ爲特
ニ中華映畫株式會社ノ設立ヲ許可ス

第二條 中華映畫株式會社ハ左ノ各事業ヲ經營
ス

一、フィルムノ製造

二、フィルムノ分配及輸出輸入事項

三、フィルムノ上映

四、同様事業ニ對スル投資

五、前列各號ノ附帶事業

第三條 中華映畫株式會社ハ總公司ヲ上海ニ設ク

第四條 中華映畫株式會社ノ資本ハ百萬圓ト定ム

其ノ中五十萬圓ハ維新政府ヨリ投資ス

華中映畫株式會社ハ維新政府ノ許可ヲ經テ資本ヲ增
加スルコトヲ得

第五條 華中映畫株式會社ノ株式ハ記名式トシ其
ノ株主ハ中日滿三國政府國民又ハ法人ニ限ル

第六條 華中映畫株式會社ハ取締役五人監査役三
人ヲ置ク

取締役中ヨリ一人ヲ推選シテ社長トシ一人ヲ常務取
締役トス

第七條 中華映畫株式會社ハ左ノ事項ニ關シ政府
ノ認可ヲ經ベシ

一、社長ノ選任及解任

二、章程中重要事項ノ變更

三、合併解散ノ決議

四、國策フィルムノ攝影作製ノ附世及變更

第八條 維新政府ハ中華映畫株式會社ノ事業ニ關
シ公益上ノ必要ニ因リ命令ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得

第九條 維新政府ハ中華映畫株式會社ノ中日滿三
國ニテ攝影作製セシフィルムヲ華中ニ於テ單獨分配
スルコトヲ特ニ許可ス

第十條 維新政府ハ中華映畫株式會社ニ對シ必要

ナリト認ムルトキハ補助金及其ノ他ノ協助ヲ與フル
コトヲ得

第十一條 中華映畫株式會社ハ每營業年度ノ利益
分配ガ政府所有ニ非ザル株式ニ對シ百分ノ六ニ達セ
ザルトキハ政府所有ノ株式ニハ利益金ヲ分給セズ

第十二條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

華興商業銀行暫行條例

民國二十八年四月二十二日

第一條 華興商業銀行ノ組織ハ株式會社トシ對外
貿易、金融事業、其ノ他ノ銀行業務ノ經營ヲ目的ト
ス

第二條 華興商業銀行ノ資本金ハ華幣五千萬圓ト
シ本店ヲ上海ニ設ク必要ナル地方ニ分店又ハ支店ヲ
設クルコトヲ得

第三條 華興商業銀行ニハ總裁及副總裁各一人、
理事五人以上及監事三人ヲ置ク

第四條 總裁及副總裁ハ政府之ヲ任命シ其ノ任期
ハ各四年トス
理事及監事ハ均シク株主總會ニ依リ之ヲ選舉シ政府
ノ許可ヲ經タル後就任スルモノトス理事ノ任期ハ三
年トシ監事ノ任期ハ一年トス

第五條 總裁ハ華興商業銀行ヲ代表シ行務ヲ統轄
シ理事會、行務會議及株主總會ノ主席ト爲ル

副總裁ハ總裁ヲ輔佐シ行務ヲ處理ス總裁事故アルト
キハ其ノ職務ヲ代理シ總裁死去シタルトキハ其ノ職
務ヲ代行ス

第六條 華興商業銀行ハ命令ノ定ムル處ニ依リ兌
換券及補助貨幣ヲ發行スルコトヲ得

第七條 華興商業銀行ハ政府ノ委託ヲ受ケ國庫及
國債事務ノ全部又ハ一部ヲ代理スルコトヲ得

第八條 華興商業銀行章程中改修ノ箇所アルトキ
ハ政府ノ許可ヲ經テ之ヲ改修スベシ

商法會社編

民國二十七年十二月十日

第一章 通則

- 第一條 本法ニ於テ會社ト稱スルハ營利ヲ目的トシテ設立シタル團體ヲ謂フ
- 第二條 會社ヲ分テ左ノ四種トス
 - 一 合名會社
 - 二 合資會社
 - 三 株式會社
 - 四 株式合資會社
- 第三條 會社ノ名稱ニハ其ノ種類ヲ標明スルコトヲ要ス
- 第四條 會社ハ其ノ本店ノ所在地ヲ以テ住所トス
- 第五條 會社ハ本店所在地ノ主管官署ニ於テ登記シタル後ニ非ザレバ成立スルコトヲ得ズ
- 前項ニ定メタル登記ノ申請ハ會社ノ定款作成ノ後十

三三〇

- 五日內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 第六條 會社ノ設立登記後其ノ設立手續又ハ登記事項ニ違法又ハ虛偽ノ事項アルコトヲ發見シタルトキハ法院ノ裁判ヲ經タル後主管官署ニ通知シテ其ノ登記ヲ取消ス
- 第七條 會社ガ登記後六月ヲ經ルモ營業ヲ開始セザルトキハ主管官署ハ實業部ニ申請シテ其ノ登記ヲ取消スコトヲ得
- 第八條 會社ノ登記事項ニ變更ヲ生ジタトキハ變更ノ後十五日內ニ主管官署ニ變更ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス
- 第九條 會社ノ設立登記ノ後登記スベキ事項アルモ之ヲ登記セズ又ハ已ニ登記シタル事項ニ變更アルモ變更ノ登記ヲ爲サザルトキハ其ノ事項ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ
- 第十條 會社ノ解散ハ破産ノ場合ヲ除クノ外解散

- 命令ヲ接受シ又ハ解散ヲ決議シタル後十五日內ニ主管官署ニ解散ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス
- 第十一條 會社ハ他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ズ

第二章 合名會社

- 第一節 設立
- 第十二條 合名會社ノ設立ニハ二人以上ノ社員ガ共同シテ定款ヲ作成シ之ニ署名捺印ノ上各自一通宛ヲ所持スルコトヲ要ス
- 第十三條 合名會社ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 - 一 會社ノ名稱
 - 二 營業
 - 三 社員ノ姓名、住所
 - 四 本店、支店及其ノ所在地
 - 五 社員ノ出資ノ種類及價格又ハ評價ノ標準
 - 六 定款作成ノ年月日

第二節 會社ノ内部關係

- 第十四條 會社ハ定款作成後十五日內ニ主管官署ニ左ノ事項ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス
 - 一 前條ニ掲ゲタル事項
 - 二 解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ事由
 - 三 會社ノ代表スベキ社員ヲ定メタルトキハ其ノ姓名
- 第十五條 會社ノ内部關係ニ付テハ法律ニ規定アルモノヲ除ク外定款ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
- 第十六條 社員ガ債權ヲ以テ出資ニ充テタル場合ニ於テ其ノ債權ガ期限ニ到リテ排濟ヲ受クルコト能ハザルトキハ其ノ社員ハ之ヲ補償スルコトヲ要シ尙損害アリタルトキハ併セテ之ガ賠償ノ責ヲ負フ
- 第十七條 會社ノ損益ノ分配ニ關シ定款ニ規定ナキトキハ社員ノ出資ノ多寡ヲ以テ標準トス
- 定款ニ於テ利益又ハ損失ニ付テノ分配ノ割合ヲ定メタルトキハ其ノ割合ハ利益及損失ニ付均シク之ヲ適用ス

三三一

第十八條 各社員ハ均シク業務ヲ執行スルノ權利ヲ有シ義務ヲ負フ但シ定款ニ於テ社員中ノ一人又ハ數人ガ義務ヲ執行スベキコトヲ規定シタルトキハ其ノ規定ニ從フ

第十九條 社員ノ數人又ハ全員ニテ義務ヲ執行スルトキハ義務ノ執行ニ關シテハ其ノ過半數ノ決議ニ依リテ之ヲ執行スルコトヲ得但シ他ノ義務執行社員ガ異議ヲ提出シタルトキハ直チニ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二十條 支配人ノ選任及解任ハ總社員ノ過半數ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第二十一條 會社ガ定款ヲ變更シ又ハ定款ニ定メタル事業ノ範圍外ノ行為ヲ爲スニハ總社員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第二十二條 業務執行社員ニ非ザル社員ハ業務執行社員ニ對シテ會社ノ營業狀態ヲ質問シ財産及文書ヲ査

三三三

閱スルコトヲ得

第二十三條 業務執行社員ハ特約アルニ非ザレバ會社ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得ズ

第二十四條 社員ガ業務執行ノ爲ニ立替タル金銭ハ會社ニ對シ共償還利息ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得若シ債務ヲ負擔シ其ノ辦濟期ニ在ラザルトキハ相當ナル擔保ノ提供ヲ請求スルコトヲ得

第二十五條 定款ニ於テ社員ノ一人又ハ數人ガ専ラ業務ヲ執行スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ社員ハ故ナクシテ辭職スルコトヲ得ズ他ノ社員モ故ナク之ヲ退職セシムルコトヲ得ズ

第二十六條 社員ノ業務執行ハ定款及社員ノ決議ニ從フコトヲ要ス

前項ノ規定ニ違反シテ會社ニ損害ヲ及ボシタルトキハ賠償ノ責ヲ負フコトヲ要ス

第二十七條 社員ガ會社ニ代リテ金銭ヲ受取リタル場合ニ於テ相當ノ期間内ニ其ノ金額ニ應ジテ之ヲ會社ニ引渡サズ又ハ會社ノ金銭ヲ流用シタルトキハ利息ヲ加算シテ之ヲ償還スルコトヲ要ス若シ損害アリタルトキハ併セテ之ガ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第二十八條 社員ハ他ノ社員全員ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ自己又ハ他人ノ爲ニ會社ノ營業ト同種類ノ行為ヲ爲シ又ハ他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得

社員ガ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ他ノ社員ハ過半數ノ決議ヲ以テ該社員ガ自己又ハ他人ノ爲ニ爲シタル行為ヲ以テ會社ノ爲ニ爲シタルモノト看做スコトヲ得但シ行為ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ此ノ限りニ在ラズ

第二十九條 社員ハ他ノ社員ノ全員ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ其ノ持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ズ

第三節 會社ノ對外關係

第三十條 會社ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ會社ヲ代表スベキ社員ヲ定ムルコトヲ得若シ定メザルトキハ各社員ハ均シク會社ヲ代表スルコトヲ得

第三十一條 會社ヲ代表スベキ社員ハ會社ノ營業上ノ一切ノ事務ヲ處理スル權限ヲ有ス

第三十二條 會社ガ社員ノ代表權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三十三條 會社ヲ代表スベキ社員又ハ支配人ガ業務ノ執行ニ因リ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ行為者ハ會社ト連帶シテ賠償ノ責ヲ負フコトヲ要ス

第三十四條 會社ヲ代表スベキ社員ガ自己又ハ他人ノ爲ニ會社ト買賣、貸借又ハ其ノ他ノ法律行為ヲ爲ストキハ同時ニ會社ヲ代表スルコトヲ得ズ但シ會社ニ對シテ債務ヲ擔保スルトキハ此ノ限りニ在ラズ

第三十五條 會社ノ財産ガ其ノ債務ヲ完済スルニ足ラザルトキハ社員ハ連帶シテ其ノ責任ヲ負フ

第三十六條 會社ニ加入シテ社員トナリタルトキハ其ノ加入前ニ於ケル會社ノ債務ニ付テモ其ノ責ヲ負フ

三三三

コトヲ要ス

第三十七條 社員ニ非ザル者ガ他人ヲシテ其ノ社員タルコトヲ信セシムベキ行爲ヲ爲シタルトキハ善意ノ第三者ニ對シテ社員ト同一ノ責任ヲ負フコトヲ要ス

第三十八條 會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非ザレハ利益ヲ配當スルコトヲ得ズ

第三十九條 會社ノ債務者ハ其ノ債務ヲ以テ其ノ社員ニ對スル債權ト相殺スルコトヲ得ズ

第四十條 定款ヲ以テ會社ノ存続期間ヲ定メザルトキハ退社ニ關シ別段ノ定アル場合ヲ除ク外社員ハ毎營業年度ノ終ニ於テ退社スルコトヲ得但シ六月前ニ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ告知スルコトヲ要ス

社員ニシテ已ムテ得ザル事由アルトキハ會社ノ存続期間ノ定アルト否トニ拘ラズ何時ニテモ退社スルコトヲ得

第四十一條 前條ニ定メタル場合ヲ除クノ外社員ハ左記事由ノ一ニ因リテ退社ス

三三四

一 定款ニ定メタル事由ノ發生

二 死 亡

三 破 産

四 禁治産ノ宣告

五 除 名

第四十二條 社員ニ左記事由ノ一アル場合ニハ他ノ社員ノ一致ヲ以テ除名ヲ決議スルコトヲ得但シ其ノ旨通知シタル後ニ非ザレバ之ヲ以テ其ノ社員ニ對抗スルコトヲ得ズ

一 出資ヲ爲スコト能ハザルトキ又ハ屢々催告スルモ出資ヲ爲サザルトキ

二 第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

三 不正ノ行爲ヲ爲シテ會社ノ利益ヲ妨害シタルトキ

第四十三條 會社ノ名稱中ニ社員ノ姓又ハ姓名ヲ使用セル場合ニ其ノ社員ガ退社シタルトキハ其ノ使用ノ停止ヲ請求スルコトヲ得

第四十四條 退社社員ト會社トノ決算ハ退社ノ時ニ於ケル會社財産ノ狀況ニ從テ之ヲ爲スコトヲ要ス

退社員ノ出資ハ其ノ種類ノ如何ヲ問ハズ均シク金錢ヲ以テ之ヲ拂戻スコトヲ得

退社ノトキ會社ノ業務ニシテ未ダ終了セザルモノアルトキハ其ノ終了ノ後計算シテ損益ヲ分配ス

第四十五條 退社社員ハ主管官署ニ登記ヲ申請スルヲ要シ登記前ニ於ケル會社ノ債務ニ對シテハ登記後二年內ハ仍舊無限ノ責任ヲ負フ

社員ガ其ノ持分ヲ讓渡シタルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五節 會社ノ解散

第四十六條 會社ハ左記事由ノ一ニ因リテ解散ス

一 定款ニ定メタル解散事由ノ發生

二 會社ノ營業ノ成就又ハ其ノ不能

三 總社員ノ同意

四 社員ガ一人トナリタルトキ

五 他ノ會社トノ合併

六 破 産

七 解散ノ命令

社員ハ已ムテ得ザル事由アルトキハ法院ニ前項第七號ニ定ムル命令ヲ申請スルコトヲ得

第四十七條 會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ會社ト合併スルコトヲ得

第四十八條 會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ直チニ貸借對照表及財産目錄ヲ調製スルコトヲ要ス

會社ハ合併ノ決議後直チニ各債權者ニ對スル各別ノ通知及公告ヲ以テ三月以上ノ期間ヲ定メ債權者ハ其ノ期間內ニ異議ヲ提出シ得ベキ旨ヲ告知スルコトヲ要ス

第四十九條 會社ガ前條ニ定メタル通知及公告ヲ爲サズ又ハ其ノ指定シタル期間內ニ異議ヲ提出シタル債權者ニ對シテ排濟ヲ爲サズ又ハ相當ノ擔保ヲ提供ザルトキハ其ノ合併ヲ以テ其ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第五十條 會社ガ合併シタルトキハ十五日內ニ主管

三三五



官署ニ左ノ規定ニ從ヒ登記ヲ申請スルコトヲ要ス
一 合併ニ因リテ存続スル會社ニ付テハ變更ノ登記
二 合併ニ因リテ消滅シタル會社ニ付テハ解散ノ登
記
三 合併ニ因リテ新ニ設立シタル會社ニ付テハ設立
ノ登記

第五十一條 合併ニ依リテ消滅シタル會社ノ權利義務
ハ合併後存続スル會社又ハ新ニ設立シタル會社ニ於
テ之ヲ承繼スルモノトス
第六節 清算

第五十二條 解散シタル會社ハ清算申請ノ範圍内ニ
於テハ未ダ解散セザルモノト看做ス
第五十三條 解散後ノ會社財産ハ社員ノ決議ニ依リテ
清算人ヲ定メタル場合ヲ除ク外總社員ニ於テ清算ス
ルコトヲ要ス

第五十四條 總社員ガ清算スル場合ニ於テ社員中ニ死
亡者アリタルトキハ清算事務ハ其ノ相続人ニ於テ之
ヲ行ヒ相続人數人アルトキハ一人ヲ定メテ之ヲ行フ

コトヲ要ス
第五十五條 第五十三條ノ規定ニ依リテ清算人ヲ定ム
ルコト能ハザルトキハ法院ハ利害關係人ノ申請ニ因
リ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第五十六條 法院ハ利害關係人ノ申請ニ因リ必要ト認
メタルトキハ清算人ヲ解任スルコトヲ得但シ社員ノ
選任シタル清算人ノ解任ハ社員ノ過半数ノ決議ニ依
リテ之ヲ行フコトヲ得
第五十七條 清算人ハ就任ノ後十五日内ニ其ノ姓名住
所及就任シタル日ヲ裁判所ニ届出ヅルコトヲ要ス
清算人ノ解任ハ社員ヨリ十五日内ニ之ヲ裁判所ニ届
出ヅルコトヲ要ス

清算人ハ裁判所ガ之ヲ選任シタルトキハ之ヲ公告ス
ルコトヲ要ス解任ノトキ亦同シ
第五十八條 清算人ノ職務左ノ如シ
一 現務ノ終了
二 債權ノ取立及債務ノ辨濟
三 殘餘財産ノ分配

清算人ハ前項ニ定ムル職務執行ノ爲メニ會社ヲ代表
シテ一切ノ行為ヲ爲ス權ヲ有ス

第五十九條 清算人數人アルトキハ清算ニ關スル事務
ノ執行ハ其ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス但シ第三者ニ對
シテハ各自會社ヲ代表スル權ヲ有ス

第六十條 清算人ノ代表權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以
テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ
第六十一條 清算人ハ就任ノ後直ニ會社財産ノ狀況ヲ
検査シ貸借對照表及財産目錄ヲ調成シ各社員ニ送付
シテ其ノ査閱ニ供スルコトヲ要ス

清算人ハ六月内ニ清算ヲ完了スルコトヲ要シ若シ其ノ
期間内ニ之ヲ完了スルコト能ハザルトキハ裁判所ニ其
ノ理由ヲ具シテ期間ノ延長ヲ申請スルコトヲ得
清算人ハ社員ノ質詢ヲ受ケタルトキハ何時ニテモ清
算ニ關スル狀況ヲ答辯スルコトヲ要ス

第六十二條 清算人ハ就任ノ後公告ヲ以テ債權者ニ對
シテ其ノ債權ヲ届出ヅヘキコトヲ能告スルト共ニ知
レタル債權者ニ對シテハ其ノ旨ヲ各別ニ通知スルコ

トヲ要ス
第六十三條 會社ノ財産ガ其ノ債務ヲ完済スルニ足ラ
ザルトキハ清算人ハ直ニ破産ノ宣告ヲ申請スルコト
ヲ要ス清算人ガ其ノ事務ヲ破産管財人ニ引渡シタル
トキハ其ノ職務ハ之ニ因リテ終了ス

第六十四條 清算人ハ會社ノ債務ヲ完済シタル後ニ非
ザレバ會社ノ財産ヲ社員ニ分配スルコトヲ得ズ
第六十五條 殘餘財産ノ分配ハ各社員ノ出資ノ依リテ
之ヲ定ム

第六十六條 清算人ハ清算終了後十五日内ニ決算報告
書ヲ調製シ各社員ニ送付シテ其ノ承認ヲ求ムルコト
ヲ要ス此ノ場合ニ於テ社員ガ一月内ニ異議ヲ提出セ
ザルトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス但シ清算人
ニ不正ノ行為アリタルトキハ此ノ限りニ在ラズ
第六十七條 清算人ハ清算終了ノ後十五日内ニ其ノ旨
ヲ裁判所ニ届出ヅルコトヲ要ス

第六十八條 會社ノ帳簿其ノ他營業並ニ清算事務ニ關
スル文書ハ清算終了ノ時ヨリ十年間之ヲ保存スルコ

トヲ要シ其ノ保存者ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ定ム
第六十九條 社員ノ連帶無限責任ハ解散ノ登記ヲ爲シ
タル後五年ヲ經過シタルトキ消滅ス

第三章 合資會社

第七十條 合資會社ハ無限責任社員ト有限責任社員
トヲ以テ之ヲ組織ス有限責任社員ハ其ノ出資額ノ限
度ニ於テ會社ニ對シテ責任ヲ負フ

第七十一條 合資會社ニハ本章ニ規定スルモノヲ除ク
外第二章ノ規定ヲ準用ス

第七十二條 合資會社ノ定款ニハ第十三條ニ掲ゲタル
事項ノ外各社員ノ責任ノ無限又ハ有限ナルコトヲ記
載スルコトヲ要ス

第七十三條 有限責任社員ハ信用又ハ勞務ヲ以テ出資
ト爲スコトヲ得ズ

第七十四條 支配人ノ選任又ハ解任ハ無限責任社員ノ
過半数ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス

第七十五條 有限責任社員ハ營業年度ノ終ニ於テ會社

ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得
必要アル場合ニ於テハ法院ハ有限責任社員ノ申請ニ
依リ何時ニテモ會社ノ業務及財産ノ狀況検査ヲ許ス
コトヲ得

第七十六條 有限責任社員ハ無限責任社員ノ四分
ノ三以上ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ其ノ持分ノ全部又
ハ一部ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ズ

第七十七條 有限責任社員ハ自己又ハ他人ノ爲ニ會社
ノ營業ト同種類ノ行爲ヲ爲シ又ハ他ノ會社ノ無限責任
社員ト爲ルコトヲ得

第七十八條 有限責任社員ガ他人ヲシテ其ノ無限責任
社員タルコトヲ信セシムベキ行爲ヲ爲シタルトキハ
善意ノ第三者ニ對シテ無限責任社員ノ責任ヲ負フ

第七十九條 有限責任社員ハ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ
外部ニ對シ會社ヲ代表スルコトヲ得ズ

第八十條 有限責任社員ハ禁治産ノ宣告ヲ受クルニ
因リテ退社スルコトヲ得

有限責任社員ガ死亡シタルトキハ其ノ持分ハ其ノ相

續人ニ歸屬ス

第八十一條 有限責任社員ハ已ムヲ得ザル事由アルト
キハ無限責任社員ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ退社
シ又ハ裁判所ニ其ノ退社ノ許可ヲ申請スルコトヲ得

第八十二條 有限責任社員ニ左記事由ノ一アルトキハ
無限責任社員ノ同意ヲ以テ之ヲ除名スルコトヲ
得

- 一 出資義務ヲ履行セザルトキ
- 二 不正行爲ヲ以テ會社ノ利益ヲ妨害シタルトキ

前項ノ除名ハ當該社員ニ通知シタル後ニ非ザレバ之
ニ對抗スルコトヲ得ズ

第八十三條 合資會社ハ無限責任社員又ハ有限責任社
員全員ノ退社ニ因リテ解散ス但シ有限責任社員全員
ガ退社シタルトキハ無限責任社員全員ノ同意ヲ以テ
之ヲ合名會社ニ改ムルコトヲ得

第八十四條 合資會社ヲ改メテ合名會社ト爲シタルト
キハ十五日内ニ主管官署ニ申請シテ合資會社ニ付テ
ハ解散ノ登記ヲ爲シ合名會社ニ付テハ設立ノ登記ヲ

爲スコトヲ要ス

第八十五條 合資會社ガ解散シタルトキハ無限責任社
員ノ過半数ノ決議ニ依リテ清算人ヲ選任スルコトヲ
得

前項ニ定ムル決議ヲ爲サザルトキハ無限責任社員ノ
全員ニ依リテ清算ヲ行フ

第八十六條 前條第一項ニ定ムル清算法ハ無限責任社
員ノ過半数ノ決議ニ依リテ之ヲ解任スルコトヲ得

第四章 株式會社

第一節 設 立

第八十七條 株式會社ニハ七人以上ノ發起人アルコト
ヲ要ス

第八十八條 發起人ハ定款ヲ作成シ之ニ左記事項ヲ記
載シテ署名捺印スルコトヲ要ス

- 一 會社ノ名稱
- 二 營業
- 三 株式ノ總額及一株ノ金額

三三九

- 四 本店支店及其ノ所在地
- 五 會社ガ公告ヲ爲ス方法
- 六 取締役及監査役ノ被選舉資格
- 七 發起人ノ姓名及住所

第八十九條 左記事項ハ定款ニ記載スルニ非ザレハ其ノ効力ヲ生セズ

- 一 解散ノ事由
- 二 株券ノ額面金額以上ノ發行
- 三 發起人ノ受クベキ特別ノ利益及之ヲ受クヘキ者ノ姓名

第九十條 發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ直ニ其ノ株數ニ按ジテ第一回ノ株金ノ拂込ヲ爲シ且取締役及監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

第九十一條 取締役ハ就任シタル後直ニ主管官署ニ検査員ヲ選任シテ第一回ノ株金ノ拂込アリタリヤ否ヤ其ノ左記事項ノ正當ナリヤ否ヤヲ検査スベキコトヲ要ス

三四〇

申請スルコトヲ要ス

- 一 金錢以外ノ財産ヲ以テ金株ノ拂込ニ充テタル者アルトキハ其ノ姓名、財産ノ種類、價格及之ニ對シテ會社ノ負擔ニ歸スベキ設立費用及發起人ノ受クヘキ報酬ノ額
- 二 會社ノ負擔ニ歸スベキ設立費用及發起人ノ受クヘキ報酬ノ額

第九十二條 主管官署ハ發起人ノ受クベキ特別利益、報酬及設立費用ヲ調査シ若シ不當ト認ムルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

株金ノ拂込ニ充テタル財産ノ評價ガ高キニ過ギタルトキハ之ニ對シテ與ヘタル株式ノ數ヲ減少シ又ハ不足額ヲ補足セシムルコトヲ得

第九十三條 發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケザルトキハ其ノ總數ニ達スル迄株主ヲ募集スルコトヲ要ス

第九十四條 發起人ハ聯單式ノ株式申込證ヲ作り左記事項ヲ記載シ株式申込人ハ之ニ其ノ引受クベキ株式ノ數、金額及住所ヲ記入シテ署名捺印スルコトヲ要ス

一 定款作成ノ年月日

二 第八十八條第八十九條及第九十一條ニ掲ゲタル各號事項

三 各發起人ガ引受ケタル株式ノ數

四 第一回拂込ノ株金額

五 株式總數ノ募集完了ノ期限及其ノ期限ヲ逾ユルモ募集ヲ完了セザルトキハ株式申込人ニ於テ其ノ申込タル株式ヲ取消スルコトヲ得ベキ旨ノ表明

券面額以上ノ金額ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ株式申込人ハ株式申込證ニ其ノ引受金額ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十五條 株式申込人ハ株式申込證ニ從ヒ株式拂込ノ義務ヲ負フ

第九十六條 株式發行ノ價格ハ券面額ヲ下ルコトヲ得ズ

第一回ノ拂込ムベキ株金ハ券面額ノ二分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ

第九十七條 株式ノ總數ニ對スル募集ヲ終リタルトキ

ハ發起人ハ直ニ各株式引受人ニ對シ第一回ノ株金ノ拂込ヲ請求スルコトヲ要ス

券面以上ノ金額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其ノ超過額ハ第一回ノ拂込株金ト同時ニ之ヲ拂込マシムルコトヲ要ス

第九十八條 株式引受人ガ第一回ノ拂込ヲ爲サザルトキハ發起人ハ株式引受人ニ對シ二月以上ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ引受株式ノ數ニ照シテ拂込ヲ爲スベキコトヲ催告シ並ニ其ノ期間ヲ經過スルモ拂込ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フベキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

發起人ガ前項ニ定ムル催告ヲ爲スモ株式引受人ガ株式ノ數ニ照シテ拂込ヲ爲サザルトキハ直ニ其ノ權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ其ノ引受ケタル株式ニ付別ニ株主ノ募集ヲ行フ

前項ノ場合ニ於テ損害ヲ生ジタルトキハ株式引受人ニ對シテ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第九十九條 第一回ノ拂込力完了シタルトキハ發起人

三四一

ハ三月内ニ創立總會ヲ召集スルコトヲ要ス

第百條 創立總會ノ召集及決議ニ付テハ第百二十九條乃至第百三十一條第百三十四條第一項及第三項就ニ第百三十五條ノ規定ヲ準用ス

創立總會ノ決議ハ株式引受人ノ過半数ニシテ株式總數ノ過半数ヲ代表スル者ガ出席シテ其ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ行フコトヲ要ス出席者ガ前項ニ定ムル員數ニ達セザルトキハ出席者ノ決議權ノ過半数ヲ以テ假決議ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ各株式引受人ニ其ノ假決議ヲ通知シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ之ヲ公告シテ一月内ニ更ニ創立總會ヲ召集スルコトヲ要シ其ノ決議ハ出席者ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ行フ

第百一條 發起人ハ設立ニ關スル一切ノ事項ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

第百二條 創立總會ニ於テハ取締役及監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

第百三條 取締役及監査役ハ左ニ掲ゲタル事項ヲ調

査シテ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス
一 株式總數ノ引受アリタリヤ否ヤ
二 各株式引受人ハ第一回ノ株金ノ拂込ヲ爲シタルヤ否ヤ
三 第八十九條第三號及第九十一條各款ニ掲ゲタル事項ノ正當ナリヤ否ヤ

取締役又ハ監査役ニシテ發起人中ロリ選出セラレタル者アルトキハ創立總會ハ別ニ檢査役ヲ選任シテ前項ニ定ムル調査及報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百四條 發起人ノ受クベキ特別利益、報酬又ハ設立費用ニシテ不當ト認ムルトキハ創立總會ハ之ヲ削減スルコトヲ得

株金ノ拂込ニ充テタル財産ノ評價高キニ過ギタルトキハ創立總會ハ之ニ對シテ與ヘタル株式ノ數ヲ減少シ又ハ不足額ヲ補足セシムルコトヲ得

第百五條 引受ナキ株式又ハ引受アリタルモ第一回ノ株金拂込ヲ爲サザル株式アルトキハ發起人ハ連帶シテ之ガ引受及拂込ヲ爲スコトヲ要ス株式ノ申込ガ

取消サレタルトキ亦同シ

第百六條 前二條ノ場合ニ於テ會社ガ損害ヲ受ケタルトキハ發起人ニ對シテ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第百七條 創立總會ニ於テハ定款ノ改修又ハ會社ヲ設立セザル旨ノ決議ヲ爲スコトヲ得

第百八條 株式總數ノ募集ヲ完了シタル後六月内ニ第一回ノ株金拂込ガ完了セザルトキ又ハ其ノ拂込完了ノ後三月内ニ發起人ガ創立總會ヲ召集セザルトキハ株式引受人ハ其ノ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得

第百九條 發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ第九十一條ニ定ムル檢査ノ終了後又發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケザルトキハ創立總會ノ終結後十五日内ニ取締役ハ主管官署左記事項ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス

一 第八十八條第一號乃至第五號ニ掲ゲタル事項
二 各株ニ付拂込ミタル金額
三 取締役及監査役ノ姓名及住所
四 解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ事由

第百十條 會社ガ設立ノ登記ヲ爲シタル後ハ株式引受人ハ其ノ株式引受ヲ取消スコトヲ得ズ

第二節 株式

第百十一條 株式會社ノ資本ハ之ヲ株式ニ分チ各株式ノ金額ハ均一ナルコトヲ要シ二十圓ヲ下ルコトヲ得ズ但シ一時ニ株金ノ全額ヲ拂込ム場合ニ於テハ十圓ヲ以テ一株ノ金額トナスコトヲ得

第百十二條 各株主ノ責任ハ其ノ株式ノ拂込済ノ金額ヲ以テ限度トス株主ハ其ノ會社ニ對シテ有スル債權ヲ以テ株金ノ拂込ニ充ツルコトヲ得ズ

第百十三條 株式ガ數人ノ共有ナルトキハ共有者ハ株主ノ權利ヲ行フベキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス株式共有者ハ會社ニ對シ連帶シテ株金ノ拂込ヲ爲スベキ義務ヲ負フ

第百十四條 會社ハ設立ノ登記ヲ爲シタル後ニ非ザレバ株券ヲ發行スルコトヲ得ズ
前項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ發行シタルトキハ其ノ株券ハ無効トス但シ其ノ株式ノ所持者ハ株券ヲ發行

シタル者ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第百十五條 株券ニハ番號ヲ附シテ左記事項ヲ記載シ
 取締役三人以上之ニ署名捺印スルコトヲ要ス
 一 會社ノ名稱
 二 設立登記ノ年月日
 三 株式ノ數及一株ノ金額
 四 株金ノ分割拂込ノ場合ニ於テハ毎期ニ於ケル分
 割拂込ノ金額
 記名株式ニシテ同一人ノ所有ニ屬スルトキハ同一ノ
 姓名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要ス
 第百十六條 株式ハ設立ノ登記ヲ爲シタル後ニ非ザレ
 バ之ヲ讓渡スルコトヲ得ズ
 第百十七條 記名株式ノ讓渡ハ讓受人ノ姓名及住所ヲ
 會社ノ株主名簿ニ記載シ且其ノ讓受人ノ姓名ヲ株券
 ニ記載スルニ非ザレバ其ノ讓渡ヲ以テ會社及他
 ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ
 第百十八條 會社ハ無記名式ノ株券ヲ發行スルコトヲ
 得但シ其ノ株數ハ株式總數ノ三分ノ一ヲ超ユルコト

ヲ得ズ
 第百十九條 會社ハ白ラ其ノ株式ヲ買收シ又賣權ノ日
 向トシテ之ヲ收受スルコトヲ得ズ
 第百二十條 會社ハ資本減少ノ規定ニ依ルニ非ザレバ
 其ノ株式ヲ消却スルコトヲ得ズ
 第百二十一條 會社ガ株金ノ拂込ヲ受ケルニハ毎回其
 ノ一月前ニ各株主ニ對シテ各別ニ其ノ旨ヲ警告シ且
 ニ公告スルコトヲ要ス
 株主ガ期日ニ至ルモ拂込ヲ爲サザルトキハ會社ハ更
 ニ一月以上ノ期間ヲ定メテ各別ニ警告シ且
 其ノ期間ヲ過グルモ拂込ヲ爲サザルトキハ株主ノ權
 利ヲ失フ
 第百二十二條 株主ガ株金ノ拂込ヲ遲延シタルトキハ
 利息ヲ加算シテ支拂フコトヲ要シ尙定款ニ違約金ヲ
 定メタルトキハ會社ハ其ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得
 第百二十三條 株主ガ其ノ權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ
 其ノ株式ガ他人ヨリ讓受ケタルモノナルトキハ其ノ
 拂込ヲ爲スベキ株金額ニ付會社ハ一月以上ノ期間ヲ

定メ各讓渡人ニ對シテ株金ノ拂込ヲ警告スルコトヲ
 得
 讓渡人ガ前項ニ定ムル警告ヲ受ケタルトキハ最モ先
 ニ株金ノ拂込ヲシタル者ニ於テ其ノ株式ヲ取得シ若
 期間内ニ拂込ヲ爲ス者ナキトキハ會社ハ其ノ株式ヲ
 競買スルコトヲ得
 競買ニ依リテ得タル金額ガ拂込ヲ爲スベキ株金額ニ
 違セザルトキハ從前ノ株主及讓渡人ニ對シテ順次其
 ノ補償ヲ請求スルコトヲ得
 第百二十四條 前條ニ定ムル讓渡人ノ責任ハ其ノ讓渡
 ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年ヲ經過シタルトキハ
 消滅ス
 第百二十五條 株金全額ノ拂込アリタル後ニ非ザレバ
 會社ハ株主ノ請求ニ因リテ無記名式ノ株券ヲ發行ス
 ルコトヲ得ズ
 株券ガ無記名式ナルトキハ株主ハ何時ニテモ之ヲ記
 名式ニ改ムルコトヲ請求スルコトヲ得
 第百二十六條 株主名簿ニハ番號ヲ附シテ左ノ事項ヲ

記載スルコトヲ要ス
 一 各株主ノ株式ノ數及株券ノ番號
 二 各株主ノ姓名及住所
 三 各株ニ付拂込ミタル株金額及拂込ノ年月日
 四 各株式ノ取得ノ年月日
 五 無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其ノ株數、
 番號及發行ノ年月日
 六 優先株ヲ發行シタルトキハ番號ノ下ニ「優先」
 ノ文字
 第三節 株主總會
 第百二十七條 株主總會ハ左ノ二種ニ分ツ
 一 通常總會ハ毎年少クトモ一回召集ス
 二 臨時總會ハ必要ノ場合ニ之ヲ召集ス
 第百二十八條 株主總會ハ取締役之ヲ召集ス
 株主總會ノ決議ニ付テハ本法又ハ定款ニ別段ノ定ア
 ル場合ヲ除ク外第百條第二項ノ規定ヲ準用ス
 第百二十九條 各株主ハ一株ニ付一箇ノ表決權ヲ有シ
 一人ノ株主ニシテ十一株以上ヲ有スル者ニ付テハ定

款ヲ以テ其ノ議決權ヲ制限スルコトヲ要ス
 第三百三十條 株主ハ代理人ニ委任シ株主總會ニ出席セ
 シムルコトヲ得但シ委任狀ヲ差出スコトヲ要ス
 第三百三十一條 株主ニシテ會議ノ日尙タル事項ニ付持
 別ノ利害關係ヲ有スルトキハ其ノ議決ニ加ハルコト
 ヲ得ズ他ノ株主ヲ代理シテ其ノ議決權ヲ行フトキ亦
 同シ
 第三百三十二條 無記名式ノ株券ヲ有スル者ハ開會ノ日
 前日五日前ニ其ノ株券ヲ會社ニ交付スルニ非ザレバ
 會議ニ出席スルコトヲ得ズ
 第三百三十三條 株式總數ノ二十分ノ一以上ヲ有スル株
 主ハ提議事項及其ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ以テ取
 締役ニ臨時總會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得
 前項ノ請求ヲ提出シタル後十五日内ニ取締役總會召
 集ノ通知ヲ爲サザルトキハ株主ハ主管官署ノ許可ヲ
 得テ自ら其ノ召集ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ請求アリタル後十五日内ニ取締役總會召集ノ
 通知ヲ爲サザルトキハ株主ハ主管官署ノ許可ヲ得テ

自ら其ノ召集ヲ爲スコトヲ得
 第三百三十四條 通常總會ノ召集ハ一月前ニ之ヲ各株主
 ニ通知シ無記名式ノ株券ヲ有スル者ニ對シテハ四十
 日前ニ之ヲ公告スルコトヲ要ス
 臨時總會ノ召集ハ十五日以前ニ之ヲ各株主ニ通知シ無
 記名式ノ株券ヲ有スル者ニ對シテハ二十日前ニ之ヲ
 公告スルコトヲ要ス
 通知及公告ニハ召集ノ理由及提議事項ヲ記載スルコ
 トヲ要ス
 第三百三十五條 株主總會ノ決議事項ニ付テハ決議錄ヲ
 作成シ議長之ニ署名捺印スルコトヲ要ス
 決議錄ニハ會議ノ時日及場所、議長ノ姓名及決議ノ
 方法ヲ明記スベシ決議錄ハ出席シタル株主ノ名簿ト
 共ニ一括シテ之ヲ保存スルコトヲ要ス
 第三百三十六條 株主總會ハ取締役ノ調査シタル書類及
 監査役ノ報告ヲ調査シ且利益及利息ノ配當ヲ決議ス
 ルコトヲ得
 前項ノ調査ヲ爲サシムル爲株主總會ハ検査役ヲ選任

スルコトヲ得
 第三百三十七條 株主總會ノ召集又ハ決議方法令又ハ定
 款ニ違反シタルトキハ株主ハ決議ノ日ヨリ一月内ニ
 裁判所ニ其ノ決議ノ無効ヲ宣告スベキコトヲ申請ス
 ルコトヲ得

第四節 取締役

第三百三十八條 會社ノ取締役ハ三人以上トシ株主總會
 ニ於テ株主中ヨリ之ヲ選任ス
 第三百三十九條 取締役ハ就任ノ後定款ニ定メタル被選
 舉資格トシテ所有スベキ員數ノ株券ヲ監査役ニ供託
 シ監査役ハ之ヲ會社ニ於テ保管スルコトヲ要ス
 第三百四十條 取締役ノ報酬ニ付定款ニ規定ナキトキハ
 株主總會ニ於テ之ヲ議定スルコトヲ要ス
 第三百四十一條 取締役ノ任期ハ三年ヲ超ユルコトヲ得
 ズ但シ重任スルコトヲ妨グズ
 第三百四十二條 取締役ハ何時ニシテモ株主總會ノ決議ヲ
 以テ之ヲ解任スルコトヲ得但シ任期ノ定アル場合ニ
 於テ正當ノ理由ナクシテ其ノ満了前解任セラレタル

トキハ取締役ハ會社ニ對シテ之ガ爲ニ受ケタル損害
 ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得
 第三百四十三條 取締役ノ員數ハ總數ノ三分ノ一ニ達シ
 タルトキハ直ニ臨時總會ヲ召集シテ之ヲ補選スルコ
 トヲ要ス
 取締役ノ員數ヲ補選スルニ到ラザル間ニ於テ必要ア
 ルトキハ原選舉ニ於ケル次點者タリシ被選舉人ヲシ
 テ其ノ職務ヲ代行セシムルコトヲ得
 第三百四十四條 原取締役ノ業務執行ハ定款ニ別段ノ規定
 アル場合ヲ除ク外ハ其ノ過半數ノ決議ヲ以テ之ヲ行
 フ支配人ノ選任及解任亦同シ
 第三百四十五條 會社ハ定款又ハ株主總會ノ決議ニ依リ
 取締役中ノ一人又ハ數人ヲ特定シテ會社ヲ代表セシ
 ムルコトヲ得
 第二十八條第三十一條乃至第三十三條ノ規定ハ取締
 役ニ之ヲ準用ス
 第三百四十六條 取締役ハ定款、從來ノ株主總會ノ決議
 錄、貸借對照表及損益計算書ヲ本店及支店ニ備置キ

且株主名簿及社債原簿ヲ本店ニ備置クコトヲ要ス株主及會社ノ債權者ハ何時ニテモ前項ニ定ムル定款其ノ他ノ書類ノ査閱ヲ請求スルコトヲ得

第百四十七條 會社ガ資本總額三分ノ一ニ達スル缺損ヲ生ジタルトキハ取締役ハ直ニ株主總會ヲ召集シテ之ヲ報告スルコトヲ要ス會社ノ財産ガ其ノ債務ヲ完済スルニ足ザルコト顯カトナリタルトキハ取締役ハ直ニ破産ノ宣告ヲ申請スルコトヲ要ス

第百四十八條 取締役ノ業務執行ハ定款及株主總會ノ決議ニ從フコトヲ要ス
取締役ガ前項ノ規定ニ違反シテ會社ニ損害ヲ及ボシタルトキハ會社ニ對シテ之ガ賠償ヲ爲スベキ責ヲ負フ

第百四十九條 株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴訟ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキハ會社ハ決議ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第百五十條 株式總數ノ十分ノ一以上ヲ有スル株主ハ會社ノ爲ニ取締役ニ對シテ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ監査役ノ申請ニ因リ起訴シタル株主ニ對シテ相當ナル擔保ノ提供ヲ命ズルコトヲ得
敗訴ニ因リテ會社ニ損害ヲ及ボシタルトキハ起訴シタル株主ハ會社ニ對シテ之ガ賠償ヲ爲スベキ責ヲ負フ

第百五十一條 會社ト取締役トノ間ニ於ケル訴訟ニ付テハ法律ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外監査役ニ於テ會社ヲ代表ス但株主總會ハ別ニ會社ヲ代表シテ訴訟ヲ爲スベキ者ヲ選ブコトヲ得

第五節 監査役
第百五十二條 監査役ハ株主總會ニ於テ株主中ヨリ之ヲ選任ス

第百五十三條 監査役ノ報酬ニ付定款ニ規定ナキトキハ株主總會ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第百五十四條 監査役ノ任期ハ一年トス但シ重任スルコトヲ妨ケズ
第百五十五條 第百四十二條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準

用ス
第百五十六條 監査役ハ何時ニテモ會社財産ノ狀況ヲ調査シ帳簿其ノ他ノ書類ヲ検査シ取締役ニ對シテ會社ノ業務ノ狀況ニ關スル報告ヲ求ムルコトヲ得

第百五十七條 監査役ハ取締役ガ作成シテ株主總會ニ提出セントスル各種ノ書類、帳簿ニ付其ノ他ノ文書ト對照檢分シ實況ヲ調査シテ其ノ意見ヲ株主總會ニ報告スルコトヲ要ス

第百五十八條 監査役ハ前二條ニ定メタル事務ニ付會社ヲ代表シテ計理士又ハ辯護士ニ委託シテ之ヲ辦理セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ費用ハ會社ノ負擔トス

第百五十九條 監査役ハ必要ト認ムルトキハ株主總會ヲ召集スルコトヲ得

第百六十條 監査役ハ各自單獨ニ監査權ヲ行フコトヲ得

第百六十一條 監査役ハ會社ノ取締役又ハ支配人ヲ兼任スルコトヲ得ズ

第百六十二條 取締役ガ自己又ハ他人ノ爲ニ會社ト取引ヲ爲ス場合ニハ監査役ニ於テ會社ヲ代表ス

第百六十三條 監査役ガ其ノ職務ヲ盡サザルニ因リテ會社ニ損害ヲ及ボシタルトキハ會社ニ對シテ之ガ賠償ヲ爲スベキ責ヲ負フ

第百六十四條 株主總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴訟ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキハ會社ハ決議ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ訴訟ニ於ケル代表者ハ株主總會ニ於テ取締役以外ノ者ヲ選任スルヲ妨ケズ

第百六十五條 株式總數ノ十分ノ一以上ヲ有スル株主ハ會社ノ爲ニ監査役ニ對シテ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ取締役ノ申請ニ因リ起訴シタル株主ニ對シテ相當ナル擔保ノ提供ヲ命ズルコトヲ得
敗訴ニ因リテ會社ニ損害ヲ及ボシタルトキハ起訴シタル株主ハ會社ニ對シテ之ガ賠償ヲ爲スベキ責ヲ負

第六節 會計

第百六十六條 取締役ハ毎營業年度ノ終ニ於テ左記ノ書類ヲ調製シ定時總會ノ開會三十日前ニ之ヲ監査役ニ提出シテ其ノ調査ヲ經ルコトヲ要ス

- 一 營業報告書
- 二 貸借對照表
- 三 財産目錄
- 四 損益計算書
- 五 積立金及利息又ハ利益ノ配當ニ關スル議案

監査役ハ取締役ガ前項ノ書類ヲ提出セザル以前ニ於テモ其ノ受附ヲ請求シテ之ヲ調査スルコトヲ得

第百六十七條 取締役ノ調製シタル各種ノ書類ハ監査役ノ報告書ト共ニ定時總會ノ開會十日前ニ會社ノ本店ニ備置クコトヲ要シ株主ハ何時ニテモ之ヲ査閱スルコトヲ得

第百六十八條 取締役ハ其ノ調製シタル各種ノ書類ヲ株主總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

承認ヲ得タル後取締役ハ貸借對照表、損益計算書及積立金其ノ他利息又ハ利益ノ配當ニ關スル決議ヲ公告スルコトヲ要ス

第百六十九條 株主總會ニ於テ各項ノ書類ヲ承認シタルトキハ會社ハ之ニ依リテ取締役及監査役ノ責任ヲ解除シタルモノト看做ス但シ取締役又ハ監査役ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百七十條 會社ガ利益ノ分配ヲ爲スベキハ其ノ十分ノ一ヲ控除シテ積立金ト爲スコトヲ要ス但シ積立金ガ既ニ資本總額ノ二分ノ一ニ達シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

券面額以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタル場合ニ於ケル超過額ハ其ノ全額ヲ積立金ト爲スコトヲ要ス

第百七十一條 會社ハ損失ヲ填補シ且前條ニ定ムル積立金ヲ控除シタル後ニ非ザレバ利息又ハ利益ヲ配當スルコトヲ得ズ會社ニ於テ利益ナカリシトキ亦同シ但シ積立金ガ既ニ資本總額ノ二分ノ一ヲ超過セルトキ若ハ利益ヨリ控除シタル積立金ガ其ノ利益ノ十分

ノ一ヲ超過シタルトキハ會社ハ株式ノ價格ヲ維持スル爲其ノ超過額ヲ以テ利息ノ配當ニ充ツルコトヲ得

第百七十二條 前條ノ規定ニ違反シテ利息又ハ利益ヲ配當シタルトキハ會社ノ債權者ハ其ノ返還ヲ請求スコトヲ得

法院ハ検査役ノ報告ヲ受ケタル後必要ト認ムルトキハ監査役ニ株主總會ノ召集ヲ命ズルコトヲ得

第七節 債

第百七十六條 會社ハ第八十六條ノ規定ニ依リ決議ヲ爲シタル後ニ非ザレバ社債ヲ募集スルコトヲ得ズ

第百七十七條 社債ノ總額ハ拂込済ノ株金ノ總額ヲ超ユルコトヲ得ズ會社ノ現存財産額ガ拂込済金ノ總額ヨリ少ナキ場合ニ於テハ其ノ財産額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第百七十三條 會社ハ其ノ營業ノ性質ニ依リ設立登記ノ時ヨリ二年以上ノ準備ヲ爲シタル後ニ營業ヲ開始スルコトヲ得ベキ場合ニ於テハ主管官署ノ許可ヲ得テ定款ヲ以テ營業開始前株主ニ對シテ利息ヲ配當スベキコトヲ定ムルコトヲ得

前項ニ定ムル利息ノ定率ハ年額五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

第百七十四條 利息又ハ利益ノ配當ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外拂込アリタル株金額ノ多寡ヲ以テ標準トス

第百七十五條 株式總數ノ二十分ノ一以上ヲ有スル株主ハ裁判所ニ對シ検査役ヲ選任シテ會社ノ業務及財政狀況ヲ検査スベキコトヲ申請スルコトヲ得

第百七十八條 各社債ノ金額ハ二十元ヲ超ルコトヲ得ズ

第百七十九條 社債ノ償還金額ガ券面額ヲ超ユルコトヲ豫定シタルトキハ其ノ超過額ハ同時ニ發行シタル各社債ニ付同一ナルコトヲ要ス

第百八十條 社債ヲ募集セントスルトキハ取締役ハ左記事項ヲ公告スルコトヲ要ス

- 一 會社ノ名稱
- 二 社債ノ總額及各社債ノ金額

- 三 社債ノ利率
 - 四 社債償還ノ方法及期限
 - 五 以前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還了ラハザル總額
 - 六 社債發行ノ償額又ハ其ノ最低償額
 - 七 會社ノ資本及拂込ミタル株金ノ總額
 - 八 會社ノ現存財産ノ總額
 - 九 社債ノ募集完了ニ關スル豫定期間其ノ期間ヲ超ヘタルトキハ社債應募者ハ其ノ申込ミテ取消スルコトヲ得ベキ旨ノ表明
- 取締役ハ聯單式ノ社債申込證ヲ作り前項ニ掲ゲタル事項ヲ記載シ社債應募者ハ之ニ其ノ引受クベキ社債ノ數及其ノ住所ヲ記入シテ署名捺印スルコトヲ要ス
- 第百八十一條 社債ノ募集完了シタルトキハ取締役ハ各社債應募者ニ對シテ引受ケタル社債ノ金額ノ拂込ミテ請求スルコトヲ要ス
- 取締役ハ社債ノ金額ノ拂込ミテ受ケタルトキハ十五日內ニ主管官署ニ前條第一項第二號乃至第四號ニ掲

- ゲタル事項及社債發行ノ年月日ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス
 - 第百八十二條 社債券ニハ番號ヲ附シテ發行ノ年月日及第百八十一條第一項第一號乃至第四號ニ掲ゲタル事項ヲ記載シ取締役之ニ署名捺印スルコトヲ要ス
 - 第百八十三條 社債原簿ニハ各社債券ノ番號順ニ從ヒ其ノ番號及左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 - 一 社債權者ノ姓名及住所
 - 二 第百十條第一項第二號乃至第四號ニ掲ゲタル事項
 - 三 社債發行ノ年月日
 - 四 各社債券取得ノ年月日
- 第百八十四條 記名式ノ社債ノ讓渡ハ讓受人ノ姓名及住所ヲ社債原簿ニ記載シ且其ノ姓名ヲ社債券ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ會社及其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ
- 第百八十五條 社債權者ハ何時ニテモ其ノ無記名式ノ社債券ヲ記名式ニ改ムルコトヲ請求スルコトヲ得

第八節 定款ノ變更

第百八十六條 會社ハ株主總會ノ決議ニ依ルニ非ザレバ定款ヲ變更シ又ハ資本ヲ増減スルコトヲ得ズ

前項ノ決議ハ總株主ノ過半數ニシテ且株式總數ノ過半數ヲ代表スル株主ガ出席シ其ノ出席シタル株主ノ議決權ノ三分ノ二以上ノ同意ニ依リテ之ヲ行フ

出席シタル株主ガ前項ニ定メタル定款ニ違ヒザルトキハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ各株主ニ其ノ假決議ヲ通知シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ併セテ其ノ假決議ヲ公告シテ一箇月內ニ更ニ第二回ノ株主總會ヲ召集ス其ノ決議ハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ行フ

第百八十七條 會社ハ株金金額ノ拂込ミアリタル後ニ非ザレバ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得ズ但シ維新政府實業部ニ申請シ其ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百八十八條 會社ハ資本ヲ増加シ又ハ債務ヲ整理セ

ントスルトキハ優先株ヲ發行スルコトヲ得但シ定款中ニ優先株主ニ與フベキ權利ノ種類ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十九條 會社ガ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ定款ノ變更ガ優先株主ノ權利ニ損害ヲ及ボスベキトキハ株主總會ノ決議ノ外更ニ優先株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

優先株主ノ總會ニハ株主總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第百九十條 會社ガ新株ヲ募集スルトキハ先ツ舊株主ヲシテ其ノ引受ヲ爲サシムルコトヲ要シ副餘アルトキ始メテ別ニ株主ヲ募集スルコトヲ得

第百九十一條 會社ガ其ノ資本ヲ増加スル場合ニ於テ金錢以外ノ財産ヲ以テ株金ノ拂込ミニ充ツ者アルトキハ其ノ財産ノ種類價格及之ニ對シ會社ガ與フル株式ノ數ヲ資本ノ増加ノ決議ト同時ニ之ヲ議決スルコトヲ要ス

第百九十二條 會社ガ新株ヲ募集セントスルトキハ取締役ハ聯單式ノ株式申込證ヲ作りテ左記事項ヲ記載

シ株式申込入ハ之ニ其ノ引受クベキ株式ノ數金額及
其ノ住所ヲ記入シテ署名捺印スルコトヲ要ス

- 一 第八十八條第一號乃至第六號、第八十九條及第
九十一條第一號ニ掲ゲタル事項
- 二 資本増加ノ決議ノ年月日
- 三 増加スベキ資本ノ總額及各株ノ金額
- 四 第一回拂込ミノ株金額
- 五 優先株ヲ發行スルトキハ其ノ種類及各種ノ優先
株ノ數

同時ニ數種ノ優先株ヲ發行スル場合ニハ株式申込入
ハ株式申込額ニ其ノ引受クベキ株式ノ種類及其ノ數
種ヲ記入スルコトヲ要ス

第九十三條 會社ガ資本ヲ増加シタル場合ニ於テ第
一回ノ拂込金額全額ヲ受取リタルトキハ取締役ハ直
チニ株主總會ヲ召集シテ之ニ新株ノ募集ニ關スル事
項ヲ報告スルコトヲ要ス

第九十四條 監査役ハ左ニ掲ゲタル事項ヲ調査シテ
之ヲ株主總會ニ報告スルコトヲ要ス

- 一 新株總數ノ引受アリタルヤ否ヤ
- 二 各新株ニ付第一回ノ拂込アリタルヤ否ヤ
- 三 金錢以外ノ財産ヲ以テ株金ノ拂込ニ充テタル者
アル場合ニ於テ之ニ對シ與ヘタル株式ノ數ガ正當
ナリヤ否ヤ

前項ノ調査及報告ヲ爲サシムル爲メ株主總會ハ別ニ檢
査役ヲ選任スルコトヲ得

第九十五條 取締役ハ第九十三條ニ定ムル株主總
會ノ終結後十五日内ニ主管官署ニ左ノ事項ノ登記ヲ
申請スルコトヲ得

- 一 増加シタル資本ノ總額
- 二 資本増加ノ決議ノ年月日
- 三 各新株ニ付拂込ミタル株金額
- 四 優先株ヲ發行シタルトキハ其ノ優先株主ノ有ス
ベキ權利ノ種類、各種ノ優先株ノ總額及其ノ一
ノ金額

登記前ニ於テハ新株券ノ發行又ハ新株式ノ讓渡ヲ爲
スコトヲ得ズ

第九十六條 會社ガ新株ヲ募集シテ發行スル新株券
ニハ番號ヲ附シ株數及左記事項ヲ記載シ取締役三人
之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

- 一 會社ノ名稱
 - 二 資本増加ノ登記ヲ爲シタル年月日
 - 三 増加シタル株式ノ總數及各株ノ金額
 - 四 優先株ヲ發行シタルトキハ其ノ總額及權利
 - 五 増加シタル株式ノ株金ヲ分括シテ拂込ムベキ場
合ニ於テハ每期ニ於ケル拂込金額
- 第九十七條 第九十五條乃至第九十八條及第一百十一
條乃至第一百十三條ノ規定ハ新株募集ノ場合ニ之ヲ準
用ス
- 第九十八條 會社ガ資本減少ニ因リ新株券ヲ引換ニ
交付スベキ場合ニ於テハ資本減少ノ登記ノ後六月以
上ノ期間ヲ定メテ各株主ニ對シ引換ヲ爲スベキ旨ヲ
通告シ且其ノ期間ヲ過グルモ引換ヲ爲サザルトキハ
株主ノ權利ヲ失フベキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス
- 株主ガ前項ノ期間ニ引換ヲ爲サザルトキハ之ニ因リ

テ株主ノ權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ會社ハ其ノ株
式ヲ競賣シテ其ノ賣得金ヲ其ノ株主ニ償還スルコト
ヲ得

- 第九十九條 資本減少ノ爲ニ株式ヲ併合スベキ場合
ニ於テ併合ニ適セザル株式アルトキハ前條第二項ノ
規定ヲ準用ス
- 第一百條 第四十八條及第四十九條ノ規定ハ資本減
少ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第九節 解散
- 第一百一條 株式會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス
- 一 定款ニ定メタル解散事由ノ發生
 - 二 會社ノ營業ノ成就又ハ成就ノ不能
 - 三 株主總會ノ決議
 - 四 記名式ノ株券ヲ有スル株主ガ七人未滿トナリタ
ルトキ
 - 五 他ノ會社トノ合併
 - 六 破産
 - 七 解散ノ命令

第二百二條 合社が解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除

クノ外取締役ハ直ニ其ノ旨ヲ各株主ニ通知シ且無記
名式ノ株券ヲ發行セル場合ニ於テハ之ヲ公告スルコ
トヲ要ス

第二百三條 株主總會ガ合社ノ解散又ハ他ノ合社トノ
合併ノ決議ヲ爲スニハ第八十六條第二項ノ規定ヲ
準用ス

第二百四條 合併ノ爲ニ解散スル合社ニ就テハ第四十
八條乃至第五十一條ノ規定ヲ準用ス

第十節 清算

第二百五條 合社ガ解散シタルトキハ合併及破産ノ場
合ヲ除クノ外取締役ヲ以テ清算人ト爲ス但シ定款ニ
別段ノ定アルトキニハ株主總會ニ於テ別ニ清算人ヲ
選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リテ清算人ヲ定ムルコト能ハザルト
キハ法院ハ利害關係人ノ申請ニ依リテ清算人ヲ選任
スルコトヲ得

第二百六條 清算人ハ裁判所ニ於テ選任シタル者ヲ除

クノ外株主總會ニ於テ解任ノ決議ヲ爲スコトヲ得
裁判所ハ監査役又ハ株式總數ノ十分ノ一以上ヲ有ス
ル株主ノ申請アリタルトキハ清算人ヲ解任スルコト
ヲ得

第二百七條 清算人ハ清算事務ノ執行ノ範圍内ニ於テ
ハ本節ニ規定スルモノヲ除クノ外其ノ權利義務ハ取
締役ニ同ジ

第二百八條 清算人ノ報酬ハ裁判所ノ選任ニ依ル者ヲ
除クノ外株主總會ニ於テ之ヲ決定シ其ノ裁判所ノ選
任シタル者ニ就テハ法院ニ於テ之ヲ決定ス

清算費用及清算人ノ報酬ハ合社ノ現存財産中ヨリ優
先シテ支拂フコトヲ要ス

第二百九條 清算人ハ就任ノ後直ニ合社財産ノ狀況ヲ
檢査シ貸借對照表及財産目錄ヲ調製シ株主總會ニ提
出シテ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第二百十條 債務ヲ完済シテ殘餘財産アルトキハ各株
主ノ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應ジテ之ヲ分配スル
コトヲ要ス但シ合社ガ優先株ヲ發行シ定款ニ別段ノ

規定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二百十一條 清算ガ終了シタルトキハ清算人ハ十五
日內ニ清算期間内ニ於ケル收支計算書及損益計算表
ヲ調製シテ一切ノ帳簿ト共ニ之ヲ株主總會ニ提出シ
テ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

株主總會ハ別ニ檢査役ヲ選任シテ前項ノ書類及帳簿
ノ正當ナルヤ否ヤヲ檢査セシムルコトヲ得
株主總會ガ書類及帳簿ヲ承認シタルトキハ合社ハ之
ニ依リテ清算人ノ責任ヲ解除シタルモノト看做ス但
シ清算人ニ不正ノ行為アリタルトキハ此ノ限ニ在ラ
ズ

第二百十二條 合社ノ一切ノ帳簿及書類ハ清算終了ノ
登記ノ後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其ノ保存人
ハ清算人又ハ其ノ他ノ利害關係人ノ申請ニ依リテ裁
判所ニ之ヲ定ム

第二百十三條 清算終了ノ後尙分配スベキ財産アルト
キハ法院ハ利害關係人ノ申請ニ依リテ清算人ヲ選任シ
テ更ニ其ノ分配ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十四條 第五十二條、第五十七條、第五十八條、
第六十條乃至第六十四條及第六十七條ノ規定ハ株式
合社ノ清算ニ之ヲ準用ス

第五章 株式合資會社

第二百十五條 株式合資會社ノ社員ニ一人以上ノ無限
責任ヲ負フ者アルコトヲ要ス

第二百十六條 株式合資會社ニハ左ノ事項ニ關シ合資
會社ノ規定ヲ準用ス

- 一 無限責任社員ノ對内關係
- 二 無限責任社員ノ對外關係
- 三 無限責任社員ノ退社

其ノ他ノ事項ニ就テハ本章ニ規定アルモノヲ除クノ
外株式合資會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百十七條 株式合資會社ノ設立ニハ無限責任社員
ガ發起人ト爲リテ定款ヲ作成シ左記事項ヲ記載シテ
署名捺印スルコトヲ要ス

- 一 第八十八條第一號乃至第五號ノ事項

二 無限責任社員ノ姓名及住所
 三 無限責任社員ノ株金以外ノ出資、其ノ種類及價
 格又ハ評價ノ標準
 第二百十八條 無限責任社員ハ株式募集ノ資ヲ貢フ
 第二百十九條 株式申込證ニハ左ノ事項ヲ記載スルコ
 トヲ要ス
 一 第八十九條、第九十四條第一項第一號、條二
 號、第四號、第五號及第二百十七條ニ掲ゲタル事項
 二 無限責任社員ガ株式ヲ引受ケタルトキハ其ノ株
 式ノ數
 第二百二十條 創立總會ハ株主中ヨリ監査役ヲ選任ス
 ルコトヲ要ス無限責任社員ハ監査役タルコトヲ得ズ
 第二百二十一條 無限責任社員ハ創立總會及株主總會
 ニ於テ意見ヲ述ブアルコトヲ得但シ株式ヲ有スルトキ
 ト雖モ議決權ヲ有セズ
 第二百二十二條 監査役ハ第三百三條第一項及第二百十
 七條第三號ニ掲ゲタル事項ヲ調査シテ創立總會ニ報
 告スルコトヲ要ス

第二百二十三條 會社ハ創立總會ノ終結後十五日內ニ
 主管官署ニ左ノ事項ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス
 一 第八十八條第一號乃至第三號、第五號、第九
 條第二號、第四號、第七號、第九號及第三號ニ掲
 ゲタル事項
 二 會社ヲ代表スベキ無限責任社員ヲ定メタルトキ
 ハ其ノ姓名及住所
 三 監査役ノ姓名及住所
 第二百二十四條 會社ヲ代表スベキ無限責任社員ニハ
 第三百十八條乃至第四百十二條ノ規定ヲ除ク外株式
 會社ノ取務役ニ關スル規定ヲ準用ス
 第二百二十五條 合資會社ニ於テ總社員ノ同意ヲ要ス
 ル事項ニ就テハ株式合資會社ニ在リテハ株主總會ノ
 決議ノ外無限責任社員ノ同意アルヲ要ス
 前項ノ決議ニ就テハ第三百八十六條第二項及第三項ノ
 規定ヲ準用ス
 第二百二十六條 合資會社ノ解散ノ事由ニ關スル規定
 ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二百二十七條 無限責任社員ノ全員ガ退社シタルト
 キハ株主ハ第八十六條第二項ノ規定ニ依リテ會社
 ナ株式會社ニ改ムルコトヲ決議スルコトヲ得

至第五十一條ノ規定ヲ準用ス

第六章 罰 則

第二百二十八條 會社ガ解散シタルトキハ合併、破産
 又ハ命令ニ因リテ解散シタル場合ヲ除ク外無限責任
 社員ノ全員又ハ其ノ選任シタル清算人ト株主總會ニ
 於テ選任シタル清算人ト共同シテ清算ヲ爲スコトヲ
 要ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 無限責任社員ガ清算人ヲ選任スルトキハ其ノ過半数
 ナ以テ之ヲ決ス株主總會ニ於テ選任スル清算人ハ無
 限責任社員ノ全員又ハ其ノ選任スル清算人ト同數ナ
 ルコトヲ要ス
 第二百二十九條 清算人ハ第二百九條及第二百十一條
 ノ規定ニ依リ各種ノ書類及帳簿ヲ株主總會ニ提出シ
 テ其ノ承認ヲ求ムル外無限責任社員ノ承認ヲ求
 ムルコトヲ要ス
 第二百三十條 株式合資會社ヲ改メテ株式會社ト爲サ
 ントスルトキハ第四十八條第二項及第四十九條乃

第二百三十一條 會社ノ業務ヲ執行スル社員、發起
 人、取締役、監査役又ハ清算人ニ左記事由ノ一アル
 トキハ五百元以下ノ罰金ニ處ス
 一 本法ニ規定スル報告又ハ登記ノ申請ヲ爲スベキ
 期間ニ關スル規定ニ違反シタルトキ
 二 本法ニ規定スル公告又ハ通知ヲ爲スベキ期間ニ
 關スル規定ニ違反シタルトキ
 三 本法ノ規定ニ依リ査閱ヲ許スベキ帳簿又ハ書類
 ノ査閱ヲ正當ノ理由ナクシテ拒絶シタルトキ
 四 本法ノ規定ニ依リテ爲スベキ調査ニ對シ妨礙ノ
 行爲アリタルトキ
 五 第九十四條第一項、第九十二條第一項及第二
 百十九條ノ規定ニ違反シテ株式申込證ヲ作成セズ
 又ハ之ニ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ
 六 第一百十四條第一項及第九十五條第二項ノ規定

- ニ違反シテ株券ヲ發行シタルトキ
- 七 第百十五條、第百八十二條及第百九十六條ノ規定ニ違反シテ株券又ハ社債券ニ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 八 會社ノ定款、株主總會ノ決議、株主名簿、社債原簿營業報告書、貸借對照表、財産目錄、損益計算書及利息又ハ利益ノ配當積立金ノ控除ニ關スル議案ヲ本店ニ備置カズ又ハ之ニ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 第百三十二條 會社ノ業務ヲ執行スル社員發起人、取締役、監査役又ハ清算人ニ左ノ事申ノ一アルトキハ子回以下ノ罰金ヲ科スルコトヲ得
 - 一 第百四十七條第一項第百七十五條第二項ノ規定ニ違反シテ株主總會ヲ召集セザルトキ
 - 二 官署又ハ總會ニ對シテ不實ノ陳述又ハ報告ヲ爲シタルトキ
 - 三 第百四十八條及第百四十九條ノ規定ニ違反シテ他ノ會社ト合併シタルトキ

- 四 本法ノ規定ニ依リテ行フ検査ニ對シ妨礙ノ行爲アリタルトキ
- 五 第百二十條ノ規定ニ違反シテ株式ヲ消却シタルトキ
- 六 第百二十五條第一項ノ規定ニ違反シテ無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキ
- 七 第六十三條第一項及百四十七條第二項ノ規定ニ違反シテ直ニ破産宣告ノ申請ヲ爲サザルトキ
- 八 第百七十條第一項ノ規定ニ依リ積立金ノ控除ヲ爲サザルトキ
- 九 第六十四條ノ規定ニ違反シテ會社ノ財産ヲ分配シタルトキ
- 十 會社ガ命令ニ依リテ解散シタル場合ニ於テ清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲サザルトキ
- 第百三十三條 會社ノ業務ヲ執行スル社員、發起人、取締役、監査役又ハ検査人ニ左ノ事申ノ一アルトキハ一年以下ノ徒刑又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 設立ノ登記又ハ増資、登記ヲ申請スル場合ニ於

- テ株式總數、引受又ハ株金拂込ノ總額ニ關シテ不實ノ陳述ヲ爲シタルトキ
- 二 名義ノ如何ヲ問ハズ會社ノ爲ニ共ノ株式ヲ買收シ又ハ買權ノ目的トシテ之ヲ收受シタルトキ
- 三 本法ノ規定ニ違反シテ利息又ハ利益ヲ配當シタルトキ
- 四 定款ニ定メタル會社ノ營業範圍外ニ於テ會社ノ財産ヲ利用シ投機取引ヲ爲シタルトキ

上海總商會試辦章程

民國二十七年十二月十五日

第一章 總 則

- 第一條 上海總商會(以下總商會ト略稱ス)ハ上海商工業及對外貿易ノ發展ヲ計リ商工業者ノ共同ノ福利ヲ増進スルヲ以テ宗旨トス
- 第二條 總商會ハ法人トス
- 第三條 總商會ノ職務左ノ如シ
 - 一 上海商工業ノ改善及發展ノ計畫
 - 二 上海商工業ニ關スル照會及通報
 - 三 上海商工業ニ關スル調停及仲裁
 - 四 上海商工業ニ關スル統計及編纂
 - 五 上海商工業ニ關スル證明及鑑定
 - 六 國際貿易紹介及指導
 - 七 市面ノ恐慌、金融ノ混亂、貨物運送ノ杜絶等ノコト在リタルトキハ自ら之ヲ維持シ及主管官廳ニ

三六二

- 申請シテ手段ヲ講ジテ維持スルノ責任
- 八 商品陳列所、商品展覽會及上海商工業ニ關スル各種公共事業ノ創設事項
- 但シ事前ニ主管官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 九 法令ニ依リ商會ノ處理スヘキ事項
- 十 行政司法官廳ノ委託又ハ諮問
- 十一 上海市同業組合ノ組織ノ指導
- 十二 上海市同業組合ノ事業規定及其ノ豫算決算ノ考査
- 第十四條 總商會ハ上海商工業ニ關スル事項ニ就キテ隨時主管官廳ニ建議スルコトヲ得

第二章 組 織

- 第十五條 上海總商會ハ上海特別市市政府ノ管轄區域ヲ以テ區域トシ上海第一特別區、第二特別區及各分區ヲ包括ス
- 各區公署所在地及繁盛ナル地ニ分會ヲ設ケ總商會ヨリ聯合ヲ派シテ之ヲ主持セシムルコトヲ得

第六條

第五條ニ規定シタル區域内ノ同業組合ハ總商會ニ加入スルコトヲ要ス
未ダ同業組合ヲ組織セザル各業者又ハ組織スルモ未ダ完備セザルトキハ總商會ハ之ヲ指導シテ組織又ハ改組セシムベシ

第七條

前記ノ同業組合方總商會ニ加入シタル後ハ其ノ名稱ニ上海總商會ノ文字ヲ冠スルコトヲ要ス

第八條

總商會ハ理事會ニ於テ定款ヲ制定シ會員大會ノ決議ヲ經テ主管官廳ニ申請シテ備案スベシ定款ニハ左記事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 總商會及分會ノ事務所ノ所在地及其ノ位置
二 各同業公會ノ名稱及責任者ノ氏名
三 會員ノ入會、退會及除名ニ關スル規定
四 總商會又ハ分會事務ヲ處理スル職員ノ定員、權限及其ノ解任、選任ニ關スル規定
五 常會、臨時會ノ召集ニ關スル規定
六 總商會ノ經常費及特別費ニ關スル規定
七 同業組合及各區、分會ノ經常費及特別費ニ關

第九條

同業組合ハ其ノ事務ヲ繁簡ニ依リ適宜總事務所ノ外ニ分事務所ヲ増設スルコトヲ得、但シ事前ニ總商會ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第三章 會 員

- 第十條 總商會會員ヲ左記四種ニ分ツ
 - 一 組合團體會員ハ同業組合ヲ以テ之ニ充ツ
 - 二 商店會員ハ商店ヲ以テ之ニ充ツ
 - 三 工廠會員ハ工廠ヲ以テ之ニ充ツ
 - 四 個人會員ハ個人ヲ以テ之ニ充ツ
- 前記第一號乃至第三號ノ會員ハ代表一名ヲ選任シ商會ニ出席シ會員代表タルコトヲ得
- 第十一條 總商會個人會員及會員代表ハ總商會ノ區域内ニ在リテ商工業ヲ經營スル中華民國國籍者ニシテ年齡二十五歲以上ノ者ニ限ル
- 第十二條 團體會員ノ代表者ハ同業公會ニ於テ選定シ即時總商會ニ報告スベシ

三六三

商業法人、又ハ個人商店及工廠ハ同業公會ヲ組織スルコトヲ得ズ其ノ使用人三十人以上ノモノニシテ總商會加入ヲ請求スルトキハ之ヲ第二項又第一項會員トナスコトヲ得其ノ代表有ノ選定ハ法人、商店或ハ工廠ニ於テ之ヲ行ヒ即時總商會ニ報告スルコトヲ要ス本條例第十條第四號ノ會員ハ會員代表二人以上ノ紹介アルコトヲ要シ總商會董事會ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ入會スルコトヲ得ズ

第十三條 各區域分會ノ責任執當者ハ總商會ニ於テ個人會員及會員代表中ヨリ之ヲ選任ス

第十四條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ第十條ニ規定スル個人會員又ハ會員代表ノ資格ヲ取得スルコトヲ得ズ

- 一 公債ヲ擔保セラレタル者
- 二 破産ノ宣告ヲ受ケ未ダ復權セズ又ハ其ノ管理スル商店ガ破産ノ宣告ヲ受ケ未ダ債務ヲ完済セザル者
- 三 無能力ナル者

四 現政府ニ對シ反抗行爲アリタル者

第十五條 個人會員及會員代表ハ均シク表決權、選舉權及被選舉權ヲ有ス

第十六條 會員代表ハ原選定會員ニ於テ隨時之ヲ更迭スルコトヲ得、但シ既ニ總商會職員ニ當選シタル者ハ法令ニ依リ解任セラレベキ事出アルニ非ザレバ之ヲ更迭スルコトヲ得ズ

第十七條 會員代表ニシテ國籍ヲ喪失シ又ハ第十四條ニ掲グル各號事由在リタルトキハ原選定會員ニ於テ之ヲ更迭スベシ

第十八條 個人會員ニシテ前記事由ノ一在リタルトキハ直チニ退會スベシ

第十九條 個人會員又ハ會員代表ニシテ不正行爲ニ因リ商會ノ名譽、信用ヲ妨害スルニ至リタルトキハ會員大會ノ決議ヲ以テ之ヲ除名スルコトヲ得除名者ガ會員代表ナルトキハ原選定會員ニ通知スベシ

第二十條 除名處分ヲ受ケタル會員代表及個人會員ハ除名ノ日ヨリ三年以内會員代表又ハ個人會員ニ充任スルコトヲ得ズ

第四章 職員

第十九條 總商會ノ董事及監察ハ會員大會ニ於テ個人會員及會員代表中ヨリ、之ヲ選任シ董事二十一人、監察七人以内トス前項ノ董事ハ常務董事五人ヲ五選スルコトヲ得常務董事ハ一人ヲ互選シテ會長ト爲ス

第二十條 會長事故アルトキハ首席常務董事之ヲ代理ス

第二十一條 董事及監察ノ任期ハ三年トシ重任ヲ妨グニ報告スベシ

第二十二條 董事及監察ハ名譽職トス

第二十三條 董事及監察ニ左記各號事由ノ一アリタルトキハ直チニ解任スベシ

一 已ムヲ得ザル事故ニ因リ會員大會ノ議決ヲ經テ

其ノ退職ヲ認許シタルトキ

二 職務ヲ放棄シ會員大會ノ決議ヲ經テ之ヲ退職セシムルトキ

三 職務上法令ニ違反シテ私利ヲ營ミ又ハ其ノ他重大ナル不正行爲アリ會員大會ノ決議ヲ經テ之ヲ退職セシメ又ハ主管官廳ニ於テ退職セシムルトキ

二十四條 總商會及分會ハ事務員ヲ置キ事務ノ繁簡ニ依リ係分チテ事務ヲ處理スルコトヲ得

第五章 會議

第二十五條 會員大會ヲ定期會議及臨時會議ニ稱シテ之ヲ召集ス

第二十六條 前條ノ定期會議ハ毎年最少一回開會ス臨時會議ハ董事會ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ十分ノ以上ノ個人會員及會員代表又ハ監察會ノ召集請求ニ依リ之ヲ召集ス

第二十七條 會員大會ヲ召集セントスルトキハ十五日

前二書面ヲ以テ之ヲ通知シ或ニ議案及次第書ヲ附ス
ベシ

但シ緊急事ニ因リ臨時會議ヲ召集スルトキハ此ノ限
ニ在ラズ

第二十八條 會員大會ノ決議ハ多數決方法ニ依リテ之
ヲ行フ

第二十九條 左記各款ノ決議ハ出席代表及個人會員ノ
三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一 定款ノ變更

二 會員又ハ會員代表ノ除名

三 職員ノ退職

四 清算人ノ選任及清算事務ニ關スル決議

第三十條 董事會ハ毎月二回以上開會シ監察會ハ每
月一回以上開會ス

第六章 經費及會計

第三十一條 總商會經費ヲ左記ノ二種ニ分ツ

一 事務費 會員ニ於テ之ヲ負擔シ其ノ資本額ニ應

ジテ之ヲ負擔スモルトス

二 事業費 董事會ニ於テ之ヲ調達ス

第三十二條 總商會及分會經費ノ豫算決算並ニ事業成
績ハ毎年報告書ヲ編輯シテ之ヲ印刷頒布シ主管官廳
ニ告グルコトヲ要ス

第七章 解散及清算

第三十三條 總商會ノ解散ハ會員代表及個人會員ノ四
分ノ三以上ガ出席シ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ
得ルニ非ザレバ之ヲ決議スルコトヲ得ズ

前項ノ決議ハ實業部ノ認可ヲ經ルニ非ザレバ其ノ效
力ヲ生ゼズ

第三十四條 總商會解散ノ場合ハ決議ニ依リ清算人ヲ
選任スルコトヲ得選任後缺員ヲ生ジタルトキハ更ニ
之ヲ補選スルコト能ハザルトキハ主管官署ニ
於テ之ヲ指定スルコトヲ得

第三十五條 清算人ハ總商會ヲ代表シテ清算事務ヲ執
行スル權限ヲ有ス清算人ノ定ムル清算及財産處理ノ

方法ハ會員大會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス會員大會前
項ノ決議ヲ爲サズ又ハ決議スルコト能ハザルトキハ
清算人ハ自ら清算又ハ財産處理ノ方法ヲ決定スルコ
トヲ得但シ主管官廳ノ認可ヲ經ルニ非ザレバ效力ヲ
生ゼズ

第三十六條 總商會ノ所有財産ガ債務ヲ相殺済スルニ
足ラザルトキハ其ノ不足額ハ第三十一條第一號ニ規
定シタル比例ニ依リテ之ヲ分擔スベシ

第八章 附 則

第三十七條 本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

土地徵用暫行條例

民國二十八年五月五日

第二章 總則

- 第一條 國家ニ於テ公共事業ヲ施行スル爲メ土地ヲ徵用スル場合ハ土地法ノ公布施行以前ニ於テハ本條例ニ依リ之ヲ行フ地方行政官署、自治團體及人民ニシテ公共事業ヲ施行セントスルモノ、國家ノ認可ヲ經タル場合亦同シ
- 第二條 前條ニ掲グル公共事業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス
 - 一 公共建築物ノ創建又ハ擴充ニ關スル事業
 - 二 交通開發ニ關スル事業
 - 三 商港及商埠ノ開闢ニ關スル事業
 - 四 公共衛生設備ニ關スル事業
 - 五 市村ノ改良ニ關スル事業
 - 六 水利ノ開發ニ關スル事業
 - 七 教育、學術及慈善ニ關スル事業

三六八

- 八 國營工業ノ創立又ハ擴充ニ關スル事業
- 九 國防其ノ他軍備ノ施設ニ關スル事業
- 十 其ノ他公用ヲ目的トスル施設ニ關スル事業
- 第三條 本條例ニ於テ徵用ト稱スルハ買収又ハ借用ヲ謂フ
- 事業施行者トハ第一條ニ規定スル目的ヲ以テ土地ヲ徵用スル主管官署、地方自治團體又ハ人民ヲ謂フ
- 土地ト稱スルハ宅地、田園、礦山、砂地、荒地、市街、道路、河川、溝渠、池沼、墓地等ヲ謂フ
- 土地所有者ト稱スルハ徵用セラルベキ土地ノ所有者ヲ謂フ
- 關係者ト稱スルハ徵用セラルベキ土地ニ對シ權利ヲ有スル者ヲ謂フ
- 第四條 本條例ニ於テ地方行政官署ト稱スルハ縣ニ於テハ縣公署、市ニ於テハ市政府、特別市ニ於テハ特別市政府ヲ謂フ
- 地方自治團體ト稱スルハ縣、市又ハ特別市ニ所屬スル各自治團體ヲ謂フ

地政機關ト稱スルハ特別市所屬ノ土地局又ハ縣市署理ノ土地行政其ノ他ノ機關ヲ謂フ

第五章

- 第五條 土地徵用左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ維新政府ヨリ權限ノ委任ヲ受ケ内政部ニ於テ之ヲ査定シタル上行政院ニ報告スベシ
 - 一 事業施行者維新政府直轄機關省政府又ハ特別市政府ナルトキ
 - 二 事業ノ施行維新政府機關ノ直轄ニ屬スルモノナルトキ
 - 三 土地面積二省以上ニ涉ルトキ
- 第六條 土地徵用左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ省政府又ハ特別市政府之ヲ査定許可シ内政部ニ報告スベシ
 - 一 事業施行者地方各級行政官署若ハ其ノ所屬機關又ハ地方自治團體ナルトキ
 - 二 事業ノ施行地方行政官署ノ所轄又ハ監督ニ屬スルトキ
- 第七條 徵用スベキ土地内ニ名勝古蹟アルトキハ

可能ノ範圍内ニ於テ徵用ヲ避ケ已ニ徵用セラレタル土地内ニ名勝古蹟アルトキハ可能ノ範圍内ニ於テ之ヲ保存スベシ

第二章 徵用ノ準備

- 第八條 土地徵用計畫確定シタルトキハ事業施行者ハ計畫書ヲ作製シ徵用スベキ土地ノ圖面及說明書ヲ添附シ第五條又ハ第六條ノ規定ニ依リ夫々審査及許可ヲ申請スベシ
- 第九條 國家、省政府及特別市政府公共事業ヲ施行スル爲メ土地ヲ借用スル場合ハ其ノ期限十年以内トス公共道路ヲ擴張スル爲メ土地ヲ買収スル場合ニ於テ民家ヲ破壞スルノ要ナキトキハ第五條ノ審査及許可ノ手續ヲ省略シ事業ヲ施行スル主管官署自ラ之ヲ決定スルコトヲ得
- 第十條 第八條ノ計畫書ニハ左ノ各號ノ事項ヲ明記スベシ
 - 一 土地徵用ノ原因
 - 二 徵用スベキ土地ノ所在地及範圍

三六九

- 三 施行すべき事業ノ性質
- 四 事業施行者ニ於テ施行スル事業ノ法令ノ根據
- 五 土地定着物ノ状況
- 六 土地利用ノ現狀及其ノ利用者ノ住所氏名
- 七 隣接地ノ利用現狀及其ノ土地ニ在ル定着物ノ現況
- 八 土地内ノ名勝古蹟ノ有無若シ有ルトキハ其ノ現狀及沿革
- 九 土地所有者ノ住所氏名、所有者不明ナルトキハ其ノ管理者ノ住所氏名
- 第十條 維新政府内政部、省政府及特別市政府土地徵用ヲ認可シタルトキハ原案全部ヲ該土地所在地ノ地政機關ニ送付スベシ
- 第十二條 同一土地ニ付二人以上ノ徵用申請者アルトキハ施行すべき事業ノ性質ノ輕重ヲ以テ裁定ノ標準トス
- 第十三條 徵用ノ手續
- 第十三條 地政機關ハ内政部、省政府及特別市政府

- ロリ土地徵用認可ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ公告シ同時ニ書面ヲ以テ土地所有者及關係者ニ通知シ併セテ公告ノ年月日ヲ内政部ニ報告スベシ
- 第十四條 前條ニ掲グル公告及通知ニハ事業施行者ノ名稱、事業ノ種類及事業施行ノ地域ヲ記載スベシ前項ノ公告ハ主管地政機關及被徵用地ノ見易キ場所ニ之ヲ表示スベシ
- 第十五條 事業施行者ハ地政機關ニ於テ第十三條ノ公告及通知ヲ爲シタル後ハ製圖、測量及調査ノ爲該土地ニ立入ルコトヲ得
- 前項ノ工作ヲ施行スル爲必要アルトキハ土地所有者及關係者ニ通知シ其ノ土地ノ障礙物ヲ除去セシメ又ハ代ツテ之ヲ除去スルコトヲ得
- 第十六條 地政機關ニ於テ第十三條ノ公告及通知ヲ爲シタル後ハ土地所有者又ハ關係者ハ方法ノ如何ヲ問ハズ徵用ノ妨害ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第十七條 國家又ハ省ニ於テ土地ヲ徵用セントスルトキハ事業施行ノ主管官署ハ第十三條ノ公告及通知

- ヲ爲シタル後該土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係者ト協議スベシ
- 協議調ハザルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ地方行政官署ニ囑託シ徵用審査委員會ヲ組織シ之ヲ裁決ス
- 特別市、縣及市ニ於テ土地ヲ徵用セントスルトキハ前二項ノ規定ニ準ジ之ヲ爲スベシ但シ自ら徵用審査委員會ヲ組織スルコトヲ得
- 第十八條 地方自治團體又ハ人民事業施行者タルトキハ第十三條ノ公告及通知アリタル後該土地ノ權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係者ト協議スベシ
- 協議調ハザルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ地方行政官署ニ申請シ地方行政官署ハ徵用審査委員會ヲ召集シ之ヲ裁決スベシ
- 第十九條 第十七條ノ規定ニ依リ囑託シ又ハ第十八條ノ規定ニ依リ徵用審査委員會ノ召集ヲ申請セントスルトキハ囑託書又ハ申請書ニ左ノ各號ノ事項ヲ記載シ地方行政官署ニ提出スベシ

- 一 土地所有者及關係者ノ住所氏名又ハ其ノ名稱及事務所
- 二 被徵用土地ノ所在地
- 三 被徵用土地ノ面積及ニ其ノ土地ニ在ル定着物ノ種類及數量
- 四 補償金額
- 五 買取時期
- 六 借用時期
- 第二十條 地方行政官署前條ノ囑託書又ハ申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ地政機關ニ通知シ且公告シ同時ニ土地所有者及關係者ニ通知スベシ
- 地方行政官署事業施行者ナルトキハ直ニ前條ニ掲グル各事項ヲ地政機關ニ通知シ且之ヲ公告シ同時ニ土地所有者及關係者ニ通知スベシ
- 第二十一條 土地所有者又ハ關係者ハ前條ノ公告アリタル日ヨリ三十日以内ニ意見書ヲ地方行政官署ニ提出スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ地政機關ニ其ノ旨報告スルコトヲ要ス



第二十二條 地方行政官署ハ前條ノ期間満了後直ニ徵用審査委員會ヲ召集スベシ

第二十三條 徵用審査委員會ハ開會ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ裁決スベシ但シ地方行政官署ニ於テ必要ト認メタルトキハ之ヲ延期スルコトヲ得

第二十四條 徵用審査委員會裁決ヲ爲シタルトキハ裁決書ヲ作製シ地方行政官署ニ報告スベシ

地方行政官署前項ノ報告ヲ受領シタルトキハ裁決書ヲ事業施行者、土地所有者及關係者ニ送達シ同時ニ其ノ一部ヲ地政機關ニ送付スベシ

第四章 徵用審査委員會

第二十五條 徵用審査委員會ノ議決事項左ノ如シ

- 一 徵用土地ノ範圍
 - 二 補償金額
 - 三 買収ノ時期及借用期間
- 事業施行者ノ主張本條例其ノ他ノ法令ノ規定ニ違反セル場合ニ於テハ徵用審査委員會ハ却下ノ裁決ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 徵用審査委員會ニ委員長一人、委員八人ヲ置ク委員長ハ地方行政官署ノ長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員中少クとも二人ハ土地所有者及關係者ニ於テ推舉シタル者ヲ以テ之ニ充テ其ノ他ハ地方法定農工商團體ニ於テ派遣シタル代表ヲ以テ之ニ充ツ

第二十七條 徵用審査委員會ハ全委員ノ過半数ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ裁決スルコトヲ得ズ

第二十八條 徵用審査委員會ニ於テ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ指定シ鑑定セシムルコトヲ得

第二十九條 徵用審査委員會ニ於テ必要ト認ムルトキハ事業施行者、土地所有者、關係者及隣接地ノ所有者ヲ列席セシメ意見ヲ陳述セシムルコトヲ得

第三十條 徵用審査委員會ニ於テ裁決ヲ爲サントスルトキハ裁決書ヲ作成シ理由ヲ附記シ委員長之ニ署名スベシ

第三十一條 徵用スベキ土地ニ以上ノ地方行政官署ニ跨ルトキハ各機關及地方行政官署ハ第二十六條ノ規定ニ依リ聯合シテ徵用審査委員會ヲ組織シ且其ノ委

員長ハ之ヲ公選スベシ

第五章 土地補償金及移轉費

第三十二條 土地所有者及關係者ノ土地徵用ニ因リテ受ケタル損失ハ事業施行者ニ於テ時價ニ依リ評價シ之ヲ補償スベシ

第三十三條 土地ノ徵用ニ因リ殘地ガ從來ノ用ニ供スルコト能ハザルニ到リタルトキハ土地所有者ハ事業施行者ニ對シ全部ノ徵用ヲ要求シ且其ノ補償ヲ請求スルコトヲ得

第三十四條 第十五條第二項ノ規定ニ依リ土地障礙物ヲ除去シタル爲損害ヲ受ケタルトキハ時價ニ依リ評價シ之ヲ補償スベシ

第三十五條 徵用スベキ土地ノ定着物ハ事業施行者ニ於テ移轉料ヲ給與シ一定期間内ニ之ヲ移轉セシムベシ但シ一部分ノ徵用ニ因リ其ノ土地ニ在ル定着物全部ヲ移轉スル必要アルトキハ其ノ所有者ハ全部ノ移轉料ヲ要求スルコトヲ得

土地ノ定着物移轉ニ因リ從來ノ用ニ供スルコト能ハ

ザルニ到リタルトキハ其ノ所有者ハ之ガ徵用ヲ要求スルコトヲ得

第三十六條 土地及土地定着物ノ補償ヲ爲サントスルトキハ事業施行者ニ於テ公告終了又ハ裁決確定ノ日ヨリ十五日以内ニ定メラレタル補償金額ヲ主管地政機關ニ拂込ムベシ

第三十七條 地政機關前條ノ金額ヲ受領シタルトキハ三十日ヲ越エザル期日内ニ於テ連ニ之ヲ土地所有者ニ交付スベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ受領者アルニ至ル迄補償金ヲ保管スルコトヲ得

一 補償ヲ受クベキ者ニシテ受領ヲ拒絕シ又ハ受領スルコト能ハザル場合

二 補償ヲ受クベキ者ニシテ所在不明ナル場合

第六章 監督、強制及罰則

第三十八條 縣又ハ市ノ徵用審査委員會ノ爲シタル裁決ニシテ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ニ違反シタルトキハ省政府ハ之ヲ取消スコトヲ得

省又ハ特別市ノ徵用審査委員會ノ爲シタル裁決ニシ

テ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ニ違反シタルトキハ内政部ハ之ヲ取消スコトヲ得

第三十九條 義務者本條例ニ定ムル義務ヲ履行セズ又之ヲ履行スルモ一定ノ期間内ニ終了セザル場合ハ地方行政官署自ラ之ヲ執行シ又ハ他ニ命ジテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

義務者本條例ニ定ムル義務ノ履行ヲ拒避シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ代執行ヲ爲サシムルコト能ハザルトキハ地方行政官署ハ直接其ノ履行ヲ強制スルコトヲ得

第四十條 第七條第二項ノ規定ニ違反シタルトキハ當該事業施行者ヲ責令シ名勝古蹟ヲ適當ナル方法ヲ以テ保存セシムルノ外百元以上千元以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第十五條第一項ノ規定ニ違反シ地方主管地政機關ノ公告及通知アルニ先テ擅ニ他人ノ土地ニ入りタル者ハ三十元以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 第十五條第二項ノ規定ニ違反シ地方主管

地政機關ノ公告及通知アルニ先テ障礙物ヲ除却シタル者ハ其ノ價格ヲ賠償セシメ且五十元以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 鑑定人徵用審査委員會ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百元以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 鑑定人及第二十九條ノ規定ニ依リ呼出テ受ケタル者故ナク出頭セザルトキハ二十元以下ノ罰金ニ處ス

第七章 訴願及訴訟

第四十五條 縣又ハ市ノ徵用審査委員會ノ裁決ニ對シ不服アル者ハ省政府ニ訴願シ省又ハ特別市ノ審査委員會ノ裁決ニ對シ不服アル者ハ内政部ニ訴願スルトヲ得

前項ノ訴願ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ二十日以内ニ之ヲ提起スベシ但シ提起手續中ニ要スル期間ハ其ノ計算ヨリ扣除ス

第四十六條 徵用審査委員會ノ裁決ニ對シ不服アル者ハ當該管轄地方法院ニ提訴スルコトヲ得但シ未ダ訴

願ヲ爲サザル場合ニ限ル

前項ノ訴願ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ一月以内ニ之ヲ提起スベシ

第四十七條 土地徵用ハ訴願又ハ訴訟ニ依リ之ヲ中止セズ

第八章 附則

第四十八條 省政府又ハ市政府ハ本條例ニ違反セザル範圍内ニ於テ本條例ヲ補充スベキ單行規程ヲ制定スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ旨内政部ニ報告シ内政部ニ於テハ審査ノ上之ヲ權新政府ニ進達シ保管ニ備フベシ

第四十九條 本條例施行後ハ中央及地方ノ土地徵用ニ關スル法規ハ之ヲ廢止ス

第五十條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

管物品

内閣文庫

昭和

分類 總理府庁用品

テ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ニ違反シタルトキハ内政部ハ之ヲ取消スコトヲ得

第三十九條 義務者本條例ニ定ムル義務ヲ履行セズ又之ヲ履行スルモ一定ノ期間内ニ終了セザル場合ハ地方行政官署自ラ之ヲ執行シ又ハ他ニ命ジテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

義務者本條例ニ定ムル義務ノ履行ヲ拒避シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ代執行ヲ爲サシムルコト能ハザルトキハ地方行政官署ハ直接其ノ履行ヲ強制スルコトヲ得

第四十條 第七條第二項ノ規定ニ違反シタルトキハ當該事業施行者ヲ責令シ名勝古蹟ヲ適當ナル方法ヲ以テ保存セシムルノ外百元以上千元以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第十五條第一項ノ規定ニ違反シ地方主管地政機關ノ公告及通知アルニ先チ擅ニ他人ノ土地ニ入りタル者ハ三十元以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 第十五條第二項ノ規定ニ違反シ地方主管

地政機關ノ公告及通知アルニ先チ障礙物ヲ除却シタル者ハ其ノ價格ヲ賠償セシメ且五十元以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 鑑定人徵用審査委員會ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百元以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 鑑定人及第二十九條ノ規定ニ依リ呼出テ受ケタル者故ナク出頭セザルトキハ二十元以下ノ罰金ニ處ス

第七章 訴願及訴訟
第四十五條 縣又ハ市ノ徵用審査委員會ノ裁決ニ對シ不服アル者ハ省政府ニ訴願シ省又ハ特別市ノ審査委員會ノ裁決ニ對シ不服アル者ハ内政部ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ訴願ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ二十日以内ニ之ヲ提起スベシ但シ提起手續中ニ要スル期間ハ其ノ計算ヨリ扣除ス

第四十六條 徵用審査委員會ノ裁決ニ對シ不服アル者ハ當該管轄地方法院ニ提訴スルコトヲ得但シ未ダ訴

願ヲ爲サザル場合ニ限ル
前項ノ訴願ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ一月以内ニ之ヲ提起スベシ

第四十七條 土地
セズ

第八章 附則
第四十八條 省政府
範圍内ニ於テ本條例コトヲ得但シ此

告シ内政部ニ於テ保管ニ備フベシ

第四十九條 本條例
關スル法規ハ之ヲ施行ス

第五十條 本條例

